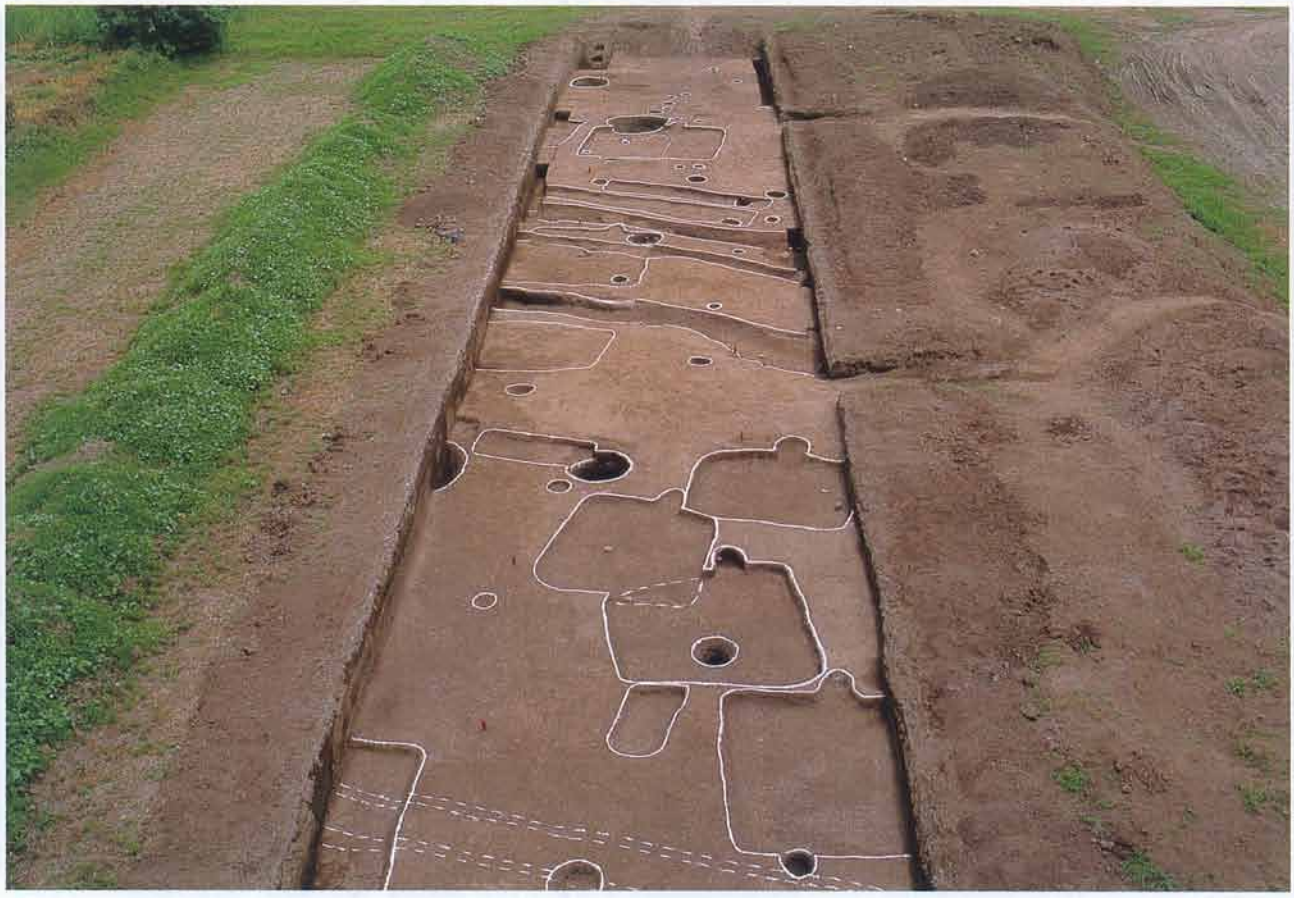
元総社蒼海遺跡群

# 総社甲稲荷塚大道西III遺跡
# 総社閑泉明神北III遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ａ区全景

2　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡出土遺物

3　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡全景

4　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡出土遺物

# 序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域は古代より豊かな文化があふれる地であり、東日本でも際だった内容を示しています。今から約2万8千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの等多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代からの人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたり残されています。古代の人々が暮らした家の跡や使用した石器や土器などの道具、水田跡なども多く、周辺の埋蔵文化財発掘調査によって多くの新しい知見が集積されています。

今年度発掘調査を行いました総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡は、前橋市の西部、国府推定域のわずかに外側に位置します。国府に直接関連すると思われる構造物、道路、溝などの遺構は検出されませんでしたが、主に竪穴住居跡が検出され、律令期以前、律令期、律令期以後の国府周辺の集落の変遷を考える上で貴重な資料を得ることができました。

発掘調査にあたり、ご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、酷暑の中調査に従事されました皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念して序といたします。

平成15年3月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

団長 阿部明雄

# 例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

| | |
|---|---|
| 調　査　場　所 | 群馬県前橋市総社町総社地内 |
| 発掘調査期間 | 平成14年６月４日～平成14年10月30日 |
| 整理・報告書作成期間 | 平成14年10月31日～平成15年３月25日 |
| 発掘・整理担当者 | 髙橋一彦・近藤薫（発掘調査係員） |

4．本書の原稿執筆・編集は髙橋・近藤が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石原義夫・岩木　操・大澤俊夫・大嶋洋平・岸フクエ・斉藤亀寿・白石　晃・須田博治・角田　愷
渡木秋子・中澤光江・平林しのぶ・湯浅たま江・湯浅道子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

# 凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に建設省国土地理院発行の１/200,000地形図（宇都宮、長野）、１/25,000地形図（前橋）、１/2,500前橋市現形図を使用した。
3．遺跡の略称は、次のとおりである。
総社甲稲荷塚大道西III遺跡：14A105　　総社閑泉明神北III遺跡：14A106
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
J…縄文時代の竪穴住居跡　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　T…竪穴状遺構
W…溝跡　I…井戸跡　D…土坑　P…柱穴・貯蔵穴（住居内$P_5$を貯蔵穴とした。）
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・井戸跡・土坑・柱穴…１/60　竈断面図…１/30　全体図…１/200
遺物　土器・鉄製品…１/３、１/４　石器・石製品…１/３、２/３、１/４、１/５　銭貨…１/１
瓦…１/４、１/５
6．計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。
○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
8．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。
遺構平面図　焼　土…　灰…
遺構断面図　構　築　面…
遺物実測図　須恵器断面…　炭化物（煤付着など）…　黒色処理…
灰釉・緑釉陶器断面…　灰釉陶器内面…　緑釉陶器内面…
9．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As—B　（浅間Bテフラ：供給火山・浅間山、1108年）
Hr—FP　（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）
Hr—FA　（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）
As—C　（浅間C軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

# 目　　次


序 …… i

I 調査に至る経緯 …… 1

II 遺跡の位置と環境
1 遺跡の立地 …… 1
2 歴史的環境 …… 1

III 調査の方針と経過
1 調査方針 …… 7
2 調査経過 …… 7

IV 基本層序 …… 9

V 遺構と遺物
1 総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区 …… 10
2 総社甲稲荷塚大道西III遺跡B区 …… 18
3 総社甲稲荷塚大道西III遺跡C区 …… 18
4 総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区 …… 19
5 総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区 …… 23
6 総社閑泉明神北III遺跡 …… 31

VI 考察 …… 41

# 図　　版


口絵 1　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区全景
2　総社甲稲荷塚大道西III遺跡出土遺物
3　総社閑泉明神北III遺跡全景
4　総社閑泉明神北III遺跡出土遺物

PL. 1　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区全景、H－2・3号住居跡
2　A区H－5～7・9号住居跡
3　A区H－1・8・11・12・14号住居跡
4　A区I－2・4号井戸跡、W－1～4号溝跡、D－4号土坑、A区中央部、栗石出土状態、調査区冠水
5　総社甲稲荷塚大道西III遺跡B・C区全景
6　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区全景、D区H－1・2号住居跡
7　D区H－2～6号住居跡
8　D区W－1～3号溝跡、D－1号土坑、畠跡、D区全景
9　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区全景、E区H－2・3号住居跡
10　E区H－3～5・8・9号住居跡
11　E区H－7・11・12号住居跡
12　E区H－13～17号住居跡、W－2号溝跡
13　総社閑泉明神北III遺跡全景、H－1・3号住居跡
14　H－4・6・7・8・14号住居跡、I－1号井戸跡
15　H－9～11・13号住居跡
16　H－15・17～19号住居跡
17　H－18・21～23号住居跡、J－1号住居跡
18　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区H－2～4・6～9・11・12号住居跡、D－9号土坑、グリッド出土の土器・石器・瓦・銭貨
19　A区遺構外出土の土器
総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区H－2～4・6号住居跡、W－1・3号溝跡出土の土器
20　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区H－2～5・7号住居跡出土の土器・石器
21　E区H－7～9・12・13号住居跡出土の土器・瓦・石器
22　E区H－13～16号住居跡、T－1号竪穴状遺構、I－1号井戸跡、W－1号溝跡出土の土器・石器
23　総社閑泉明神北III遺跡H－1・4・5・7～9・11～13号住居跡出土の土器・鉄器・瓦・石器
24　H－14～19号住居跡出土の土器・鉄器・瓦
25　H－18・21号住居跡、D－4号土坑、グリッド、遺構外出土の瓦・土器・石器・鉄器
26　H－18・20・22号住居跡、J－1号住居跡出土の瓦・土器・石器


# 挿　　図


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　調査経過図
5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向
6　時期別の竪穴住居跡配置図
7　時期別の竪穴住居跡配置図
8　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区・D区・総社閑泉明神北III遺跡全体図
9　総社甲稲荷塚大道西III遺跡B区・C区・E区全体図
10　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区H－1・2・8号住居跡
11　A区H－3～5号住居跡
12　A区H－6・7・9号住居跡
13　A区H－10・11号住居跡
14　A区H－12～14号住居跡
15　A区W－1～5号溝跡
16　A区D－1～14号土坑
17　A区P－1～23号柱穴、I－1～4号井戸跡
18　総社甲稲荷塚大道西III遺跡B区W－1・2号溝跡、畠跡
19　総社甲稲荷塚大道西III遺跡C区W－1・2号溝跡
20　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区H－1～3号住居跡
21　D区H－4～6号住居跡、D－1号土坑
22　D区W－1・2・4～6号溝跡

23　D区W－3号溝跡、畠跡
24　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区H－1～4・10号住居跡
25　E区H－5～7号住居跡
26　E区H－8・9・11号住居跡
27　E区H－12～14号住居跡
28　E区H－15～17号住居跡、T－1号竪穴状遺構
29　E区W－1・2号溝跡、D－1～4号土坑、P－1号柱穴、I－1号井戸跡
30　総社閑泉明神北III遺跡H－1～6号住居跡
31　H－7・8・15・18号住居跡
32　H－9～11・13・21号住居跡
33　H－12・14・16・17・20・22号住居跡、D－3号土坑
34　H－19・23・24号住居跡、J－1号住居跡
35　W－1号溝跡、D－1・2・4～14号土坑、I－1号井戸跡
36　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区H－2～4・6～9・11号住居跡出土土器・石器
37　A区H－11・12号住居跡、D－9号土坑、グリッド、遺構外出土土器・瓦・銭貨・石器
総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区H－2・3号住居跡出土土器
38　D区H－3・4・6号住居跡、W－1・3号溝跡出土土器
総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区H－2・3号住居跡出土土器
39　E区H－4・5・7号住居跡出土土器
40　E区H－7～10・12号住居跡出土土器・石器・瓦
41　E区H－12～15号住居跡出土土器・石器・瓦
42　E区H－16号住居跡、W－1号溝跡、D－4号土坑、I－1号井戸跡出土土器・石器
43　総社閑泉明神北III遺跡H－1・4・5・7～9・11号住居跡出土土器・鉄器・瓦
44　H－12～17号住居跡出土土器・石器・鉄器・瓦
45　H－18号住居跡出土瓦
46　H－18～21号住居跡出土瓦・鉄器・土器
47　H－18・21・22号住居跡出土瓦・土器
48　H－22号住居跡、J－1号住居跡、D－3・4号土坑、グリッド、遺構外出土土器・石器・鉄器

# 表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群　周辺遺跡概要一覧表
2　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区住居跡一覧表
3　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区土坑・柱穴計測表
4　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区出土遺物観察表
5　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区住居跡一覧表
6　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区出土遺物観察表
7　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区住居跡・竪穴状遺構一覧表
8　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区土坑・柱穴計測表
9　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区出土遺物観察表
10　総社閑泉明神北III遺跡住居跡一覧表
11　総社閑泉明神北III遺跡土坑計測表
12　総社閑泉明神北III遺跡出土遺物観察表

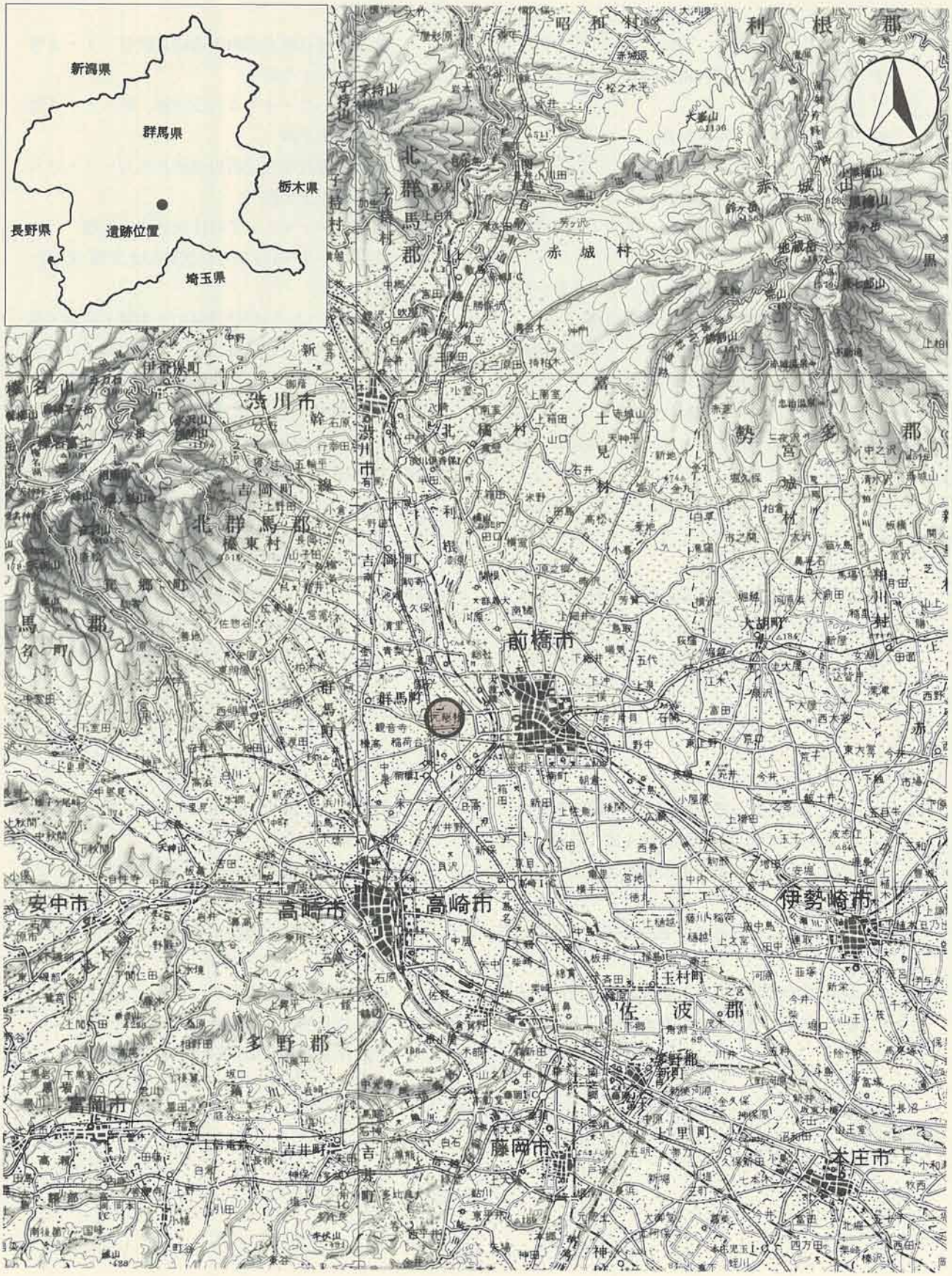



Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

# I　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業実施に伴い実施され、３年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成14年５月７日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査の実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成14年５月27日に調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。そして６月４日から現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「総社甲稲荷塚大道西III遺跡」（遺跡コード：14A105）「総社閑泉明神北III遺跡」（遺跡コード：14A106）の「甲稲荷塚大道西」「閑泉明神北」は旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は、当調査団で過年度に調査を実施した遺跡と区別するため付したものである。

# II　遺跡の位置と環境

## 1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地（洪積台地）の利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地の利根川左岸、東部の広瀬川低地帯（洪積低地）の４つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川の流路は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高３ｍ～５ｍを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約３kmの地点、前橋市総社町総社に所在する。南へ約0.7kmの所に上野国総社神社があり、西へ約１kmの所には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。遺跡地周辺は古くから住宅地域となっていて、今なお畑地に新しい住宅が建築されている。

## 2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連を窺わせる総社古墳群と山王廃寺、古代政治文化の中心地であった上野国府・国分寺、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されてきている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡の主に北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と共通する石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の私寺であり、この古墳群は「上毛野氏」一族の奥津城と考えられている。このように、この地は古墳文化から仏教文化へ移行する時期の重要な遺構が集中しており、特異な様相がみられる。

奈良時代に至ると、上野国府、国分僧寺・国分尼寺が置かれ、群馬郡に属した本地域は古代「上野国」の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。国府に直接関連するとみられる遺跡は、掘立柱建物を検出した元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」「曹司」「国」「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡があるが、まだ不明確である。また、その他に、大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線を想定する研究者もいる。さらに、元総社小見内III遺跡からは、国分尼寺の東南隅から国府に向かうと思われる溝が検出されており、円面硯、巡方（腰帯具）の出土等もあり、国分寺と国府の有機的なつながりが想定された。

国分僧寺の発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認され整備されつつある。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年の調査で伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団の寺域確認調査で、南辺の東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘立柱建物跡群が検出されている。

また、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）が推定され、日高遺跡で検出された道路状遺構が国府方面へ正南するとみられる条里に伴う区画を中心に、上野国の条里の解明が進められている。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれたとされる蒼海城は、城郭としての機能を有し、県内でも最古に位置づけられる。蒼海城の掘割りは推定国府域と関係が深く、現在の主要道路は、この掘割りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、上野国府が所在したと推定される元総社地区はその中でも注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府・蒼海城が解明されていくことを期待する。

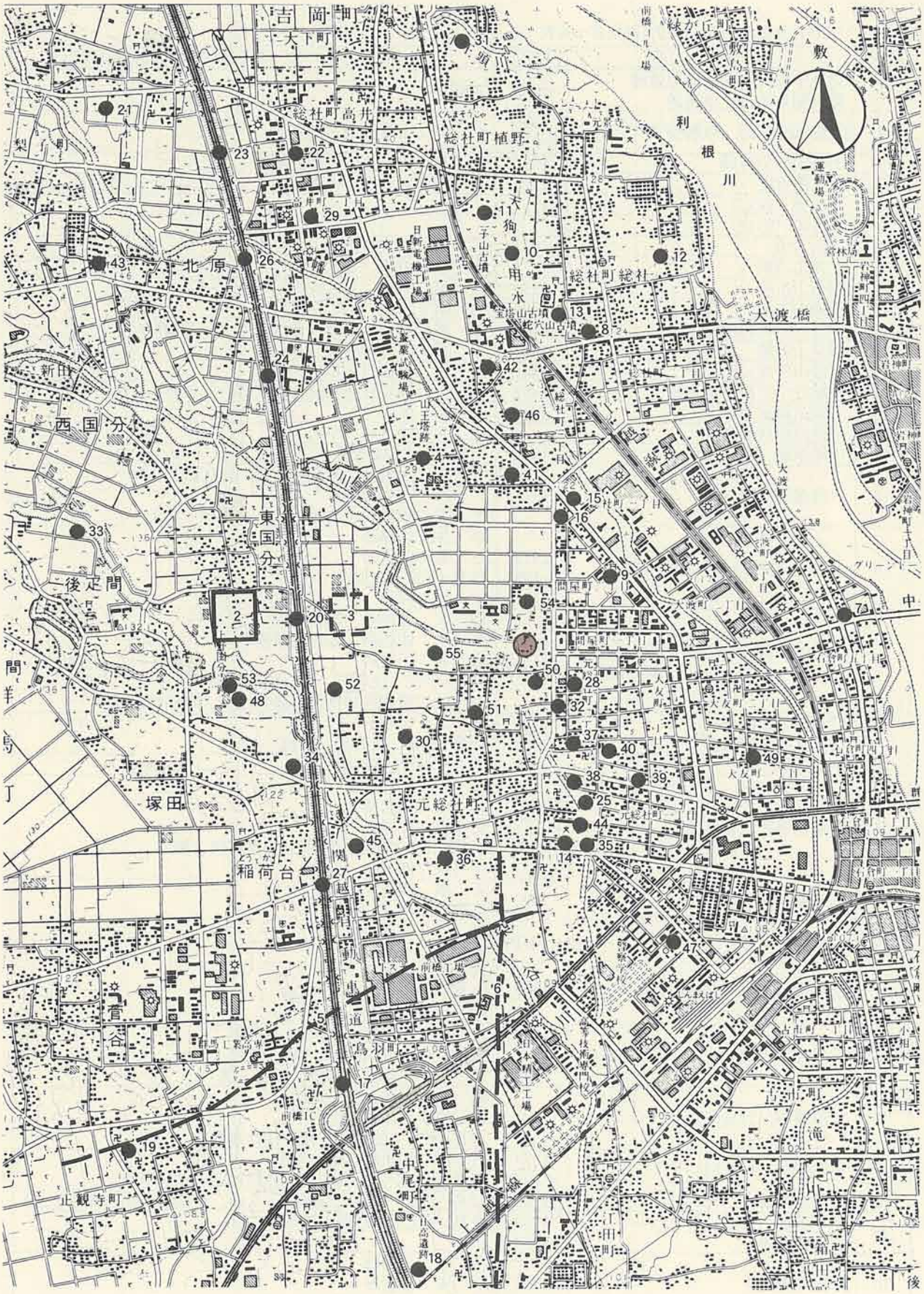

吉岡町
大下町
総社町高井
総社町植野
利根川
北原
西国分
東国分
後疋間
塚田
稲荷台
総社町総社
大渡橋
元総社町
止観寺町
1:25,000
500m
0
500
1000
1500

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab.1　元総社蒼海遺跡群　周辺遺跡概要一覧表

| 番号 | 遺　跡　名 | 調査年度 | 時代：主な遺構・出土遺物 |
|---|---|---|---|
| 1 | 総社甲稲荷塚大道西III遺跡<br>総社閑泉明神北III遺跡 | 2002 | 本遺跡 |
| 2 | 上野国分寺跡（県教委） | 1980<br>～1988 | 奈　良：金堂基壇、塔基壇 |
| 3 | 上野国分尼寺跡 | (1999) | 奈　良：西南隅・東南隅築垣 |
| 4 | 山王廃寺跡 | (1974) | 古　墳：塔心礎、根巻石 |
| 5 | 東山道（推定） | | |
| 6 | 日高道（推定） | | |
| 7 | 王山古墳 | 1972 | 古　墳：前方後円墳（６Ｃ中頃） |
| 8 | 蛇穴山古墳 | 1975 | 古　墳：方墳（８Ｃ初頭） |
| 9 | 稲荷山古墳 | 1988 | 古　墳：円墳（６Ｃ後半） |
| 10 | 愛宕山古墳 | 1996 | 古　墳：方墳（７Ｃ初頭） |
| 11 | 総社二子山古墳 | 未調査 | 古　墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初頭） |
| 12 | 遠見山古墳 | 未調査 | 古　墳：前方後円墳（５Ｃ後半） |
| 13 | 宝塔山古墳 | 未調査 | 古　墳：方墳（７Ｃ末） |
| 14 | 元総社小学校校庭遺跡 | 1962 | 平　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡 |
| 15 | 産業道路東遺跡 | 1966 | 縄　文：住居跡 |
| 16 | 産業道路西遺跡 | | 縄　文：住居跡 |
| 17 | 中尾遺跡（事業団） | 1976 | 奈良・平安：住居跡 |
| 18 | 日高遺跡（事業団） | 1977 | 弥　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、<br>木製農耕具<br>平　安：条里制水田跡 |
| 19 | 正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市） | 1979<br>～1981 | 弥　生：住居跡<br>古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡<br>中　世：溝跡 |
| 20 | 上野国分僧寺・尼寺中間地域<br>（事業団） | 1980<br>～1983 | 縄　文：住居跡、配石遺構<br>弥　生：住居跡、方形周溝墓<br>古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡<br>中　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道路状遺構 |
| 21 | 清里南部遺跡群<br>清里南部遺跡群III | 1980 | 縄　文：ピット<br>奈良・平安：住居跡、溝跡 |
| 22 | 中島遺跡 | 1980 | 奈良・平安：住居跡 |
| 23 | 下東西遺跡（事業団） | 1980<br>～1984 | 縄　文：屋外埋甕<br>弥　生：住居跡<br>古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列<br>中　世：住居跡、溝跡 |
| 24 | 国分境遺跡（事業団） | 1990 | 古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡 |
| | 国分境II遺跡 | 1991 | 古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡 |
| | 国分境III遺跡（群馬町） | 1991 | 古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡、畠跡<br>中　世：土坑墓 |
| 25 | 元総社明神遺跡　Ⅰ～XIII | 1982<br>～<br>1996 | 古　墳：住居跡、水田跡、堀跡<br>奈良・平安：住居跡、溝跡、大形人形<br>中　世：住居跡、溝跡、天目茶碗 |
| 26 | 北原遺跡（群馬町） | 1982 | 縄　文：土坑、集石遺構<br>古　墳：水田跡<br>奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡 |
| 27 | 鳥羽遺跡（事業団） | 1978<br>～1983 | 古　墳：住居跡、鍛冶場跡<br>奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡） |
| 28 | 閑泉樋遺跡 | 1983 | 奈良・平安：溝跡（上幅6,5～７m、下幅3,24m、深さ２m） |
| 29 | 柿木遺跡 | 1983 | 奈良・平安：住居跡、溝跡 |
| | 柿木II遺跡 | 1988 | |
| 30 | 草作遺跡 | 1984 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡<br>中　世：井戸跡（蒼海城に伴う） |
| 31 | 桜ヶ丘遺跡 | | 弥　生：住居跡 |
| | 総社桜ヶ丘遺跡 | 1985 | 平　安：住居跡 |
| | 総社桜ヶ丘II遺跡 | 1987 | 奈良・平安：住居跡 |

| 番号 | 遺　跡　名 | 調査年度 | 時代：主な遺構・出土遺物 |
|---|---|---|---|
| 32 | 閑泉樋南遺跡 | 1985 | 古　墳：住居跡（鬼高期）<br>奈良・平安：溝跡 |
| 33 | 後疋間遺跡　Ⅰ～Ⅲ（群馬町） | 1985<br>～1987 | 古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡<br>中　世：道路状遺構 |
| 34 | 塚田村東遺跡（群馬町） | 1985 | 平　安：住居跡 |
| 35 | 寺田遺跡 | 1986 | 平　安：溝跡、木製品 |
| 36 | 天神遺跡<br>天神Ⅱ遺跡 | 1986<br>1988 | 奈良・平安：住居跡 |
| 37 | 屋敷遺跡<br>屋敷Ⅱ遺跡 | 1986<br>1995 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡<br>中　世：堀跡、石敷遺構 |
| 38 | 大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡 | 1987 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡、溝跡、地下式土坑 |
| 39 | 堰越遺跡 | 1987 | 奈良・平安：住居跡、溝跡 |
| 40 | 堰越Ⅱ遺跡 | 1988 | 平　安：住居跡 |
| 41 | 昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡 | 1988 | 奈良・平安：住居跡 |
| 42 | 村東遺跡 | 1988 | 古　墳：住居跡、溝跡<br>奈良・平安：住居跡<br>中　世：堀跡 |
| 43 | 熊野谷遺跡<br>熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡 | 1988<br>1989 | 縄　文：住居跡<br>平　安：住居跡、溝跡<br>平　安：住居跡 |
| 44 | 元総社寺田遺跡（事業団） | 1988<br>～1991 | 古　墳：水田跡、溝跡<br>奈良・平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器<br>中　世：溝跡 |
| 45 | 弥勒遺跡<br>弥勒Ⅱ遺跡 | 1989<br>1995 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡 |
| 46 | 大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ | 1992<br>～2000 | 縄　文：住居跡<br>古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡<br>中　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡 |
| 47 | 元総社稲葉遺跡 | 1993 | 縄　文：土坑<br>平　安：住居跡、瓦塔 |
| 48 | 上野国分寺参道遺跡 | 1996 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡 |
| 49 | 大友宅地添遺跡 | 1998 | 平　安：水田跡 |
| 50 | 総社閑泉明神北遺跡 | 1999 | 古　墳：畠跡、水田跡、溝<br>中　世：溝跡 |
| | 総社閑泉明神北Ⅱ遺跡 | 2001 | 古　墳：住居跡、溝跡<br>平　安：住居跡　溝跡 |
| 51 | 元総社宅地遺跡　1～23トレンチ | 2000 | 古　墳：住居跡<br>平　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、<br>道路状遺構<br>中　世：溝跡<br>近　世：住居跡、（五輪塔の一部、埦類） |
| 52 | 元総社小見遺跡 | 2000 | 縄　文：住居跡<br>古　墳：住居跡<br>奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡、道路状遺構 |
| 53 | 元総社西川遺跡（事業団） | 2000 | 古　墳：住居跡、畠跡<br>奈良・平安：住居跡、溝跡 |
| 54 | 総社甲稲荷塚大道西遺跡 | 2001 | 奈良・平安：住居跡、溝跡<br>中　世：畠跡<br>近　世：溝跡 |
| | 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡 | 2001 | 古　墳：住居跡、<br>奈良・平安：住居跡、溝跡<br>近　世：溝跡 |
| 55 | 元総社小見内Ⅲ遺跡 | 2001 | 古　墳：住居跡、溝跡<br>奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡<br>中　世：掘建柱建物跡、溝跡 |

※年代の（　）は調査開始年度。

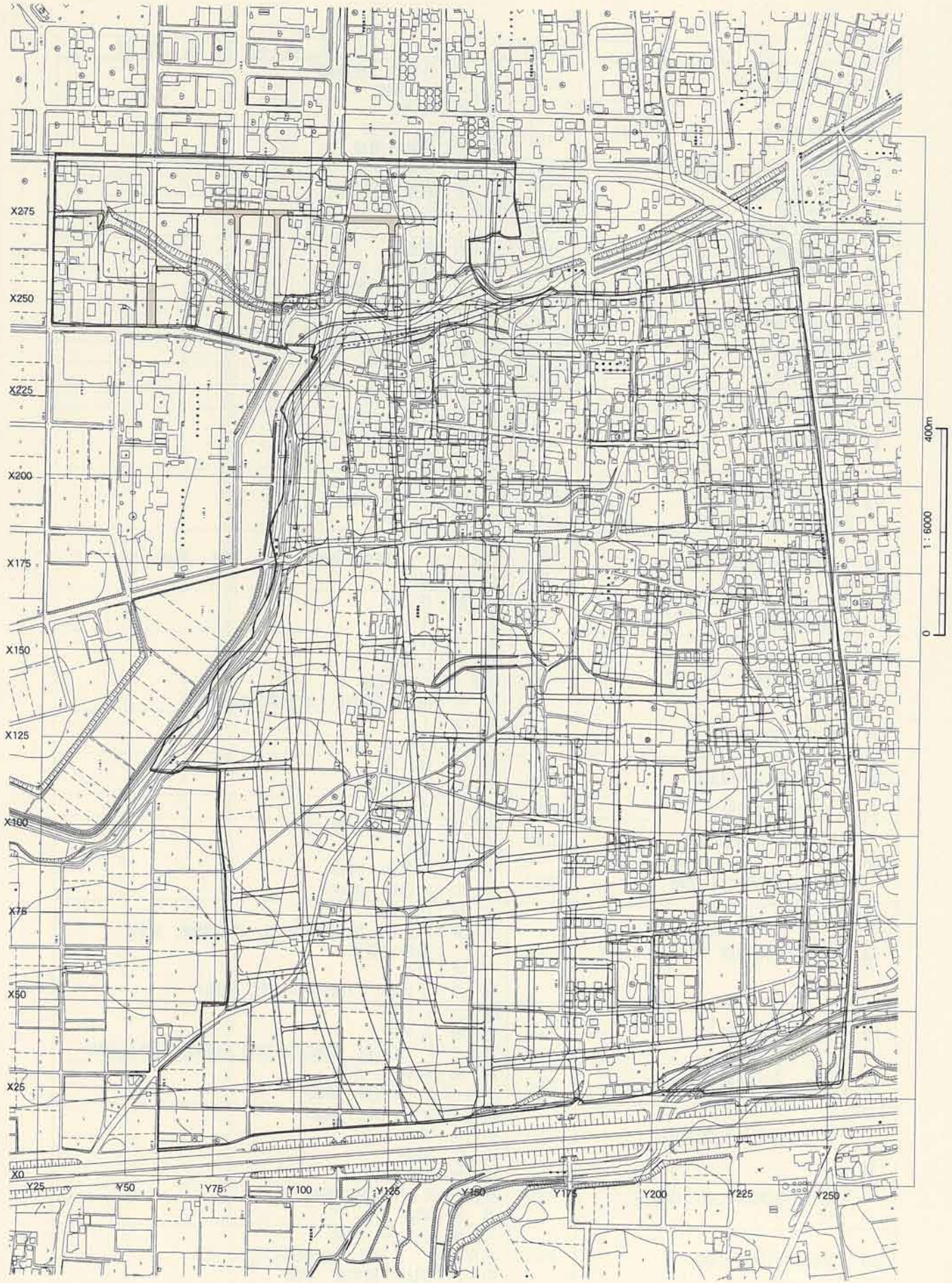



Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

# III　調査の方針と経過

## 1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、総社甲稲荷塚大道西III遺跡が約1,416㎡、総社閑泉明神北III遺跡が約435㎡の合計約1,851㎡である。本調査に当たり、総社甲稲荷塚大道西III遺跡に関わる調査場所が５箇所に分かれているので、便宜的にＡ～Ｅ区の名称を付した。グリッドについては、４ｍピッチで西から東へX244、X245、X246…と、北から南へY39、Y40、Y41…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX250・Y55の公共座標は次のとおりである。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 第IX系 | ＋44134.898（X） | | －71491.761（Y） | 〔新座標〕 |
| | ＋43780.000（X） | | －71200.000（Y） | 〔旧座標〕 |
| 緯度 | 36°23′42″．45392 | 経度 | 139°02′10″．88253 | |
| 子午線収差角 | 28′22″．464 | 増大率 | 0.99996295 | |

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として１/20、住居跡竈は１/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、遺物台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

## 2　調査経過

本遺跡の発掘調査は、委託契約を５月27日に締結し、６月４日から調査を開始した。調査は、Ａ区、Ｂ区、総社閑泉明神北III遺跡、Ｅ区、Ｄ区、Ｃ区の順に行うこととした。

Ａ区は東西に長さ51m、幅９ｍの範囲を調査。重機(バックフォー0.7㎥)１台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に１日半かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。ノロ状の泥に一面が覆われ、遺構を明確に確認するのが難しい状態であったため、ミニトレンチを入れながら遺構の範囲を確認した。調査中、梅雨や台風の影響で調査区が冠水し、一時作業が中断することがあった。６月５日に杭打ちを行い、遺構の掘下げ・精査に入った。その結果、竪穴住居跡14軒、溝跡５条、土坑13基、井戸跡４基が検出された。竪穴住居の残存状況は悪く、住居上部は削平されていた。

Ａ区と並行してＢ区、南北に長さ23m、幅４ｍの範囲を調査。北側から重機(バックフォー0.7㎥)１台を使い、調査区の表土掘削を行った。Ｂ区は南側へ傾斜した狭い範囲であったため表土掘削は半日で終了した。遺構精査の結果、溝跡２条、畠跡が検出された。７月８日にＡ区とＢ区でハイライダーによる全景写真撮影を行い調査を終了させた。

次に、総社閑泉明神北III遺跡の発掘調査を６月28日より開始した。調査区はＴ字形をしており、南北に長さ51ｍ、幅６ｍ、東西に13m、幅６ｍの範囲を調査。重機（バックフォー0.25㎥）による表土掘削を実施。表土掘削に３日かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。７月３日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。７月上旬は天候が不順であったが、中旬になると天候に恵まれ作業は順調に進んでいった。しかしながら、住居跡の重複が著しく、切り合い関係の解明に留意しながら調査を進めたので時間を要した。遺構精査の結果、竪穴住居跡25軒、溝跡１条、井戸跡１基、土坑12基が検出された。８月７日に全景写真撮影を行い調査を終了させた。

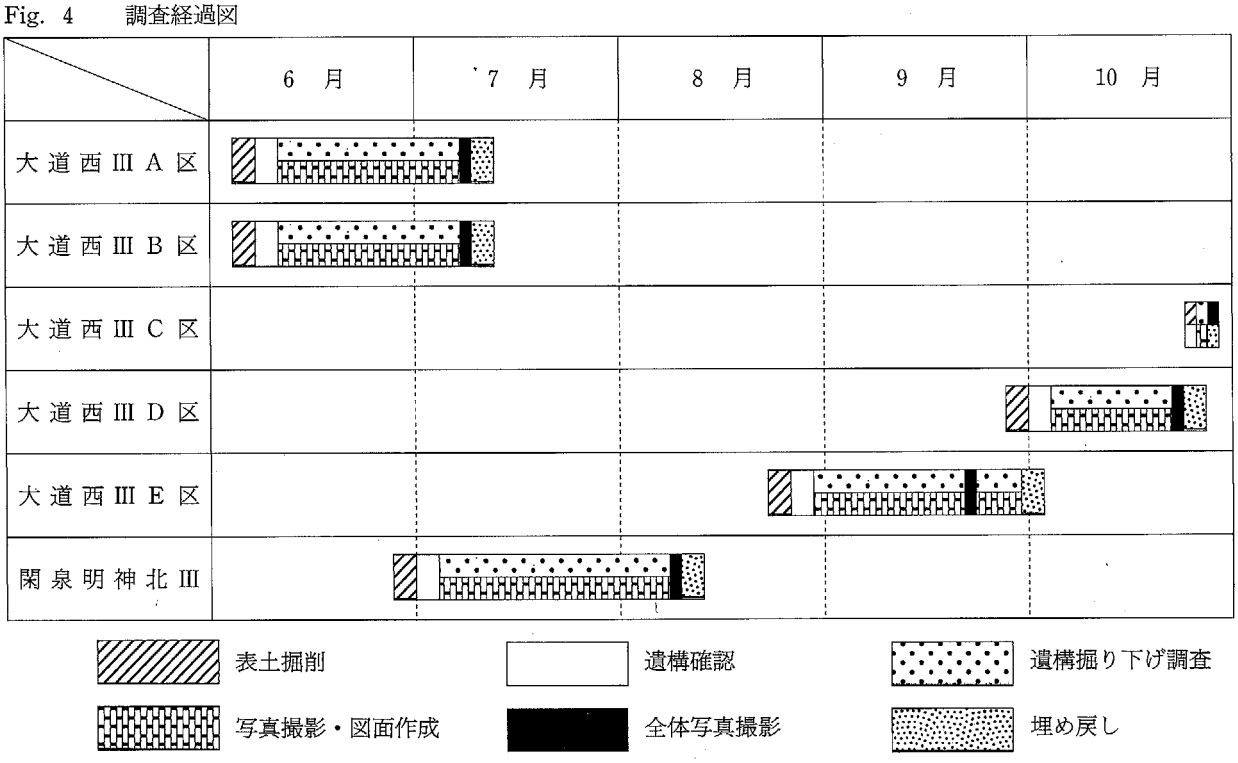
８月22日よりＥ区の調査を開始した。この調査区もＴ字形をしており、南北に長さ26m、幅６ｍ、東西に26m、幅６ｍの範囲を調査。重機（バックフォー0.25㎥）による表土掘削を実施。表土掘削に２日かかり、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。８月26日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。排土する範囲が狭いにもかかわらず、土量が多かったので、人力で上げるのに時間を要した。また夕立などにより、調査区が

冠水してしまい、作業が停滞することもあった。遺構精査の結果、竪穴住居跡17軒、竪穴状遺構１軒、溝跡２条、井戸跡１基、土坑４基が検出された。９月20日に全景写真撮影を行い、10月２日をもって調査を終了させた。

９月26日よりＤ区の調査を開始した。この調査区もＴ字形をしており、南北に長さ65m、幅６m、東西に26m、幅６mの範囲を調査。重機（バックフォー0.25m³）１台、２ｔダンプ１台を使い、表土掘削を開始した。この調査区は、今回の調査の中で一番広く、バラス敷きの駐車場であった。そのため、バラスを一箇所に寄せてから、表土掘削を行うのに７日を要し、それと並行して、鋤簾による遺構確認を行った。10月８日に杭打ちを行い、遺構の掘り下げ・精査に入った。Ｄ区はＥ区の道を挟んで北側である。従ってＥ区の調査状況を考えると、Ｄ区でもかなりの件数の竪穴住居跡が検出されるだろうと予測していたが、遺構数は少なく、竪穴住居跡６軒、溝跡６条、土坑１基、畠跡が検出されただけであった。

最後に、Ｃ区の調査を10月24日より開始した。東西に長さ17m、幅６mの範囲を調査。重機（バックフォー0.25m³）による表土掘削を実施。表土掘削は半日で終了し、溝跡２条を検出したのみであった。その日のうちに杭打ち、全景写真撮影を済ませ、26日に埋め戻し作業を終了した。その後11月25日まで現場事務所において土器洗いや図面整理などを済ませ、26日をもって現地での調査は終了となった。27日より文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたり、翌年３月25日までにすべての作業を完成させる運びとなった。

Fig. 4　調査経過図

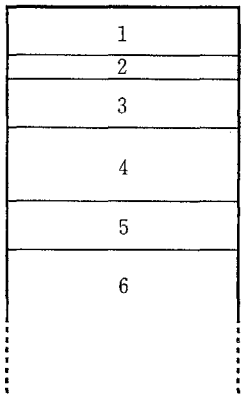


# Ⅳ 基 本 層 序

本遺跡地内の地層の堆積は、以下のとおりである。

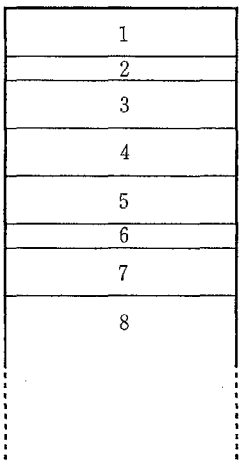
**総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ａ区**

1　10YR3/3　暗褐色粗砂層　締まり×　粘性×　現耕作土。〈厚さ20cm前後〉
2　5 YR3/6　暗赤褐色細砂層　締まり○　粘性×　鉄分凝集層（田の床土）。〈厚さ10cm前後〉
3　10YR2/3　黒褐色細砂層　締まり○　粘性△　As-Ｂ多量、Hr-FP 少量、焼土粒、川砂を含む。〈厚さ20cm前後〉
4　10YR2/2　黒褐色細砂層　締まり○　粘性○　川砂多量、Hr-FP、As-Ｂを含む。〈厚さ30cm前後〉
5　10YR3/1　黒褐色細砂層　締まり◎　粘性○　ノロ状の泥主体、As-C、Hr-FP 少量を含む。〈厚さ20cm前後〉
6　10YR3/3　暗褐色シルト層　締まり◎　粘性○　総社砂層（地山）。



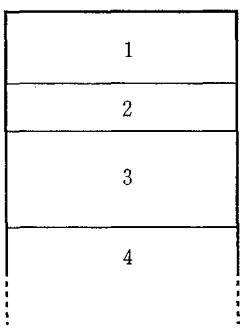

**総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｄ区**

1　10YR3/4　暗褐色細砂層　締まり○　粘性○　現表土。〈厚さ20cm前後〉
2　5 YR3/6　暗赤褐色細砂層　締まり○　粘性○　鉄分凝集層（田の床土）。〈厚さ10cm前後〉
3　10YR2/3　黒褐色細砂層　締まり○　粘性△　As-Ｂを多量に含む。〈20cm前後〉
4　10YR3/4　暗褐色細砂層　締まり○　粘性○　As-C・Hr-FP を２％含む。〈厚さ20cm前後〉
5　10YR3/4　暗褐色細砂層　締まり○　粘性○　As-C・Hr-FP を５％含む。〈厚さ20cm前後〉
6　10YR4/6　褐色細砂層　締まり△　粘性○　Hr-FA 主体。〈厚さ10cm前後〉
7　10YR2/2　黒褐色微砂層　締まり×　粘性○　As-Cを20％含む。〈厚さ20cm前後〉
8　10YR2/3　黒褐色シルト層　締まり△　粘性◎　総社砂層（地山）。



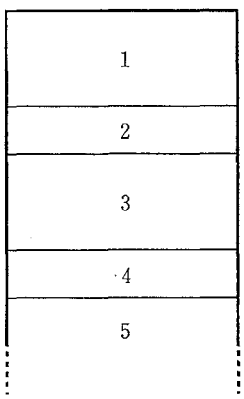

**総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｅ区**

1　10YR3/3　暗褐色粗砂層　締まり×　粘性×　現耕作土。〈厚さ30cm前後〉
2　10YR2/3　黒褐色細砂層　締まり○　粘性○　As-Ｂ、焼土粒を含む。〈厚さ20cm前後〉
3　10YR2/2　黒褐色細砂層　締まり◎　粘性○　As-C ５％、Hr-FP １％、焼土粒を含む。〈厚さ40cm前後〉
4　10YR3/4　暗褐色シルト層　締まり○　粘性○　総社砂層（地山）。〈厚さ40cm前後〉




**総社閑泉明神北Ⅲ遺跡**

1　10YR3/3　暗褐色粗砂層　締まり×　粘性×　現耕作土。〈厚さ40cm前後〉
2　10YR2/2　黒褐色細砂層　締まり△　粘性○　As-Ｂを多量に含む。〈厚さ20cm前後〉
3　10YR2/2　黒褐色細砂層　締まり△　粘性○　As-Ｂ、焼土粒、炭化物を含む。〈厚さ40cm前後〉
4　10YR2/3　黒褐色細砂層　締まり○　粘性○　As-C・Hr-FP ７％、焼土粒、炭化物を含む。〈厚さ20cm前後〉
5　10YR4/6　褐色微砂層　締まり○　粘性○　総社砂層（地山）。



# V 遺構と遺物

## 1 総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区

### (1) 竪穴住居跡

**H－1号住居跡**（Fig.10、PL.3）

**位 置** X244・245、Y54・55グリッド **主軸方向**（N－1°－E） **面積**（13.60）㎡

**形状等** 方形と推定される。東西(3.60)m、南北(3.97)m、壁現高11cmを測る。

**床** 平坦な床面。北側に炭化物が多く見られた。

**竈** 検出されず。

**重 複** H－2号住居跡を切り、H－8号住居跡に切られる。

**時 期** 時期を確定する遺物の出土はなかったが、埋土と重複関係から8世紀後半～9世紀中頃と考えられる。

**遺 物** 総数197点。

**H－2号住居跡**（Fig.10、PL.1）

**位 置** X245・246、Y53・54グリッド **主軸方向** N－99°－E **面積**（11.58）㎡

**形状等** 長方形と推定される。東西3.77m、南北3.34m、壁現高10cmを測る。

**床** 平坦な床面。南西隅に炭化物が多かった。$P_2$（長軸×短軸×深さ、形状：32cm×23cm×27cm、楕円形）と$P_4$（長軸×短軸×深さ、形状：35cm×26cm×20cm、楕円形）と$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：19cm×17cm×13cm、円形）の3基を検出した。

**竈** 東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－105°－Eであり、全長63cm、最大幅68cm、焚口部幅47cmを測る。

**重 複** H－1号住居跡に切られる。

**時 期** 埋土と出土遺物から8世紀前半と考えられる。

**遺 物** 総数101点。そのうち須恵坏1点、須恵カワラケ（流れ込み）1点を図示した。

**H－3号住居跡**（Fig.11、PL.1）

**位 置** X246・247、Y54・55グリッド **主軸方向** N－93°－E **面積**（7.32）㎡

**形状等** 方形と推定される。東西3.02m、南北(2.65)m、壁現高19cmを測る。

**床** ほぼ平坦な床面。

**竈** 東壁より検出された。主軸方向はN－98°－Eであり、全長62cm、最大幅56cm、焚口部幅46cmを測る。

**時 期** 時期を確定する遺物の出土はなかったが、埋土と住居の形状から8世紀後半～9世紀と考えられる。

**遺 物** 総数16点。そのうち多孔石1点を図示した。

**H－4号住居跡**（Fig.11）

**位 置** X246、Y53グリッド **主軸方向** N－88°－E **面積**（3.15）㎡

**形状等** 不明。東西3.36m、南北(1.08)m、壁現高13.5cmを測る。

**床** 凹凸のある床面。

**竈** 調査区外にあると思われ、検出されず。

**時 期** 埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺 物** 総数72点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.11、PL.2）

位　置　X247・248、Y54・55グリッド　主軸方向　N－79°－E　面積　8.62㎡

形状等　少しゆがんだ正方形と推定される。東西3.05m、南北3.10m、壁現高21.5cmを測る。

床　平坦な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：58cm×50cm×40cm、円形）と$P_7$（長軸×短軸×深さ、形状：65cm×60cm×47.5cm、円形）の2基を検出した。

竈　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－78°－Eであり、全長53cm、最大幅58cm、焚口部幅43cmを測る。

重　複　H－6号住居跡を切る。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなかったが、埋土と重複関係から11世紀代以降と考えられる。

遺　物　総数136点。

H－6号住居跡（Fig.12、PL.2）

位　置　X247・248、Y54グリッド　主軸方向　N－105°－E　面積（7.58）㎡

形状等　正方形と推定される。東西2.95m、南北2.75m、壁現高18cmを測る。

床　ほぼ平坦な床面。

竈　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－109°－Eであり、全長68cm、最大幅51cm、焚口部幅31cmを測る。

重　複　H－5号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から11世紀と考えられる。

遺　物　総数155点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－7号住居跡（Fig.12、PL.2）

位　置　X248、Y54・55グリッド　主軸方向　N－111°－E　面積（7.04）㎡

形状等　長方形と推定される。東西2.50m、南北(3.08)m、壁現高23.5cmを測る。

床　平坦な床面。

竈　東壁より検出された。主軸方向はN－107°－Eであり、全長64cm、最大幅61cm、焚口部幅40cmを測る。

時　期　埋土と出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

遺　物　総数246点。そのうち須恵高台埦1点、土師甕1点、石鏃1点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.10、PL.3）

位　置　X245、Y54・55グリッド　主軸方向　N－0°－E　面積（4.53）㎡

形状等　方形と推定される。東西(2.05)m、南北(2.45)m、壁現高11cmを測る。

床　平坦な床面。

竈　検出されず。

重　複　H－1号住居跡を切る。

時　期　埋土と出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

遺　物　総数15点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.12、PL.2）

位　置　X253、Y53・54グリッド　主軸方向　N－102°－E　面積　6.26㎡

形状等　長方形と推定される。東西2.35m、南北2.81m、壁現高11cmを測る。

床　平坦な床面。

竈　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－103°－Eであり、全長58cm、最大幅90cm、焚口部幅74cmを測る。

重　複　H－12号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から８世紀前半と考えられる。
**遺　物**　総数63点。そのうち須恵坏１点、土師坏１点を図示した。

### Ｈ－10号住居跡（Fig.13）

**位　置**　X249・250、Y53・54グリッド　**主軸方向**　N－7°－E　　**面積**（6.60）㎡
**形状等**　方形と推定される。東西2.55m、南北(2.97)mを測る。上部は削平され、床面のみの検出。
**床**　平坦で堅緻な床面。
**竈**　検出されず。
**重　複**　Ｈ－14と重複しているが、新旧は不明である。
**時　期**　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土と重複関係からも不明である。
**遺　物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

### Ｈ－11号住居跡（Fig.13、PL.３）

**位　置**　X250・251、Y53・54グリッド　主軸方向　N－99°－E　　面積（13.39）㎡
**形状等**　正方形と推定される。東西3.63m、南北3.75m、壁現高７cmを測る。
**床**　平坦な床面。中央部に、炭化物、灰、焼土が多く見られた。粟石が出土したが、住居に付随するものとは考えにくい。$P_2$（長軸×短軸×深さ、形状：39cm×35cm×64cm、円形）と$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：50cm×45cm×56.5cm、円形）と$P_7$（長軸×短軸×深さ、形状：78cm×75cm×19cm、円形）の３基を検出した。
**竈**　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－97°－Eであり、全長51cm、最大幅51cm、焚口部幅32cmを測る。右袖石あり。
**貯蔵穴**　住居の南東隅に１基（長軸×短軸×深さ、形状：92cm×70cm×24cm、楕円形）検出。
**重　複**　Ｈ－14号住居跡、Ｗ－２号溝跡、Ｗ－３号溝跡に切られる。
**時　期**　埋土と出土遺物から９世紀後半と考えられる。
**遺　物**　総数310点。そのうち須恵高台埦３点、灰釉高台埦１点、須恵坏１点を図示した。

### Ｈ－12号住居跡（Fig.14、PL.３）

**位　置**　X253・254、Y53～55グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　　**面積**　14.10㎡
**形状等**　長方形と推定される。東西3.36m、南北4.50m、壁現高18.5cmを測る。
**床**　ほぼ平坦な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：18cm×15cm×13.5cm、円形）と$P_7$（長軸×短軸×深さ、形状：20cm×19cm×16cm、円形）の２基を検出した。
**竈**　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－95°－Eであり、全長76cm、最大幅57cm、焚口部幅32cmを測る。右袖石あり。
**重　複**　Ｈ－９号住居跡を切る。
**時　期**　埋土と出土遺物から８世紀末～９世紀初頭と考えられる。
**遺　物**　総数145点。そのうち土師坏１点、軒丸瓦（鐙瓦）１点を図示した。

### Ｈ－13号住居跡（Fig.14）

**位　置**　X253・254、Y53グリッド　**主軸方向**　N－101°－E　　**面積**（2.90）㎡
**形状等**　方形と推定される。東西3.15m、南北(1.35)m、壁現高13cmを測る。
**床**　平坦な床面。
**竈**　調査区外にあると思われ、検出されず。
**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。
**遺　物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

H－14号住居跡（Fig.14、PL.3）

位　置　X249～251、Y53・54グリッド　**主軸方向**　N－91°－E　　**面積**（13.00）㎡

形状等　長方形と推定される。東西4.83m、南北(2.93)m、壁現高8.5cmを測る。

床　平坦な床面。

竈　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向はN－102°－Eであり、全長80cm、最大幅89cm、焚口部幅38cmを測る。

重　複　H－10号住居跡、H－11号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。H－10号住居跡との新旧関係は不明である。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなかったが、埋土と重複関係から9世紀後半以降と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。

## (2) 溝　跡

W－1号溝跡（Fig.15、PL.4）

位　置　X249・250、Y53～55グリッド

方　位　南壁よりN－14°－Eの方向で北へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅100～195cm、下幅57～95cm、深さ33～54.5cm、長さ8.3mを測る。

重　複　H－14号住居跡を切る。

時　期　埋土と重複関係から、中世以降の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

W－2号溝跡（Fig.15、PL.4）

位　置　X250・251、Y53～55グリッド

方　位　北壁よりN－201°－Eの方向で南へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅54～87cm、下幅22～72cm、深さ4.5～26.5cm、長さ8.3mを測る。

重　複　H－11号住居跡を切る。

時　期　埋土と重複関係関係から、中世以降の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

W－3号溝跡（Fig.15、PL.4）

位　置　X251・252、Y53～55グリッド

方　位　北壁よりN－200°－Eの方向で南へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅107～140cm、下幅43～80cm、深さ19～41cm、長さ8.1mを測る。

重　複　H－11号住居跡を切る。

時　期　埋土と重複関係から、中世以降の溝跡と考えられる。

遺　物　総数1点。

W－4号溝跡（Fig.15、PL.4）

位　置　X251・252、Y53～55グリッド

方　位　南壁付近よりN－20°－Eの方向で北へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅83～130cm、下幅65～113cm、深さ2～16.5cm、長さ(7.0)mを測る。

時　期　埋土から中世以降の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

W－5号溝跡（Fig.15）

位　置　X246、Y53～55グリッド

方　位　南壁よりN－14°－Eの方向で北へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅(89)～(108)cm、下幅(54)～(67)cm、長さ(8.5)mを測る。掘削してしまったため、深さは不明である。

時　期　埋土から中世以降の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

## (3) 井戸跡

I－1号井戸跡（Fig.17）

位　置　X244、Y53グリッド

形状等　平面形は円形。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸114cm、短軸104cmを測る。187cmまで掘り下げたが底まで達しなかったため、深さは不明である。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数18点。

I－2号井戸跡（Fig.17、PL.4）

位　置　X255、Y53グリッド

形状等　平面形は円形。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸145cm、短軸140cmを測る。198cmまで掘り下げたが底まで達しなかったため、深さは不明である。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数25点。

I－3号井戸跡（Fig.17）

位　置　X248、Y54グリッド

形状等　平面形は円形。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸116cm、短軸108cmを測る。197cmまで掘り下げたが底まで達しなかったため、深さは不明である。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数6点。

I－4号井戸跡（Fig.17、PL.4）

位　置　X254、Y54グリッド

形状等　平面形は円形。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸220cm、短軸202cmを測る。139cmまで掘り下げたが底まで達しなかったため、深さは不明である。

時　期　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数182点。

## (4) 土坑・柱穴

Tab.3　総社甲稲荷大道西III遺跡A区土坑・柱穴計測表を参照のこと。

## (5) グリッド等出土遺物

総数722点。そのうち、須恵高台埦1点、緑釉高台埦1点、須恵蓋1点、石器1点を図示した。

Tab. 2　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区　住居跡一覧表

| 遺構名 | 位　置 | 規模(m) | | | 面積 (m²) | 主軸方向 | 竈 | 主な出土遺物 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 東西 | 南北 | 壁現高 | | | 位　置 | 土師器 | 須恵器 | その他 |
| H－1 | X244・245、Y54・55 | (3.60) | (3.97) | 11 | (13.60) | (N－1°－E) | — | | | |
| H－2 | X245・246、Y53・54 | 3.77 | 3.34 | 10 | (11.58) | N－99°－E | 東壁中央南寄り | | 坏 カワラケ | |
| H－3 | X246・247、Y54・55 | 3.02 | (2.65) | 19 | (7.32) | N－93°－E | 東壁 | | | 多孔石 |
| H－4 | X246、Y53 | 3.36 | (1.08) | 13.5 | (3.15) | N－88°－E | — | | 坏 | |
| H－5 | X247・248、Y54・55 | 3.05 | 3.10 | 21.5 | 8.62 | N－79°－E | 東壁中央南寄り | | | |
| H－6 | X247・248、Y54 | 2.95 | 2.75 | 18 | (7.58) | N－105°－E | 東壁中央南寄り | | 坏 | |
| H－7 | X248、Y54・55 | 2.50 | (3.08) | 23.5 | (7.04) | N－111°－E | 東壁 | 甕 | 高台埦 | 石鏃 |
| H－8 | X245、Y54・55 | (2.05) | (2.45) | 11 | (4.53) | N－0°－E | — | | 坏 | |
| H－9 | X253、Y53・54 | 2.35 | 2.81 | 11 | 6.26 | N－102°－E | 東壁中央南寄り | 坏 | 坏 | |
| H－10 | X249・250、Y53・54 | 2.55 | (2.97) | — | (6.60) | N－7°－E | — | | | |
| H－11 | X250・251、Y53・54 | 3.63 | 3.75 | 7 | (13.39) | N－99°－E | 東壁中央南寄り | | 坏　高台埦 | 灰釉高台埦 |
| H－12 | X253・254、Y53～55 | 3.36 | 4.50 | 18.5 | 14.10 | N－96°－E | 東壁中央南寄り | 坏 | | 軒丸瓦 |
| H－13 | X253・254、Y53 | 3.15 | (1.35) | 13 | (2.90) | N－101°－E | — | | | |
| H－14 | X249～251、Y53・54 | 4.83 | (2.93) | 8.5 | (13.00) | N－91°－E | 東壁中央南寄り | | | |

Tab. 3　総社甲稲荷塚大道西III遺跡A区　土坑・柱穴計測表

| 遺構名 | 位　置 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形　状 | 出土遺物総数 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D－1 | X246、Y54 | 61 | 56 | 19.5 | 円形 | 0 | |
| D－2 | X246・247、Y54 | 146 | 75 | 14.5 | 長方形 | 2 | |
| D－3 | X248・249、Y53 | (168) | (42) | (52) | (円形) | 48 | |
| D－4 | X248・249、Y53・54 | 235 | 90 | 18 | 長方形 | 23 | |
| D－5 | X249、Y53 | 59 | 40 | 18.5 | 楕円形 | 3 | |
| D－6 | X249、Y54 | 49 | 41 | 24 | 円形 | 0 | |
| D－7 | X251・252、Y54・55 | 60 | 52 | 22.5 | 円形 | 0 | |
| D－8 | X252、Y55 | 58 | 55 | 22.5 | 円形 | 0 | |
| D－9 | X253、Y54 | 60 | 57 | 31 | 円形 | 18 | 洪武通宝 |
| D－10 | X254、Y54 | 54 | 43 | 26.5 | 楕円形 | 0 | |
| D－11 | X252、Y54・55 | 508 | 82 | 21.5 | 長方形 | 4 | |
| D－12 | X252、Y55 | (40) | (40) | (29.5) | (長方形) | 0 | |
| D－13 | X252、Y54 | 58 | 52 | 50.5 | 円形 | 7 | |
| D－14 | X251・252、Y54 | 84 | 66 | 53 | 円形 | 0 | |
| P－1 | X244、Y54 | 38 | 36 | 13 | 円形 | 34 | |
| P－2 | X245・246、Y54・55 | 64 | 63 | 38.5 | 円形 | 7 | |
| P－3 | X246、Y55 | 49 | 39 | 33 | 楕円形 | 0 | |
| P－4 | X244・245、Y53 | 64 | 44 | 35 | 楕円形 | 0 | |
| P－5 | X247、Y53 | 38 | 26 | 9.5 | 楕円形 | 0 | |
| P－6 | X248、Y54 | 46 | 42 | 9.5 | 円形 | 0 | |
| P－7 | X250、Y54 | 30 | 24 | 14.5 | 円形 | 0 | |
| P－8 | X251、Y55 | 29 | 28 | 13 | 円形 | 0 | |
| P－9 | X252、Y55 | 41 | 31 | 16.5 | 楕円形 | 0 | |
| P－10 | X252、Y54 | 36 | 33 | 14 | 円形 | 0 | |
| P－11 | X253、Y54 | 32 | 30 | 24 | 円形 | 0 | |
| P－12 | X253、Y54 | 31 | 29 | 14.5 | 円形 | 0 | |
| P－13 | X254、Y54 | 36 | 31 | 33 | 円形 | 0 | |
| P－14 | X254、Y54 | 33 | 32 | 23 | 円形 | 0 | |
| P－15 | X254、Y53 | 32 | 28 | 12 | 円形 | 0 | |
| P－16 | X254、Y54 | 31 | 27 | 16 | 円形 | 0 | |
| P－17 | X254、Y54 | 43 | 38 | 19 | 円形 | 0 | |
| P－18 | X255、Y54 | 34 | 30 | 16.5 | 円形 | 0 | |
| P－19 | X255、Y54 | 33 | 29 | 16.5 | 円形 | 0 | |
| P－20 | X255、Y55 | 33 | 31 | 24.5 | 円形 | 0 | |
| P－21 | X252、Y54 | 47 | 39 | 18.5 | 円形 | 5 | |
| P－22 | X254、Y55 | 34 | 33 | 16 | 円形 | 0 | |
| P－23 | X256、Y54・55 | 33 | 27 | 11.5 | 円形 | 0 | |

Tab. 4　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ａ区　出土遺物観察表

| 番号 | 遺構/層位 | 器　種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－2<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ① 12.0<br>② 3.3 | ①中粒②良好<br>①褐灰色④4/5 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。<br>底部：平底。内面中央部に盛り上がりがあり、回転篦切り。 | |
| 2 | H－2<br>床直 | カワラケ<br>須恵器 | ① 9.0<br>② 1.8 | ①中粒②良好<br>③にぶい黄橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至り、端部で内彎。<br>轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整、内面中央部に盛り上がりがあり、<br>轆轤撫で。 | 流れ込み。 |
| 3 | H－3<br>埋土 | 多孔石<br>石製品 | ①最　長　(16.0) ②最大幅　(15.6)　③最大厚　11.7<br>④重　さ　2880　⑤遺存度　完形　⑥石　材　粗粒安山岩 | | 3面に窪みを有する。 | 竈に二次転用。 |
| 4 | H－4<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ①[11.0]<br>② 2.8 | ①中粒②良好<br>③橙色④1/3 | 轆轤整形。口縁部：外傾気味に立ち上がり、端部で僅かに内彎、横撫で。<br>底部：平底、回転糸切り後篦調整。 | |
| 5 | H－6<br>埋土 | 坏<br>須恵器 | ①[11.8]<br>② 3.3 | ①中粒②良好<br>③にぶい黄橙色④2/5 | 轆轤整形。口縁・体部：体部上半部で丸みを持って立ち上がり、口縁部<br>の端部で外反。底部：平底。回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。 | |
| 6 | H－7<br>埋土 | 高台塊<br>須恵器 | ①[14.0]<br>② 4.5 | ①中粒②良好<br>③浅黄色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底<br>部：「ハ」字状の短く外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆<br>轤撫で。 | |
| 7 | H－7<br>竈、埋土 | 甕<br>土師器 | ①21.0<br>②(12.0) | ①中粒②良好<br>③橙色④1/4 | 口縁部：外反、横撫で、指押さえ痕有。胴部：上半に器最大径。外面上<br>位斜位篦削り、内面撫で。中・下位欠損。底部：欠損。 | |
| 8 | H－7<br>床直 | 鏃<br>石　製 | ①最　長　1.7　②最大幅　1.7　③最大厚　0.3<br>④重　さ　0.6　⑤遺存度　完形　⑥石　材　黒曜石 | | 凹基無茎鏃。基部中央の湾入が三角形状。<br>周縁は全て鋸歯状。 | |
| 9 | H－8<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ①[11.2]<br>② (3.0) | ①中粒②良好<br>③にぶい黄橙色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲した体部から外傾した口縁部に至る。轆轤<br>撫で。底部：平底。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 10 | H－9<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ① 12.4<br>② 4.2 | ①中粒②良好<br>③灰色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底<br>部：平底。回転糸切り後篦調整。 | |
| 11 | H－9<br>竈、床直 | 坏<br>土師器 | ①[19.0]<br>② (7.1) | ①中粒②良好<br>③橙色④1/4 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、内傾気味の口縁部に<br>至る。口縁部横撫で。体部外面斜位篦削り。底部：深い丸底と推測。 | |
| 12 | H－11<br>床直 | 高台塊<br>須恵器 | ① 13.2<br>② 5.5 | ①細粒②良好<br>③灰白色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：やや内彎して立ち上がり、体部中位で膨らみを<br>持ち、外反した口縁部に至る。轆轤撫で。変換点に綾有。底部：「ハ」<br>字状の短く外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 全体的に歪んでいる。<br>外面煤付着。 |
| 13 | H－11<br>床直 | 高台塊<br>須恵器 | ①[12.1]<br>② (4.7) | ①中粒②良好<br>③褐灰色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：体部下半部で膨らみを持って立ち上がり、外反<br>した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の短く外傾した高台貼<br>付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 14 | H－11<br>埋土 | 高台塊<br>須恵器 | ① 12.0<br>② 4.1 | ①中粒②良好<br>③灰黄色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤<br>撫で。底部：「ハ」字状の短く外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。<br>内面轆轤撫で。 | 全体的に歪んでいる。<br>外面煤付着。 |
| 15 | H－11<br>床直 | 高台塊<br>灰釉陶器 | ①[13.4]<br>② 3.2 | ①細粒②極良<br>③灰白色④1/4 | 轆轤整形。口縁・体部：緩やかに内彎した体部から外傾した口縁部に至<br>る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の短く外傾した高台貼付。回転糸切り<br>付け高台。内面轆轤撫で。 | 内外面釉付着。 |
| 16 | H－11<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ① 10.8<br>② 4.0 | ①中粒②良好<br>③浅黄橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：二段に外傾した体部から僅かに外反した口縁部<br>に至る。変換点に綾有。轆轤撫で。底部：回転糸切り後篦調整。内面轆<br>轤撫で。 | 漬け掛け。 |
| 17 | H－12<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①[12.0]<br>② (3.7) | ①細粒②良好<br>③橙色④1/4 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、直立気味に口縁部に<br>至る。口縁部横撫で。体部外面斜位篦削り。底部：丸底と推測。内面撫<br>で。 | |
| 18 | H－12<br>床直 | 軒丸瓦 | ①胎　土　細粒　②焼　成　良好　③色　調　灰色　④厚　さ　1.8<br>⑤瓦当面　無紋　⑥瓦当裏面　撫で調整　⑦遺存度　1/10 | | 複弁八弁蓮華紋。 | 鐙瓦。<br>国分寺瓦。 |
| 19 | D－9<br>埋土 | 銅　銭 | ①径　2.4　②孔　径　0.6　③厚　さ　0.1<br>④重　さ　2.1　⑤遺存度　完形　⑥銭貨名　洪武通寶 | | 背文および外郭への刻印確認できず。<br>鋳造年号(西暦)1368年 | |
| 20 | グリッド<br>X25Y54 | 打製石斧 | ①最　長　11.7　②最大幅　6.6　③最大厚　2.6<br>④重　さ　220　⑤石　材　黒色頁岩 | | 撥形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。<br>裏面一部に自然面を残す。 | |
| 21 | 遺構外 | 高台塊<br>須恵器 | ① 12.2<br>② 4.6 | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④完形 | 轆轤整形。口縁・体部：体部中位で膨らみを持って立ち上がり、外反し<br>た口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の短く外傾した高台貼付。<br>回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 外面煤付着。 |
| 22 | 遺構外 | 高台塊<br>緑釉陶器 | ①[10.0]<br>② 4.0 | ①細粒②極良③オリーブ灰色④1/2弱 | 轆轤整形。口縁・体部：体部中位で膨らみを持って立ち上がり、口縁部<br>に至り、端部で短く外反。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台<br>貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 丁寧な作り。<br>刷毛塗り。 |
| 23 | 遺構外 | 蓋<br>須恵器 | ①[13.4]<br>② 6.3 | ①中粒②良好<br>③灰白色④1/3 | 轆轤整形。短頸壺の蓋と思われる。天井部は平坦で、口縁部との屈曲部<br>は水平に突出し、口縁部は外傾気味に垂下する。摘みは擬宝珠形をなす。<br>摘みは天井部外面回転篦削り後貼付。 | |

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

## 2　総社甲稲荷塚大道西III遺跡Ｂ区

### (1) 溝　　跡

**W－１号溝跡** (Fig.18)

**位　置**　X260・261、Y57グリッド

**方　位**　東壁よりＮ－70°－Wの方向で西へ進む。

**形状等**　断面はＵ字形を呈し、上幅34～42cm、下幅20～31cm、深さ７～12cm、長さ3.0ｍを測る。

**時　期**　埋土にAs-Ｂ軽石が多く含まれることから、As-Ｂ降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

**遺　物**　総数23点。

**W－２号溝跡** (Fig.18)

**位　置**　X260・261、Y58・59グリッド

**方　位**　西壁よりＮ－61°－Ｅの方向で東へ進む。

**形状等**　断面はＵ字形を呈し、上幅43～65cm、下幅28～54cm、深さ４～12cm、長さ3.3ｍを測る。

**時　期**　埋土にAs-Ｂ軽石が多く含まれることから、As-Ｂ降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

**遺　物**　総数９点。

### (2) 畠　　跡 (Fig.18)

**位　置**　X270・271、Y57・58グリッド

**形状等**　ほぼ、南西から北東の方向に畝が走る。掘削してしまったため、実際の畝は検出されなかったが、東壁、西壁のセクションより、畠跡の検出に至った。畝と畝の間隔は、18cm～33cmの値を示す。

**時　期**　土層から平安時代と考えられる。

### (3) グリッド等出土遺物

総数422点が検出された。

## 3　総社甲稲荷塚大道西III遺跡Ｃ区

### (1) 溝　　跡

**W－１号溝跡** (Fig.19)

**位　置**　X272～275、Y39・40グリッド

**方　位**　北壁よりＮ－112°－Ｅの方向で南東へ進む。

**形状等**　断面はＵ字形を呈し、上幅45～75cm、下幅25～60cm、深さ３～17.5cm、長さ9.3ｍを測る。

**時　期**　埋土から、近世の溝跡と考えられる。

**遺　物**　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

**W－２号溝跡**　(Fig.19)

**位　置**　X273・274、Y39・40グリッド

**方　位**　北壁よりＮ－206°－Ｅの方向で南へ進む。

**形状等**　断面は逆台形を呈し、上幅50～78cm、下幅36～48cm、深さ15.5～24cm、長さ5.2ｍを測る。

**時　期**　埋土にAs-Ｂ軽石が多く含まれることから、As-Ｂ降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

### (2) グリッド等出土遺物

総数32点が検出された。

## 4　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区

### (1) 竪穴住居跡

**H－1号住居跡**（Fig.20、PL.6）

位　置　X277・278、Y85グリッド　　主軸方向（N－4°－E）　　面積（2.26）㎡

形状等　検出部分が少なく、不明である。東西(1.5)m、南北(1.9)m、壁現高24cmを測る。

床　凹凸のある床面。焼土塊が検出された。$P_1$（長軸×短軸×深さ、形状：39cm×36cm×33cm、円形）1基を検出した。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数42点。

**H－2号住居跡**　(Fig.20、PL.6、7)

位　置　X274・275、Y78・79グリッド　　主軸方向（N－88°－E）　　面積（11.83）㎡

形状等　長方形と推定される。東西3.78m、南北(3.32)m、壁現高37cmを測る。

床　平坦で堅緻な床面。

竈　東壁より検出された。主軸方向がN－84°－Eであり、全長155cm、最大幅72cm、焚口部幅36cmを測る。

貯蔵穴　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：48cm×37cm×25cm、円形）検出。

重　複　H－3号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から8世紀後半と考えられる。

遺　物　総数178点。そのうち土師甕1点、土師坏1点、土師埦1点を図示した。

**H－3号住居跡**（Fig.20、PL.7）

位　置　X274、Y78グリッド　　主軸方向（N－104°－E）　　面積（1.95）㎡

形状等　検出部分が少なく、不明である。東西2.85m、南北(1.27)m、壁現高60cmを測る。

床　平坦で堅緻な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：37cm×28cm×33.5cm、円形）1基を検出した。

竈　東壁より検出された。主軸方向が（N－91°－E）であり、全長(50)cm、最大幅(85)cm、焚口部幅(30)cmを測る。

重　複　H－2号住居跡を切る。

時　期　埋土と出土遺物から、9世紀末～10世紀前半と考えられる。

遺　物　総数54点。そのうち須恵高台埦2点、須恵羽釜1点、土師甕1点を図示した。

**H－4号住居跡**（Fig.21、PL.7）

位　置　X271・272、Y78・79グリッド　　主軸方向（N－87°－E）　　面積（10.02）㎡

形状等　方形と推定される。東西(3.73)m、南北3.18m、壁現高53cmを測る。

床　平坦で全体的に堅緻な床面。

竈　東壁南寄りより検出された。主軸方向がN－96°－Eであり、全長117cm、最大幅83cm、焚口部幅48cmを測る。

**重　複**　H－5号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。
**時　期**　埋土と出土遺物から10世紀後半と考えられる。
**遺　物**　総数463点。そのうち須恵高台埦2点、須恵羽釜1点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.21、PL.7）
**位　置**　X272、Y79グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　**面積**（0.28）㎡
**形状等**　竈のみの検出のため、不明である。
**床**　竈のみの検出のため、不明である。
**竈**　主軸方向が（N－118°－E）であり、全長(95)cm、最大幅(45)cm、焚口部幅(30)cmを測る。
**重　複**　H－4号住居跡に切られる。
**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土や重複関係からも不明である。
**遺　物**　総数29点。

H－6号住居跡　（Fig.21、PL.7）
**位　置**　X277、Y72・73グリッド　　**主軸方向**　N－89°－E　　**面積**　4.44㎡
**形状等**　長方形と推定される。東西1.95m、南北2.40m、壁現高11cmを測る。
**床**　平坦で堅緻な床面。
**竈**　東壁中央南寄りより検出された。主軸方向がN－89°－Eであり、全長68cm、最大幅54cm、焚口部幅38cmを測る。
**時　期**　埋土と出土遺物から9世紀後半と考えられる。
**遺　物**　総数13点。そのうち須恵高台埦3点を図示した。

## (2) 溝　跡

W－1号溝跡　（Fig.22、PL.8）
**位　置**　X271～273、Y79グリッド
**方　位**　調査区西部東壁よりN－85°－Wの方向で西へ進む。
**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅73～117cm、下幅70～90cm、深さ2～10cm、長さ7.18mを測る。
**重　複**　H－4号住居跡を切る。
**時　期**　埋土にAs-B軽石が多く含まれることから、As-B降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。
**遺　物**　総数35点。そのうち須恵高台埦1点を図示した。

W－2号溝跡（Fig.22、PL.8）
**位　置**　X276～278、Y82グリッド
**方　位**　東壁よりN－85°－Wの方向で西へ進む。
**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅62～80cm、下幅37～63cm、深さ13～32.5cm、長さ4.80mを測る。
**時　期**　埋土にAs-B軽石が多く含まれることから、As-B降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。
**遺　物**　総数188点。

W－3号溝跡（Fig.23、PL.8）
**位　置**　X277、Y69・70グリッド
**方　位**　東壁付近よりN－37°－Wの方向で北西へ進む。
**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅(164)cm、下幅93～115cm、深さ(8)～(46)cm、長さ(2.70)mを測る。
**時　期**　埋土と出土遺物から、7世紀後半以降には埋まり始めた溝跡と考えられる。
**遺　物**　総数157点。そのうち土師坏1点を図示した。

W－4号溝跡（Fig.22）

位　置　X276～278、Y80グリッド

方　位　西壁よりN－88°－Eの方向で東へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅(102)～(127)cm、下幅(22)～(58)cm、深さ(25)～(27.5)cm、長さ(4.80)mを測る。

時　期　埋土から近世の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

W－5号溝跡（Fig.22）

位　置　X276～278、Y72・73グリッド

方　位　東壁よりN－89°－Wの方向で西へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅61～66cm、下幅40～48cm、深さ14～23cm、長さ4.95mを測る。

時　期　埋土にAs-B軽石が多く含まれることから、As-B降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

W－6号溝跡（Fig.22）

位　置　X276～278、Y76・77グリッド

方　位　東壁よりN－52°－Wの方向で北西へ進む。

形状等　断面はU字形を呈し、上幅(145)～(185)cm、下幅(40)～(103)cm、深さ(28)～(47)cm、長さ(6.25)mを測る。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

備　考　埋土が総社砂層に起因する水性堆積による砂であると思われることから、本遺構は自然の溝状の落ち込みではないかと考えられる。

### (3) 土　坑

D－1号土坑（Fig.21、PL.8）

位　置　X277、Y83グリッド

形状等　長軸123cm、短軸56cm、深さ38cm、長方形。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

### (4) 畠　跡（Fig.23、PL.8）

位　置　X276～278、Y69～73グリッド

形状等　南西から北東方向に、また、北西から南東方向に畝が走る。耕作面と考えられる層の下層に、Hr-FA層があり、耕作時に掘り返された部分はHr-FA層が切られている。そのため、掘り返されなかったところにのみHr-FA層が残り、耕作痕の検出に至った。畝と畝の間隔は、18cm～50cmの値を示す。

時　期　土層とW－3号溝跡との重複関係からから、Hr-FA降下以降～7世紀代と考えられる。

遺　物　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

### (5) グリッド等出土遺物

総数392点が検出された。

Tab. 5　総社甲稲荷塚大道西III遺跡　D区住居跡一覧表

| 遺構名 | 位　置 | 規模(m) | | | 面積 | 主軸方向 | 竈 | 主な出土遺物 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 東西 | 南北 | 壁現高 | (㎡) | | 位　置 | 土師器 | 須恵器 | その他 |
| H－1 | X277・278、Y85 | (1.5) | (1.9) | 24 | (2.26) | (N－4°－E) | — | | | |
| H－2 | X274・275、Y78・79 | 3.78 | (3.32) | 37 | (11.83) | (N－88°－E) | 東壁 | 甕 坏 埦 | | |
| H－3 | X274、Y78 | 2.85 | (1.27) | 60 | (1.95) | (N－104°－E) | 東壁 | 甕 | 高台埦 羽釜 | |
| H－4 | X271・272、Y78・79 | (3.73) | 3.18 | 53 | (10.02) | (N－87°－E) | 東壁南寄り | | 高台埦 羽釜 | |
| H－5 | X272、Y79 | — | — | — | (0.28) | — | 東壁南寄り(推定) | | | |
| H－6 | X277、Y72・73 | 1.95 | 2.40 | 11 | 4.44 | N－89°－E | 東壁中央南寄り | | 高台埦 | |

Tab. 6　総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区　出土遺物観察表

| 番号 | 遺構/層位 | 器　種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－2<br>竈、埋土 | 甕<br>土師器 | ① 16.0<br>② 19.2 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 口縁部：器最大径。外反、横撫で。頸部に明確なくびれ無。胴部：外面縦位・斜位方向の箆削り。内面撫で、輪積み痕・箆押さえ痕有。底部：平底気味、外面箆削り。内面撫で。 | 内面接合痕二次転用。 |
| 2 | H－2<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 11.0<br>② 3.6 | ①中粒②良好<br>③明赤褐色④4/5 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部で内傾。横撫で。底部：浅い丸底、外面箆削り。内面撫で。 | |
| 3 | H－2<br>床直 | 埦<br>土師器 | ① 10.4<br>② (7.5) | ①中粒②良好<br>③橙色④1/2弱 | 口縁部：内彎気味に直立。横撫で。体部：中位に器最大径。変換点に綾有。外面箆削り。内面撫で。底部：欠損。丸底と推測。 | |
| 4 | H－3<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ① 12.0<br>② 5.0 | ①中粒②良好<br>③にぶい赤褐色④3/4 | 轆轤整形。口縁・体部：体部は丸みを持って立ち上がり、口縁部は外反。轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾する高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 内外面煤付着。 |
| 5 | H－3<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ① 11.2<br>② (4.8) | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④4/5 | 轆轤整形。口縁・体部：体部の上半部で丸みを持って立ち上がり、口縁部に至り端部で内彎。交換点に弱い稜有。轆轤撫で。底部：高台欠損。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 6 | H－3<br>床直 | 羽　釜<br>須恵器 | ①[19.2]<br>②(10.0) | ①中粒②良好<br>③灰褐色④口縁部1/3 | 轆轤整形。口縁部：内傾、端部で短く外反。轆轤撫で。鍔部に器最大径、上方から水平方向。鍔貼付。胴部：上半轆轤撫で。下半欠損。底部：欠損。 | 内外面煤付着。 |
| 7 | H－3<br>竈、床直 | 甕<br>土師器 | ①[15.0]<br>②(14.5) | ①中粒②良好<br>③にぶい赤褐色④1/3 | 口縁部：外傾、横撫で。頸部に明確なくびれ有。胴部：上位胴部最大径。外面斜位箆削り。内面撫で、輪積み痕有。下半欠損。底部：欠損。 | 内面接合痕煤付着。 |
| 8 | H－4<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①[12.0]<br>② (4.4) | ①中粒②良好<br>③橙色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：底部から外傾気味に立ち上がり、上半部で丸みを持ち、口縁部は外反。轆轤撫で。底部：回転糸切り後撫で調整、付け高台。高台：欠損、短く直立と推測。内面轆轤撫で。 | |
| 9 | H－4<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①[14.2]<br>② (5.5) | ①中粒②良好<br>③浅黄色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：体部上半部で丸みを持って立ち上がり、口縁部は僅かに外反。轆轤撫で。底部：高台欠損。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | 内面煤付着。 |
| 10 | H－4<br>床直 | 羽　釜<br>須恵器 | ①[23.4]<br>② (7.0) | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④口縁部1/6 | 口縁部：直立し、端部で僅かに外反。轆轤撫で。鍔部に器最大径。鍔貼付。胴部：中・下位欠損。底部：欠損。 | |
| 11 | H－6<br>竈、床直 | 高台埦<br>須恵器 | ① 13.6<br>② 4.9 | ①中粒②良好<br>③黒褐色④完形 | 轆轤整形。口縁・体部：底部から外傾気味に立ち上がり、僅かに外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾する高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 内外面煤付着。 |
| 12 | H－6<br>竈、床直 | 高台埦<br>須恵器 | ① 13.0<br>② 3.9 | ①粗粒②良好<br>③浅黄色④3/4 | 轆轤整形。口縁・体部：底部から外傾気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反。轆轤撫で。底部：短く直立する高台貼付。回転糸切り付け高台。内面中央部が盛り上がり、内面轆轤撫で。 | 内外面煤付着。<br>歪んでいる。 |
| 13 | H－6<br>竈、床直 | 高台埦<br>須恵器 | ① 14.3<br>② 5.6 | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：底部からやや内彎気味に立ち上がり、口縁部は僅かに外反。轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾する高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | 内黒処理。 |
| 14 | W－1<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①[16.8]<br>② 6.1 | ①中粒②良好<br>③灰白色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部の端部で僅かに外反。轆轤撫で。底部：「ハ」の字状に短く外傾する高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 15 | W－3<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 11.0<br>② 3.3 | ①中粒②良好<br>③橙色④4/5 | 口縁・体部：やや外傾気味に立ち上がり、口縁部の端部で短く外反。横撫で。交換点に稜有。底部：浅い平底気味。外面箆削り。内面撫で。 | |

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9㎜以下）、中粒（1.0～1.9㎜以下）、粗粒（2.0㎜以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

## 5　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区

### (1) 竪穴住居跡

**H－1号住居跡**（Fig.24）

**位　置**　X270、Y89・90グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　　**面積**（0.35）㎡

**形状等**　竈のみの検出のため不明である。

**床**　竈のみの検出のため不明である。

**竈**　主軸方向が（N－95°－E）であり、全長(69)cm、最大幅(53)cm、焚口部幅(35)cmを測る。

**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

**遺　物**　総数6点。

**H－2号住居跡**（Fig.24、PL.9）

**位　置**　X271・272、Y89・90グリッド　　**主軸方向**（N－92°－E）　　**面積**（5.74）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西3.61m、南北(1.61)m、壁現高45.5cmを測る。

**床**　全体的に堅緻な床面。

**竈**　東壁より検出され、主軸方向がN－108°－Eであり、全長115cm、最大幅64cm、焚口部幅37cmを測る。長い煙道を持つ。

**重　複**　H－3号住居跡を切る。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数299点。そのうち須恵カワラケ1点を図示した。

**H－3号住居跡**（Fig.24、PL.9、10）

**位　置**　X271～273、Y89・90グリッド　　**主軸方向**（N－91°－E）　　**面積**（7.85）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西4.05m、南北(2.17)m、壁現高52cmを測る。

**床**　平坦で全体的に堅緻な床面。$P_6$(長軸×短軸×深さ、形状：20cm×15cm×20cm、円形）1基を検出した。

**竈**　東壁より検出され、主軸方向がN－88°－Eであり、全長180cm、最大幅92cm、焚口部幅37cmを測る。崩落していたが、天井石あり。支脚石あり。左右袖石あり。長い煙道を持つ。

**貯蔵穴**　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：98cm×75cm×51.5cm、円形）検出。

**重　複**　H－2号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から6世紀後半と考えられる。

**遺　物**　総数124点。そのうち土師坏1点、須恵高台埦(流れ込み）1点、土師甕1点を図示した。

**H－4号住居跡**（Fig.24、PL.10）

**位　置**　X273・274、Y90・91グリッド　　**主軸方向**（N－60°－E）　　**面積**〔14.05〕㎡

**形状等**　正方形と推定される。東西〔4.15〕m、南北4.07m、壁現高39.5cmを測る。

**床**　平坦で、全体的に堅緻な床面。竈付近の床面に灰が敷き詰めてあった。$P_4$(長軸×短軸×深さ、形状：35cm×34cm×24.5cm、円形）1基を検出した。

**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向がN－63°－Eであり、全長110cm、最大幅118cm、焚口部幅46cmを測る。天井石あり。左右袖石あり。支脚に甕を転用し、甕の上に坏を2枚重ねていた。高さ調節を行っていたものと考えられる。

**貯蔵穴**　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：90cm×75cm×92.5cm、楕円形）検出。

**重　複**　H－12号住居跡、W－1号溝跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から6世紀前半と考えられる。

**遺　物**　総数259点。そのうち土師坏2点、土師甕2点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.25、PL.10）

**位　置**　X274・275、Y89・90グリッド　　**主軸方向**（N－111°－E）　　**面積**（2.08）㎡

**形状等**　検出部分が少ないため不明。東西(2.95)m、南北(1.34)m、壁現高5cmを測る。

**床**　凹凸のある床面。

**竈**　東壁より検出され、主軸方向が（N－101°－E）であり、全長(122)cm、最大幅(75)cm、焚口部幅(43)cmを測る。長い煙道を持つ。煙道を構築する際に、茅等を利用した痕跡が見られた。

**貯蔵穴**　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：55cm×52cm×12.5cm、円形）検出。

**時　期**　埋土と出土遺物から9世紀前半と考えられる。

**遺　物**　総数38点。そのうち須恵坏1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.25）

**位　置**　X276、Y88グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　　**面積**（0.15）㎡

**形状等**　竈のみの検出のため不明である。

**床**　竈のみの検出のため不明である。

**竈**　主軸方向が（N－85°－E）であり、全長(42)cm、最大幅(47)cm、焚口部幅(13)cmを測る。

**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

**遺　物**　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

H－7号住居跡（Fig.25、PL.11）

**位　置**　X277、Y91～93グリッド　　**主軸方向**（N－3°－E）　　**面積**（15.30）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(3.96)m、南北4.60m、壁現高61cmを測る。

**床**　全体的に堅緻な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：30cm×25cm×74cm、円形）1基を検出した。

**竈**　調査区外にあると思われ、検出されず。

**時　期**　埋土と出土遺物から6世紀前半と考えられる。

**遺　物**　総数433点。そのうち土師坏6点、土師甑2点、土師甕5点、紡錘車1点、砥石1点を図示した。

**備　考**　床面付近から、炭化した木材や焼土塊がきわめて多く検出された。焼失住居であると考えられる。

H－8号住居跡（Fig.26、PL.10）

**位　置**　X277・278、Y89・90グリッド　　**主軸方向**（N－14°－E）　　**面積**（12.51）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(2.95)m、南北5.32m、壁現高32.5cmを測る。

**床**　全体的に、きわめて堅緻な床面。$P_6$(長軸×短軸×深さ、形状：70cm×63cm×27cm、円形)と$P_7$(長軸×短軸×深さ、形状：26cm×20cm×26.5cm、円形）の2基を検出した。

**竈**　調査区外にあると思われ、検出されず。

**重　複**　H－13号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数342点。そのうち須恵カワラケ1点、須恵高台埦1点、軒丸瓦（鐙瓦）1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.26、PL.10）

**位　置**　X277・278、Y91グリッド　　**主軸方向**（N－2°－E）　　**面積**（11.94）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(3.55)m、南北(3.80)m、壁現高24cmを測る。

**床**　平坦で一部堅緻な床面。

**竈**　調査区外にあると思われ、検出されず。

**重　複**　H－13号住居跡、H－16号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から11世紀末と考えられる。

**遺　物**　総数307点。そのうち須恵カワラケ1点を図示した。

H－10号住居跡（Fig.24）

位　置　X274、Y90・91グリッド　　主軸方向（N－9°－E）　　面積（3.04）㎡

形状等　一部の床面のみの検出であり、形状は不明である。東西(1.45)m、南北(2.25)mを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－4号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から8世紀後半と考えられる。

遺　物　総数5点。そのうち土師坏1点を図示した。

H－11号住居跡（Fig.26、PL.11）

位　置　X270・271、Y90・91グリッド　　主軸方向（N－86°－E）　　面積（11.10）㎡

形状等　方形と推定される。東西(3.25)m、南北(3.92)m、壁現高59cmを測る。

床　竈周辺に一部堅緻な床面。灰が敷き詰められていた。

竈　東壁より検出され、主軸方向がN－102°－Eであり、全長60cm、最大幅58cm、焚口部幅35cmを測る。

重　複　W－1号溝跡に切られる。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数381点。

H－12号住居跡（Fig.27、PL.11）

位　置　X272・273、Y90・91グリッド　　主軸方向（N－76°－E）　　面積（10.02）㎡

形状等　方形と推定される。東西〔5.08〕m、南北(2.68)m、壁現高65cmを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　東壁より検出され、主軸方向が(N－83°－E)であり、全長(165)cm、最大幅(65)cm、焚口部幅(15)cmを測る。W－1により、竈が切られていた。長い煙道を持つ。

重　複　H－4号住居跡を切り、W－1号溝跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から6世紀後半と考えられる。

遺　物　総数278点。そのうち土師坏3点を図示した。

H－13号住居跡（Fig.27、PL.12）

位　置　X277・278、Y90・91グリッド　主軸方向〔N－173°－E〕　面積〔12.38〕㎡

形状等　方形と推定される。東西〔2.67〕m、南北〔5.77〕m、壁現高29.5cmを測る。

床　全体的に平坦で一部堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－16号住居跡を切り、H－8号住居跡、H－9号住居跡、W－1号溝跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から9世紀後半と考えられる。

遺　物　総数460点。そのうち土師坏1点、須恵高台埦1点、石製模造品1点、平瓦（女瓦）1点を図示した。

備　考　床面付近から、炭化した木材や焼土塊が多く検出された。焼失住居であると考えられる。

H－14号住居跡（Fig.27、PL.12）

位　置　X277、Y88グリッド　　主軸方向（N－83°－E）　　面積（1.52）㎡

形状等　方形と推定される。東西2.22m、南北(0.73)m、壁現高22cmを測る。

床　平坦な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：52cm×43cm×20cm、円形）1基を検出した。

竈　東壁より検出され、主軸方向が（N－84°－E）であり、全長(60)cm、最大幅(20)cm、焚口部幅(10)cmを測る。竈内部に石が組まれていた。

時　期　埋土と出土遺物から10世紀前半と考えられる。

遺　物　総数77点。そのうち須恵坏１点を図示した。

H－15号住居跡（Fig.28、PL.12）

位　置　X275・276、Y89～91グリッド　　主軸方向（N－154°－E）　　面積（24.90）㎡

形状等　正方形と推定される。東西5.62m、南北(5.40)m、壁現高49cmを測る。

床　全面堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　W－１号溝跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から５世紀末～６世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数439点。そのうち土師坏２点、土師高坏１点、土師甕１点を図示した。

H－16号住居跡（Fig.28、PL.12）

位　置　X277・278、Y91グリッド　　主軸方向（N－90°－E）　　面積（11.84）㎡

形状等　方形と推定される。東西(3.68)m、南北(3.25)m、壁現高44cmを測る。

床　竈周辺に堅緻な床面。灰、炭化物が多く見られた。

竈　東壁より検出され、主軸方向が（N－92°－E）であり、全長(42)cm、最大幅(93)cm、焚口部幅(52)cmを測る。

重　複　H－９号住居跡、H－13号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から８世紀後半と考えられる。

遺　物　総数419点。そのうち土師坏２点、須恵甕１点、須恵大甕１点、砥石２点を図示した。

H－17号住居跡（Fig.28、PL.12）

位　置　X277・278、Y88・89グリッド　　主軸方向（N－90°－E）　　面積（3.37）㎡

形状等　方形と推定される。東西(1.00)m、南北3.94m、壁現高(32.5)cmを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

時　期　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

遺　物　総数20点。

### (2) 竪穴状遺構

T－１号竪穴状遺構（Fig.28）

位　置　X277、Y88・89グリッド　　主軸方向（N－176°－E）　　面積　3.68㎡

形状等　正方形と推定される。東西2.04m、南北2.23m、壁現高30cmを測る。

床　貼り床、硬質床面範囲は確認されなかった。

時　期　埋土と出土遺物から５世紀と考えられる。

遺　物　総数186点。そのうち土師坏１点を図示した。

備　考　竈、貯蔵穴等の施設はなく、埋土内に焼土粒・炭化物粒の混入も認められないことから住居跡とは認定できない。

### (3) 溝　跡

W－１号溝跡（Fig.29）

位　置　X270～278、Y90・91グリッド

方　位　調査区東部東壁よりN－83°－Eの方向で西へ進み、調査区中央部南壁にぶつかる。その後角度を変え、

N—91°—Eの方向で西へ進む。

**形状等** 断面は逆台形を呈し、上幅(60)～(77)cm、下幅(29)～(47)cm、深さ(32.5)～(111.5)cm、長さ〔29.3〕mを測る。

**重　複** H—4号住居跡、H—8号住居跡、H—9号住居跡、H—10号住居跡、H—11号住居跡、H—12号住居跡、H—13号住居跡、H—15号住居跡、H—16号住居跡を切っている。

**時　期** 8世紀代の遺物も出土しているが、流れ込みであると考えられる。まわりの住居跡との切り合い関係と、埋土にAs-B軽石が多く含まれることから、11世紀代からAs-B降下以前の平安時代の溝跡と考えられる。

**遺　物** 総数251点。そのうち須恵甕1点を図示した。

**備　考** 流れの痕跡は明瞭ではないが、底面にわずかに砂層の堆積が見られた。

**W—2号溝跡**　(Fig.29、PL.12)

**位　置** X270・271、Y89～91グリッド

**方　位** 南壁よりN—8°—Wの方向で北へ進む。

**形状等** 断面はU字形を呈し、上幅(400)～(460)cm、下幅(250)～(310)cm、深さ(30)～(67.5)cm、長さ(4.5)mを測る。

**時　期** 埋土が総社砂層に起因する水性堆積による砂であると思われることから、本遺構は自然の溝状の落ち込みではないかと考えられる。

**遺　物** 本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

## (4) 井戸跡

**I—1号井戸跡** (Fig.29)

**位　置** X271、Y90グリッド

**形状等** 平面形は円形で底面は丸底である。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸132cm、短軸118cm、深さ268cmを測る。

**時　期** 出土遺物から、9世紀前半と考えられる。

**遺　物** 総数80点。そのうち土師甕1点、須恵大甕1点を図示した。

## (5) 土坑・柱穴

Tab.8　総社甲稲荷大道西III遺跡E区土坑・柱穴計測表を参照のこと。

## (6) グリッド等出土遺物

総数457点が検出された。

Tab. 7　総社甲稲荷塚大道西III遺跡　E区住居跡・竪穴状遺構一覧表

| 遺構名 | 位　置 | 規模(m) | | | 面積(㎡) | 主軸方向 | 竈 | 主な出土遺物 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 東西 | 南北 | 壁現高 | | | 位　置 | 土師器 | 須恵器 | その他 |
| H－1 | X270、Y89・90 | — | — | — | (0.35) | — | 東壁(推定) | | | |
| H－2 | X271・272、Y89・90 | 3.61 | (1.61) | 45.5 | (5.74) | (N－92°－E) | 東壁 | | カワラケ | |
| H－3 | X271～273、Y89・90 | 4.05 | (2.17) | 52 | (7.85) | (N－91°－E) | 東壁 | 坏 甕 | 高台埦 | |
| H－4 | X273・274、Y90・91 | 〔4.15〕 | 4.07 | 39.5 | 〔14.05〕 | (N－60°－E) | 東壁中央南寄り | 坏 甕 | | |
| H－5 | X274・275、Y89・90 | (2.95) | (1.34) | 5 | (2.08) | (N－111°－E) | 東壁 | | 坏 | |
| H－6 | X276、Y88 | — | — | — | (0.15) | — | 東壁(推定) | | | |
| H－7 | X277、Y91～93 | (3.96) | 4.60 | 61 | (15.30) | (N－3°－E) | — | 坏 甕 甑 | | 紡錘車 砥石 |
| H－8 | X277・278、Y89・90 | (2.95) | 5.32 | 32.5 | (12.51) | (N－14°－E) | — | | カワラケ 高台埦 | 軒丸瓦 |
| H－9 | X277・278、Y91 | (3.55) | (3.80) | 24 | (11.94) | (N－2°－E) | — | | カワラケ | |
| H－10 | X274、Y90・91 | (1.45) | (2.25) | — | (3.04) | (N－9°－E) | — | 坏 | | |
| H－11 | X270・271、Y90・91 | (3.25) | (3.92) | 59 | (11.10) | (N－86°－E) | 東壁 | | | |
| H－12 | X272・273、Y90・91 | 〔5.08〕 | (2.68) | 65 | (10.02) | (N－76°－E) | 東壁 | 坏 | | |
| H－13 | X277・278、Y90・91 | 〔2.67〕 | 〔5.77〕 | 29.5 | 〔12.38〕 | 〔N－173°－E〕 | — | 坏 | 高台埦 | 石製模造品 平瓦 |
| H－14 | X277、Y88 | 2.22 | (0.73) | 22 | (1.52) | (N－83°－E) | 東壁 | | 坏 | |
| H－15 | X275・276、Y89～91 | 5.62 | (5.40) | 49 | (24.90) | (N－154°－E) | | 坏 高坏 甕 | | |
| H－16 | X277・278、Y91 | (3.68) | (3.25) | 44 | (11.84) | (N－90°－E) | 東壁 | 坏 | 甕 大甕 | 砥石 |
| H－17 | X277・278、Y88・89 | (1.00) | 3.94 | 32.5 | (3.37) | (N－90°－E) | — | | | |
| T－1 | X277、Y88・89 | 2.04 | 2.23 | 30 | 3.68 | (N－176°－E) | — | 坏 | | |

Tab. 8　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区　土坑・柱穴計測表

| 遺構名 | 位　置 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形　状 | 出土遺物総数 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D－1 | X277、Y92 | (80) | (41) | (16) | (円形) | 1 | |
| D－2 | X273、Y90 | 75 | 65 | 15.5 | 円形 | 0 | |
| D－3 | X273、Y90 | 38 | (42) | 35 | 円形 | 0 | |
| D－4 | X273・274、Y89・90 | (86) | (39) | (51) | (円形) | 2 | |
| P－1 | X273、Y89・90 | 35 | 29 | 22.5 | 円形 | 1 | |

Tab. 9　総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区　出土遺物観察表

| 番号 | 遺構/層位 | 器　種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－2<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　8.8<br>②　2.5 | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。、横撫で。底部：回転糸切り後篦調整。内面中央部が盛り上がり、轆轤撫で。 | |
| 2 | H－3<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.0<br>②　3.7 | ①中粒②良好<br>③橙色④完形 | 口縁部：外傾で立ち上がり、上位に段を持つ。横撫で。交換点に稜有。底部：丸底。篦削り、内面撫で。 | |
| 3 | H－3<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ① 10.0<br>②　3.7 | ①中粒②良好<br>③にぶい褐色④5/6 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至り、端部で僅かに外反。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 内外面煤付着。<br>流れ込み。 |
| 4 | H－3<br>埋土 | 甕<br>土師器 | ①　—<br>②（4.4） | ①中粒②良好③にぶい黄褐色④底部のみ | 口縁部：欠損。胴部：上・中位欠損。外面篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：平底、葉脈痕有。 | 二次利用か底部木葉痕。 |
| 5 | H－4<br>竈、床直 | 甕<br>土師器 | ① 13.6<br>② 14.2 | ①粗粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 口縁部：外反、横撫で、頸部に明確なくびれ有。胴部：中位に膨らみを持ち、外面縦位篦削り。内面撫で、輪積み痕有。底部：平底。 | 内面接合痕二次転用。 |
| 6 | H－4<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.6<br>②　5.8 | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④7/8 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至る。変換点に稜有。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、放射線状に篦磨き。底部：深い丸底 | 暗文土器。 |
| 7 | H－4<br>竈、床直 | 坏<br>土師器 | ① 11.6<br>②　5.8 | ①中粒②良好<br>③橙色④2/3 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、内傾した口縁部に至る。外面横位篦削り。内面撫で後、放射線状に篦磨き。底部：深い丸底。 | 暗文土器。 |
| 8 | H－4<br>埋土 | 甕<br>土師器 | ① 19.4<br>②(20.0) | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④1/2 | 口縁部：外反、横撫で、頸部に明確なくびれ有。胴部：上位にやや膨らみを持ち、外面上半斜位篦削り。内面撫で。下半欠損。底部：欠損。 | 外面一部分に煤付着。 |
| 9 | H－5<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ① 16.0<br>②　4.2 | ①中粒②良好<br>③灰黄色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至り、端部で短く外反。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | 全体的に歪んでいる。 |
| 10 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 12.4<br>②　5.3 | ①中粒②良好<br>③橙色④完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、内傾気味の口縁部に至る。外面斜位篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：丸底。 | |
| 11 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.8<br>②　5.3 | ①中粒②良好<br>③橙色④ほぼ完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外反した口縁部に至る。変換点に稜有。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。底部：深い丸底。 | 暗文土器。 |
| 12 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.6<br>②　5.5 | ①中粒②良好<br>③橙色④完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。変換点に稜有。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。底部：深い丸底。 | 暗文土器。 |
| 13 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.0<br>②　5.2 | ①中粒②良好<br>③橙色④完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で外反。変換点に稜有。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。底部：丸底。 | 暗文土器。 |
| 14 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.1<br>②　5.2 | ①中粒②良好<br>③橙色④完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外反した口縁部に至り、端部で短く直立。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。底部：深い丸底。 | 暗文土器。 |
| 15 | H－7<br>床直 | 坏<br>土師器 | ① 13.6<br>②　5.5 | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④9/10 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、外傾した口縁部に至り、端部で短く直立。口縁部横撫で。体部外面篦削り、内面撫で後、上半放射線状に篦磨き。底部：深い丸底。 | 暗文土器。 |
| 16 | H－7<br>床直 | 甑<br>土師器 | ① 13.6<br>②　9.0 | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④完形 | 口縁・体部：直線的に外傾した体部から短く内傾した口縁部に至る。外面篦削り。内面篦調整。底部中央に径1.2cm大の穿孔有。 | 鉢形単孔甑。 |
| 17 | H－7<br>床直 | 甑<br>土師器 | ① 20.5<br>② 28.1 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 口縁部：外反、横撫で、頸部に明確なくびれ無。胴部：中位にやや膨らみを持ち、外面斜・縦位篦削り。内面撫で、輪積み痕有、篦押さえ痕有。底部中央に径8.4cm大の穿孔有。 | 内面接合痕。 |
| 18 | H－7<br>床直 | 小甕<br>土師器 | ① 13.5<br>② 18.0 | ①中粒②良好<br>③橙色④ほぼ完形 | 口縁部：外傾、横撫で、頸部に明確なくびれ有。胴部：上位に膨らみを持ち、外面斜位篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：平底。 | 外面煤付着。 |
| 19 | H－7<br>床直 | 甕<br>土師器 | ① 18.2<br>② 32.2 | ①中粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形 | 口縁部：外傾、横撫で、頸部に明確なくびれ有。胴部：中位に膨らみを持ち、外面斜位篦削り。内面撫で、輪積み痕有、篦押さえ痕有。底部：平底。 | 内面接合痕歪んでいる。 |
| 20 | H－7<br>床直 | 甕<br>土師器 | ① 16.4<br>② 31.2 | ①中粒②良好<br>③にぶい褐色④9/10 | 口縁部：外傾、端部で短く外反。横撫で。胴部：中位に膨らみを持ち、外面斜・縦位篦削り。内面撫で、輪積み痕有。底部：平底。 | 内面接合痕。 |
| 21 | H－7<br>床直 | 甕<br>土師器 | ① 16.4<br>② 28.3 | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④2/3 | 口縁部：外傾、横撫で。胴部：中位に膨らみを持ち、外面斜・横位篦削り。内面撫で、輪積み痕有、篦押さえ痕有。底部：平底。 | 内面接合痕。 |
| 22 | H－7<br>床直 | 甕<br>土師器 | ① 14.6<br>② 28.5 | ①粗粒②不良<br>③灰褐色④3/4 | 口縁部：外傾気味、横撫で、頸部に明確なくびれ無。指圧痕有。胴部：上位に膨らみを持ち、外面斜位篦削り。内面撫で、輪積み痕有。底部：平底。 | 内面接合痕歪んでいる。 |
| 23 | H－7<br>埋土 | 紡錘車<br>石製品 | ①上底径　2.5<br>④高　さ　2.2 | ②下底径　4.1　③軸孔径　0.8<br>⑤重　さ（40.2）　⑥石　材　滑石 | 蔵頭円錐形。放射線状に線刻痕有。下径一部欠損。研磨されている。 | |
| 24 | H－7<br>埋土 | 砥　石<br>石製品 | ①最　長（5.9）<br>④重　さ（37.6） | ②最大幅　3.1　③最大厚　1.7<br>⑤石　材　流紋岩 | 手持ち砥。平面長方形、断面凹状をなす。奥側肩部寄り径0.5cmの穿孔たれている。5面使用。長軸方向に擦痕有。 | 携帯用。 |
| 25 | H－8<br>床直 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.3<br>②　2.2 | ①中粒②良好<br>③明赤褐色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。変換点に稜有。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。 | |
| 26 | H－8<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ①[17.0]<br>②（6.8） | ①中粒②良好<br>③にぶい橙色④1/5 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎した体部から外傾気味に口縁部に至り、端部で僅かに直立。轆轤撫で。底部：欠損。 | 高足高台。 |
| 27 | H－8<br>床直 | 軒丸瓦 | ①胎　土　中粒<br>④厚　さ　1.5<br>⑥瓦当裏面　撫で | ②焼　成　良好　③色　調　褐灰色<br>⑤瓦当面　鍔の段の面は瓦笵の端がある<br>⑦遺存度　1/3 | 外区外界縁が一段高い、更にその外側は鍔状になる。 | 鐙瓦。<br>珠文6つ？ |
| 28 | H－9<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.4<br>②　2.2 | ①中粒②良好<br>③褐灰色④4/5 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部の端部で僅かに外反。轆轤撫で。横撫で。底部：回転糸切り未調整。内面中央部が盛り上がり、轆轤撫で。 | |

| 番号 | 遺構/層位 | 器　種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 29 | H－10<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①[10.6]<br>②（3.1） | ①中粒②良好<br>③橙色④1/3 | 口縁・体部：外傾した体部から内傾した口縁部に至る。横撫で。交換点に稜有。口縁部横撫で。体部外面篦削り。内面撫で。底部：平底気味と推測 | |
| 30 | H－12<br>埋土 | 坏<br>土師器 | ①　11.2<br>②　3.0 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部に至り、端部で短く直立。横撫で。交換点に稜有。外面篦削り。内面撫で。底部：平底気味。 | 内外面黒色処理。 |
| 31 | H－12<br>埋土 | 坏<br>土師器 | ①　10.2<br>②　3.3 | ①中粒②良好<br>③橙色④9/10 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、短く直立した口縁部に至り、端部で僅かに内彎。外面篦削り。内面撫で。底部：丸底。 | |
| 32 | H－12<br>埋土 | 坏<br>土師器 | ①　13.9<br>②　5.2 | ①中粒②良好<br>③橙色④3/5 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、短く直立した口縁部に至り、端部で僅かに内彎。外面篦削り。内面撫で。底部：深い丸底。 | |
| 33 | H－13<br>竈、埋土 | 坏<br>土師器 | ①[11.8]<br>②　3.7 | ①中粒②良好<br>③橙色④1/3 | 口縁・体部：僅かに内彎気味に立ち上がり、口縁部で内傾気味に直立。横撫で。交換点に稜有。底部：丸底気味。外面篦削り。内面撫で。 | 全体的に歪む。 |
| 34 | H－13<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ①[10.8]<br>②　3.7 | ①中粒②良好<br>③灰黄色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至り、端部で僅かに外反。変換点に稜有。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | 内外面自然釉付着。 |
| 35 | H－13<br>埋土 | 剣形品石<br>製模造品 | ①最　長　3.7<br>④重　さ　6.6 | ②最大幅　2.5<br>⑤石　材　滑石 | ③最大厚　0.5<br>双孔。平面三角形状。表裏両面に斜方向の磨き。 | |
| 36 | H－13<br>床直 | 平　瓦 | ①胎　土　中粒<br>④厚　さ　1.7<br>近横方向の叩き | ②焼　成　良好<br>⑤凹　面　布目痕<br>⑦遺存度　完形 | ③色　調　明褐灰色<br>⑥凸　面　縄目叩き痕、狭端付 | 1枚作り。側端部面取り1面。凹面に明瞭な糸切り状痕跡。 | 女瓦。<br>国分寺瓦。 |
| 37 | H－14<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ①11.7<br>②　3.8 | ①中粒②良好<br>③明赤褐色④5/6 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り後篦調整。内面轆轤撫で。 | |
| 38 | H－15<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①13.8<br>②　5.4 | ①中粒②良好<br>③橙色④7/8 | 口縁・体部：内彎した体部から外反した口縁部に至る。横撫で。交換点に稜有。底部：丸底。外面篦削り。内面撫で。 | |
| 39 | H－15<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①[11.8]<br>②　6.2 | ①中粒②良好<br>③明赤褐色④1/2 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、彎曲気味に直立した口縁部に至る。横撫で。交換点に稜有。外面篦削り。内面撫で、口縁部に篦押さえ痕有。底部：丸底。 | |
| 40 | H－15<br>床直 | 高　坏<br>土師器 | ①14.4<br>②10.2 | ①中粒②良好<br>③橙色④5/6 | 坏部：内彎した体部から外傾した口縁部に至る。外面斜位篦削り。内面撫で後、放射線状に篦磨き。台部：大きく開く、外面縦方向篦磨き。内面篦削り。 | 暗文土器。 |
| 41 | H－15<br>埋土 | 甕<br>土師器 | ①[16.0]<br>②(13.3) | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④1/2 | 口縁部：外反、横撫で、頸部に明確なくびれ有。胴部：中位に膨らみを持ち、外面斜位篦削り。内面撫で。底部：平底と推測。ほぼ欠損。 | |
| 42 | H－16<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①11.0<br>②　3.5 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、短く内傾した口縁部に至る。外面横位篦削り。内面撫で。底部：浅い丸底。 | |
| 43 | H－16<br>埋土 | 坏<br>土師器 | ①[11.8]<br>②　3.5 | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④1/3 | 口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、口縁部で内傾気味に短く直立。横撫で。交換点に稜有。底部：浅い丸底。外面篦削り。内面撫で。 | |
| 44 | H－16<br>埋土 | 大甕<br>須恵器 | ①[62.0]<br>②(20.5) | ①細粒②良好③灰色<br>④口縁部1/3 | 紐作り叩き整形。口縁部：外反から屈曲して、端部で短く直立。外面は叩き後沈線を巡らし、内面は轆轤撫で。胴部：欠損。底部：欠損。 | |
| 45 | H－16<br>床直 | 甕<br>須恵器 | ①20.0<br>②(13.0) | ①細粒②良好③灰白色<br>④口縁部2/3 | 轆轤整形。口縁部：外反から屈曲して短く直立。轆轤撫で。頸部に明確なくびれ有。胴部：中・下位欠損。内面青海波紋。底部：欠損。 | 自然釉付着。秋間系。 |
| 46 | H－16<br>床直 | 砥　石<br>石製品 | ①最　長　12.7<br>④重　さ　660.0 | ②最大幅　6.9<br>⑤石　材　流紋岩 | ③最大厚　4.8<br>手持ち砥石。平面長方形、断面凹状をなす。4面使用。長軸方向に弱い擦痕有。左手前より右奥方向に研磨りする。 | |
| 47 | H－16<br>床直 | 砥　石<br>石製品 | ①最　長　9.0<br>④重　さ(190.0) | ②最大幅　(3.0)<br>⑤石　材　流紋岩 | ③最大厚　3.5<br>手持ち砥石。平面長方形。断面凹状をなし、小口面は欠損する。研磨面として5面使用。長・短軸方向に弱い擦痕有。左手前より右奥方向に研磨りする。 | |
| 48 | T－1<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①[12.4]<br>②（5.3） | ①中粒②良好③明赤褐色④2/5 | 口縁・体部：体部は緩やかに内彎して立ち上がり、内傾した口縁部に至る。外面篦削り。内面撫で。底部：深い丸底と推定。 | |
| 49 | I－1<br>埋土 | 甕<br>土師器 | ①　23.0<br>②（8.5） | ①粗粒②不良③橙色<br>④1/4 | 口縁部：外反、横撫で、頸部に明確なくびれ無。胴部：下半欠損。外面斜位篦削り。内面撫で、篦押さえ痕有。底部：欠損。 | |
| 50 | I－1<br>埋土 | 大甕<br>須恵器 | ①[37.6]<br>②[11.8] | ①中粒②良好③灰白色<br>④口縁部1/4 | 紐作り叩き整形。口縁部：外反から屈曲して短く外傾。轆轤撫で。頸部に明確なくびれ無。胴部：欠損。底部：欠損。 | |
| 51 | W－1<br>埋土 | 甕<br>須恵器 | ①　14.2<br>②(21.3) | ①細粒②極良③灰白色<br>④1/2 | 轆轤整形。口縁部：外反から屈曲して短く直立。轆轤撫で。頸部に明確なくびれ有。胴部：上位器最大径。外面平行叩き。内面青海波紋。底部：丸底。 | |
| 52 | D－4<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①［8.8］<br>②　2.2 | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至り、端部で僅かに外反。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

## 6　総社閑泉明神北III遺跡

### (1)　竪穴住居跡

**H－1号住居跡（Fig.30、PL.13）**

**位　置**　X275、Y112・113グリッド　　**主軸方向**（N－108°－E）　　**面積**（10.07）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西3.18m、南北(3.78)m、壁現高14cmを測る。

**床**　全体的に平坦で堅緻な床面。北西隅に炭化物多い。

**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－149°－Eであり、全長95cm、最大幅42cm、焚口部幅23cmを測る。天井石あり。支脚石あり。袖石あり。長い煙道を持つ。

**重　複**　H－3号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数116点。そのうち須恵カワラケ4点を図示した。

**H－2号住居跡（Fig.30）**

**位　置**　X274、Y112グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　　**面積**（0.17）㎡

**形状等**　竈のみの検出のため不明である。

**床**　竈のみの検出のため不明である。

**竈**　主軸方向が（N－98°－E）であり、全長(50)cm、最大幅(45)cm、焚口部幅(28)cmを測る。わずかに痕跡が見られた程度であった。

**重　複**　H－3と重複しているが、新旧関係は不明である。

**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなく、埋土からも不明である。

**遺　物**　総数8点。

**H－3号住居跡（Fig.30、PL.13）**

**位　置**　X274・275、Y112・113グリッド　　**主軸方向**（N－103°－E）　　**面積**（7.23）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(2.74)m、南北3.05m、壁現高19.5cmを測る。

**床**　全体的に平坦で堅緻な床面。竈前は、きわめて堅緻な床面。

**竈**　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－117°－Eであり、全長88cm、最大幅46cm、焚口部幅27cmを測る。長い煙道を持つ。

**重　複**　H－1号住居跡を切る。H－2号住居跡との新旧関係は不明である。

**時　期**　時期を確定する遺物は出土しなかったが、埋土と重複関係から、12世紀以降と考えられる。

**遺　物**　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

**H－4号住居跡（Fig.30、PL.14）**

**位　置**　X274・275、Y113・114グリッド　　**主軸方向**（N－98°－E）　　**面積**（9.09）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(2.50)m、南北4.18m、壁現高30cmを測る。

**床**　一部きわめて堅緻な床面。

**竈**　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－148°－Eであり、全長95cm、最大幅50cm、焚口部幅35cmを測る。長い煙道を持つ。煙突穴あり。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数67点。そのうち須恵カワラケ1点、銭貨1点、紡錘車軸1点、鉄槍1点を図示した。

**備　考**　床面付近から、炭化した木材や焼土塊がきわめて多く検出された。焼失住居であると考えられる。

H－5号住居跡（Fig.30）

位　置　X275、Y120・121グリッド　　主軸方向　竈のみの検出のため不明である。　　面積（0.66）㎡

形状等　竈のみの検出のため不明である。

床　竈のみの検出のため不明である。

竈　主軸方向が（N－88°－E）であり、全長(94)cm、最大幅(88)cm、焚口部幅(58)cmを測る。

重　複　H－10号住居跡、H－22号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から6世紀後半と考えられる。

遺　物　総数42点。そのうち土師坏1点を図示した。

H－6号住居跡（Fig.30、PL.14）

位　置　X274・275、Y115・116グリッド　　主軸方向（N－110°－E）　　面積（4.85）㎡

形状等　方形と推定される。東西(1.70)m、南北3.80m、壁現高29cmを測る。

床　全体的に平坦で堅緻な床面。

竈　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－119°－Eであり、全長127cm、最大幅55cm、焚口部幅30cmを測る。右袖石あり。長い煙道を持つ。

重　複　W－1号溝跡に切られる。

時　期　時期を確定する遺物は出土しなかったが、埋土と住居の形状から12世紀頃と考えられる。

遺　物　総数72点。

H－7号住居跡（Fig.31、PL.14）

位　置　X272・273、Y112・113グリッド　　主軸方向（N－93°－E）　　面積（8.63）㎡

形状等　方形と推定される。東西2.74m、南北(3.27)m、壁現高41cmを測る。

床　一部堅緻な床面。$P_2$(長軸×短軸×深さ、形状：33cm×27cm×18.5cm、円形)と$P_6$(長軸×短軸×深さ、形状：113cm×76cm×48cm、楕円形)と$P_7$(長軸×短軸×深さ、形状：33cm×31cm×11.5cm、円形)の3基を検出した。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－94°－Eであり、全長115cm、最大幅75cm、焚口部幅51cmを測る。支脚石あり。

貯蔵穴　住居の南東隅に1基（長軸×短軸×深さ、形状：60cm×57cm×14.5cm、正方形）検出。

重　複　H－23号住居跡を切り、H－14号住居跡、H－15号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から10世紀中頃と考えられる。

遺　物　総数248点。そのうち須恵坏2点、須恵高台埦2点、須恵羽釜1点、平瓦（女瓦）1点を図示した。

H－8号住居跡（Fig.31、PL.14）

位　置　X275、Y117・118グリッド　　主軸方向〔N－97°－E〕　　面積（9.74）㎡

形状等　方形と推定される。東西(3.12)m、南北3.32m、壁現高33cmを測る。

床　全体的にきわめて堅緻な床面。一部近・現代と思われる攪乱を受けている。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－18号住居跡、H－19号住居跡を切る。

時　期　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

遺　物　総数74点。そのうち須恵坏(流れ込み)1点、須恵カワラケ1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.32、PL.15）

位　置　X274～276、Y118～120グリッド　　主軸方向　N－93°－E　　面積　17.2㎡

形状等　長方形と推定される。東西3.75m、南北5.10m、壁現高16.5cmを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN—98°—Eであり、全長95cm、最大幅45cm、焚口部幅38cmを測る。補強材として瓦を用いている。

**重　複**　H—21号住居跡を切る。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数102点。そのうち須恵カワラケ１点、平瓦（女瓦）１点を図示した。

### H—10号住居跡（Fig.32、PL.15）

**位　置**　X275・276、Y120・121グリッド　**主軸方向**（N—91°—E）　**面積**（9.63）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西(2.97)m、南北3.65m、壁現高21.5cmを測る。

**床**　全体的に堅緻な床面。$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：60cm×42cm×24cm、楕円形）１基を検出した。

**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向が（N—95°—E）であり、最大幅(78)cm、焚口部幅(25)cmを測る。ほとんどが調査区外であり、全長は不明である。

**重　複**　H—５号住居跡、H—22号住居跡を切る。

**時　期**　時期を確定する遺物は出土しなかったが、埋土と重複関係から８世紀後半以降と考えられる。

**遺　物**　総数104点。

### H—11号住居跡（Fig.32、PL.15）

**位　置**　X274・275、Y121・122グリッド　**主軸方向**（N—89°—E）　**面積**（8.04）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西(3.15)m、南北2.65m、壁現高32.5cmを測る。

**床**　平坦で一部堅緻な床面。

**竈**　東壁中央より検出され、主軸方向が（N—86°—E）であり、全長(95)cm、最大幅59cm、焚口部幅27cmを測る。天井石あり。

**重　複**　H—12号住居跡、H—13号住居跡、H—22号住居跡を切っている。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数７点。そのうち土師甕１点を図示した。

### H—12号住居跡（Fig.33）

**位　置**　X275・276、Y121・122グリッド　**主軸方向**（N—178°—E）　**面積**（6.12）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(1.90)m、南北3.65m、壁現高41cmを測る。

**床**　全体的に堅緻な床面。

**竈**　調査区外にあると思われ、検出されず。

**重　複**　H—20号住居跡、H—22号住居跡を切り、H—11号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から、12世紀と考えられる。

**遺　物**　総数173点。そのうち須恵カワラケ１点、石鏃１点を図示した。

### H—13号住居跡（Fig.32、PL.15）

**位　置**　X274・275、Y122・123グリッド　**主軸方向**（N—84°—E）　**面積**〔6.88〕㎡

**形状等**　方形と推定される。東西(1.80)m、南北〔4.38〕m、壁現高29cmを測る。

**床**　平坦で一部堅緻な床面。

**竈**　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN—87°—Eであり、全長95cm、最大幅65cm、焚口部幅45cmを測る。

**貯蔵穴**　住居の南東隅に１基（長軸×短軸×深さ、形状：60cm×60cm×25.5cm、円形）検出。

**重　複**　H—11号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から11世紀後半と考えられる。

**遺　物**　総数132点。そのうち須恵高台埦１点を図示した。

H－14号住居跡（Fig.33、PL.14）

**位　置**　X273・274、Y112・113グリッド　　**主軸方向**（N－92°－E）　　**面積**（12.76）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西3.78m、南北(3.66)m、壁現高42cmを測る。

**床**　平坦で一部堅緻な床面。

**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－97°－Eであり、全長60cm、最大幅70cm、焚口部幅45cmを測る。

**重　複**　H－7号住居跡、H－23号住居跡、H－24号住居跡を切っている。

**時　期**　埋土と出土遺物から12世紀前半と考えられる。

**遺　物**　総数258点。そのうち須恵坏2点、須恵高台埦1点、鉄鏃1点、紡錘車軸1点、刀子1点を図示した。

H－15号住居跡（Fig.31、PL.16）

**位　置**　X272、Y112・113グリッド　　**主軸方向**（N－101°－E）　　**面積**（24.90）㎡

**形状等**　方形と推定される。東西2.18m、南北(1.87)m、壁現高25cmを測る。

**床**　一部堅緻な床面。

**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－107°－Eであり、全長105cm、最大幅58cm、焚口部幅21cmを測る。袖石あり。支脚石あり。

**重　複**　H－7号住居跡、H－23号住居跡を切っている。

**時　期**　埋土と出土遺物から11世紀後半と考えられる。

**遺　物**　総数150点。そのうち須恵坏2点、須恵高台埦3点、須恵高台皿1点、土師土釜1点、平瓦（女瓦）1点を図示した。

H－16号住居跡（Fig.33）

**位　置**　X272、Y113・114グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　　**面積**（0.37）㎡

**形状等**　竈のみの検出のため不明である。

**床**　竈のみの検出のため不明である。

**竈**　主軸方向が（N－90°－E）であり、全長(75)cm、最大幅(60)cm、焚口部幅(37)cmを測る。

**時　期**　埋土と出土遺物から10世紀後半と考えられる。

**遺　物**　総数30点。そのうち須恵羽釜1点を図示した。

H－17号住居跡　（Fig.33、PL.16）

**位　置**　X274・275、Y124・125グリッド　　**主軸方向**（N－69°－E）　　**面積**（13.12）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西(4.32)m、南北(3.78)m、壁現高57.5cmを測る。

**床**　全体的に平坦で堅緻な面。周溝あり。

**竈**　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－82°－Eであり、全長95cm、最大幅105cm、焚口部幅37cmを測る。一部耕作痕と見られる攪乱を受けている。

**時　期**　埋土と出土遺物から8世紀中頃と考えられる。

**遺　物**　総数235点。そのうち土師坏1点を図示した。

H－18号住居跡（Fig.31、PL.16、17）

**位　置**　X274・275、Y117・118グリッド　　**主軸方向**（N－101°－E）　　**面積**（17.23）㎡

**形状等**　長方形と推定される。東西(3.90)m、南北5.40m、壁現高31.5cmを測る。

**床**　全体的に、平坦できわめて堅緻な床面。一部、近・現代と思われる攪乱を受けている。

**竈**　東壁南東隅より検出され、主軸方向がN－104°－Eであり、全長84cm、最大幅70cm、焚口部幅50cmを測る。

**重　複**　H－19号住居跡を切り、H－8号住居跡に切られる。

**時　期**　埋土と出土遺物から11世紀後半と考えられる。

**遺　物**　総数292点。そのうち土師土釜2点、平瓦（女瓦）2点、丸瓦（男瓦）4点、角釘1点を図示した。

H－19号住居跡（Fig.32、PL.16）

位　置　X275・276、Y117グリッド　　主軸方向（N－94°－E）　　面積（9.88）㎡

形状等　長方形と推定される。東西(3.00)m、南北3.73m、壁現高32cmを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　東壁南東隅より検出され、主軸方向が(N－90°－E)であり、全長(42)cm、最大幅(72)cm、焚口部幅35cmを測る。

重　複　H－8号住居跡、H－18号住居跡に切られる。

時　期　埋土と出土遺物から11世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数49点。そのうち須恵高台埦1点を図示した。

H－20号住居跡（Fig.33）

位　置　X275・276、Y122・123グリッド　　主軸方向（N－8°－E）　　面積〔2.20〕㎡

形状等　方形と推定される。東西(1.05)m、南北〔2.67〕m、壁現高23.5cmを測る。

床　全体的に堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－22号住居跡を切り、H－12号住居跡に切られる。

時　期　時期を確定する遺物は出土しなかったが、埋土と重複関係から8世紀後半以降と考えられる。

遺　物　総数15点。そのうち弥生台付甕(流れ込み)　1点を図示した。

H－21号住居跡（Fig.32、PL.17）

位　置　X275・276、Y119グリッド　　主軸方向（N－82°－E）　　面積（6.58）㎡

形状等　長方形と推定される。東西(2.90)m、南北(2.57)m、壁現高47cmを測る。

床　一部堅緻な床面。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－9号住居跡を切っている。

時　期　埋土と出土遺物から12世紀初頭と考えられる。

遺　物　総数121点。そのうち須恵坏2点を図示した。

H－22号住居跡（Fig.33、PL.17）

位　置　X275・276、Y121・122グリッド　　主軸方向（N－163°－E）　　面積（19.01）㎡

形状等　長方形と推定される。東西3.75m、南北6.35m、壁現高44cmを測る。

床　全体的に堅緻な床面。周溝あり。

竈　調査区外にあると思われ、検出されず。

重　複　H－5号住居跡を切り、H－10号住居跡、H－11号住居跡、H－12号住居跡に切られる。H－20号住居跡との新旧関係は不明である。

時　期　埋土と出土遺物から8世紀後半と考えられる。

遺　物　総数258点。そのうち須恵甕2点を図示した。

H－23号住居跡（Fig.34、PL.17）

位　置　X272・273、Y122・123グリッド　　主軸方向（N－65°－E）　　面積（12.96）㎡

形状等　正方形と推定される。東西3.73m、南北3.95m、壁現高17.5cmを測る。

床　全体的に堅緻な床面。周溝あり。

竈　東壁中央より検出され、主軸方向がN－72°－Eであり、全長87cm、最大幅67cm、焚口部幅40cmを測る。

重　複　H－24を切り、H－7、H－14、H－15に切られる。

時　期　時期を確定する遺物は出土しなかったが、埋土と住居の形状、重複関係から、8世紀中頃～後半と考え

られる。

**遺　物**　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

**H－24号住居跡（Fig.34）**

**位　置**　X273、Y123グリッド　　**主軸方向**　竈のみの検出のため不明である。　　**面積**（0.24）㎡

**形状等**　竈のみの検出のため不明である。

**床**　竈のみの検出のため不明である。

**竈**　主軸方向が（N－89°－E）であり、全長(57)cm、最大幅(47)cm、焚口部幅(36)cmを測る。

**重　複**　H－14号住居跡、H－23号住居跡に切られている。

**時　期**　時期を確定する遺物は出土しなかったが、重複関係から８世紀代以前と考えられる。

**遺　物**　本遺構に関連する遺物は出土しなかった。

**J－１号住居跡（Fig.34、PL.17）**

**位　置**　X275・276、Y116・117グリッド　　**主軸方向**（N－10°－E）　　**面積**（11.25）㎡

**形状等**　隅丸長方形と推定される。東西(3.53)m、南北3.86m、壁現高29.5cmを測る。

**床**　全体的に平坦で堅緻な床面。$P_1$（長軸×短軸×深さ、形状：22cm×21cm×27.0cm、円形）、$P_2$（長軸×短軸×深さ、形状：24cm×22cm×47.5cm、円形）、$P_3$（長軸×短軸×深さ、形状：19cm×17cm×34.5cm、円形）、$P_4$（長軸×短軸×深さ、形状：18cm×17cm×40.5cm、円形）、$P_5$（長軸×短軸×深さ、形状：17cm×17cm×21.0cm、円形）、$P_6$（長軸×短軸×深さ、形状：17cm×17cm×23.5cm、円形）、$P_7$（長軸×短軸×深さ、形状：18cm×16cm×21.5cm、円形）、$P_8$（長軸×短軸×深さ、形状：20cm×20cm×54.5cm、円形）、$P_9$（長軸×短軸×深さ、形状：21cm×20cm×26.5cm、円形）の９基を検出した。

**炉**　調査区外にあると思われ、検出されず。

**時　期**　出土遺物から縄文時代前期（諸磯ｂ式期）と考えられる。

**遺　物**　総数13点。そのうち石斧３点、石棒１点、凹石１点、縄文土器片１点を図示した。

## (2) 溝　跡

**W－１号溝跡（Fig.35）**

**位　置**　X274・275、Y116グリッド

**方　位**　東壁よりN－87°－Eの方向で西へ進む。

**形状等**　断面はU字形を呈し、上幅(188)～(296)cm、下幅35～123cm、深さ27～51.5cm、長さ4.6mを測る。

**重　複**　H－６号住居跡を切る。

**時　期**　時期を確定する遺物の出土はなかったが、埋土と重複関係から12世紀以降と考えられる。

**遺　物**　総数16点。

## (3) 井戸跡

**I－１号井戸跡（Fig.35、PL.14）**

**位　置**　X275、Y113グリッド

**形状等**　平面形は円形。断面形はほぼ円筒形で、上方はやや開き気味に傾斜する。長軸116cm、短軸113cmを測る。205cmまで掘り下げたが底まで達しなかったため、深さは不明である。

**時　期**　時期を確定する遺物の出土がなく、埋土からも不明である。

**遺　物**　総数20点。

## (4) 土　坑

Tab.11　総社閑泉明神北III遺跡　土坑計測表を参照のこと。

## (5) グリッド等出土遺物

総数733点。そのうち坩１点、刀子１点、石鏃１点を図示した。

Tab.10　　総社閑泉明神北III遺跡　住居跡一覧表

| 遺構名 | 位　置 | 規模(m) | | | 面積 (m²) | 主軸方向 | 竈 | 主な出土遺物 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 東西 | 南北 | 壁現高 | | | 位　置 | 土師器 | 須恵器 | その他 |
| H－1 | X275、Y112・113 | 3.18 | (3.78) | 14 | (10.07) | (N－108°－E) | 東壁南寄り | | カワラケ | |
| H－2 | X274、Y112 | － | － | － | (0.17) | － | 東壁(推定) | | | |
| H－3 | X274・275、Y112・113 | (2.74) | 3.05 | 19.5 | (7.23) | (N－103°－E) | 東壁南東隅 | | | |
| H－4 | X274・275、Y113・114 | (2.50) | 4.18 | 30 | (9.09) | (N－98°－E) | 東壁南東隅 | | カワラケ | 紡錘車軸 銭貨　鉄槍 |
| H－5 | X275、Y120・121 | － | － | － | (0.66) | － | 東壁(推定) | 坏 | | |
| H－6 | X274・275、Y115・116 | (1.70) | 3.80 | 29 | (4.85) | (N－110°－E) | 東壁南東隅 | | | |
| H－7 | X272・273、Y112・113 | 2.74 | (3.27) | 41 | (8.63) | (N－93°－E) | 東壁南寄り | | 坏 高台埦 羽釜 | 平瓦 |
| H－8 | X275、Y117・118 | (3.12) | 3.32 | 33 | (9.74) | 〔N－97°－E〕 | － | | カワラケ 坏 | |
| H－9 | X274～276、Y118～120 | 3.75 | 5.10 | 16.5 | 17.2 | N－93°－E | 東壁南寄り | | カワラケ | 平瓦 |
| H－10 | X275・276、Y120・121 | (2.97) | 3.65 | 21.5 | (9.63) | (N－91°－E) | 東壁南寄り | | | |
| H－11 | X274・275、Y121・122 | (3.15) | 2.65 | 32.5 | (8.04) | (N－89°－E) | 東壁中央 | 甕 | | |
| H－12 | X275・276、Y121・122 | (1.90) | 3.65 | 41 | (6.12) | (N－178°－E) | － | | カワラケ | 石鏃 |
| H－13 | X274・275、Y122・123 | (1.80) | 〔4.38〕 | 29 | 〔6.88〕 | (N－84°－E) | 東壁南東隅 | | 高台埦 | |
| H－14 | X273・274、Y112・113 | 3.78 | (3.66) | 42 | (12.76) | (N－92°－E) | 東壁南寄り | | 坏 高台埦 | 鉄族 紡錘車軸 刀子 |
| H－15 | X272、Y112・113 | 2.18 | (1.87) | 25 | (24.90) | (N－101°－E) | 東壁南寄り | 土釜 | 坏 高台埦 高台皿 | 平瓦 |
| H－16 | X272、Y113・114 | － | － | － | (0.37) | － | 東壁(推定) | | 羽釜 | |
| H－17 | X274・275、Y124・125 | (4.32) | (3.78) | 57.5 | (13.12) | (N－69°－E) | 東壁南東隅 | 坏 | | |
| H－18 | X274・275、Y117・118 | (3.90) | 5.40 | 31.5 | (17.23) | (N－101°－E) | 東壁南東隅 | 土釜 | | 平瓦　丸瓦 角釘 |
| H－19 | X275・276、Y117 | (3.00) | 3.73 | 32 | (9.88) | (N－94°－E) | 東壁南東隅 | | 高台埦 | |
| H－20 | X275・276、Y122・123 | (1.05) | 〔2.67〕 | 23.5 | 〔2.20〕 | (N－8°－E) | － | | | 弥生台付甕 |
| H－21 | X275・276、Y119 | (2.90) | (2.57) | 47 | (6.58) | (N－82°－E) | － | | 坏 | |
| H－22 | X275・276、Y121・122 | 3.75 | 6.35 | 44 | (19.01) | (N－163°－E) | － | | 甕 | |
| H－23 | X272・273、Y122・123 | 3.73 | 3.95 | 17.5 | (12.96) | (N－65°－E) | 東壁中央 | | | |
| H－24 | X273、Y123 | － | － | － | (0.24) | － | 東壁(推定) | | | |
| J－1 | X275・276、Y116・117 | (3.53) | 3.86 | 29.5 | (11.25) | (N－10°－E) | － | | | 石斧 石棒 凹石 縄文土器片 |

Tab.11　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡　土坑計測表

| 遺構名 | 位　置 | 長軸(cm) | 短軸(cm) | 深さ(cm) | 形　状 | 出土遺物総数 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| D－1 | X274・275、Y111 | (140) | (65) | (42) | (円形) | 15 | |
| D－2 | X275、Y117 | 52 | 49 | 26 | 円形 | 3 | |
| D－3 | X275・276、Y122 | (66) | (43) | (10.5) | (円形) | 13 | 須恵カワラケ |
| D－4 | X274・275、Y121 | 83 | 72 | 12 | 円形 | 1 | 石鏃 |
| D－5 | X275、Y123 | 195 | 104 | 45.5 | 隅丸方形 | 30 | |
| D－6 | X275・276、Y123 | (94) | (50) | (32) | (円形) | 0 | |
| D－7 | X275、Y124・125 | 108 | 88 | 54.5 | 楕円形 | 10 | |
| D－8 | X274、Y123 | 85 | 76 | 36 | 円形 | 5 | |
| D－9 | X275、Y121 | 52 | 49 | 34.5 | 円形 | 0 | |
| D－10 | X275、Y117・118 | (134) | (100) | (22.5) | (円形) | 2 | |
| D－11 | X275、Y120・121 | 64 | 55 | 36 | 円形 | 1 | |
| D－12 | X275、Y111 | 58 | 54 | 19 | 円形 | 0 | |
| D－13 | X275、Y118・119 | 80 | 77 | 23.5 | 円形 | 0 | |
| D－14 | X272、Y123 | 100 | 81 | 19 | 楕円形 | 0 | |

Tab.12　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡　出土遺物観察表

| 番号 | 遺構/層位 | 器　種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H－1<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.1<br>②　1.6 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲気味に立ち上がり、外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面中央部が盛り上がり、轆轤撫で。 | 全体的に歪む。 |
| 2 | H－1<br>竈、埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.2<br>①　1.7 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲して立ち上がり、外反した体部から口縁部に至る。変換点に稜有。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 3 | H－1<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①11.0<br>②　1.7 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲気味に立ち上がり、外傾した体部から外反の口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 4 | H－1<br>竈、埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.0<br>②　2.8 | ①中粒②良好③にぶい橙色④完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、外反した体部から口縁部に至る。変換点に稜有。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 5 | H－4<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①[10.6]<br>②　2.4 | ①中粒②良好③明黄褐色④1/4 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 6 | H－4<br>床直 | 銅　銭 | ①径　2.3<br>③厚さ　0.1 | ②孔　径　0.6<br>④重　さ　2.7 | 銭名は不明。流通による摩滅か。腐食著しい。 | |
| 7 | H－4<br>埋土 | 紡錘車<br>鉄製品 | ①最　長　(14.5)<br>③最大厚　(0.5) | ②最大幅　(0.5)<br>④遺存度　1/2 | 軸部両端を欠損。軸部下端は先細りする。錆化している。先端部雁又。 | |
| 8 | H－4<br>埋土 | 鏃<br>鉄　製 | ①最　長　(14.2)<br>③最大厚　(0.4) | ②最大幅　(1.3)<br>④遺存度　2/3 | 茎部断面方形状を呈し、頭部欠損。錆化している。 | |
| 9 | H－5<br>埋土 | 坏<br>土師器 | ①11.8<br>②　5.4 | ①中粒②良好③にぶい橙色④4/5 | 口縁部：短く内彎から直立。交換点に稜有。底部：丸底。外面箆削り。内面撫で。 | |
| 10 | H－7<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ①11.2<br>②　4.2 | ①粗粒②良好③灰黄色④完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、外反した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り後箆調整。内面轆轤撫で。 | 全体的に歪む。 |
| 11 | H－7<br>竈、床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①11.6<br>②　5.5 | ①中粒②良好③にぶい黄褐色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部の端部で僅かに外反。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 12 | H－7<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①[15.0]<br>②　6.8 | ①細粒②良好③暗灰黄色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部の端部で外反。轆轤撫で。底部：「ハ」字状に開く断面台形状の高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 13 | H－7<br>埋土 | 坏<br>須恵器 | ①[12.0]<br>②　(4.0) | ①中粒②良好③明黄褐色④1/8 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部の端部で外反。轆轤撫で。底部：欠損。 | 内面墨書。 |
| 14 | H－7<br>床直 | 羽　釜<br>須恵器 | ①[20.0]<br>②　(5.0) | ①中粒②良好③にぶい褐色④1/3 | 轆轤整形。口縁部：内傾、横撫で。鍔部は三角形状で、上向きに張り出す。鍔貼付。内面撫で。輪積み痕有。胴部：欠損。底部：欠損。 | |
| 15 | H－7<br>埋土 | 平　瓦 | ①胎　土　細粒<br>④最大厚　2.1<br>⑦遺存度　1/6 | ②焼　成　良好<br>⑤凹　面　布目痕 | ③色　調　にぶい褐色<br>⑥凸　面　撫で、一部縄目叩き痕<br>1枚作り。叩き板の端痕か？叩き板の単位かもしれない。 | 女瓦。 |
| 16 | H－8<br>埋土 | 坏<br>須恵器 | ①[13.9]<br>②　3.2 | ①中粒②良好<br>③褐灰色④3/5 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり口縁部に至り、端部で外反。轆轤撫で。底部：平底気味。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | 流れ込み。 |

| 番号 | 遺構/層位 | 器種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | H－8<br>床直 | カワラケ<br>須恵器 | ①　8.0<br>②　2.2 | ①中粒②良好<br>③橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | 粗製。 |
| 18 | H－9<br>床直 | カワラケ<br>須恵器 | ①　9.8<br>②　2.3 | ①中粒②良好<br>③にぶい黄橙色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | |
| 19 | H－9<br>竈、埋土 | 平　瓦 | ①胎　土　中粒　②焼　成　良好　③色　調　褐灰色　④最大厚　1.8<br>⑤凹　面　布目痕　⑥凸　面　縄目叩き痕　⑦遺存度　1/9 | | 1枚作り(模骨の痕跡がないから)糸切り状痕有。 | 女瓦。<br>国分寺瓦。 |
| 20 | H－11<br>竈、埋土 | 甕<br>土師器 | ①[20.0]<br>②(25.0) | ①中粒②良好<br>③橙色④1/3 | 口縁部：外反、横撫で。胴部：直線的に外傾して立ち上がり、内彎し、中位器最大径。断面接合痕認む。外面斜め篦削り。内面撫で、輪積み痕有。下位欠損。底部：欠損。 | |
| 21 | H－12<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ①　8.9<br>②　2.7 | ①中粒②良好<br>③橙色④3/4 | 轆轤整形。口縁・体部：外反した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り未調整。内面中央部が盛り上がり、轆轤撫で。 | |
| 22 | H－12<br>床直 | 鏃<br>石　製 | ①最　長　2.5　②最大幅　1.6　③最大厚　0.5<br>④重　さ　1.3　⑤遺存度　完形　⑥石　材　黒曜石 | | 凹基無茎鏃。基部の湾入が丸く浅いため、脚部が短く見える。調整は丁寧、先端は鋭利。 | |
| 23 | H－13<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①　9.3<br>②　3.6 | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | 表面煤付着。<br>黒色処理。 |
| 24 | H－14<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ①10.0<br>②　2.9 | ①中粒②良好③灰白色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り後撫で調整。内面轆轤撫で。 | |
| 25 | H－14<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ①[11.0]<br>②　2.3 | ①粗粒②不良③にぶい黄橙色④4/5 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、そのまま外傾した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | 全体的に歪む。内面煤。 |
| 26 | H－14<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①15.2<br>②　7.0 | ①中粒②良好<br>③橙色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部の端部で外反。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高い高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | 外面煤付着。 |
| 27 | H－14<br>埋土 | 鏃<br>鉄　製 | ①最　長　(7.3)　②最大幅　(0.8)<br>③最大厚　(0.4)　④遺存度　2/3 | | 茎部断面方形状を呈し、頭部欠損。錆化している。<br>雁又の鏃。 | |
| 28 | H－14<br>埋土 | 紡錘車<br>鉄製品 | ①最　長(14.2)　②最大幅　0.5<br>③最大　0.5　④遺存度　1/2 | | 紡錘車の軸になると思われる。<br>断面方形状を呈し、茎端部を欠損。錆化している。 | |
| 29 | H－14<br>埋土 | 刀　子<br>鉄製品 | ①最　長　(8.6)　②最大幅　1.2<br>③最大厚　0.3　④遺存度　1/2 | | 刃部のみ残存。切先部はシャープ。背側平ら。錆化著しい。 | |
| 30 | H－15<br>竈、床直 | 坏<br>須恵器 | ①10.2<br>②(3.5) | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、そのまま外傾した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底気味。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | 内外面煤付着。 |
| 31 | H－15<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ①[10.8]<br>②　3.6 | ①中粒②良好<br>③橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：やや彎曲した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：回転糸切り未調整。 | |
| 32 | H－15<br>床直 | 高台埦<br>須恵器 | ①　9.7<br>②　4.4 | ①中粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾気味に立ち上がり、内彎した体部から口縁部に至り、端部で短く直立。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 33 | H－15<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ①10.2<br>②　4.6 | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④完形 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎した体部から口縁部の端部で外傾。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 34 | H－15<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ①14.2<br>②　6.9 | ①中粒②良好③にぶい褐色④2/3 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の高い高台貼付。回転糸切り後撫で調整、付け高台。内面轆轤撫で。 | 内面煤付着。 |
| 35 | H－15<br>床直 | 高台皿<br>須恵器 | ①17.0<br>②　4.6 | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④5/6 | 轆轤整形。口縁・体部：直線的に外傾した体部から僅かに外反した口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状に外傾した高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | |
| 36 | H－15<br>床直 | 土　釜<br>土師器 | ①[23.6]<br>②(16.5) | ①中粒②良好③にぶい赤褐色④1/8 | 口縁部：外傾、端部で僅かに外反。横撫で。頸部に明確なくびれ有。胴部：上位器最大径。外面縦位篦削り。下位欠損。内面篦撫で。底部：欠損。 | |
| 37 | H－15<br>埋土 | 平　瓦 | ①胎　土　細粒　②焼　成　良好　③色　調　灰黄色　④最大厚　2.7<br>⑤凹　面　布目痕　⑥凸　面　縄目叩き痕　⑦遺存度　1/8 | | 桶巻き作り。凹面の一部に炭化物付着。 | 女瓦。<br>国分寺瓦。 |
| 38 | H－16<br>竈、埋土 | 羽　釜<br>須恵器 | ①[16.8]<br>②(9.5) | ①中粒②良好③灰褐色<br>④口縁部1/4 | 轆轤整形。口縁部：肉厚で内傾し、端部で僅かに内彎。横撫で。鍔部は三角形状で、水平に張り出す。鍔貼付。内面撫で。輪積み痕有。胴部：直立。中位斜め篦削り。下半、欠損。底部：欠損。 | |
| 39 | H－17<br>床直 | 坏<br>土師器 | ①[13.2]<br>②　4.6 | ①中粒②良好<br>③橙色④1/2 | 口縁・体部：底部からそのまま彎曲して口縁部に至り端部で内彎。横撫で。底部：丸底、内面撫で。 | |
| 40 | H－18<br>竈、床直 | 平　瓦 | ①胎　土　細粒　②焼　成　良好　③色　調　にぶい黄橙色<br>④最大厚　2.1　⑤凹　面　布目痕　⑥凸　面　縄目叩き痕<br>⑦遺存度　完形 | | 1枚作り。側面に布目有。凹面に糸切り状痕有。篦描き文字瓦。側端部面取り2面。 | 女瓦。凹面に文字「七」<br>国分寺瓦。 |
| 41 | H－18<br>竈、埋土 | 平　瓦 | ①胎　土　中粒　②焼　成　良好　③色　調　褐灰色<br>④最大厚　1.7　⑤凹　面　布目痕　⑥凸　面　縄目叩き痕<br>⑦遺存度　ほぼ完形 | | 桶巻き作り。模骨痕有。<br>凹面に糸切り状痕有。 | 女瓦。<br>国分寺瓦。 |

| 番号 | 遺構/層位 | 器種 | ①口径②器高 | ①胎土②焼成③色調④遺存度 | 器種の特徴・整形・調整技術 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 42 | H－18<br>竈、埋土 | 丸瓦 | ①胎土 中粒 ②焼成 良好 ③色調 褐灰色<br>④最大厚 2.8 ⑤凹面 布目痕 ⑥凸面 撫で<br>⑦遺存度 5/6 | | 半截作り。行基葺式。篦描き文字瓦。側端部面取り1面。大棟の冠瓦。 | | 男瓦。凸面に文字「秀」国分寺瓦。 |
| 43 | H－18<br>竈、床直 | 丸瓦 | ①胎土 中粒 ②焼成 良好 ③色調 にぶい黄褐色<br>④最大厚 1.5 ⑤凹面 布目痕 ⑥凸面 撫で<br>⑦遺存度 完形 | | 半截作り。行基葺式。側端部面取り1面。布目に綴じ合わせ痕有。 | | 男瓦。国分寺瓦。 |
| 44 | H－18<br>竈、床直 | 丸瓦 | ①胎土 中粒 ②焼成 良好 ③色調 灰白色<br>④最大厚 1.7 ⑤凹面 布目痕 ⑥凸面 撫で<br>⑦遺存度 1/2強 | | 半截作り。行基葺式。側端部面取り2面。凹面に糸切り状痕有。 | | 男瓦。国分寺瓦。 |
| 45 | H－18<br>竈、床直 | 丸瓦 | ①胎土 中粒 ②焼成 良好 ③色調 褐灰色<br>④最大厚 1.4 ⑤凹面 布目痕 ⑥凸面 撫で<br>⑦遺存度 1/2 | | 半截作り。行基葺式。側端部面取り2面。布目に綴じ合わせ痕有。粘土紐作りの可能性有。 | | 男瓦。国分寺瓦。 |
| 46 | H－18<br>埋土 | 角釘<br>鉄製品 | ①最長 15.3 ②最大幅 1.2<br>③最大厚 0.8 ④遺存度 5/6 | | 断面方形状を呈し、頭部は剝離している。 | | |
| 47 | H－18<br>竈、床直 | 土釜<br>土師器 | ①[21.8]<br>② 30.2 | ①粗粒②良好③にぶい赤褐色④1/3 | 口縁部：短く直立、横撫で。頸部に明確なくびれ無。胴部：外面縦・斜め篦削り。中位に器最大径。内面撫で、輪積み痕有。底部：欠損。 | | |
| 48 | H－18<br>埋土 | 土釜<br>土師器 | ① 27.6<br>② 21.2 | ①中粒②良好③にぶい褐色④1/3 | 口縁部：短く外反、横撫で。頸部に明確なくびれ無。胴部：外面斜め篦削り。内面撫で。中位に器最大径。底部：欠損。 | | |
| 49 | H－19<br>埋土 | 高台埦<br>須恵器 | ①[13.8]<br>② 5.3 | ①細粒②良好③にぶい橙色④1/3 | 轆轤整形。口縁・体部：内彎気味に立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：「ハ」字状の外傾した高い高台貼付。回転糸切り付け高台。内面轆轤撫で。 | | |
| 50 | H－20<br>床直 | 台付甕<br>弥生 | ①[11.4]<br>②(11.0) | ①中粒②良好③にぶい黄褐色④1/4 | 口縁部：外反。器最大径。胴部：上位にやや膨らみを持つ。脚部：欠損。縄文RLを充塡施文後、波状沈線を垂下。 | | 弥生中期。流れ込み。 |
| 51 | H－21<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ① [9.0]<br>② 2.5 | ①細粒②極良③にぶい橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲して立ち上がり、外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | | |
| 52 | H－21<br>床直 | 坏<br>須恵器 | ① 15.6<br>② 4.5 | ①中粒②良好③橙色④1/2 | 轆轤整形。口縁・体部：彎曲気味に立ち上がり、外傾した体部から外反した口縁部に至る。変換点に稜有。轆轤撫で。底部：平底、回転糸切り後撫で調整。内面轆轤撫で。 | | |
| 53 | H－22<br>床直 | 甕<br>須恵器 | ① 16.6<br>② 26.7 | ①細粒②極良③オリーブ灰色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・頸部：外反から上端で屈曲、直立する。頸部に明確なくびれ有。轆轤撫で。胴部：球形をなして内彎し、中位で最大径を有する。外面平行叩き目有。内面青海波紋。底部：丸底。 | | |
| 54 | H－22<br>床直 | 甕<br>須恵器 | ① －<br>②(28.0) | ①細粒②極良③オリーブ灰色④1/2 | 轆轤整形。口縁部：欠損。胴部：上半器最大径。外面条線状叩き目。内面青海波紋状当て目。下半欠損。底部：欠損。 | | |
| 55 | J－1<br>床直 | 打製石斧 | ①最長 11.7 ②最大幅 5.6 ③最大厚 1.3<br>④重さ 87.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 黒色頁岩 | | 撥形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。<br>裏面一部に自然面を残す。 | | |
| 56 | J－1<br>床直 | 打製石斧 | ①最長 12.0 ②最大幅 5.5 ③最大厚 0.6<br>④重さ 70.5 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 黒色頁岩 | | 短冊形。両縁側から刃部にかけて細かい調整。<br>表面一部に自然面を残す。 | | |
| 57 | J－1<br>床直 | 磨製石斧 | ①最長 11.9 ②最大幅 4.8 ③最大厚 2.3<br>④重さ 220.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 蛇紋岩 | | 両側面及び頭部が研磨されている。定角式。<br>先端側面に敲打痕。 | | |
| 58 | J－1<br>床直 | 石棒<br>石製 | ①最長 13.8 ②最大幅 4.5 ③最大厚 2.8<br>④重さ 240.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 絹雲母片岩 | | 先端側に敲打痕。 | | |
| 59 | J－1<br>床直 | 磨り石<br>石製 | ①最長 7.8 ②最大幅 6.0 ③最大厚 3.8<br>④重さ 280.0 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 安山岩 | | 扁平状。表裏両面に凹痕。 | | |
| 60 | J－1<br>床直 | 深鉢<br>縄文 | ① －<br>② － | ①中粒②良好③にぶい黄橙色④破片 | 縄文LR。浮線文。 | | 諸磯b式期。 |
| 61 | D－3<br>埋土 | カワラケ<br>須恵器 | ① 9.6<br>② 1.8 | ①中粒②良好③浅黄橙色④ほぼ完形 | 轆轤整形。口縁・体部：外傾した体部から口縁部に至る。轆轤撫で。底部：浅い平底。回転糸切り未調整。内面轆轤撫で。 | | |
| 62 | D－4<br>埋土 | 鏃<br>石製 | ①最長 3.1 ②最大幅 1.4 ③最大厚 0.4<br>④重さ 1.1 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 黒曜石 | | 凹基無茎鏃。基部中央の湾入が三角形状。<br>周縁は全て鋸歯状、微細な調整が丁寧。 | | |
| 63 | グリッド<br>X275Y119 | 坩<br>土師器 | ① 10.0<br>② 5.9 | ①中粒②良好<br>③橙色④ほぼ完形 | 口縁・体部：内彎して立ち上がり、外傾した体部から口縁に至る。横撫で。口縁器最大径。変換点に稜有。底部：丸底。斜め篦削り。内面撫で。 | | 小型丸底坩。 |
| 64 | グリッド<br>X274Y125 | 刀子<br>鉄製品 | ①最長 (7.3) ②最大幅 0.7<br>③最大厚 0.3 ④遺存度 1/2 | | 切先部、茎端部共に欠損。背側平ら。全体的に錆化著しい。 | | |
| 65 | 遺構外 | 鏃<br>石製 | ①最長 1.7 ②最大幅 1.7 ③最大厚 0.3<br>④重さ 0.7 ⑤遺存度 完形 ⑥石材 黒曜石 | | 凹基無茎鏃。基部の湾入が丸く深い。微細な調整が丁寧。先端は非常に鋭利。 | | |

注）①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（ ）、復元値を［ ］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

# VI 考　　察

今年度で3年目を迎えた前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、総社甲稲荷塚大道西III遺跡を便宜的にA～E区に分け、総社閑泉明神北III遺跡を含めて6箇所の調査区になる。調査の結果、竪穴住居跡62軒、竪穴状遺構1軒、溝跡14条、井戸跡6基、土坑29基、畠跡を検出することができた。出土遺物からみると、縄文時代前期の諸磯b式期土器の小破片や石器、弥生時代の台付甕から古墳時代・奈良時代・平安時代の土器片に至るまでの広い時期に渡っている。中でも、量的な主体を占めるのは6世紀から12世紀にかけての遺物である。本遺跡が国府推定域の北東側に近接して位置することから、ここでは今回の調査によって明らかになった遺構・遺物について、I期(～7世紀前半、律令期以前)、II期(7世紀後半～10世紀初頭、律令期)、III期(10世紀前半～、律令期以後)の3期に大別して、特徴的なことを中心に考察していきたい。また今後、今回の調査結果を周辺遺跡の調査事例と合わせ、より詳細な総社・元総社地区の歴史解明に寄与したい。

**I期(～7世紀前半、律令期以前)**

総社閑泉明神北III遺跡では、今回の調査で1軒の縄文時代の竪穴式住居が検出された。J－1号竪穴住居跡は隅丸長方形を呈するもので、炉は検出されなかったが、出土遺物から縄文時代前期(諸磯b式期)と考えられる。また近隣の耕作地では、土器や石器などが表採されていることから、今後の調査に期待したい。

総社閑泉明神北III遺跡H－20号竪穴住居跡から流れ込みであると思われる台付甕1点が出土している。出土土器から弥生時代中期のものと考えられる。

I期の竪穴住居跡は5軒検出されている。検出された5軒の竪穴住居跡は出土遺物等から古墳時代後期(6世紀代)のものであると考えられる。この時期の住居は、正方形に近い形状を成し、確認できたもので一辺が4m前後のものが多い。壁高は浅いところで約40cm、深い所では約60cmを測る。H－7・15号竪穴住居跡を除いた竈については、東壁に設置されている。今年度もI期の竪穴住居跡の検出数が少なく、特に6世紀末～7世紀前半の遺構は今回のどの調査区でも検出されなかった。これらの調査結果は、昨年度の「総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡・総社閑泉明神北II遺跡」の調査同様、国府成立前にはこの周辺には大きな集落は形成されていなかったという見解の範囲を拡大した。

総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区からはH－3・4・7・15号竪穴住居跡の4軒が検出されている。H－7号竪穴住居跡からは、坏(出土遺物観察表No.13)と甑(No.16)が重ねてある状態で出土しているものや完形のままの坏(No.10・12・13・14)やほぼ完形の甕(No.18・19)等、計15点出土している。この出土遺物から6世紀前半の住居であることが判明した。東側一部調査区域外のため竈を検出することができなかったが、今までの調査事例から竈周辺にも出土遺物が多数あったと思われる。住居内においては多量の炭化材・焼土が検出され、焼失住居と想定される。炭化材の位置から垂木や棟木と判断できそうなものも確認された。H－4号竪穴住居跡は、土師器の坏、甕の出土遺物から6世紀中頃の住居であることが判明した。竈は東壁中央に付設されており、竈の支脚に甕(No.5)を被せ、高さを坏(No.6・7)2個で調整していたものと考えられる。H－4・7号竪穴住居跡から出土している坏は非常に丁寧な作りで暗文を伴う土器(No.6・7・11・12・13・14・15)である。このタイプの坏は古墳時代中期のものとみられるが、それが6世紀中頃の竪穴住居跡から見つかったことは、当時の人たちのくらしの中で土器が大切に扱われていた背景や、耐用年数を考えるうえで興味深い資料である。総社閑泉明神北III遺跡からH－5号竪穴住居跡の竈のみ1軒検出されている。

竪穴住居跡の主軸方向をみると、N－60°－EからN－154°－Eと他の時期より幅が広く、住居の方向に統一が成されていないI期の特徴を裏付けしている。(Fig.5)

総社甲稲荷塚大道西III遺跡D区の北側で、現表土を約75cmほど掘削したところ、面積約58.2m²の範囲に渡り畠跡を検出した。土層からHr－FA(榛名山二ツ岳渋川テフラ、以下FAと略、6世紀初頭降下)降下以降の畠跡であると考えられる。耕作が行われていた地中はFAが攪拌されていた。このことから、当初平坦であった土地を、畝を高く整備し耕作地として使用していたものと考えられる。畝は最大確認長で7.9mを測り、幅は平均15cm、

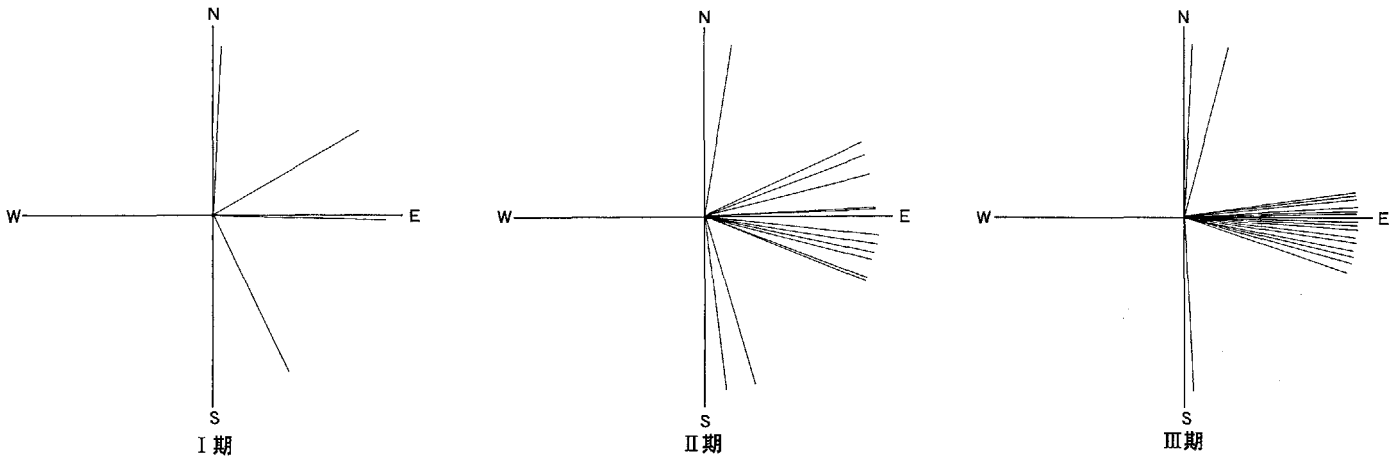



Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

深さ平均12.8cmである。畝間は平均100cmである。畝立の方向は規則性があり、N—40°—W方向の畝立とN—71°—EからN—74°—E方向の畝立に区分されていた。この畠跡はW—3号溝跡とH—6号住居跡に切られている。従ってW—3号溝跡から出土した7世紀後半の土師器の坏やH—6号住居跡から出土した9世紀後半の須恵器の高台埦の出土遺物から、耕作は6世紀初頭以降から7世紀後半と時間幅があり、時代を特定できない。今後の調査が待たれるところである。なお、当時栽培されていた作物の特定には至っていない。

D区畠跡より南側は溝で区画されており、当時W—2とW—6に挟まれた所は、住居跡、畠跡等の遺構が検出されないことから、湿地帯であった可能性が考えられる。

またB区も極めて不明瞭ながら西側壁・東側壁に、畝を立てるように黒色土のセクションが検出されたことから、この遺構も畠跡と考えられる。面積約15.7m²、畝は最大確認長で3.4mを測り、幅は平均37cm、深さ平均19.4cmである。畝間は平均27.6cmである。畝立方向はN—56.5°—Wを示す。耕作の時期はD区同様特定できないが、FA（二ッ岳火山灰）降下以降であると考えられる。

**Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭、律令期）**

本期の竪穴住居跡は17軒あり、調査区の全域にわたって分布が見られる。この時期の住居は、長方形或いは方形を呈するものが多い。また、竪穴住居跡の規模をみると、奈良時代の竪穴住居跡は、確認できたもので一辺が2.35mから6.35mとなり、昨年度の調査事例と同様に古墳時代の竪穴住居より小型化・均一化傾向が確認できる。更に平安時代8世紀終末～10世紀初頭の竪穴住居跡になると、確認できたもので一辺が1.95mから4.50mとなり奈良時代の竪穴住居跡よりも更に小規模化していく一般的傾向が確認できる。国府との関連でみるとこの地域は外縁部にあたり、多くは農耕地として利用され、その微高地を選んで小規模な集落が散在していた様子が窺える。

竪穴住居の分布では、7世紀後半の竪穴住居跡は、検出されなかった。奈良時代の竪穴住居跡は、A区2軒、D区1軒、E区3軒、総社閑泉明神北Ⅲ遺跡3軒、計9軒検出された。このうち総社閑泉明神北Ⅲ遺跡H—17・22・23号竪穴住居跡壁面に沿って周溝が巡っている。平安時代8世紀終末～10世紀初頭は、竪穴住居跡はA区4軒、D区2軒、E区2軒、計8軒検出された。

竪穴住居跡の主軸方向をみると、N—65°—EからN—111°—Eの範囲に集中していることが分かる。(Fig. 5)

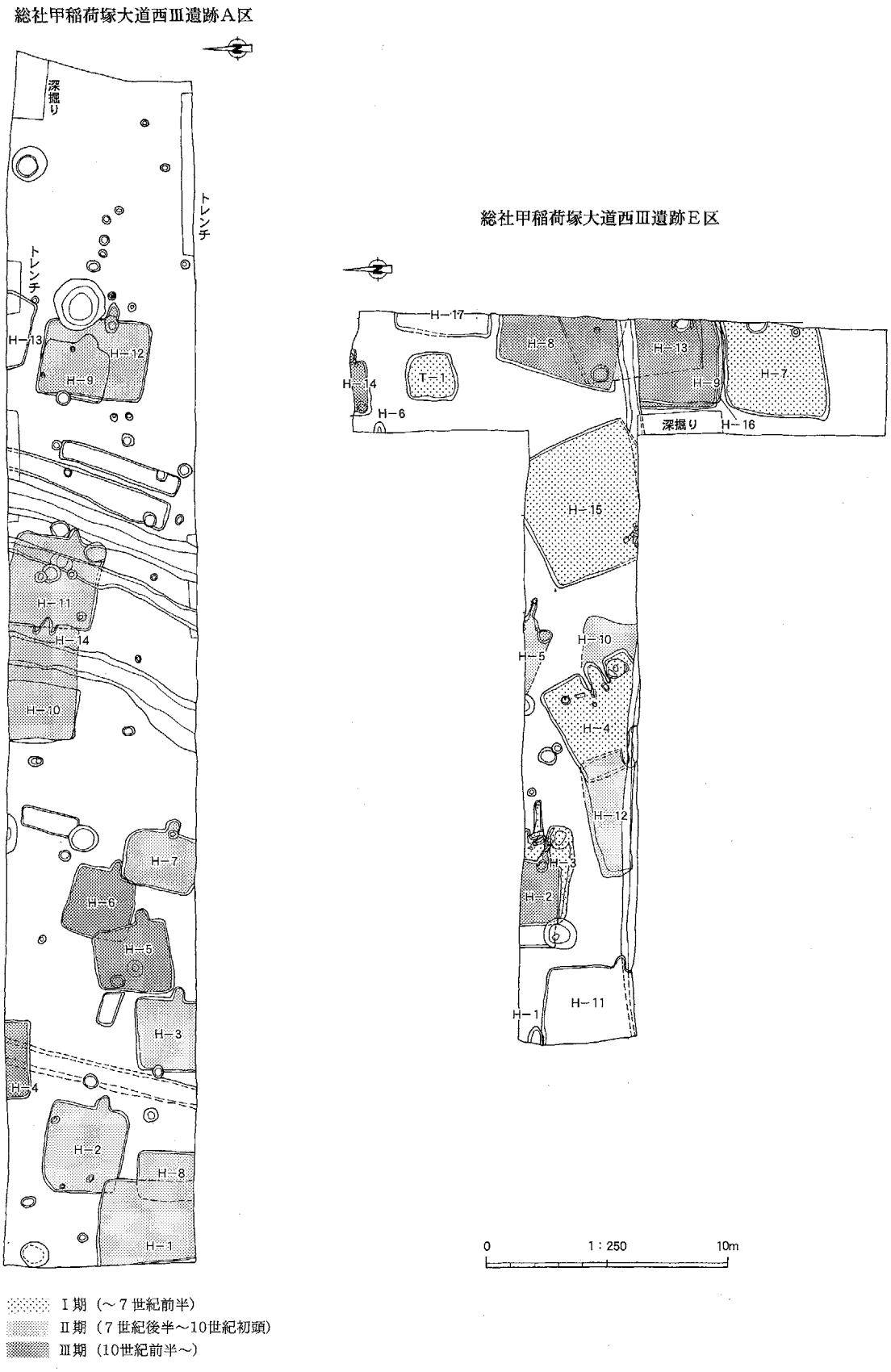



Fig. 6　時期別の竪穴住居跡配置図

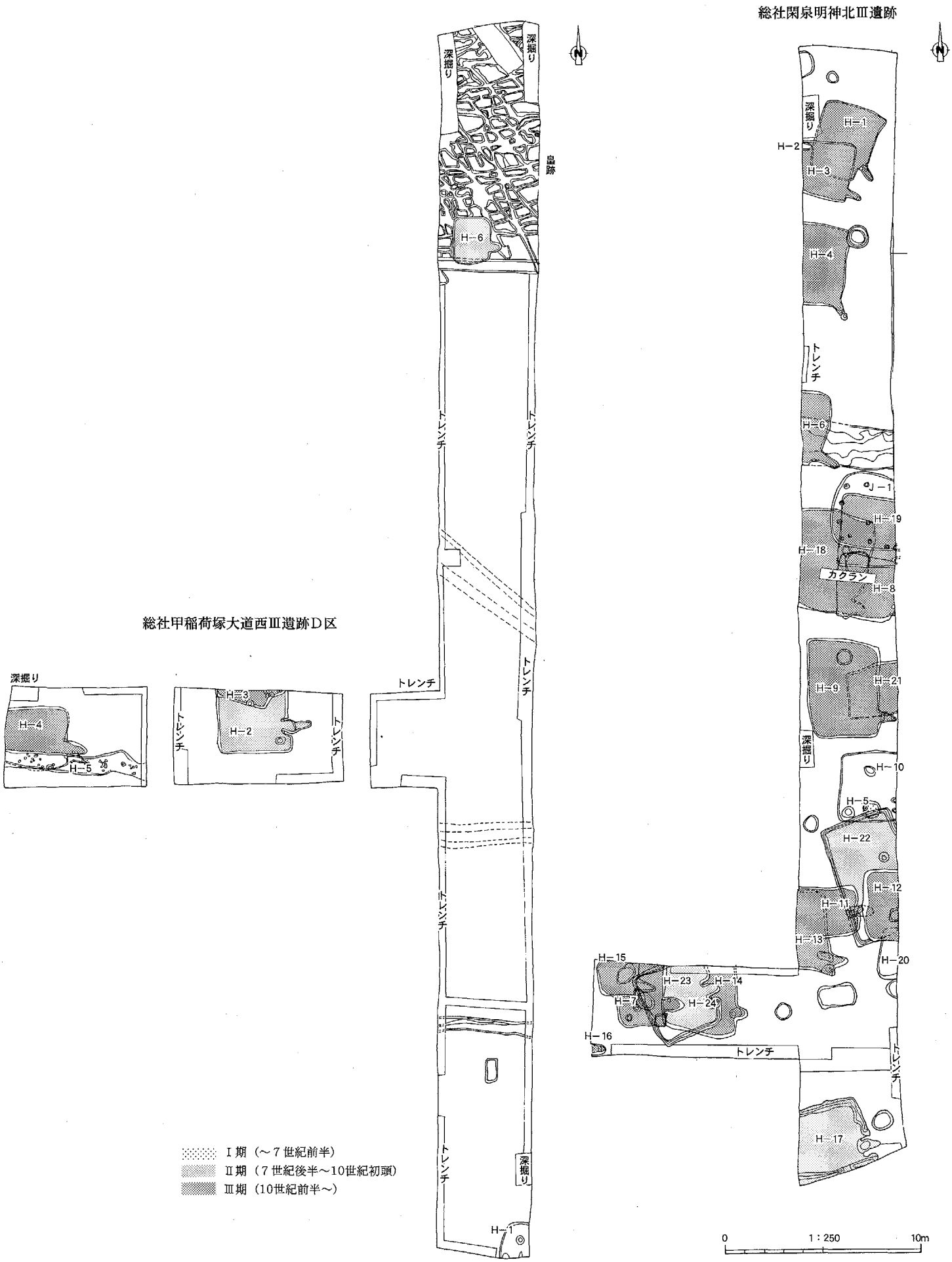



Fig. 7　時期別の竪穴住居跡配置図

### III期（10世紀前半～、律令期以後）

本期の竪穴住居跡は23軒あり、調査区の全域にわたって分布が見られる。特に総社閑泉明神北III遺跡では15軒検出するほど住居が密集していた。このことは、国府機能の衰退と共に、規制が緩和し、この地への人々の流入が著しくなったとの見方もできるのではなかろうか。また、竪穴住居跡の重複が著しく検出されていることからみても、この地が当時の人々にとって住み良い地であったと推測される。

平安時代10世紀代の竪穴住居跡は、D区1軒、E区1軒、総社閑泉明神北III遺跡1軒、計3軒検出された。また、竪穴住居跡の規模をみると、確認できたもので一辺が2.22m～3.18mを測り、方形を呈し、II期よりも小規模な住居となる。11世紀～12世紀代の竪穴住居跡は、A区2軒、E区3軒、総社閑泉明神北III遺跡15軒、計20軒検出された。また、竪穴住居跡の規模をみると、確認できたもので一辺が2.74m～5.4mを測り、均一化傾向が崩れ、分散化の傾向がみられる。集落内の階層分化が進み、貧富の差が表れているのかも知れない。

総社閑泉明神北III遺跡H－4号竪穴住居跡は、カワラケ（出土遺物観察表No.5）、紡錘車等の出土遺物から12世紀代の住居であることが判明した。このH－4号竪穴住居跡は調査区西側に位置し、調査区内では住居の一部しか確認できなかった。住居内には炭化材や焼土が散在していることから、焼失住居であると考えられる。竈は南東壁に付設され、煙突のある煙道が明瞭に確認でき、この時期の竪穴住居例として貴重な資料となった。

竪穴住居跡の主軸方向をみると、N－82°－EからN－108°－Eの範囲に集中しており、II期より更に画一化され、都市的なまとまりのある景観が見られたと想像できないだろうか。（Fig.5）

### 瓦について

丸瓦（男瓦）は土管状のものを二分割して作られている。葺足の部分には玉縁をもつ有段式と行基葺と呼ぶ無段式の二種類あるが、本遺跡から出土した丸瓦は行基葺だけであった。凸面には縄叩きや格子目叩きなどの叩き板で成形した痕跡が残っている。また、最後の仕上げとして「削り」や「撫で」による調整が施されていた。凹面には布目がみられる。

平瓦（女瓦）は「桶巻き作り」と「一枚作り」があるが、本遺跡から出土した平瓦（総社閑泉明神北III遺跡出土遺物観察表No.41）は、凹面に平瓦用模骨（細板を連続して一枚板のように作る。）痕跡が認められることから桶巻き作りによる方法で作られたと思われる。それ以外の平瓦（総社閑泉明神北III遺跡出土遺物観察表No.15・19・40、総社甲稲荷塚大道西III遺跡E区出土遺物観察表No.36）は側面に布目痕があることや凹面に平瓦用模骨の痕跡がないことから、一枚作りによる方法で作られたと思われる。丸瓦と同様に、凸面には縄叩き板による成形や調整がなされていた。凹面には布目痕が残っていた。

総社閑泉明神北III遺跡のH—18竪穴住居跡から丸瓦（男瓦）破片12点、平瓦（女瓦）破片11点、計23点のうち20点が竈から出土している。竈は東壁に設定され、際袖部・煙道部等の構築材、構架材として丸瓦、平瓦を転用して構築されていたことが窺える。復元により、完形とほぼ完形の平瓦2点（出土遺物観察表No.40・41）、完形とほぼ完形の丸瓦2点（出土遺物観察表No.42・43）、遺存度約1/2の丸瓦2点（出土遺物観察表No.44・45）計6点になった。そのうちNo.42丸瓦の凸面には「秀」の1文字、No.40平瓦の凹面には「七」の1文字が篦描きで刻まれているのを確認した。この「七」の文字瓦は、「上野国分僧寺・尼寺中間地域（4）」C区58号住居跡からも出土しており、生産地はこれと同様に「吉井・藤岡」と想定するのが妥当であろう。また、「七」の文字瓦は、「山王廃寺跡第6次発掘調査」により現在の日枝神社の北と西から計17点出土している。またNo.42丸瓦は大棟の冠瓦（大棟雁振り）として使用されていたものであると考えられる。

E区からはH—13竪穴住居跡の床面から8cm上のところで凹面状態で完形の平瓦（出土遺物観察表No.36）が1点出土している。近接する瓦葺建物の破損が進行する中で、それを竪穴住居内に持ち込み、転用する状況が一般化していたという考え方、または国分寺の補修・修理を担当する職人など瓦を簡単に持ち出せる立場の人たちの住居との関連も窺える。

〈引用参考文献〉

前橋市史編さん委員会編『前橋市史』第一巻　前橋市　1971年
富沢敏弘・飯塚誠・田口正美編『山王廃寺跡第6次発掘調査報告書』　前橋文化財研究会　1980年
岸田治男編『元総社明神遺跡Ⅰ』　前橋市教育委員会　1982年
岸田治男・福田瑞穂編『元総社明神遺跡II』　前橋市教育委員会　1983年
唐澤保之・井野修二他4名編『草作遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1985年
木暮誠・町田信之・中野覚・加部二生編『元総社明神遺跡III・IV』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年
原田和博・加部二生編『元総社明神遺跡Ⅴ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡』　群馬県教育委員会　1986年
山武考古学研究所編『閑泉樋南遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年
スナガ環境測設株式会社編『寺田遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1986年
坂詰秀一・森郁夫編『日本歴史考古学を学ぶ（下）』　有斐閣　1986年
駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡VI』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988年
林喜久夫・前原照子・井野誠一編『芳賀団地遺跡群』第2巻　前橋市教育委員会　1988年
駒倉秀一・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡VII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1989年
前原豊・井上敏夫編『元総社明神遺跡VIII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1990年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡(4)』　群馬県教育委員会　1990年
井上敏夫・鈴木雅浩編『元総社明神遺跡IX』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1991年
群馬県史編さん委員会編『群馬県史』通史編2　群馬県　1991年
鈴木雅浩・狩野吉弘編『元総社明神遺跡Ⅹ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1992年
駒倉秀一・加部二生編『元総社明神遺跡ⅩⅠ』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1993年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡Ⅰ』　群馬県教育委員会　1993年
スナガ環境測設株式会社編『元総社明神遺跡ⅩII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1994年
群馬県埋蔵文化財調査事業団編『元総社寺田遺跡III』　群馬県教育委員会　1996年
戸所慎策・古屋秀登編『元総社明神遺跡ⅩIII』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年
齊藤仁志・吉田聖二編『上野国分寺参道遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997年
山武考古学研究所編『総社閑泉明神北遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1999年
鈴木雅浩・高橋一彦編『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年
長谷川一郎・折原洋一・湯原勝美編『元総社小見遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000年
齊木一敏・近藤雅順編『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年
長谷川一郎・土生朗治編『元総社小見内III遺跡』　前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001年

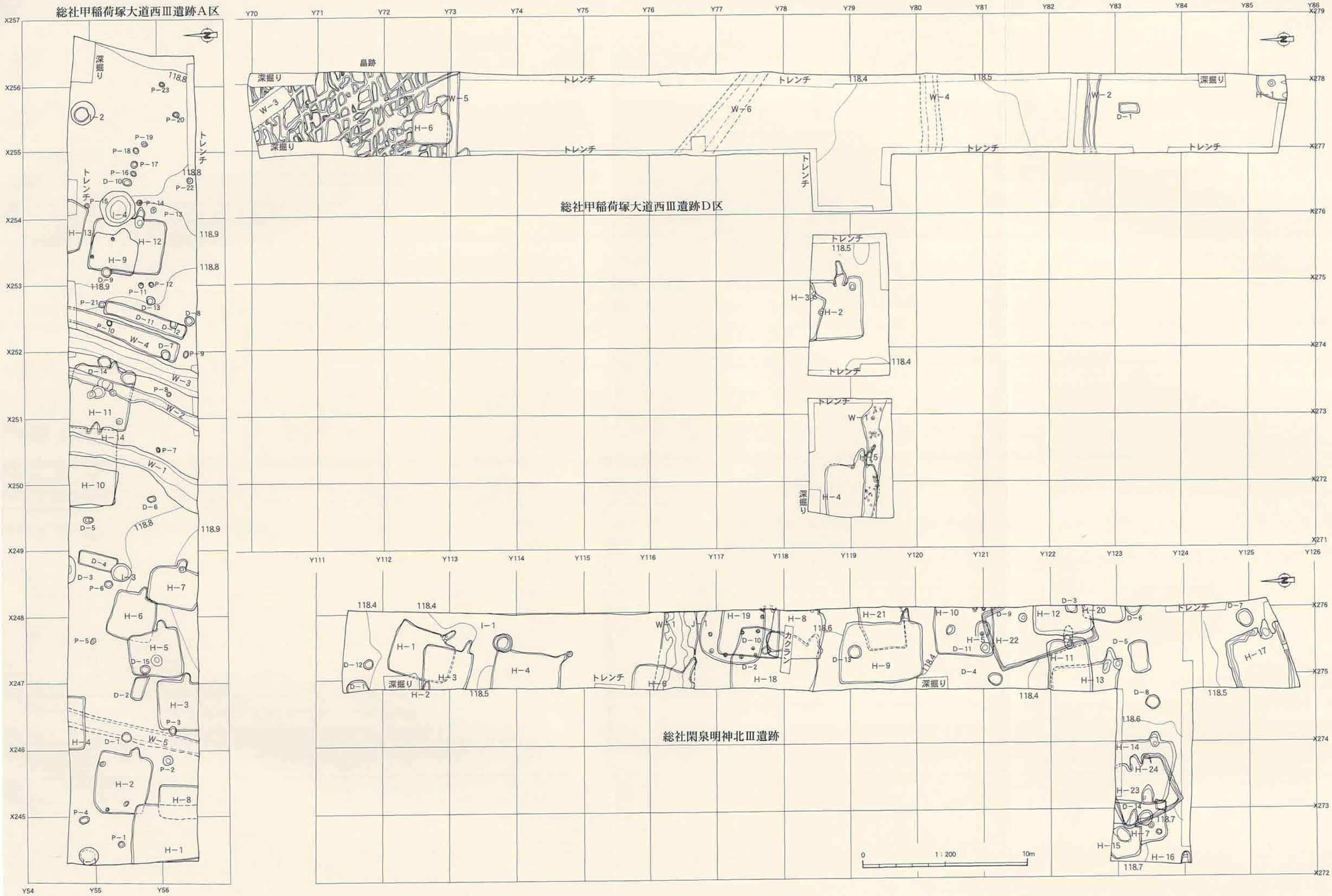
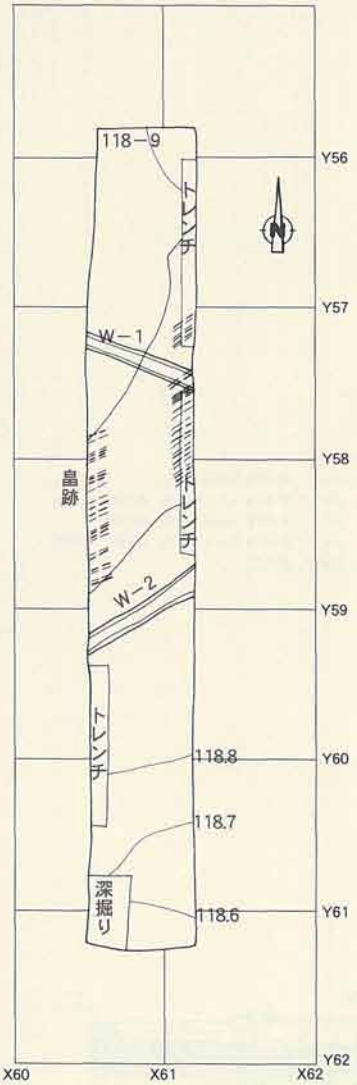
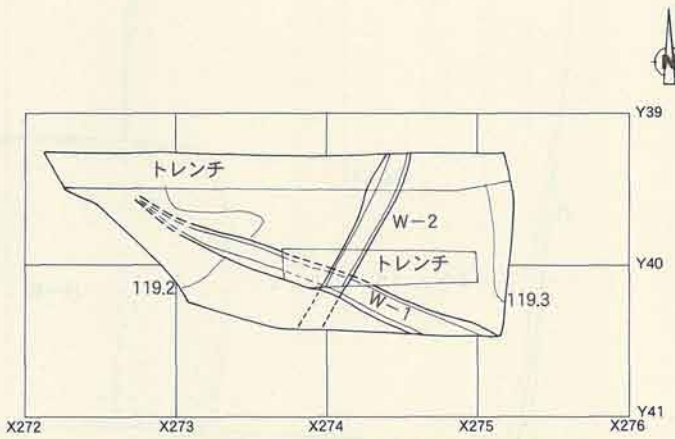


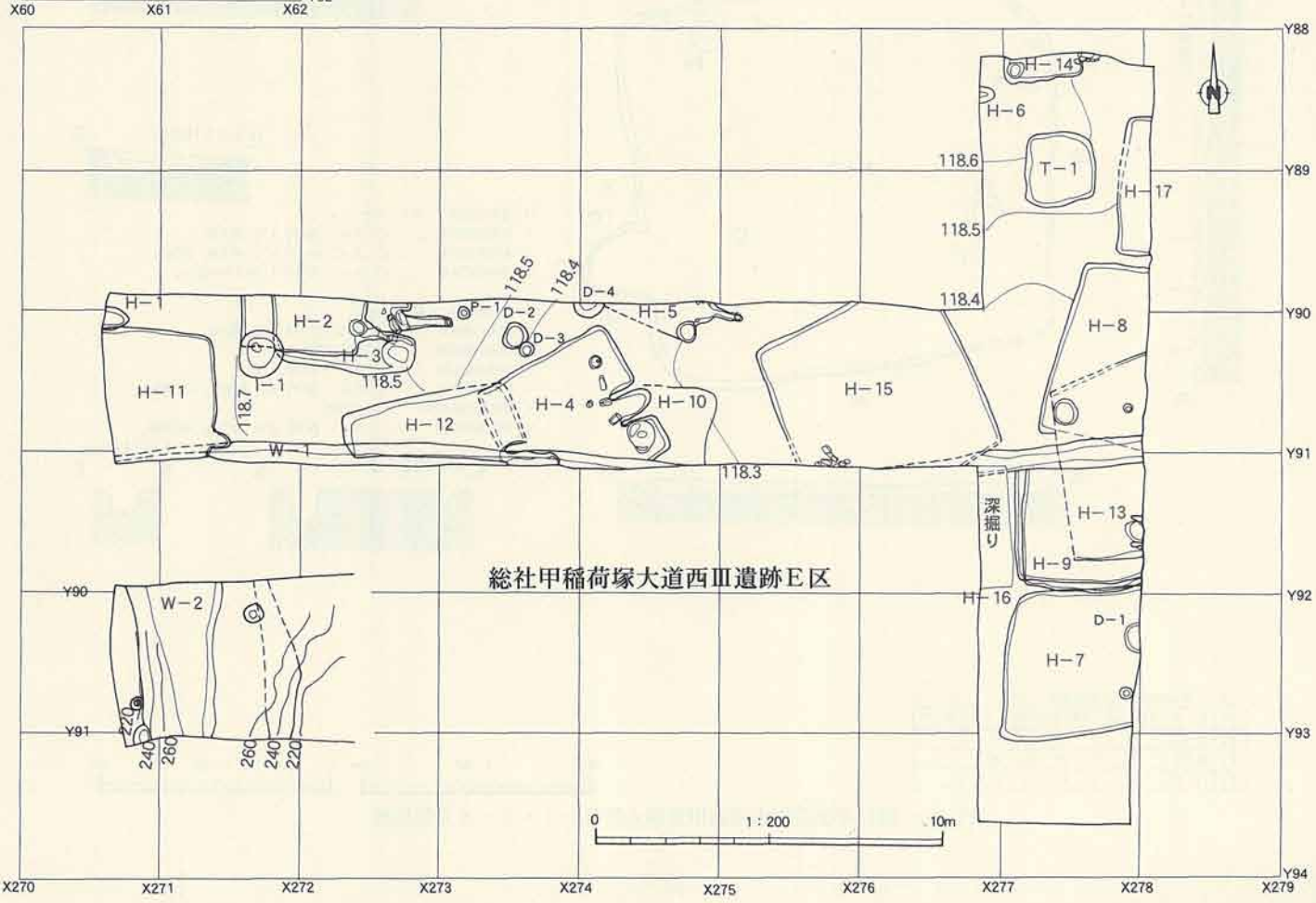

Fig. 8　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡A区・D区・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡全体図

総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｂ区




総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｃ区



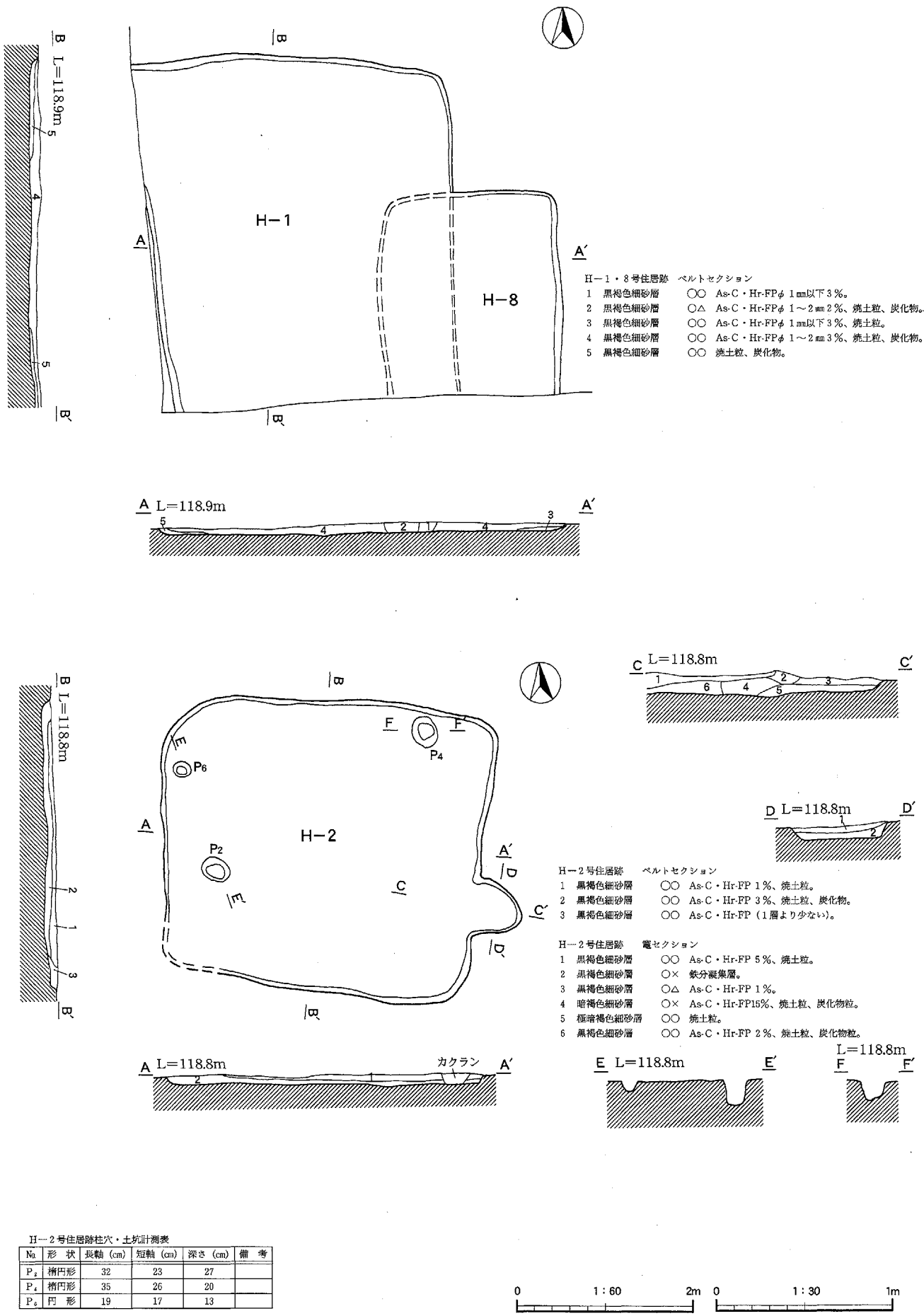

総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｅ区







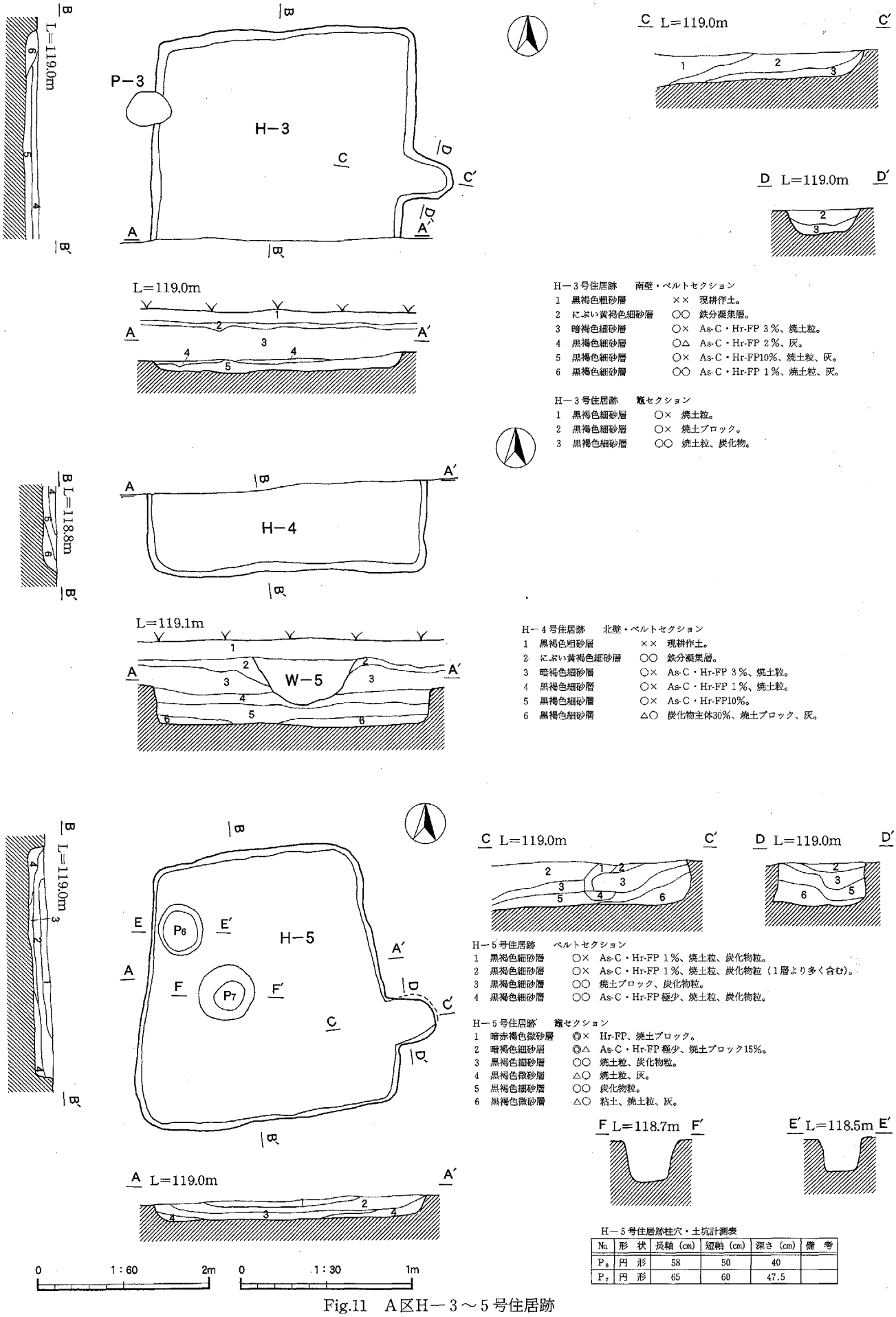
Fig. 9　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｂ区・Ｃ区・Ｅ区全体図　— 49 —




H－2号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P2 | 楕円形 | 32 | 23 | 27 | |
| P4 | 楕円形 | 35 | 26 | 20 | |
| P6 | 円　形 | 19 | 17 | 13 | |

Fig.10　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ａ区Ｈ－１・２・８号住居跡




H−3号住居跡　南壁・ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | ○○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-C・Hr-FP 2%、灰。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP10%、焼土粒、灰。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、灰。 |

H−3号住居跡　竈セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○× | 焼土粒。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○× | 焼土ブロック。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |

H−4号住居跡　北壁・ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | ○○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP10%。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | △○ | 炭化物主体30%、焼土ブロック、灰。 |

H−5号住居跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物粒。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物粒（1層より多く含む）。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック、炭化物粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP極少、焼土粒、炭化物粒。 |

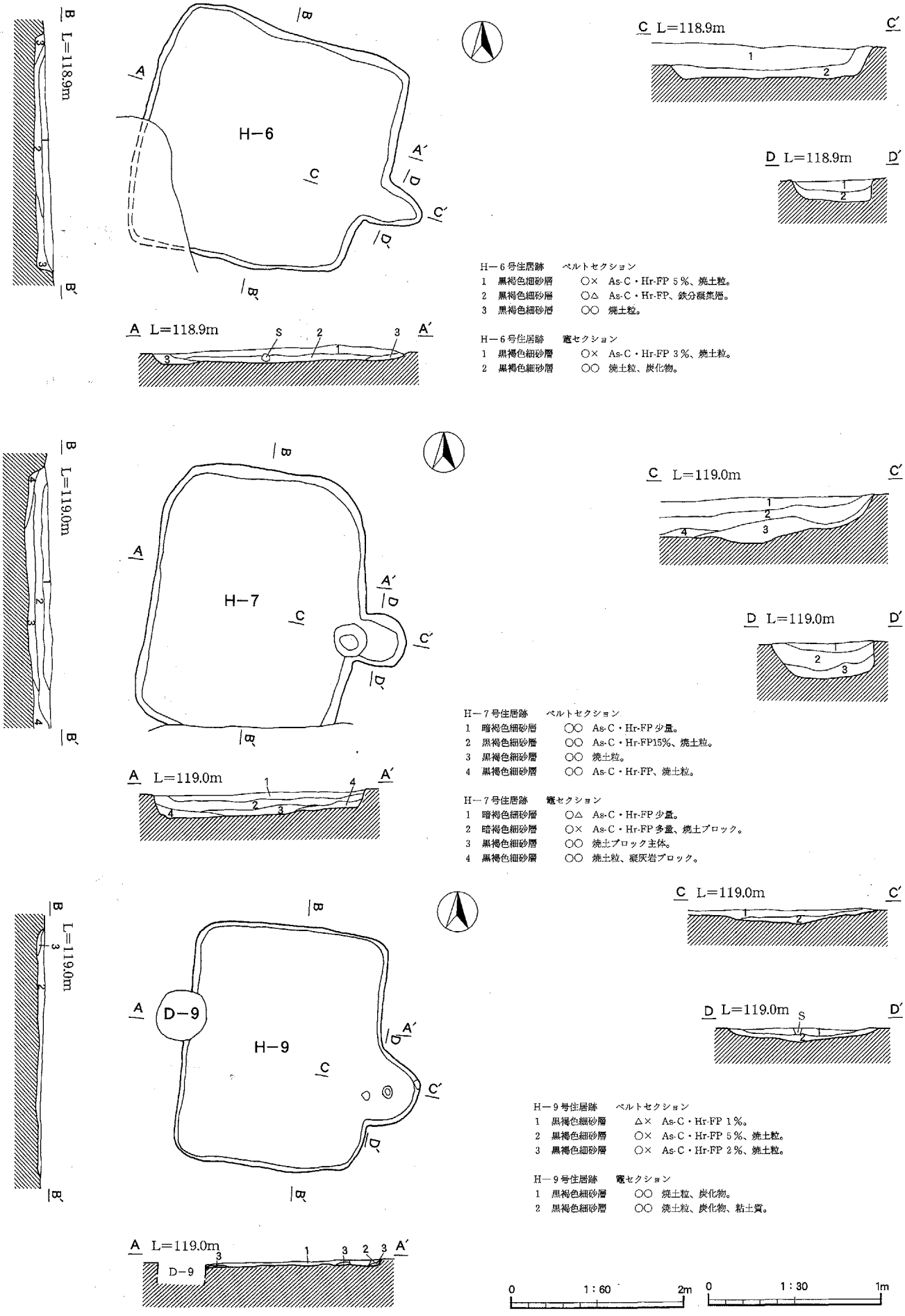
H−5号住居跡　竈セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗赤褐色微砂層 | ◎× | Hr-FP、焼土ブロック。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ◎△ | As-C・Hr-FP極少、焼土ブロック15%。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物粒。 |
| 4 | 黒褐色微砂層 | △○ | 焼土粒、灰。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 炭化物粒。 |
| 6 | 黒褐色微砂層 | △○ | 粘土、焼土粒、灰。 |

H−5号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P6 | 円形 | 58 | 50 | 40 | |
| P7 | 円形 | 65 | 60 | 47.5 | |

Fig.11　A区H−3〜5号住居跡




H−6号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP、鉄分凝集層。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。

H−6号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

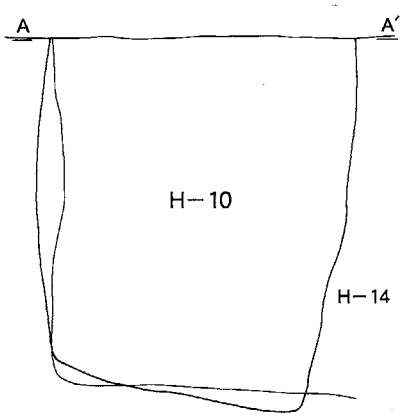
H−7号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP少量。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP15%、焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP、焼土粒。

H−7号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP少量。
2　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP多量、焼土ブロック。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック主体。
4　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、凝灰岩ブロック。

H−9号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-C・Hr-FP 1%。
2　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒。

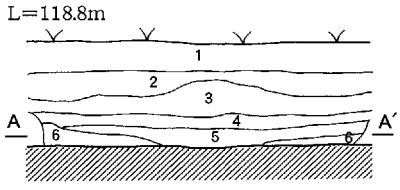
H−9号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、粘土質。

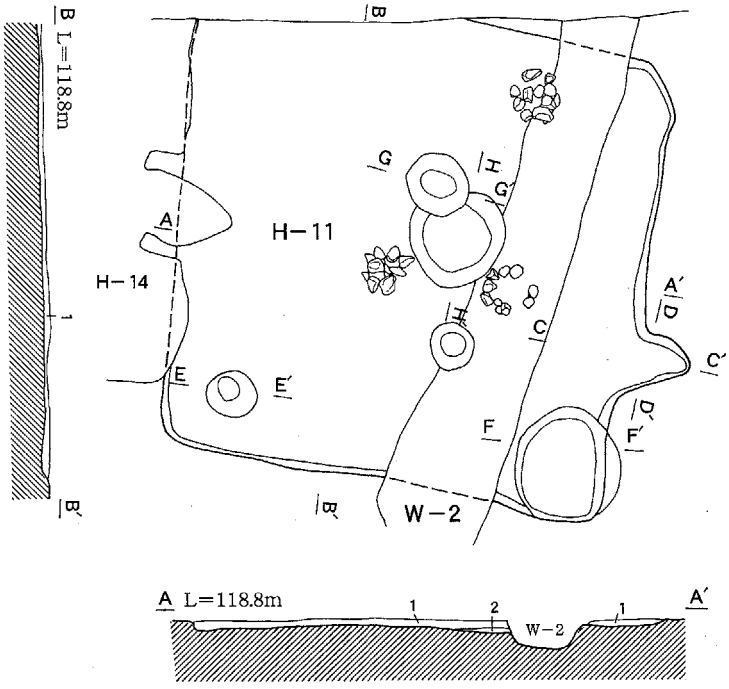
Fig.12　A区H−6・7・9号住居跡

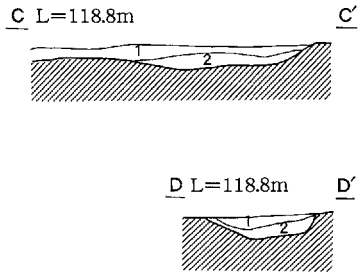



H−10号住居跡　北壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | ○○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP15%、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 7%、焼土粒。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |







H−11号住居跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △○ | 焼土粒、炭化物多量、灰。 |

H−11号住居跡　竈セクション

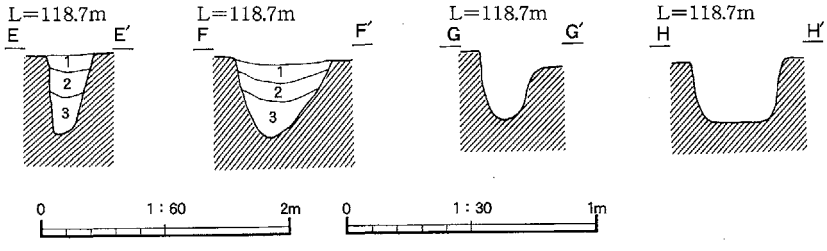
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物、灰。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ○△ | 焼土ブロック、炭化物。 |

H−11号住居跡　$P_3$セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △○ | 焼土粒、炭化物。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | △○ | 焼土粒、炭化物、粘土ブロック。 |

H−11号住居跡　$P_8$セクション

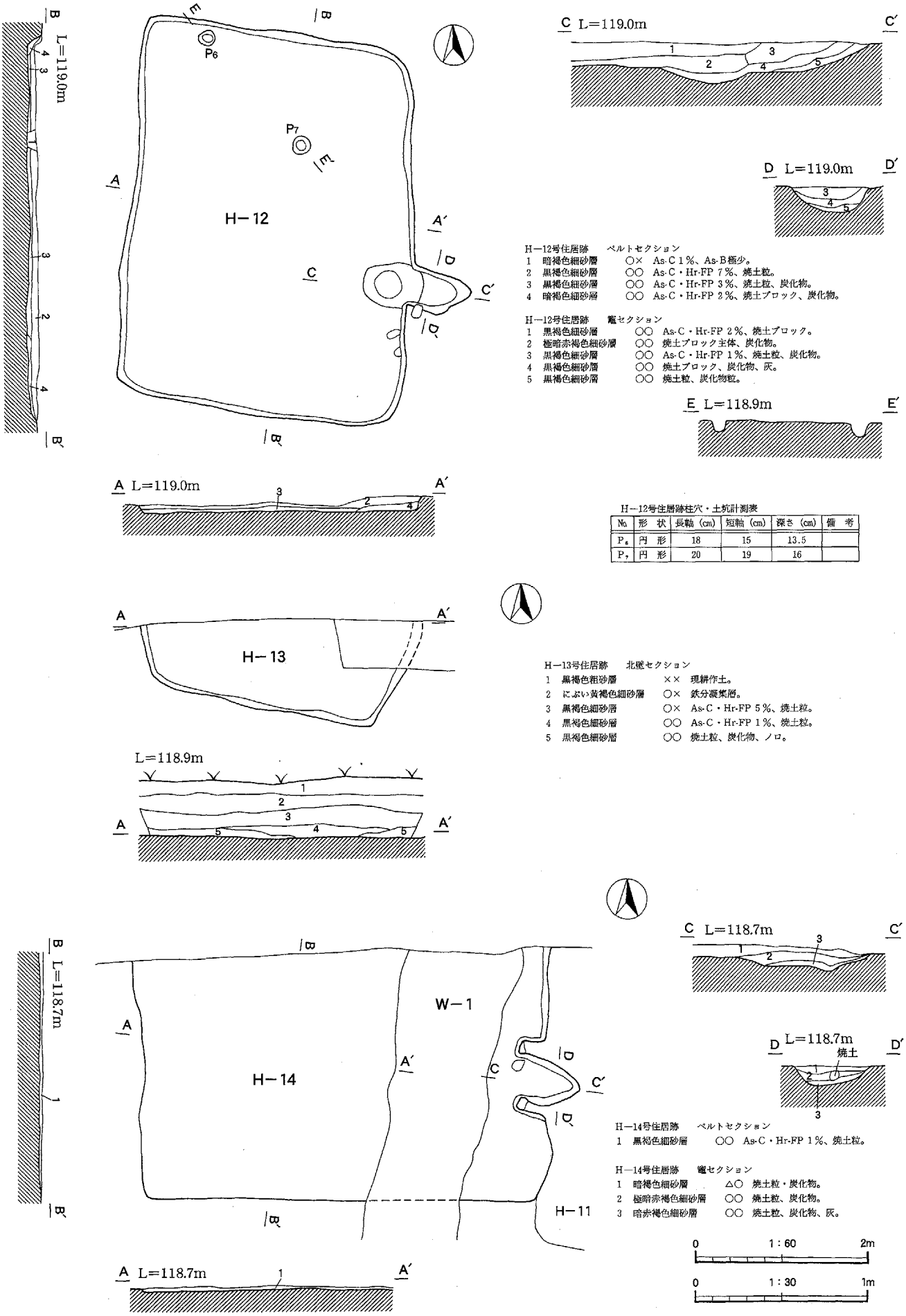
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物、粘土質。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 粘土質。 |




H−11号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_2$ | 円　形 | 39 | 35 | 64 | |
| $P_5$ | 楕円形 | 92 | 70 | 24 | 貯蔵穴 |
| $P_6$ | 円　形 | 50 | 45 | 56.5 | |
| $P_7$ | 円　形 | 78 | 75 | 19 | |

Fig.13　A区H−10・11号住居跡




H−12号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C 1％、As-B極少。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 7％、焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒、炭化物。
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土ブロック、炭化物。

H−12号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土ブロック。
2　極暗赤褐色細砂層　○○　焼土ブロック主体、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％、焼土粒、炭化物。
4　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物、灰。
5　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物粒。

H−12号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P6 | 円　形 | 18 | 15 | 13.5 | |
| P7 | 円　形 | 20 | 19 | 16 | |

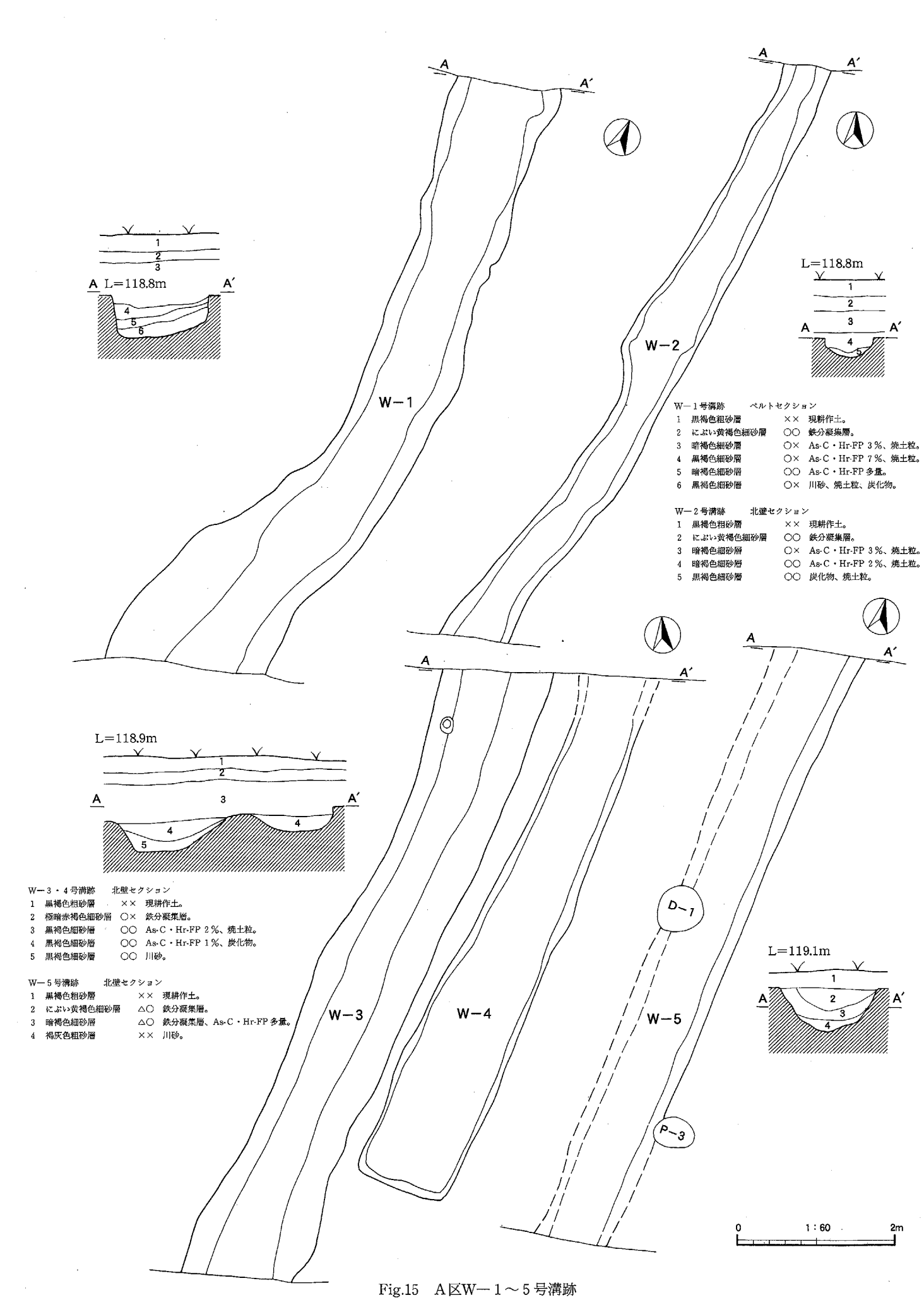
H−13号住居跡　北壁セクション
1　黒褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　にぶい黄褐色細砂層　○×　鉄分凝集層。
3　黒褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 5％、焼土粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％、焼土粒。
5　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、ノロ。

H−14号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％、焼土粒。

H−14号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　△○　焼土粒・炭化物。
2　極暗赤褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
3　暗赤褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、灰。

0　1：60　2m
0　1：30　1m

Fig.14　A区H−12〜14号住居跡




W−1号溝跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | ○○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 7％、焼土粒。 |
| 5 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 多量。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○× | 川砂、焼土粒、炭化物。 |

W−2号溝跡　北壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | ○○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。 |
| 4 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 炭化物、焼土粒。 |

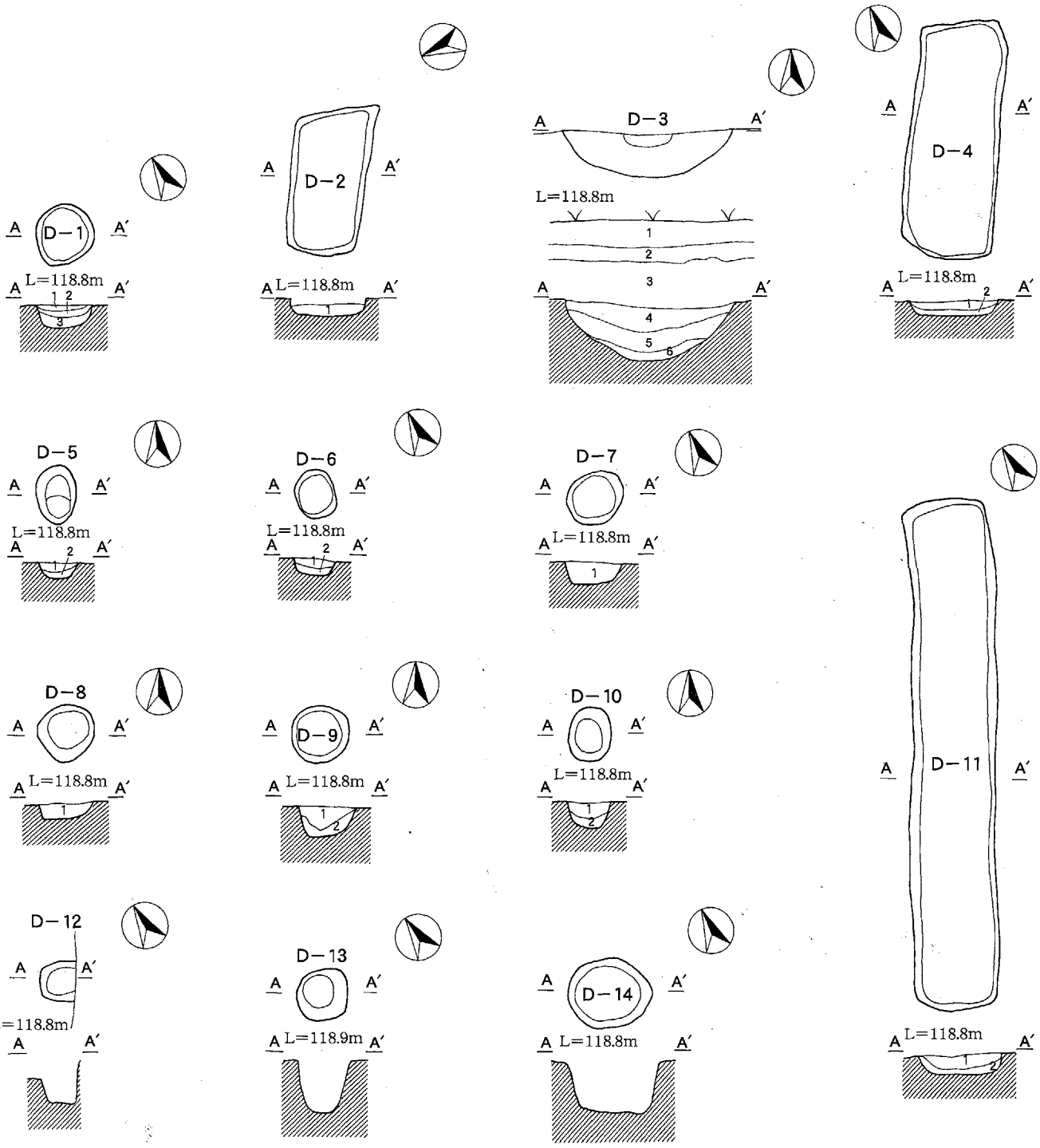
W−3・4号溝跡　北壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 極暗赤褐色細砂層 | ○× | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1％、炭化物。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 川砂。 |

W−5号溝跡　北壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | △○ | 鉄分凝集層。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | △○ | 鉄分凝集層、As-C・Hr-FP 多量。 |
| 4 | 褐灰色粗砂層 | ×× | 川砂。 |

Fig.15　A区W−1～5号溝跡




D−1号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　◎△　焼土粒、炭化物。
2　暗褐色細砂層　○△　As-C、焼土粒、炭化物。
3　黒褐色細砂層　△○　焼土粒、灰。

D−2号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP、焼土粒、炭化物。

D−3号土坑　セクション
1　黒褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　鉄分凝集層。
3　暗褐色細砂層　○○　白色軽石・ローム粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP10%、焼土粒。
5　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
6　黒褐色細砂層　○○　川砂。

D−4号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C、焼土粒、炭化物。

D−5号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　川砂。

D−6号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　川砂。

D−7号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　◎×　As-C・Hr-FP、焼土粒、炭化物粒。

D−8号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多量。

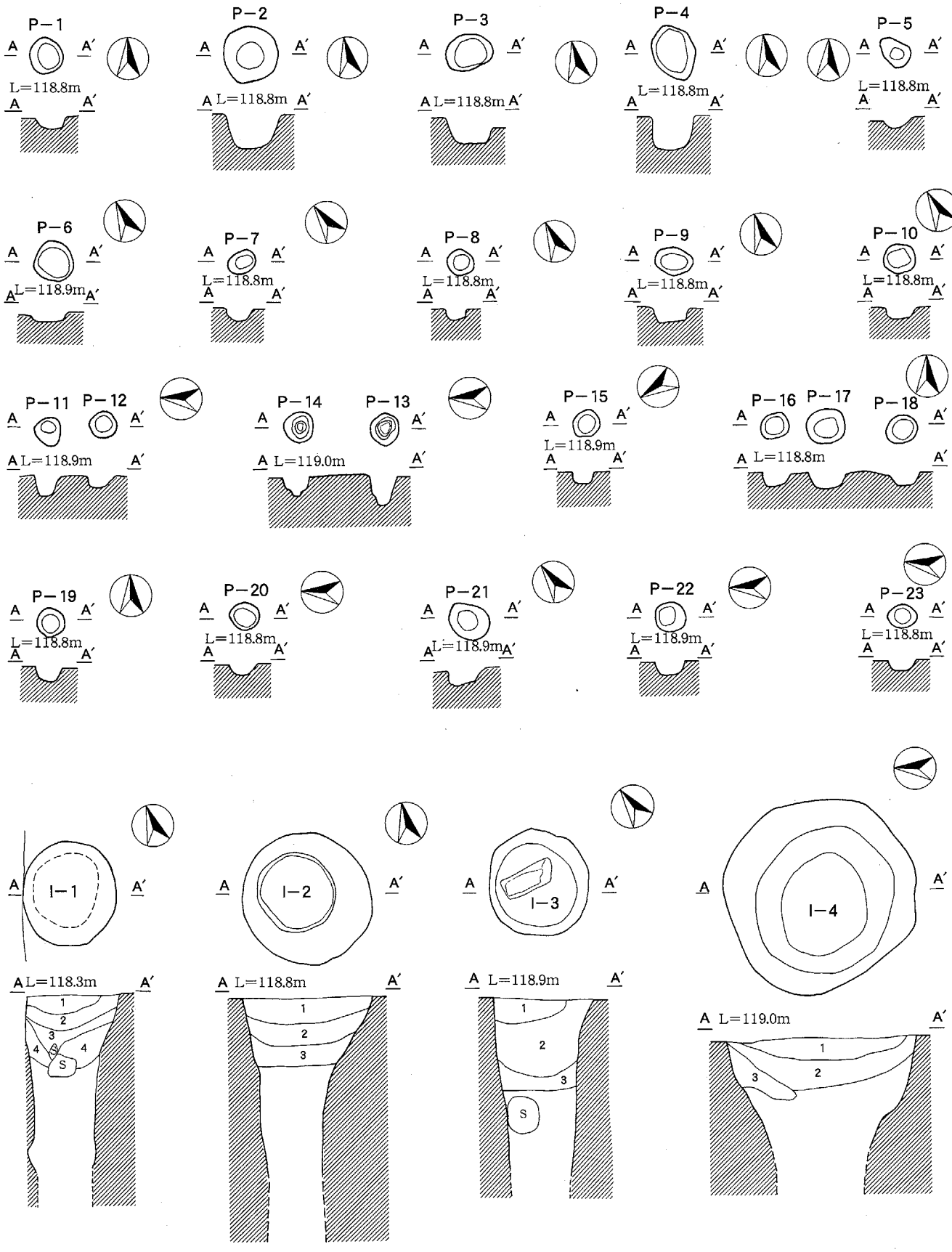
D−9号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　◎○　As-C・Hr-FP多量、焼土粒、炭化物粒。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP、焼土粒。

D−10号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　◎○　As-C・Hr-FP多量、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP少量、焼土粒、炭化物粒。

D−11号土坑　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　川砂、焼土粒。

0　1：60　2m

Fig.16　A区D−1〜14号土坑




I－1号井戸跡　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP15%、川砂。
2　黒褐色細砂層　△△　炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、灰。
4　黒色細砂層　△△　川砂、炭化物、灰。

I－2号井戸跡　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP多量、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　△○　川砂、焼土粒、炭化物。
3　黒色細砂層　△△　川砂、焼土粒。

I－3号井戸跡　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP・As-B、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　△×　にぶい黄褐色土ブロック。
3　黒褐色細砂層　△×　川砂。

I－4号井戸跡　セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、粘土質。
3　黒色細砂層　○○　川砂、焼土粒。

0　1：60　2m

Fig.17　A区P－1～23号柱穴、I－1～4号井戸跡

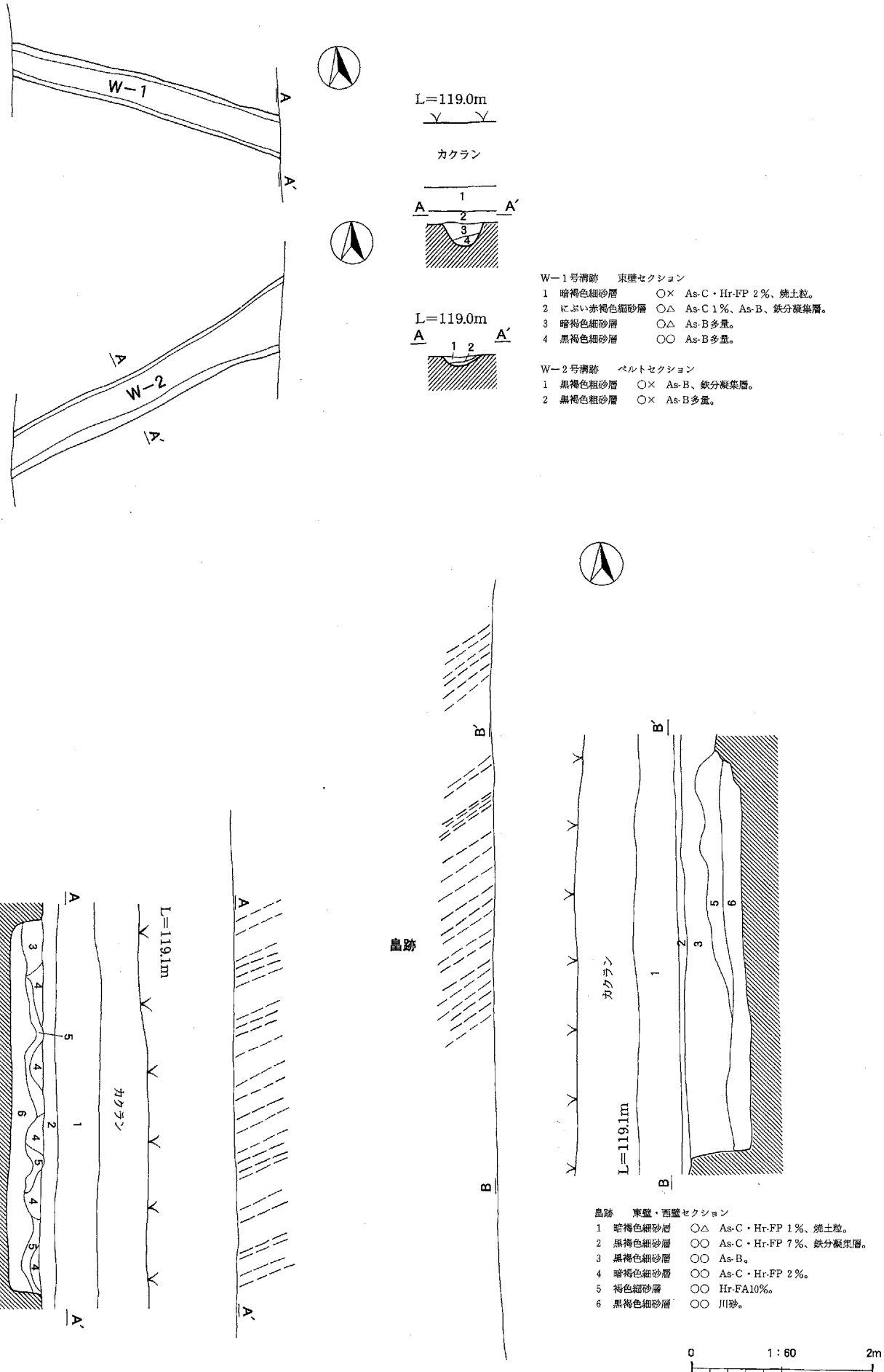
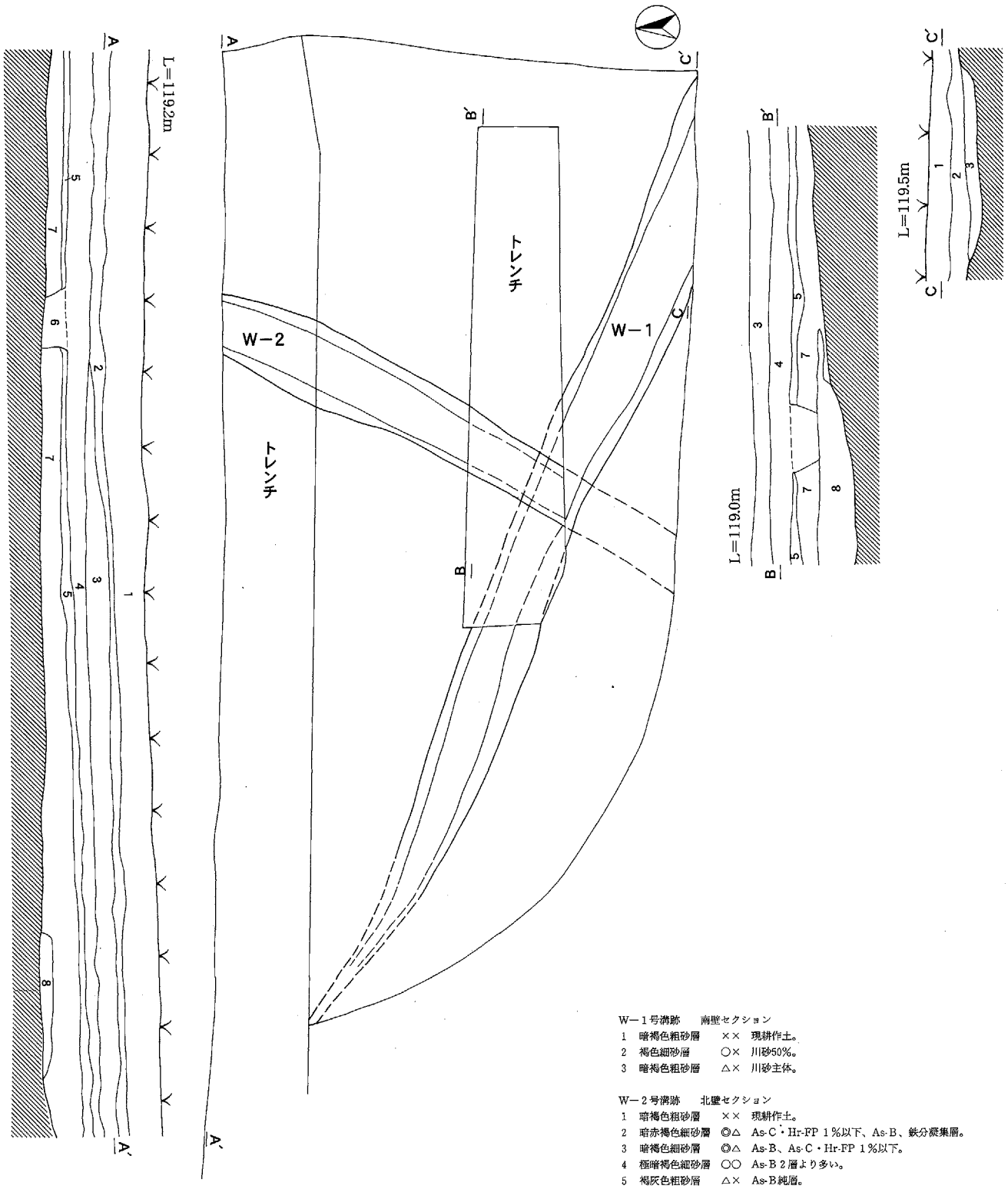



Fig.18　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡B区W－1・2号溝跡、畠跡



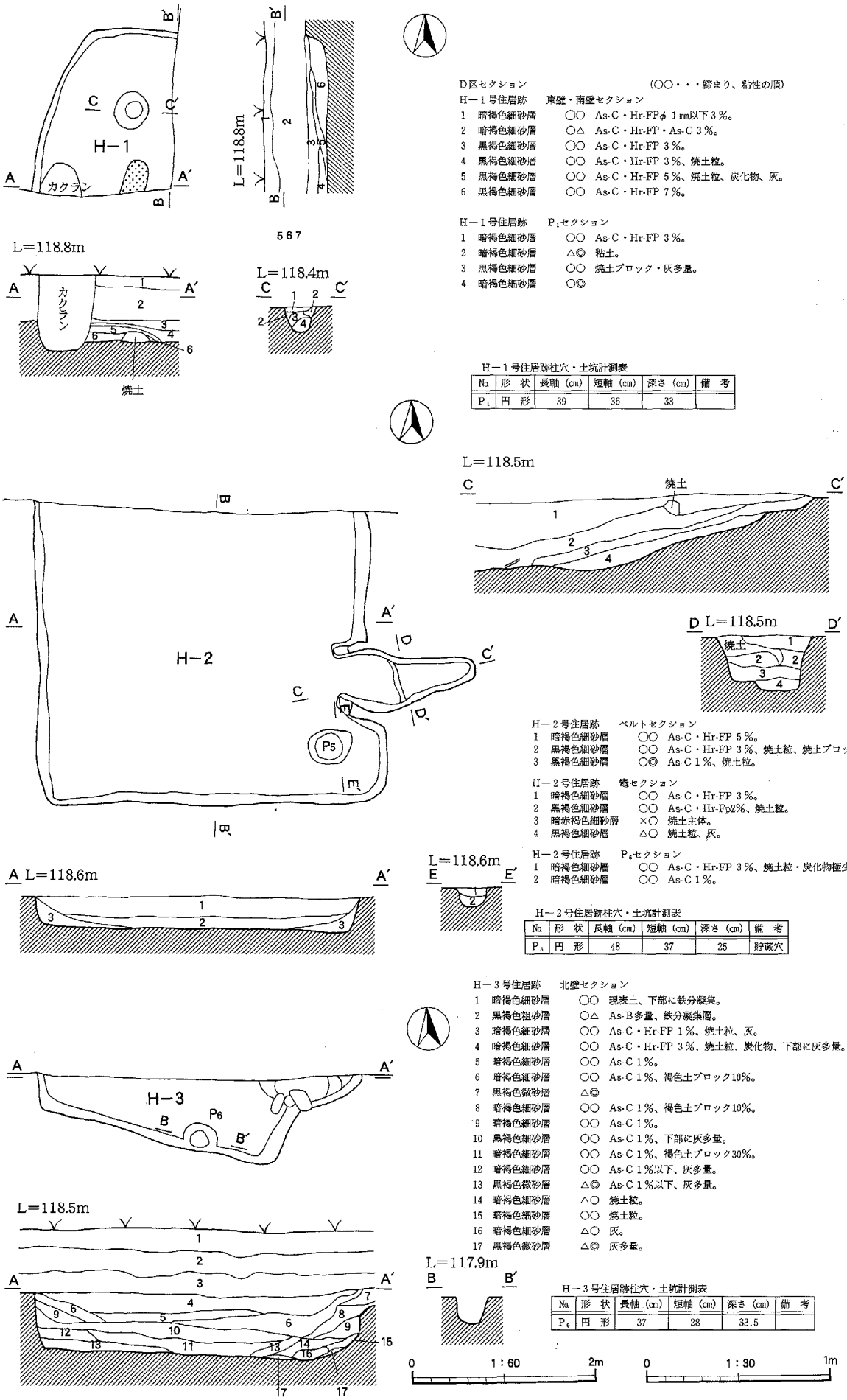

W−１号溝跡　南壁セクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　褐色細砂層　○×　川砂50%。
3　暗褐色粗砂層　△×　川砂主体。

W−２号溝跡　北壁セクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　暗赤褐色細砂層　◎△　As-C・Hr-FP １%以下、As-B、鉄分凝集層。
3　暗褐色細砂層　◎△　As-B、As-C・Hr-FP １%以下。
4　極暗褐色細砂層　○○　As-B ２層より多い。
5　褐灰色粗砂層　△×　As-B純層。
6　黒褐色粗砂層　△△　As-B ４層より多い。
7　黒褐色細砂層　◎○　As-C・Hr-FP １%。
8　褐色細砂層　◎×　地山（岩盤）。

0　1:60　2m

Fig.19　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｃ区W−１・２号溝跡

# 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｄ区




D区セクション　　（○○・・・締まり、粘性の順）

H－1号住居跡　東壁・南壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPφ 1㎜以下3％。
2　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP・As-C 3％。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。
5　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％、焼土粒、炭化物、灰。
6　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 7％。

H－1号住居跡　$P_1$セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％。
2　暗褐色細砂層　△◎　粘土。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック・灰多量。
4　暗褐色細砂層　○◎

H－1号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_1$ | 円　形 | 39 | 36 | 33 | |

H－2号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒、焼土ブロック、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○◎　As-C 1％、焼土粒。

H－2号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-Fp2%、焼土粒。
3　暗赤褐色細砂層　×○　焼土主体。
4　黒褐色細砂層　△○　焼土粒、灰。

H－2号住居跡　$P_5$セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒・炭化物極少。
2　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％。

H－2号住居跡柱穴・土坑計測表

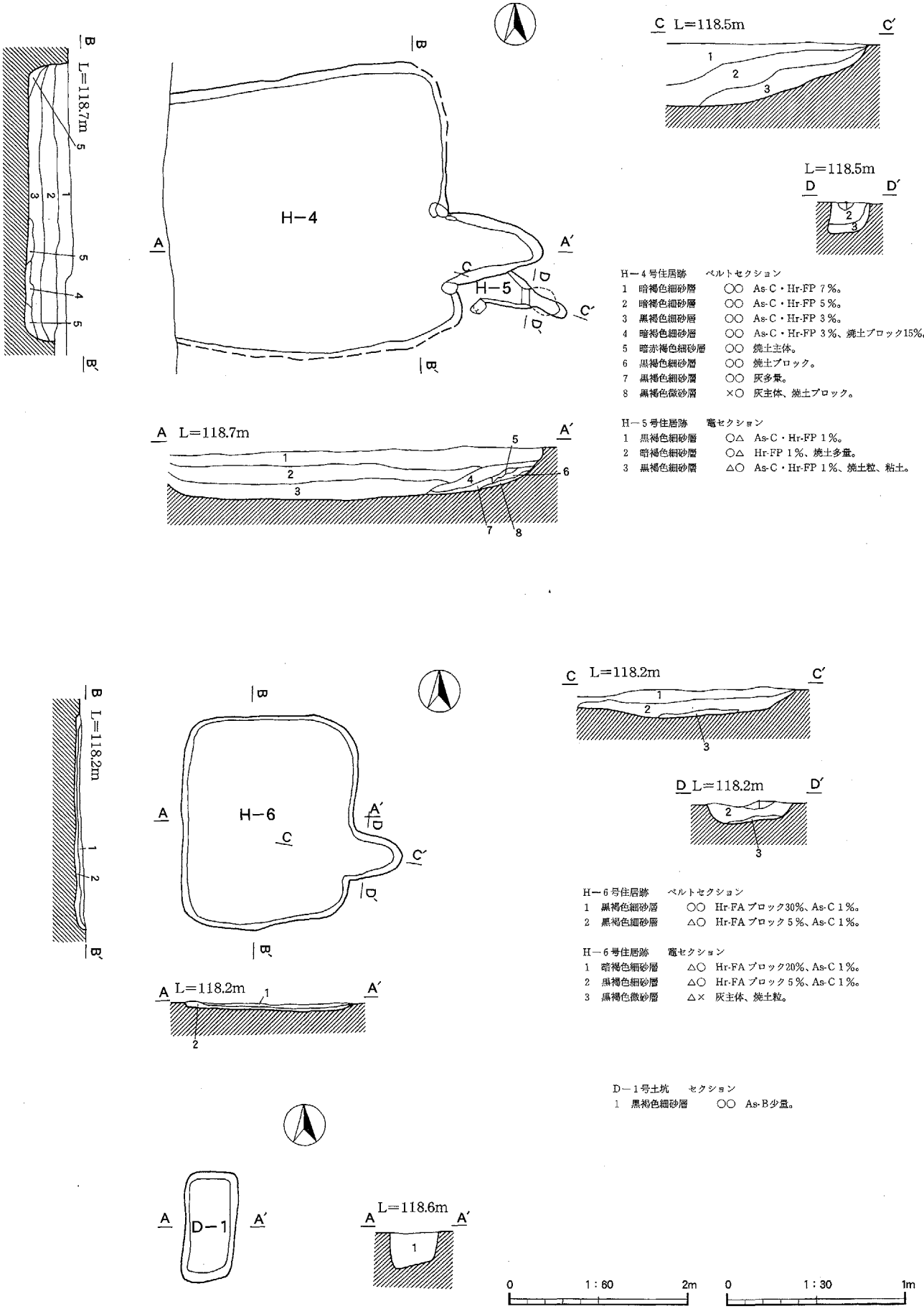
| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_5$ | 円　形 | 48 | 37 | 25 | 貯蔵穴 |

H－3号住居跡　北壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土、下部に鉄分凝集。
2　黒褐色粗砂層　○△　As-B多量、鉄分凝集層。
3　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％、焼土粒、灰。
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒、炭化物、下部に灰多量。
5　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％。
6　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％、褐色土ブロック10%。
7　黒褐色微砂層　△◎
8　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％、褐色土ブロック10%。
9　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％。
10　黒褐色細砂層　○○　As-C 1％、下部に灰多量。
11　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％、褐色土ブロック30%。
12　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％以下、灰多量。
13　黒褐色微砂層　△◎　As-C 1％以下、灰多量。
14　暗褐色細砂層　△○　焼土粒。
15　暗褐色細砂層　○○　焼土粒。
16　暗褐色細砂層　△○　灰。
17　黒褐色微砂層　△◎　灰多量。

H－3号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_6$ | 円　形 | 37 | 28 | 33.5 | |

Fig.20　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡Ｄ区Ｈ－１～３号住居跡




H−4号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 7%。
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3%。
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3%、焼土ブロック15%。
5　暗赤褐色細砂層　○○　焼土主体。
6　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック。
7　黒褐色細砂層　○○　灰多量。
8　黒褐色微砂層　×○　灰主体、焼土ブロック。

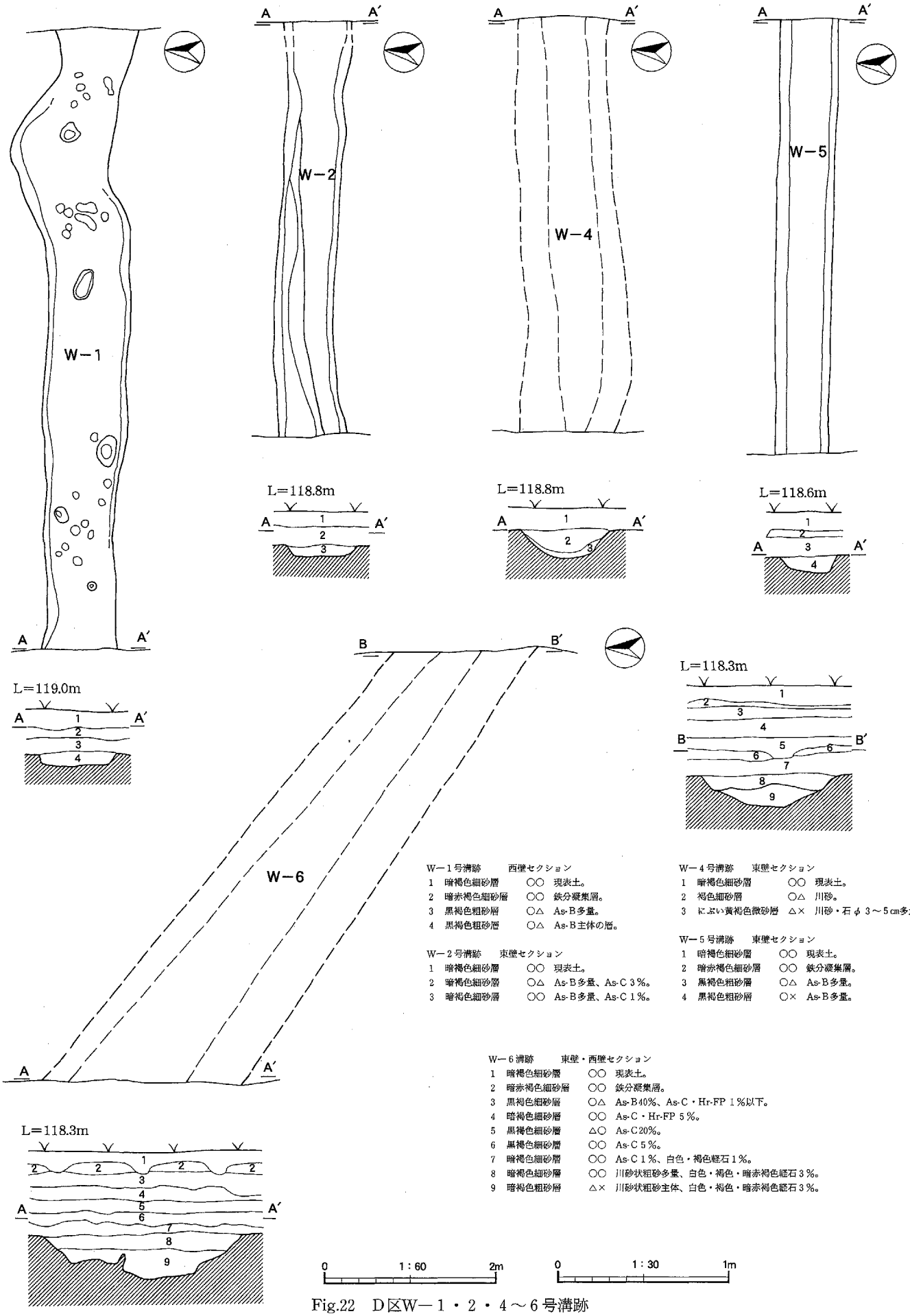
H−5号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP 1%。
2　暗褐色細砂層　○△　Hr-FP 1%、焼土多量。
3　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、粘土。

H−6号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　Hr-FAブロック30%、As-C 1%。
2　黒褐色細砂層　△○　Hr-FAブロック5%、As-C 1%。

H−6号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　△○　Hr-FAブロック20%、As-C 1%。
2　黒褐色細砂層　△○　Hr-FAブロック5%、As-C 1%。
3　黒褐色微砂層　△×　灰主体、焼土粒。

D−1号土坑　セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-B少量。

Fig.21　D区H−4〜6号住居跡、D−1号土坑




W−1号溝跡　西壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土。
2　暗赤褐色細砂層　○○　鉄分凝集層。
3　黒褐色粗砂層　○△　As-B多量。
4　黒褐色粗砂層　○△　As-B主体の層。

W−2号溝跡　東壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土。
2　暗褐色細砂層　○△　As-B多量、As-C 3％。
3　暗褐色細砂層　○○　As-B多量、As-C 1％。

W−4号溝跡　東壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土。
2　褐色細砂層　○△　川砂。
3　にぶい黄褐色微砂層　△×　川砂・石 φ 3〜5cm多量。

W−5号溝跡　東壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土。
2　暗赤褐色細砂層　○○　鉄分凝集層。
3　黒褐色粗砂層　○△　As-B多量。
4　黒褐色粗砂層　○×　As-B多量。

W−6溝跡　東壁・西壁セクション
1　暗褐色細砂層　○○　現表土。
2　暗赤褐色細砂層　○○　鉄分凝集層。
3　黒褐色細砂層　○△　As-B40％、As-C・Hr-FP 1％以下。
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％。
5　黒褐色細砂層　△○　As-C20％。
6　黒褐色細砂層　○○　As-C 5％。
7　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％、白色・褐色軽石1％。
8　暗褐色細砂層　○○　川砂状粗砂多量、白色・褐色・暗赤褐色軽石3％。
9　暗褐色粗砂層　△×　川砂状粗砂主体、白色・褐色・暗赤褐色軽石3％。

Fig.22　D区W−1・2・4〜6号溝跡

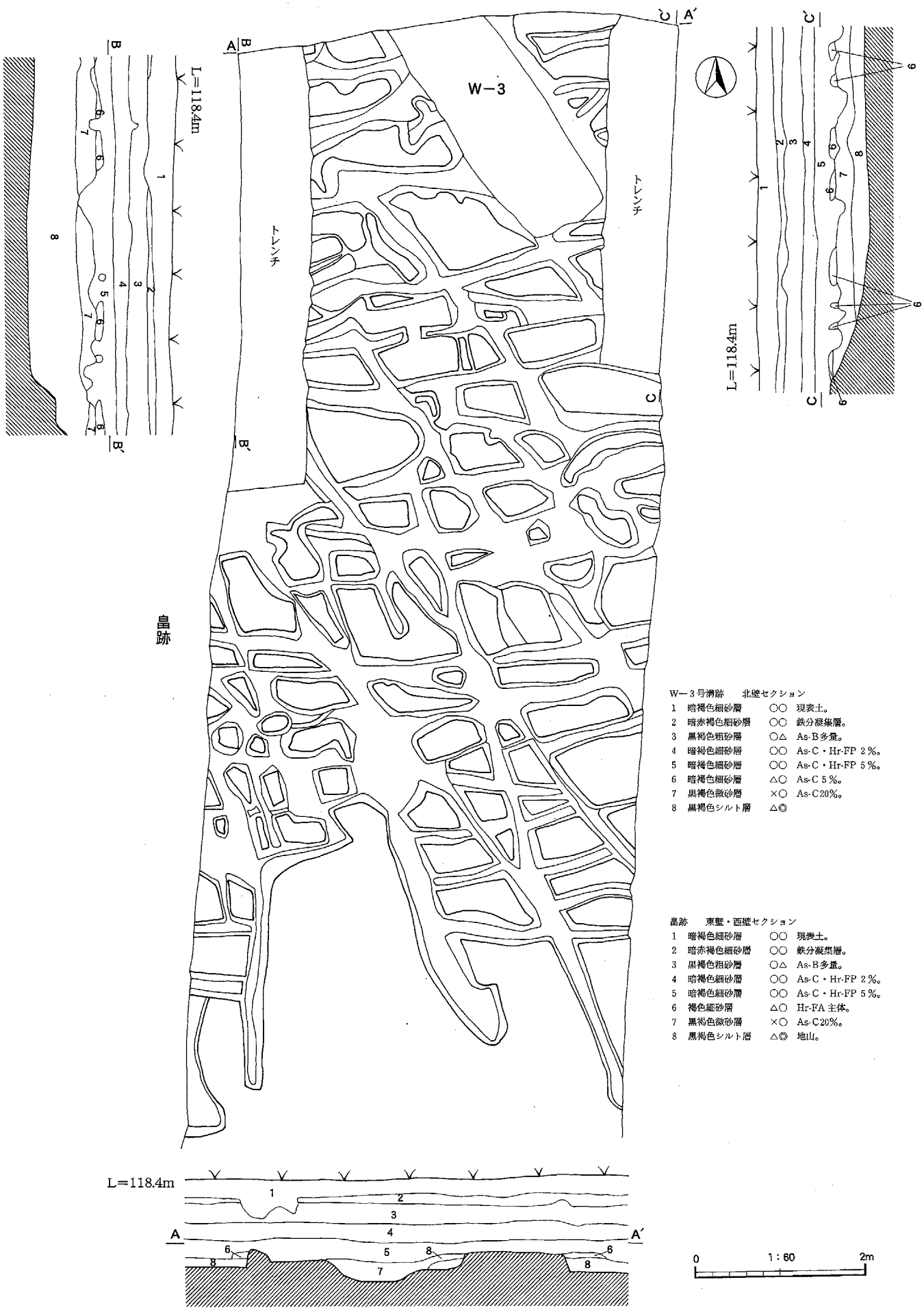
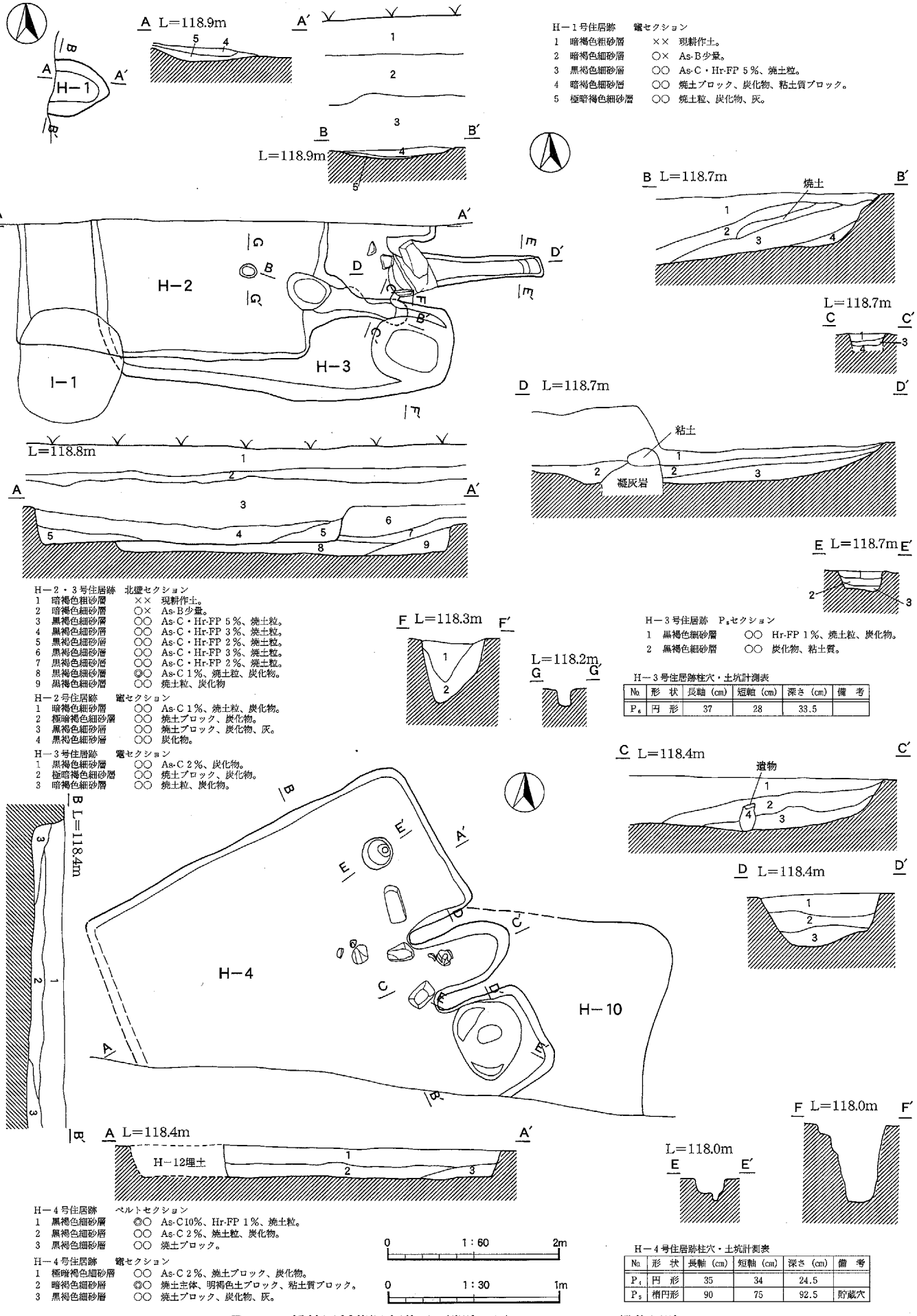



Fig.23　D区W−3号溝跡、畠跡




H－1号住居跡　竈セクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　暗褐色細砂層　○×　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％、焼土粒。
4　暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物、粘土質ブロック。
5　極暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、灰。

H－2・3号住居跡　北壁セクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　暗褐色細砂層　○×　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5％、焼土粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。
5　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。
6　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。
7　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。
8　黒褐色細砂層　◎○　As-C 1％、焼土粒、炭化物。
9　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物

H－2号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　○○　As-C 1％、焼土粒、炭化物。
2　極暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物、灰。
4　黒褐色細砂層　○○　炭化物。

H－3号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C 2％、炭化物。
2　極暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物。
3　暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

H－3号住居跡　$P_6$セクション
1　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP 1％、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　炭化物、粘土質。

H－3号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_6$ | 円　形 | 37 | 28 | 33.5 | |

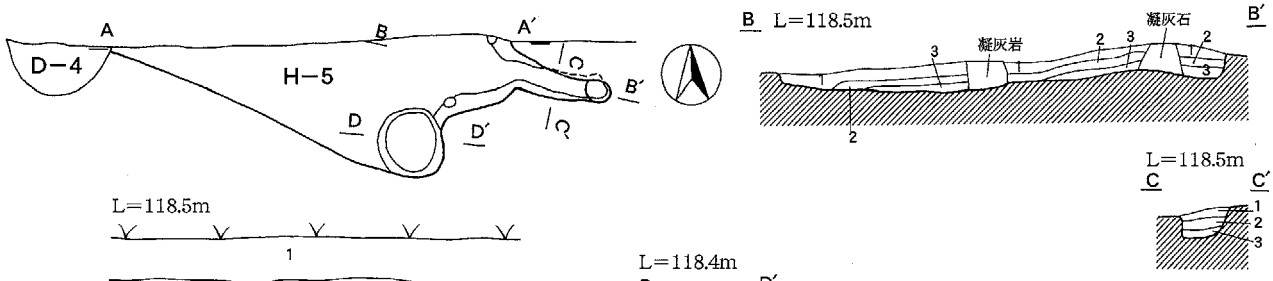
H－4号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　◎○　As-C10％、Hr-FP 1％、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C 2％、焼土粒、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック。

H－4号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　○○　As-C 2％、焼土ブロック、炭化物。
2　暗褐色細砂層　◎○　焼土主体、明褐色土ブロック、粘土質ブロック。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物、灰。

H－4号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_4$ | 円　形 | 35 | 34 | 24.5 | |
| $P_5$ | 楕円形 | 90 | 75 | 92.5 | 貯蔵穴 |

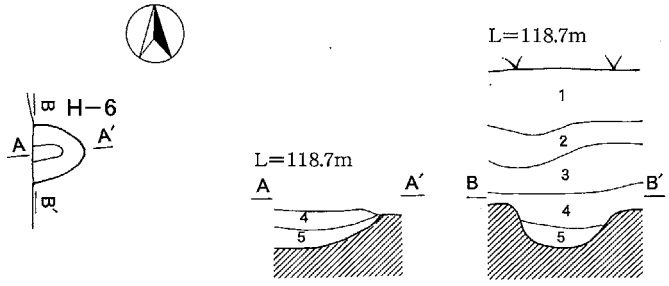
Fig.24　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡E区H－1～4・10号住居跡




H－5号住居跡　北壁セクション
1　暗褐色粗砂層　　××　現耕作土。
2　暗褐色細砂層　　○×　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。
4　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP 5％、焼土粒、炭化物。
5　黒色細砂層　　○○　灰主体、焼土粒、炭化物。

H－5号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　　△○　焼土ブロック、炭化物。
2　黒褐色細砂層　　○○　焼土粒、炭化物。
3　黒褐色細砂層　　○○　焼土粒、炭化物、灰。

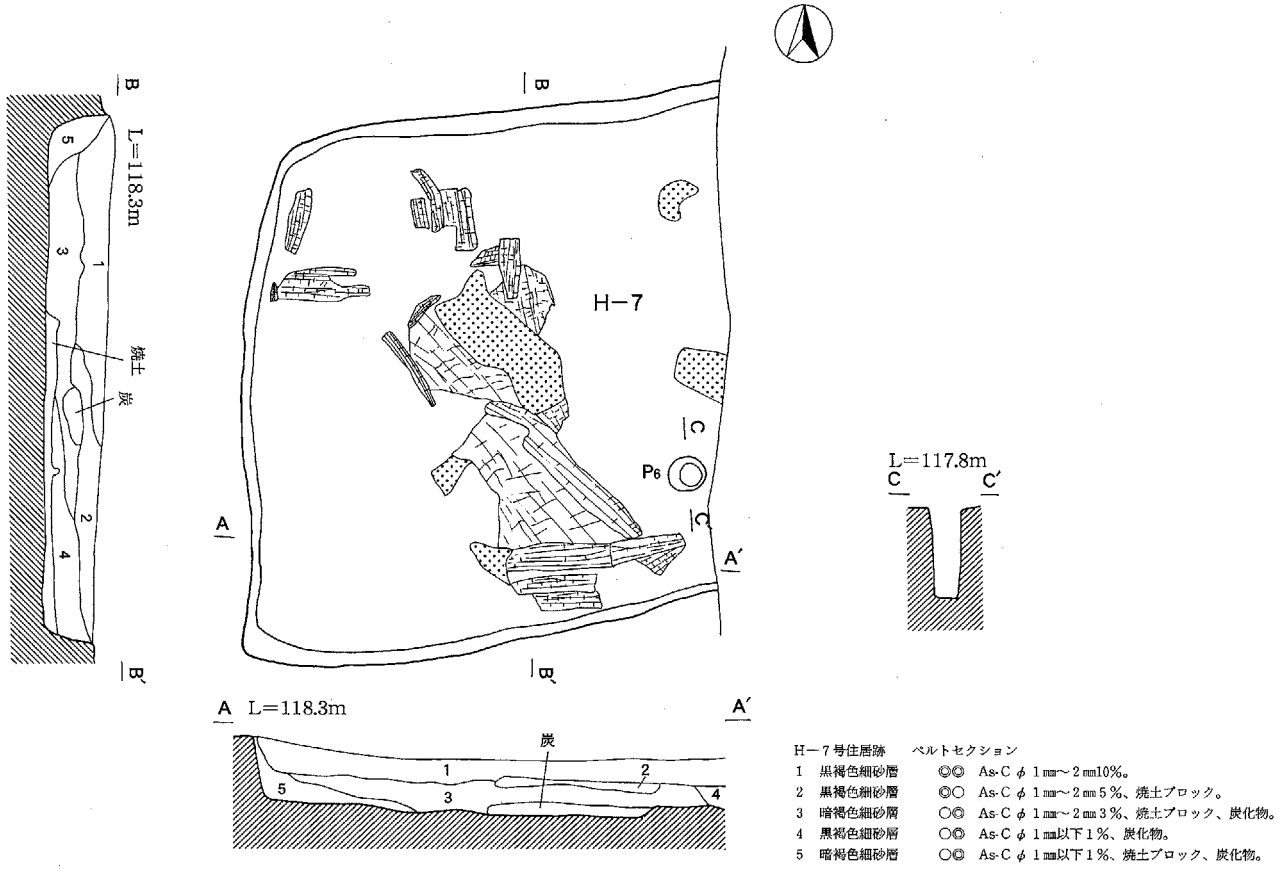
H－5号住居跡　$P_5$セクション
1　黒褐色細砂層　　○○　焼土粒、炭化物。




H－5号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_5$ | 円　形 | 55 | 52 | 12.5 | 貯蔵穴 |

H－6号住居跡　竈セクション
1　暗褐色粗砂層　　××　現耕作土。
2　黒褐色細砂層　　○△　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。
4　極暗褐色細砂層　　○○　焼土ブロック。
5　暗褐色細砂層　　○○　焼土ブロック、炭化物。



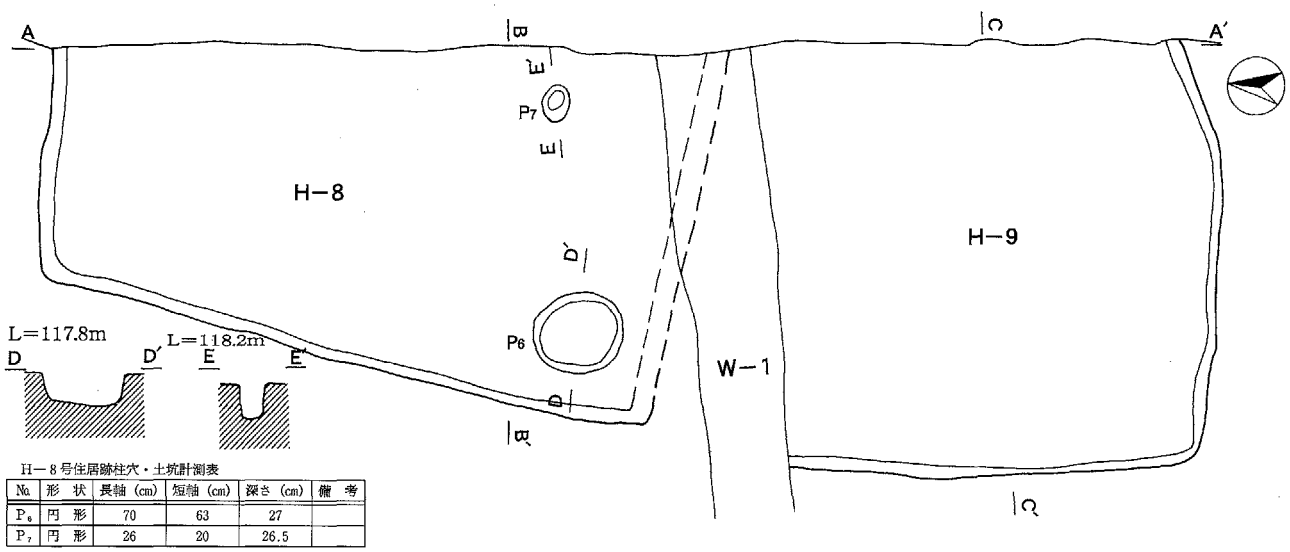

H－7号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　　◎◎　As-C φ 1㎜～2㎜10％。
2　黒褐色細砂層　　◎○　As-C φ 1㎜～2㎜5％、焼土ブロック。
3　暗褐色細砂層　　○◎　As-C φ 1㎜～2㎜3％、焼土ブロック、炭化物。
4　黒褐色細砂層　　○◎　As-C φ 1㎜以下1％、炭化物。
5　暗褐色細砂層　　○◎　As-C φ 1㎜以下1％、焼土ブロック、炭化物。

H－7号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_6$ | 円　形 | 30 | 25 | 74 | |

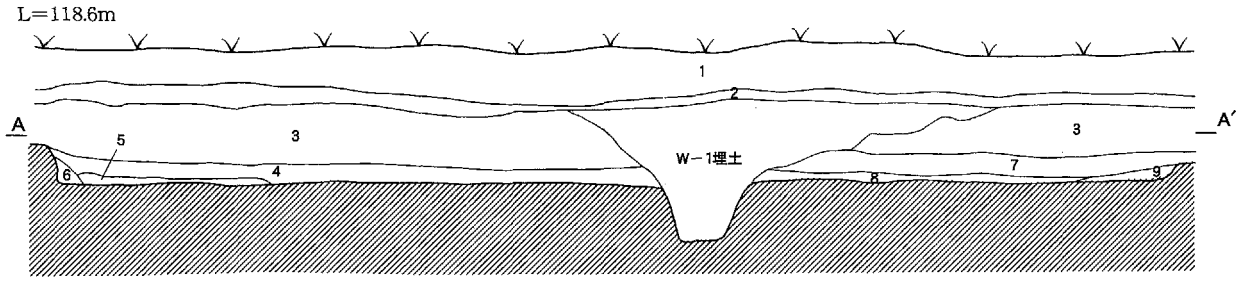
0　1：60　2m　　0　1：30　1m

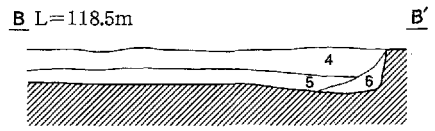
Fig.25　E区H－5～7号住居跡

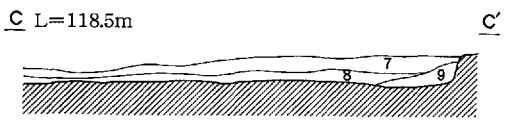



H−8号住居跡柱穴・土坑計測表

| No. | 形状 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P6 | 円形 | 70 | 63 | 27 | |
| P7 | 円形 | 26 | 20 | 26.5 | |

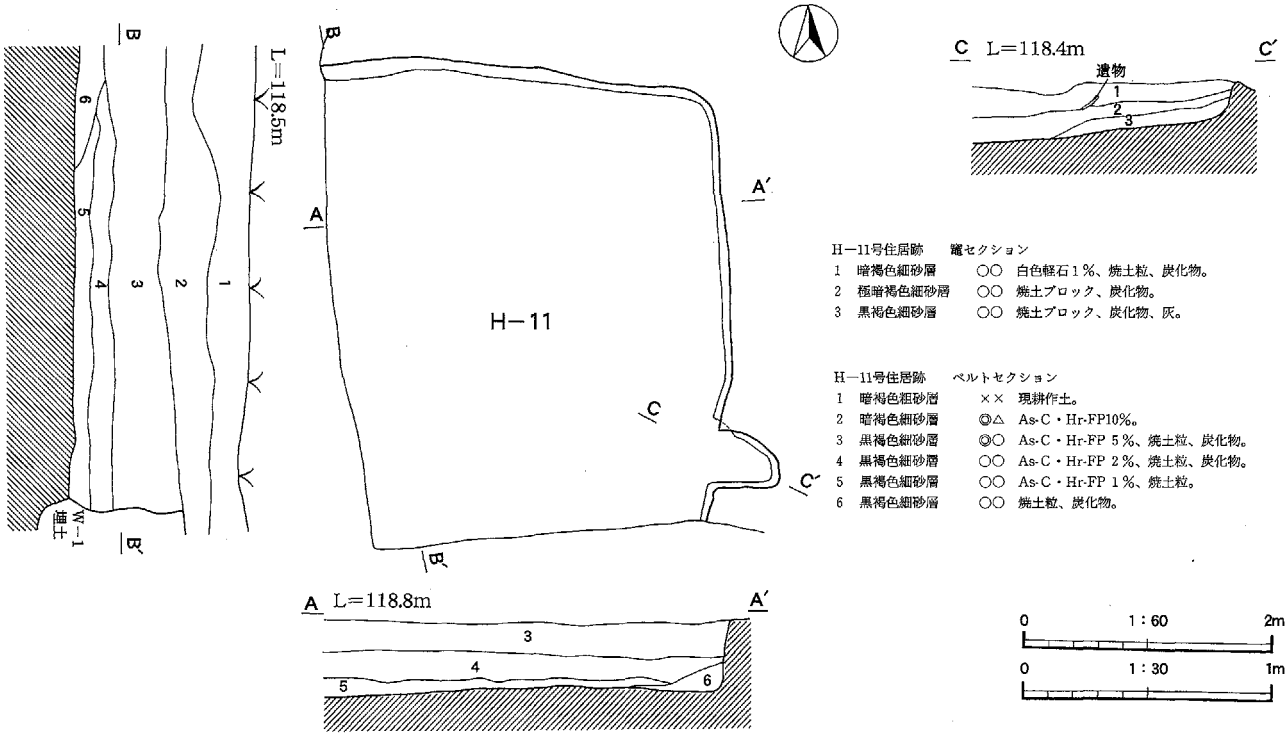



H−8・9号住居跡　東壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-B少量。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 5%、Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 3%、Hr-FP 1%、焼土粒。 |
| 5 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-C 1%、焼土粒、炭化物。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 1%、焼土粒。 |
| 7 | 暗褐色細砂層 | ◎○ | As-C・Hr-FP極少、炭化物。 |
| 8 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック、炭化物、粘土質ブロック。 |
| 9 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |




H−11号住居跡　竈セクション

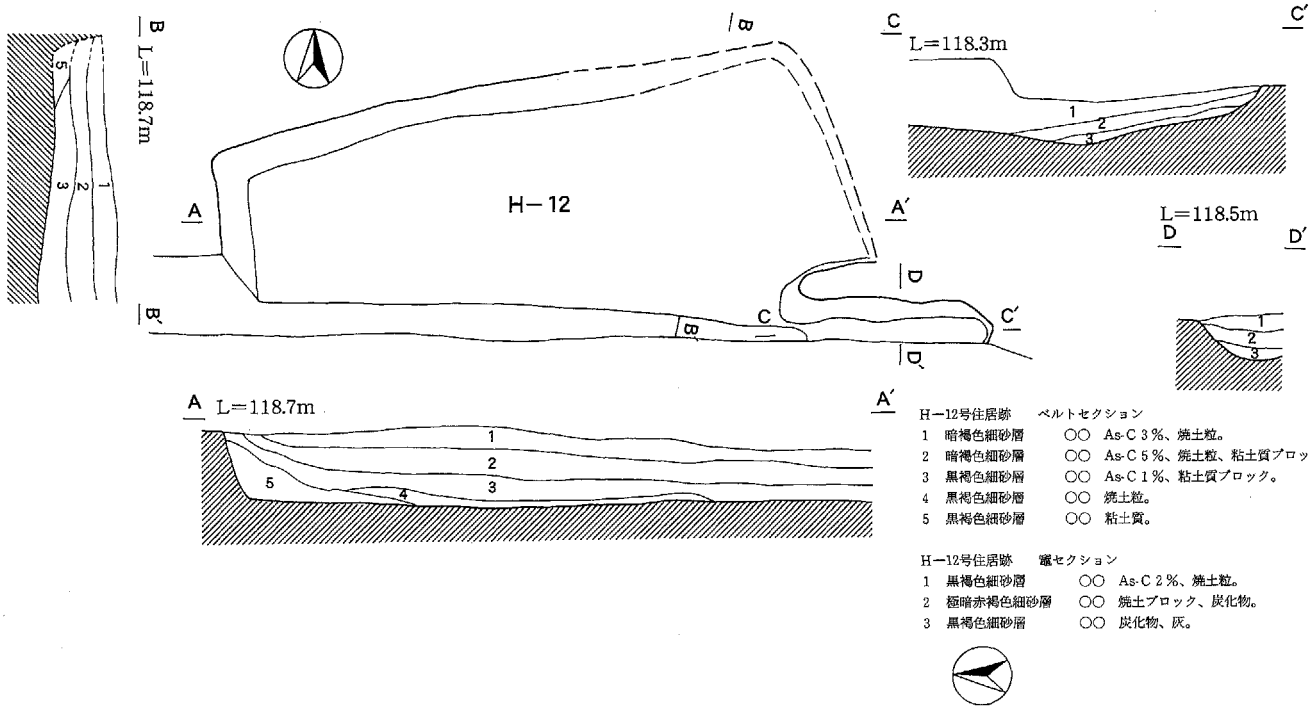
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 白色軽石1%、焼土粒、炭化物。 |
| 2 | 極暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック、炭化物。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック、炭化物、灰。 |

H−11号住居跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ◎△ | As-C・Hr-FP10%。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ◎○ | As-C・Hr-FP 5%、焼土粒、炭化物。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |




Fig.26　E区H−8・9・11号住居跡

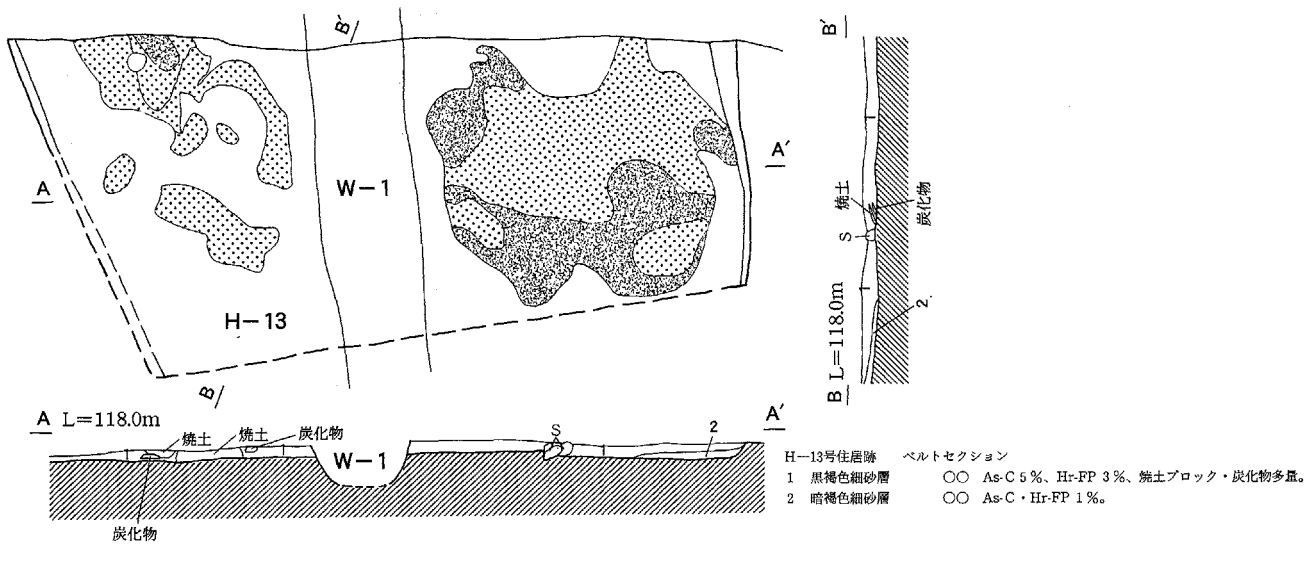



H－12号住居跡　ベルトセクション

1　暗褐色細砂層　○○　As-C 3％、焼土粒。
2　暗褐色細砂層　○○　As-C 5％、焼土粒、粘土質ブロック。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C 1％、粘土質ブロック。
4　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。
5　黒褐色細砂層　○○　粘土質。

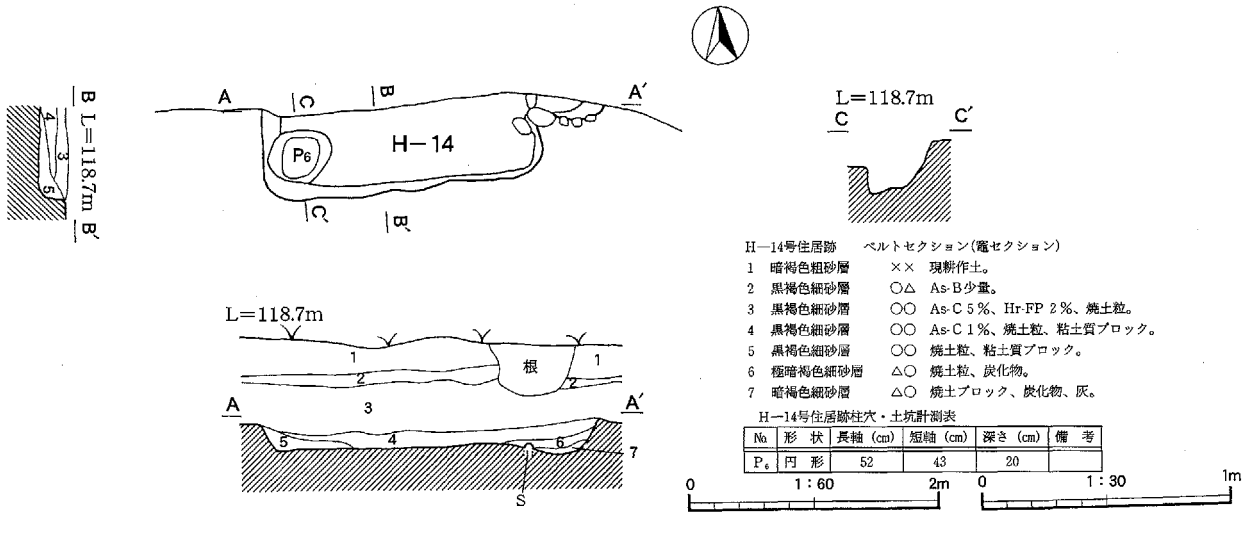
H－12号住居跡　竈セクション

1　黒褐色細砂層　○○　As-C 2％、焼土粒。
2　極暗赤褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　炭化物、灰。




H－13号住居跡　ベルトセクション

1　黒褐色細砂層　○○　As-C 5％、Hr-FP 3％、焼土ブロック・炭化物多量。
2　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％。




H－14号住居跡　ベルトセクション（竈セクション）

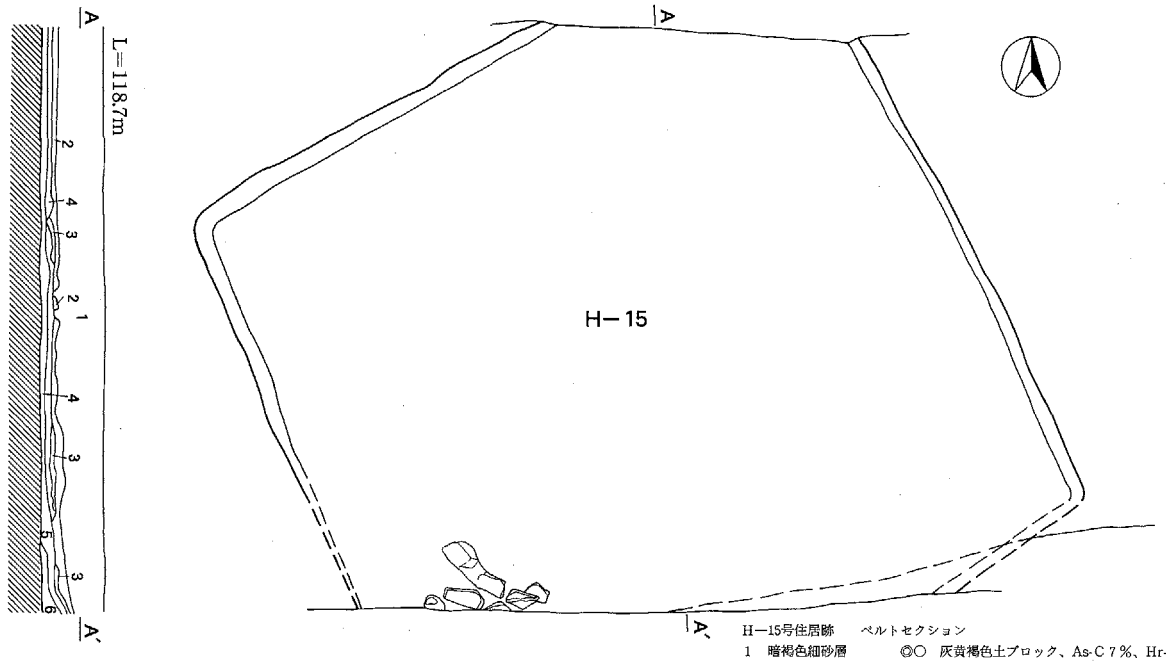
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　黒褐色細砂層　○△　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　○○　As-C 5％、Hr-FP 2％、焼土粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C 1％、焼土粒、粘土質ブロック。
5　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、粘土質ブロック。
6　極暗褐色細砂層　△○　焼土粒、炭化物。
7　暗褐色細砂層　△○　焼土ブロック、炭化物、灰。

H－14号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| P6 | 円　形 | 52 | 43 | 20 | |

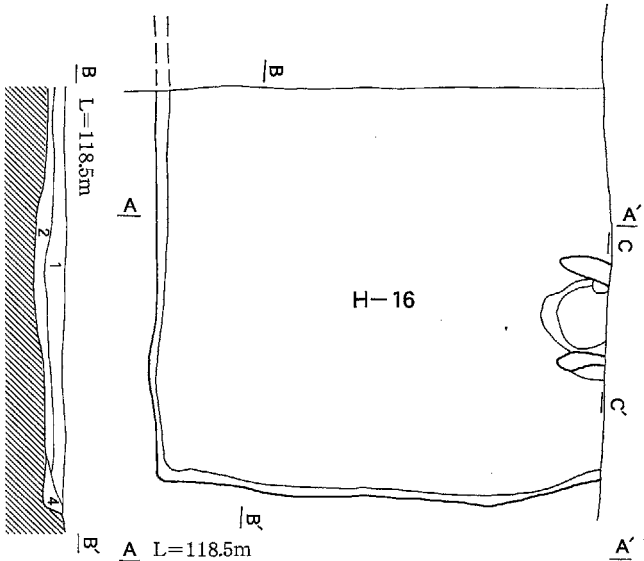
0　1：60　2m　　0　1：30　1m

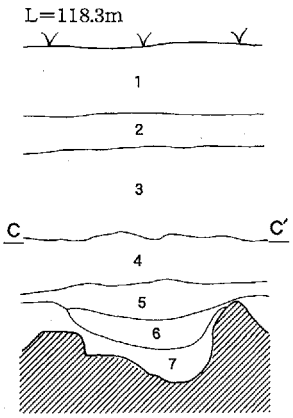
Fig.27　E区H－12～14号住居跡




H−15号住居跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ◎○ | 灰黄褐色土ブロック、As-C 7％、Hr-FP 5％、焼土粒。 |
| 2 | 褐色粗砂層 | ○× | As-C 2％、Hr-FP 1％、川砂。 |
| 3 | 褐色粗砂層 | ○× | 川砂。 |
| 4 | にぶい黄褐色細砂層 | ◎○ | Hr-FP 1％、川砂。 |
| 5 | 灰黄褐色微砂層 | ○◎ | 粘土質。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |



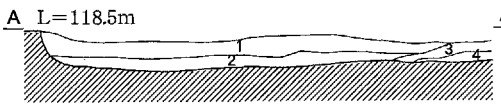



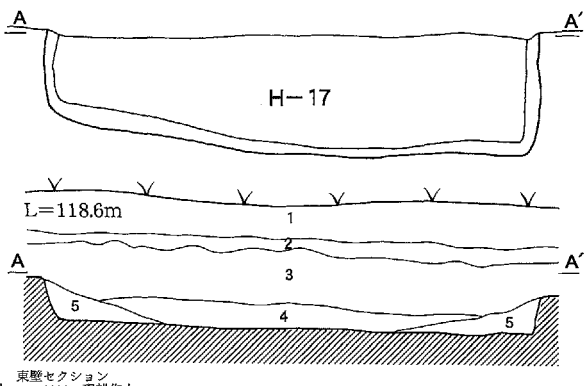

H−16号住居跡　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ◎○ | As-C 2％、Hr-FP 5％、焼土粒。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ◎○ | As-C 1％、焼土粒、炭化物。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |

H−16号住居跡　竈セクション

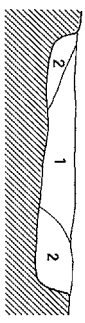
| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-B極少。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 3％、Hr-FP 2％、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 2％、焼土粒。 |
| 5 | 極暗褐色細砂層 | ○○ | As-C 5％、Hr-FP 2％、焼土粒。 |
| 6 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土ブロック主体、炭化物。 |
| 7 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物、灰。 |

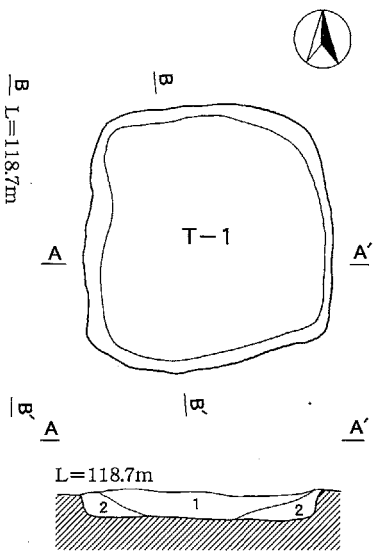



H−17号住居跡　東壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-B極少。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-C 3％、Hr-FP 2％、焼土粒、炭化物。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 2％、Hr-FP 1％、焼土粒、炭化物。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 1％、焼土粒、炭化物。 |



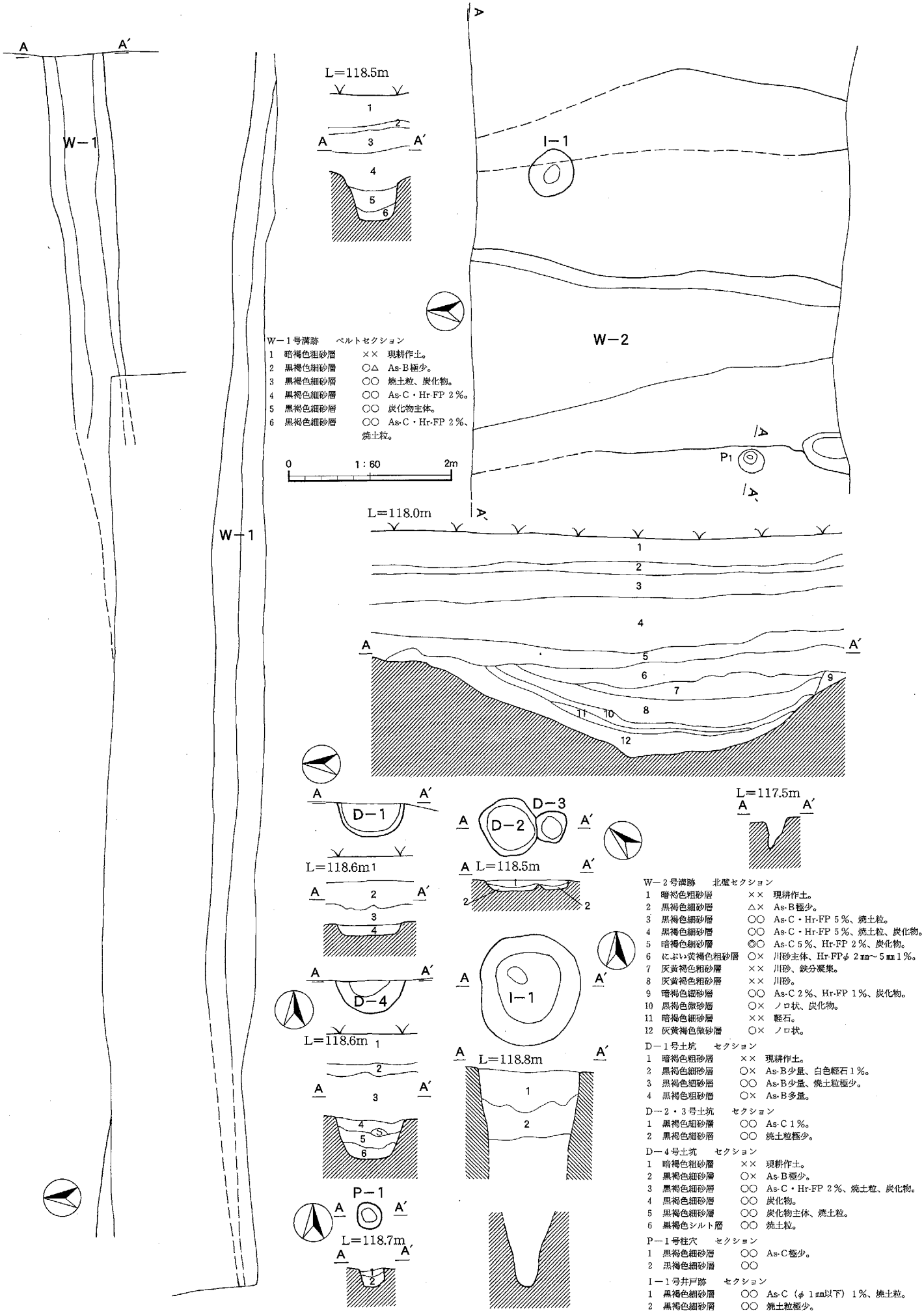




T−1号竪穴状遺構　ベルトセクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 2％、焼土粒。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C 1％、焼土粒、炭化物。 |

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.28　E区H−15〜17号住居跡、T−1号竪穴状遺構




W−1号溝跡　ベルトセクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○△ As-B極少。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ 焼土粒、炭化物。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C・Hr-FP 2%。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ 炭化物主体。 |
| 6 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C・Hr-FP 2%、焼土粒。 |

W−2号溝跡　北壁セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △× As-B極少。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C・Hr-FP 5%、焼土粒、炭化物。 |
| 5 | 暗褐色細砂層 | ◎○ As-C 5%、Hr-FP 2%、炭化物。 |
| 6 | にぶい黄褐色粗砂層 | ○× 川砂主体、Hr-FPφ 2mm～5mm 1%。 |
| 7 | 灰黄褐色粗砂層 | ×× 川砂、鉄分凝集。 |
| 8 | 灰黄褐色粗砂層 | ×× 川砂。 |
| 9 | 暗褐色細砂層 | ○○ As-C 2%、Hr-FP 1%、炭化物。 |
| 10 | 黒褐色微砂層 | ○× ノロ状、炭化物。 |
| 11 | 暗褐色細砂層 | ×× 軽石。 |
| 12 | 灰黄褐色微砂層 | ○× ノロ状。 |

D−1号土坑　セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○× As-B少量、白色軽石1%。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-B少量、焼土粒極少。 |
| 4 | 黒褐色粗砂層 | ○× As-B多量。 |

D−2・3号土坑　セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C 1%。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ 焼土粒極少。 |

D−4号土坑　セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○× As-B極少。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ 炭化物。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ 炭化物主体、焼土粒。 |
| 6 | 黒褐色シルト層 | ○○ 焼土粒。 |

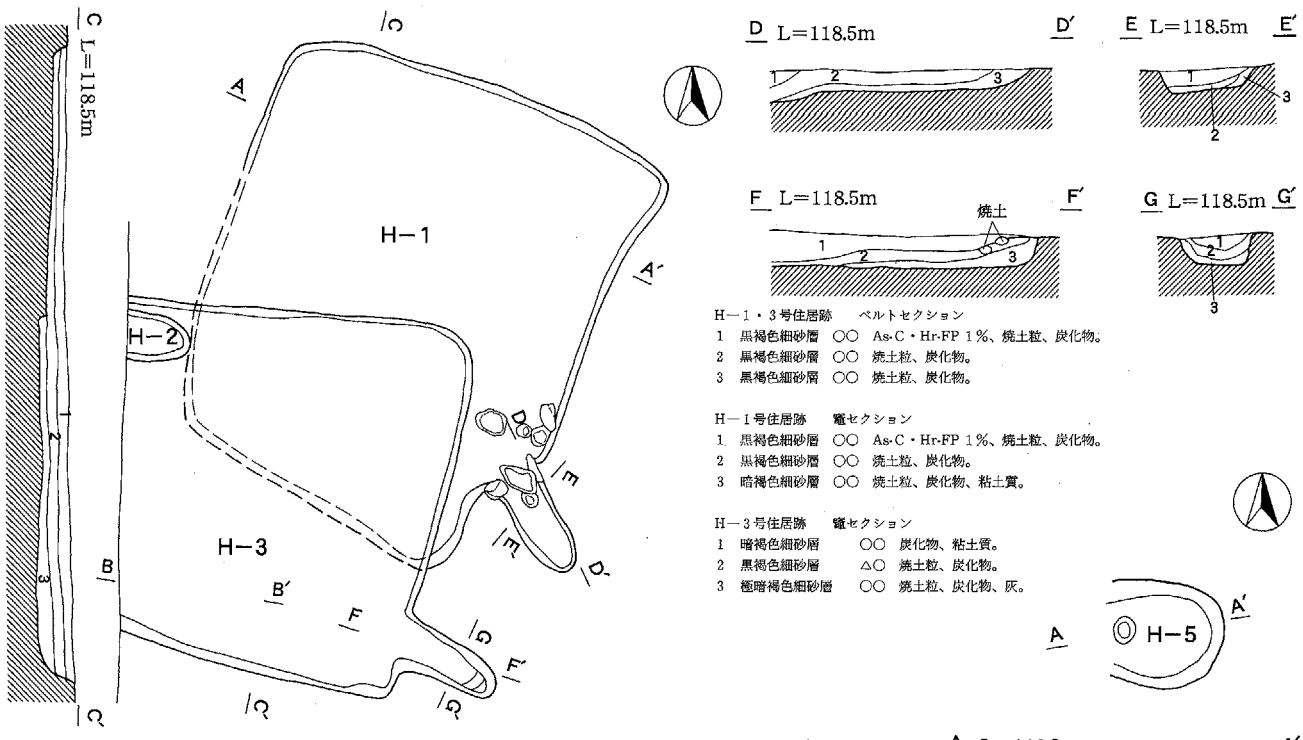
P−1号柱穴　セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C極少。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ |

I−1号井戸跡　セクション

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ As-C（φ 1mm以下）1%、焼土粒。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ 焼土粒極少。 |

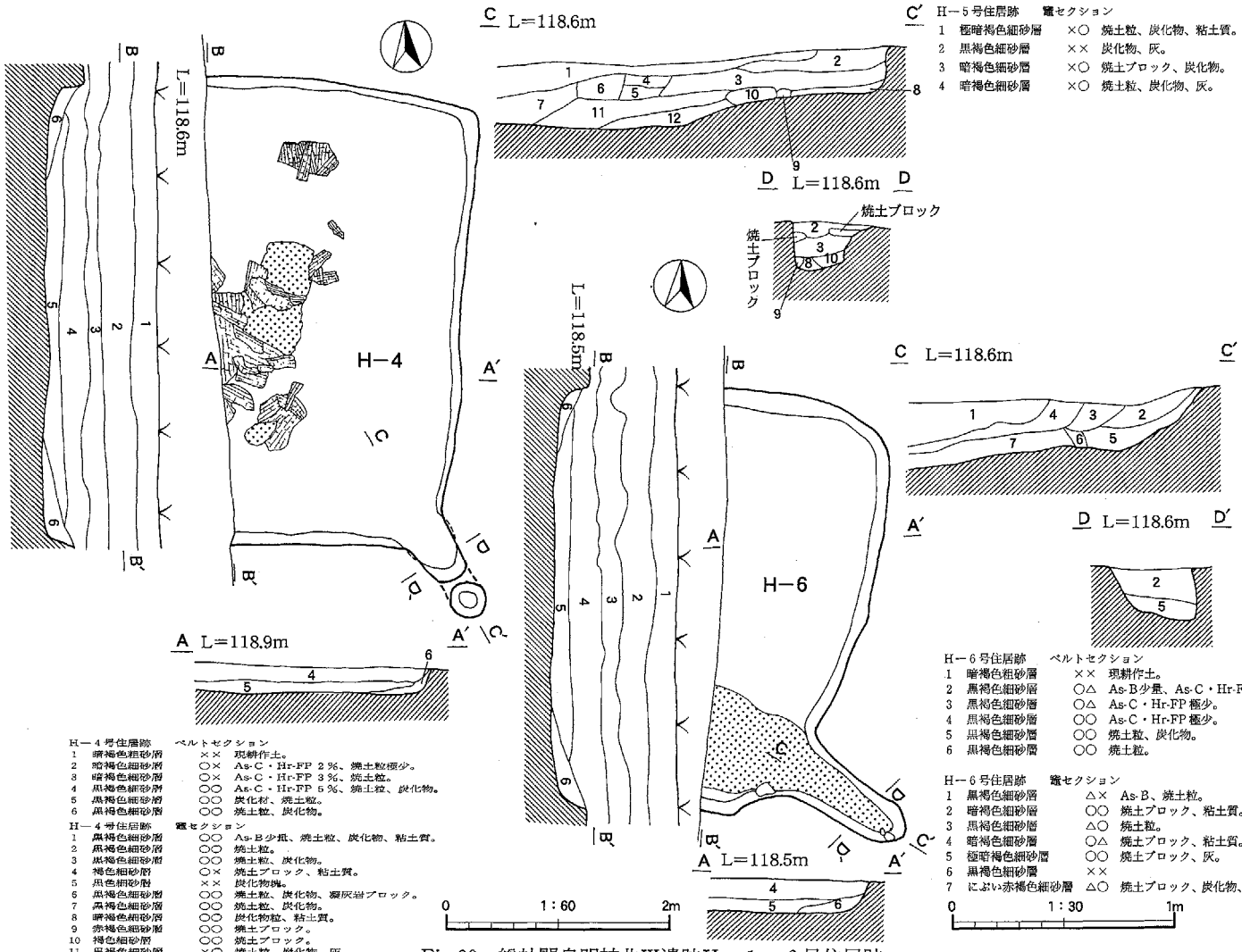
Fig.29　E区W−1・2号溝跡、D−1～4号土坑、P−1号柱穴、I−1号井戸跡




H−1・3号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

H−1号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
3　暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、粘土質。

H−3号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　○○　炭化物、粘土質。
2　黒褐色細砂層　△○　焼土粒、炭化物。
3　極暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、灰。




H−4号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒極少。
3　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 5%、焼土粒、炭化物。
5　黒褐色細砂層　○○　炭化材、焼土粒。
6　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

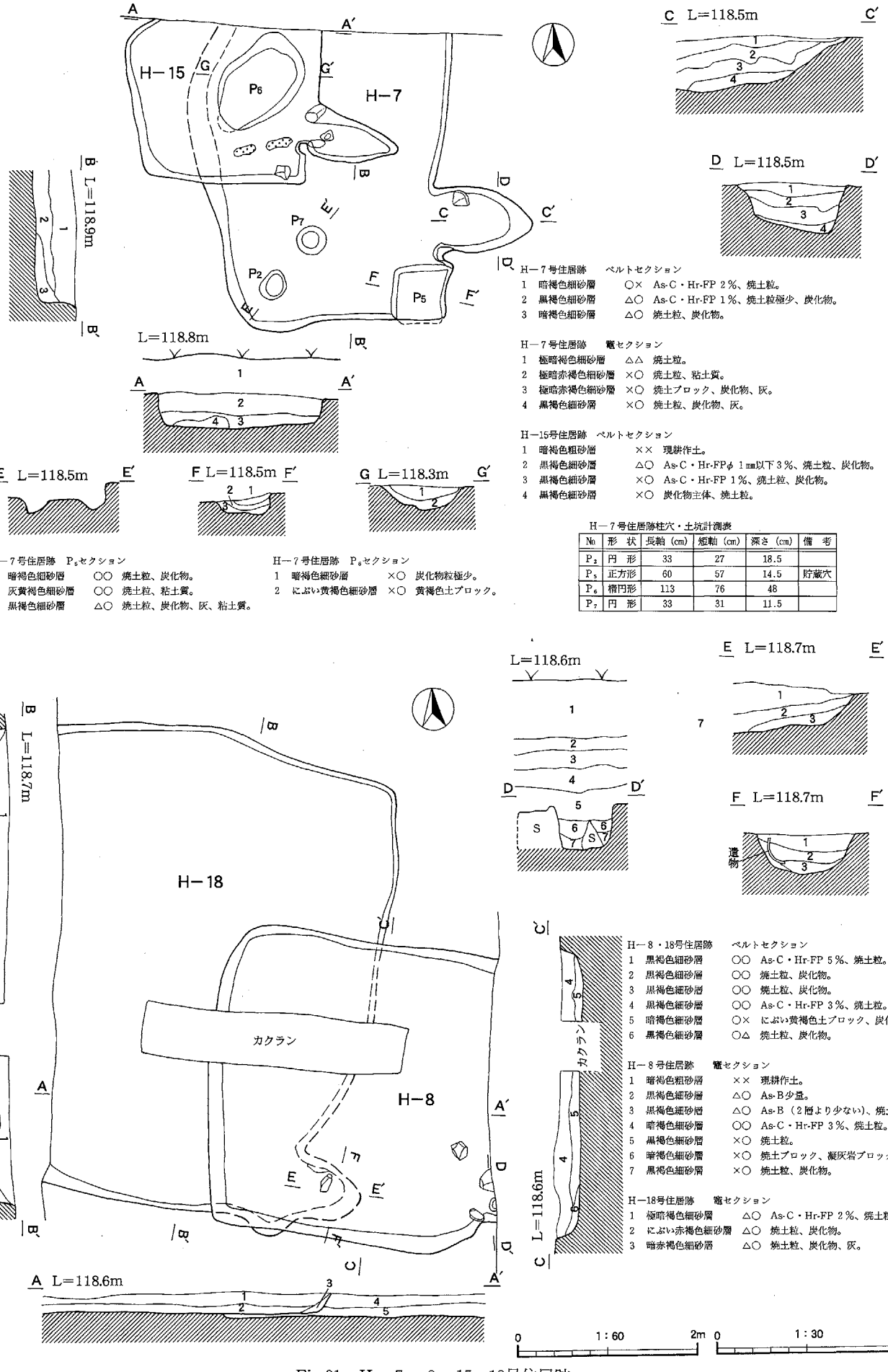
H−4号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　○○　As-B少量、焼土粒、炭化物、粘土質。
2　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
4　褐色細砂層　○×　焼土ブロック、粘土質。
5　黒色細砂層　××　炭化物機。
6　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物、凝灰岩ブロック。
7　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
8　暗褐色細砂層　○○　炭化物粒、粘土質。
9　赤褐色細砂層　○○　焼土ブロック。
10　褐色細砂層　○○　焼土ブロック。
11　黒褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物、灰。
12　黒色細砂層　××　焼土粒、炭化物微。

H−5号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物、粘土質。
2　黒褐色細砂層　××　炭化物、灰。
3　暗褐色細砂層　×○　焼土ブロック、炭化物。
4　暗褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物、灰。

H−6号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　黒褐色細砂層　○△　As-B少量、As-C・Hr-FP極少。
3　黒褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FP極少。
4　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP極少。
5　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
6　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。

H−6号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　△×　As-B、焼土粒。
2　暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック、粘土質。
3　黒褐色細砂層　△○　焼土粒。
4　暗色細砂層　○△　焼土ブロック、粘土質。
5　極暗褐色細砂層　○○　焼土ブロック、灰。
6　黒褐色細砂層　××
7　にぶい赤褐色細砂層　△○　焼土ブロック、炭化物、灰、粘土質。

Fig.30　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡H−1～6号住居跡




H−7号住居跡 ベルトセクション
1 暗褐色細砂層 ○× As-C・Hr-FP 2%、焼土粒。
2 黒褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP 1%、焼土粒極少、炭化物。
3 暗褐色細砂層 △○ 焼土粒、炭化物。

H−7号住居跡 竈セクション
1 極暗褐色細砂層 △△ 焼土粒。
2 極暗赤褐色細砂層 ×○ 焼土粒、粘土質。
3 極暗赤褐色細砂層 ×○ 焼土ブロック、炭化物、灰。
4 黒褐色細砂層 ×○ 焼土粒、炭化物、灰。

H−15号住居跡 ベルトセクション
1 暗褐色粗砂層 ×× 現耕作土。
2 黒褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FPφ 1mm以下3%、焼土粒、炭化物。
3 黒褐色細砂層 ×○ As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。
4 黒褐色細砂層 ×○ 炭化物主体、焼土粒。

H−7号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形 状 | 長軸 (cm) | 短軸 (cm) | 深さ (cm) | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_2$ | 円 形 | 33 | 27 | 18.5 | |
| $P_5$ | 正方形 | 60 | 57 | 14.5 | 貯蔵穴 |
| $P_6$ | 楕円形 | 113 | 76 | 48 | |
| $P_7$ | 円 形 | 33 | 31 | 11.5 | |

H−7号住居跡 $P_6$セクション
1 暗褐色細砂層 ○○ 焼土粒、炭化物。
2 灰黄褐色細砂層 ○○ 焼土粒、粘土質。
3 黒褐色細砂層 △○ 焼土粒、炭化物、灰、粘土質。

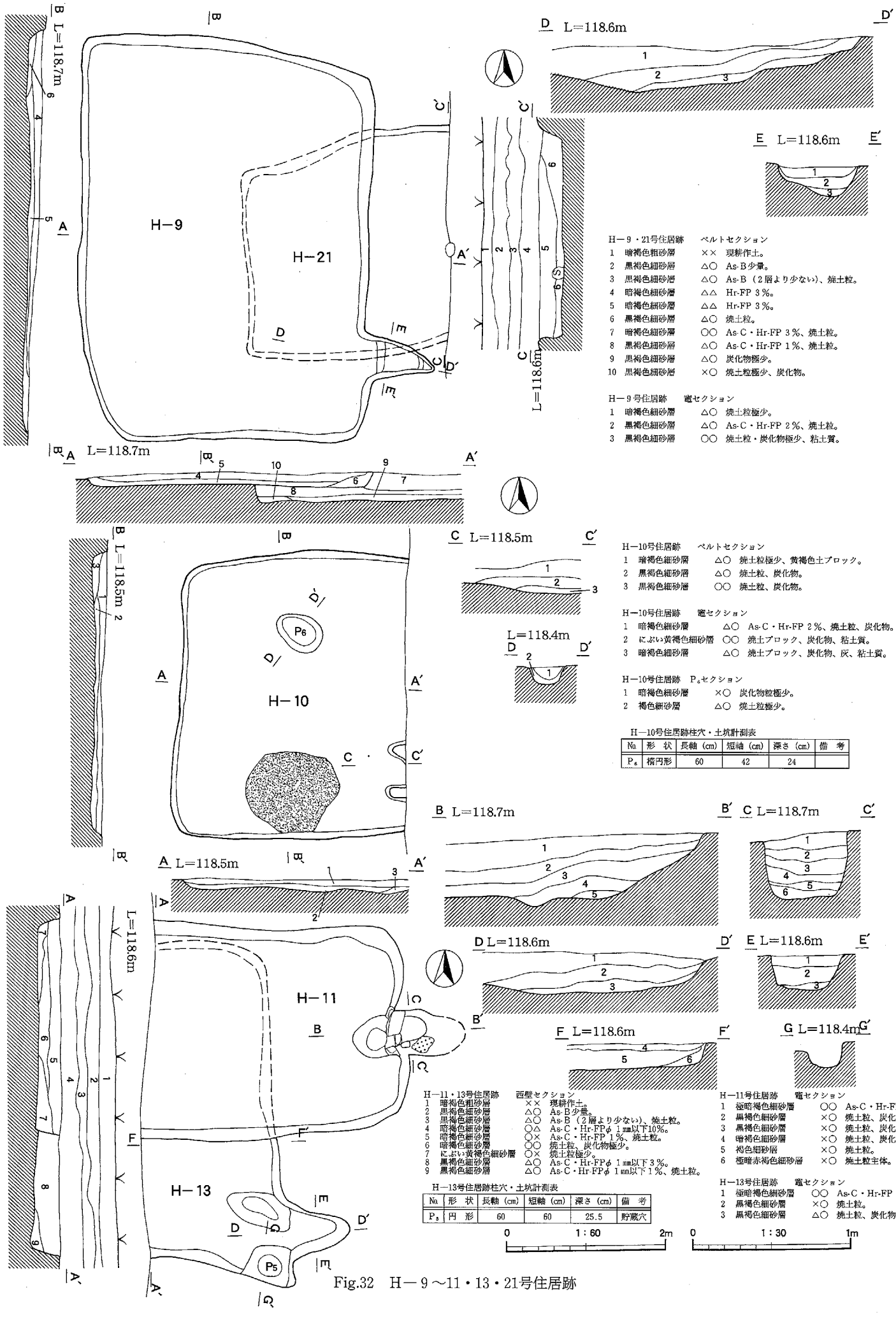
H−7号住居跡 $P_6$セクション
1 暗褐色細砂層 ×○ 炭化物粒極少。
2 にぶい黄褐色細砂層 ×○ 黄褐色土ブロック。

H−8・18号住居跡 ベルトセクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 5%、焼土粒。
2 黒褐色細砂層 ○○ 焼土粒、炭化物。
3 黒褐色細砂層 ○○ 焼土粒、炭化物。
4 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。
5 暗褐色細砂層 ○× にぶい黄褐色土ブロック、炭化物。
6 黒褐色細砂層 ○△ 焼土粒、炭化物。

H−8号住居跡 竈セクション
1 暗褐色粗砂層 ×× 現耕作土。
2 黒褐色細砂層 △○ As-B少量。
3 黒褐色細砂層 △○ As-B（2層より少ない）、焼土粒。
4 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。
5 黒褐色細砂層 ×○ 焼土粒。
6 暗褐色細砂層 ×○ 焼土ブロック、凝灰岩ブロック。
7 黒褐色細砂層 ×○ 焼土粒、炭化物。

H−18号住居跡 竈セクション
1 極暗褐色細砂層 △○ As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。
2 にぶい赤褐色細砂層 △○ 焼土粒、炭化物。
3 暗赤褐色細砂層 △○ 焼土粒、炭化物、灰。

Fig.31 H−7・8・15・18号住居跡




H−9・21号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　黒褐色細砂層　△○　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　△○　As-B（2層より少ない）、焼土粒。
4　暗褐色細砂層　△△　Hr-FP 3%。
5　暗褐色細砂層　△△　Hr-FP 3%。
6　黒褐色細砂層　△○　焼土粒。
7　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 3%、焼土粒。
8　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒。
9　黒褐色細砂層　△○　炭化物極少。
10　黒褐色細砂層　×○　焼土粒極少、炭化物。

H−9号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　△○　焼土粒極少。
2　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒・炭化物極少、粘土質。

H−10号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　△○　焼土粒極少、黄褐色土ブロック。
2　黒褐色細砂層　△○　焼土粒、炭化物。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

H−10号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物。
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　焼土ブロック、炭化物、粘土質。
3　暗褐色細砂層　△○　焼土ブロック、炭化物、灰、粘土質。

H−10号住居跡　$P_6$セクション
1　暗褐色細砂層　×○　炭化物粒極少。
2　褐色細砂層　△○　焼土粒極少。

H−10号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_6$ | 楕円形 | 60 | 42 | 24 | |

H−11・13号住居跡　西壁セクション
1　暗褐色粗砂層　××　現耕作土。
2　黒褐色細砂層　△○　As-B少量。
3　黒褐色細砂層　△○　As-B（2層より少ない）、焼土粒。
4　暗褐色細砂層　○△　As-C・Hr-FPφ 1㎜以下10%。
5　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 1%、焼土粒。
6　暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物極少。
7　にぶい黄褐色細砂層　○×　焼土粒極少。
8　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FPφ 1㎜以下3%。
9　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FPφ 1㎜以下1%、焼土粒。

H−13号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形　状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_5$ | 円　形 | 60 | 60 | 25.5 | 貯蔵穴 |

H−11号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1%。
2　黒褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物粒極少。
3　黒褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物極少。
4　暗褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物。
5　褐色細砂層　×○　焼土粒。
6　極暗赤褐色細砂層　×○　焼土粒主体。

H−13号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1%。
2　黒褐色細砂層　×○　焼土粒。
3　黒褐色細砂層　△○　焼土粒、炭化物。

0　1：60　2m　　0　1：30　1m

Fig.32　H−9〜11・13・21号住居跡

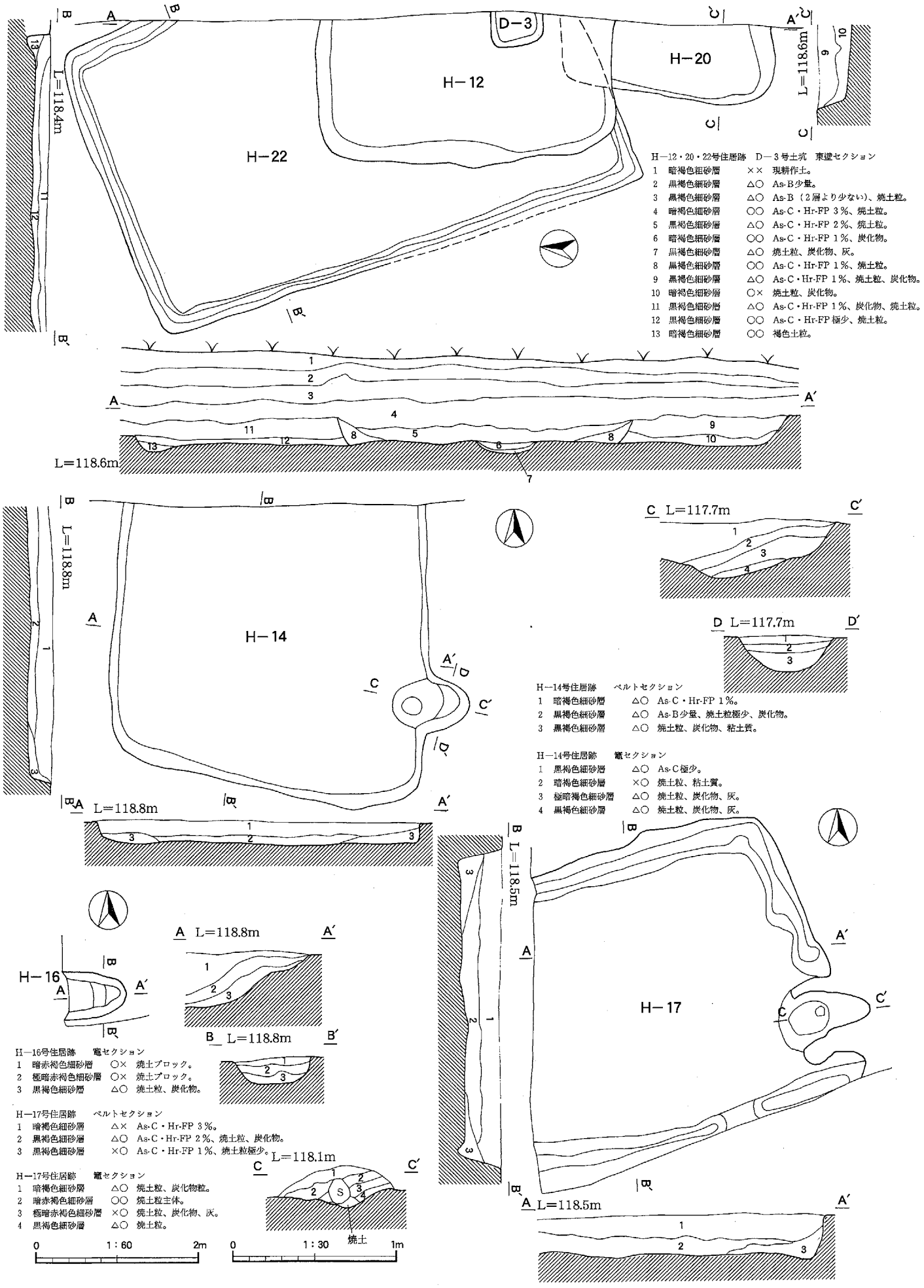
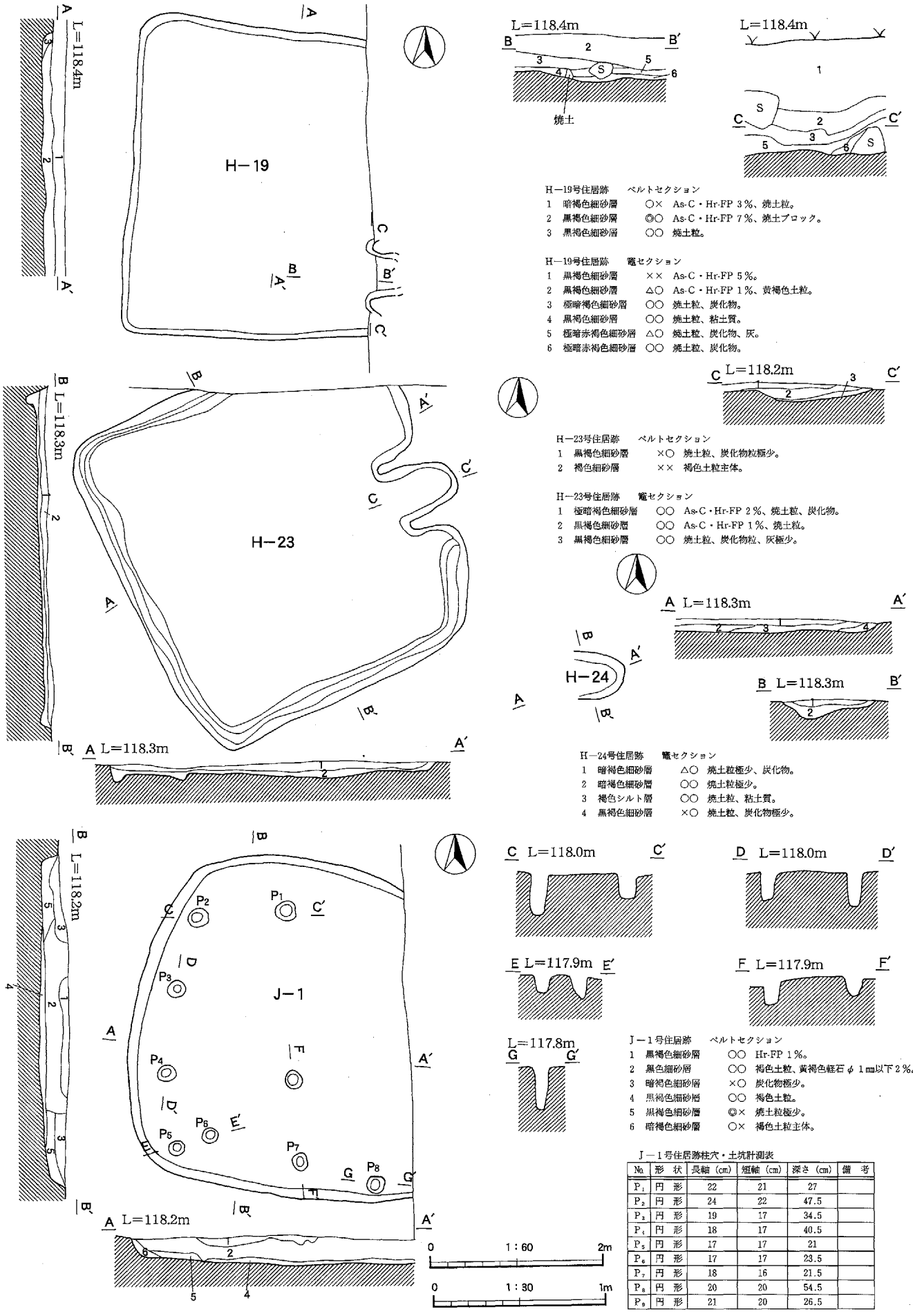



Fig.33　H−12・14・16・17・20・22号住居跡、D−3号土坑




H−19号住居跡　ベルトセクション
1　暗褐色細砂層　○×　As-C・Hr-FP 3％、焼土粒。
2　黒褐色細砂層　◎○　As-C・Hr-FP 7％、焼土ブロック。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒。

H−19号住居跡　竈セクション
1　黒褐色細砂層　××　As-C・Hr-FP 5％。
2　黒褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP 1％、黄褐色土粒。
3　極暗褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。
4　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、粘土質。
5　極暗赤褐色細砂層　△○　焼土粒、炭化物、灰。
6　極暗赤褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物。

H−23号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物粒極少。
2　褐色細砂層　××　褐色土粒主体。

H−23号住居跡　竈セクション
1　極暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 2％、焼土粒、炭化物。
2　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 1％、焼土粒。
3　黒褐色細砂層　○○　焼土粒、炭化物粒、灰極少。

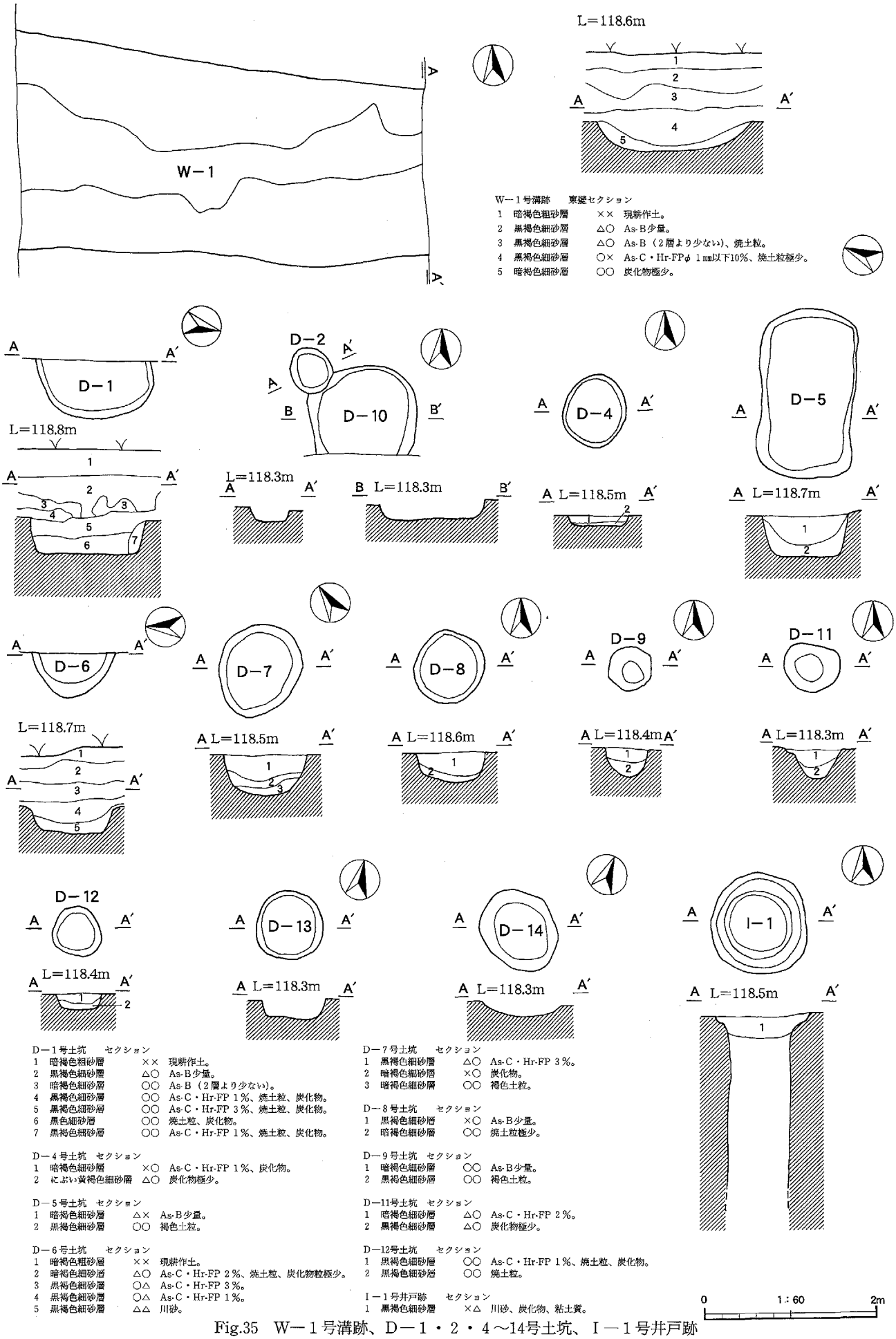
H−24号住居跡　竈セクション
1　暗褐色細砂層　△○　焼土粒極少、炭化物。
2　暗褐色細砂層　○○　焼土粒極少。
3　褐色シルト層　○○　焼土粒、粘土質。
4　黒褐色細砂層　×○　焼土粒、炭化物極少。

J−1号住居跡　ベルトセクション
1　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP 1％。
2　黒色細砂層　○○　褐色土粒、黄褐色軽石 φ 1㎜以下2％。
3　暗褐色細砂層　×○　炭化物極少。
4　黒褐色細砂層　○○　褐色土粒。
5　黒褐色細砂層　◎×　焼土粒極少。
6　暗褐色細砂層　○×　褐色土粒主体。

J−1号住居跡柱穴・土坑計測表

| No | 形状 | 長軸（cm） | 短軸（cm） | 深さ（cm） | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| $P_1$ | 円形 | 22 | 21 | 27 | |
| $P_2$ | 円形 | 24 | 22 | 47.5 | |
| $P_3$ | 円形 | 19 | 17 | 34.5 | |
| $P_4$ | 円形 | 18 | 17 | 40.5 | |
| $P_5$ | 円形 | 17 | 17 | 21 | |
| $P_6$ | 円形 | 17 | 17 | 23.5 | |
| $P_7$ | 円形 | 18 | 16 | 21.5 | |
| $P_8$ | 円形 | 20 | 20 | 54.5 | |
| $P_9$ | 円形 | 21 | 20 | 26.5 | |

Fig.34　H−19・23・24号住居跡、J−1号住居跡




W－1号溝跡　東壁セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △○ | As-B少量。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | △○ | As-B（2層より少ない）、焼土粒。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○× | As-C・Hr-FPφ 1㎜以下10%、焼土粒極少。 |
| 5 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 炭化物極少。 |

D－1号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △○ | As-B少量。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-B（2層より少ない）。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 3%、焼土粒、炭化物。 |
| 6 | 黒色細砂層 | ○○ | 焼土粒、炭化物。 |
| 7 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。 |

D－4号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ×○ | As-C・Hr-FP 1%、炭化物。 |
| 2 | にぶい黄褐色細砂層 | △○ | 炭化物極少。 |

D－5号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | △× | As-B少量。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 褐色土粒。 |

D－6号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色粗砂層 | ×× | 現耕作土。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | △○ | As-C・Hr-FP 2%、焼土粒、炭化物粒極少。 |
| 3 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-C・Hr-FP 3%。 |
| 4 | 黒褐色細砂層 | ○△ | As-C・Hr-FP 1%。 |
| 5 | 黒褐色細砂層 | △△ | 川砂。 |

D－7号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | △○ | As-C・Hr-FP 3%。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ×○ | 炭化物。 |
| 3 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 褐色土粒。 |

D－8号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ×○ | As-B少量。 |
| 2 | 暗褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒極少。 |

D－9号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | ○○ | As-B少量。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 褐色土粒。 |

D－11号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 暗褐色細砂層 | △○ | As-C・Hr-FP 2%。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | △○ | 炭化物極少。 |

D－12号土坑　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ○○ | As-C・Hr-FP 1%、焼土粒、炭化物。 |
| 2 | 黒褐色細砂層 | ○○ | 焼土粒。 |

I－1号井戸跡　セクション

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1 | 黒褐色細砂層 | ×△ | 川砂、炭化物、粘土質。 |

Fig.35　W－1号溝跡、D－1・2・4～14号土坑、I－1号井戸跡

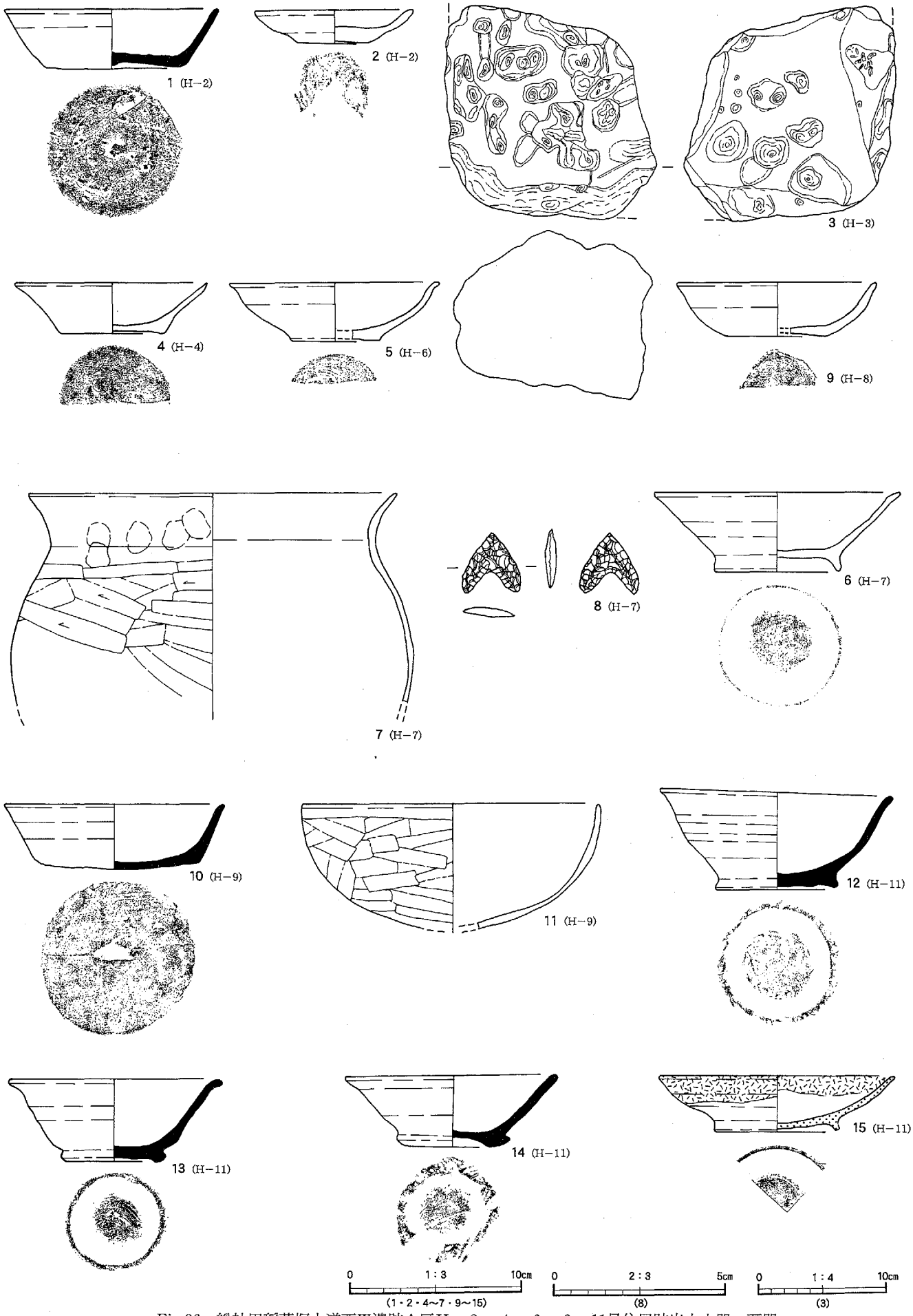
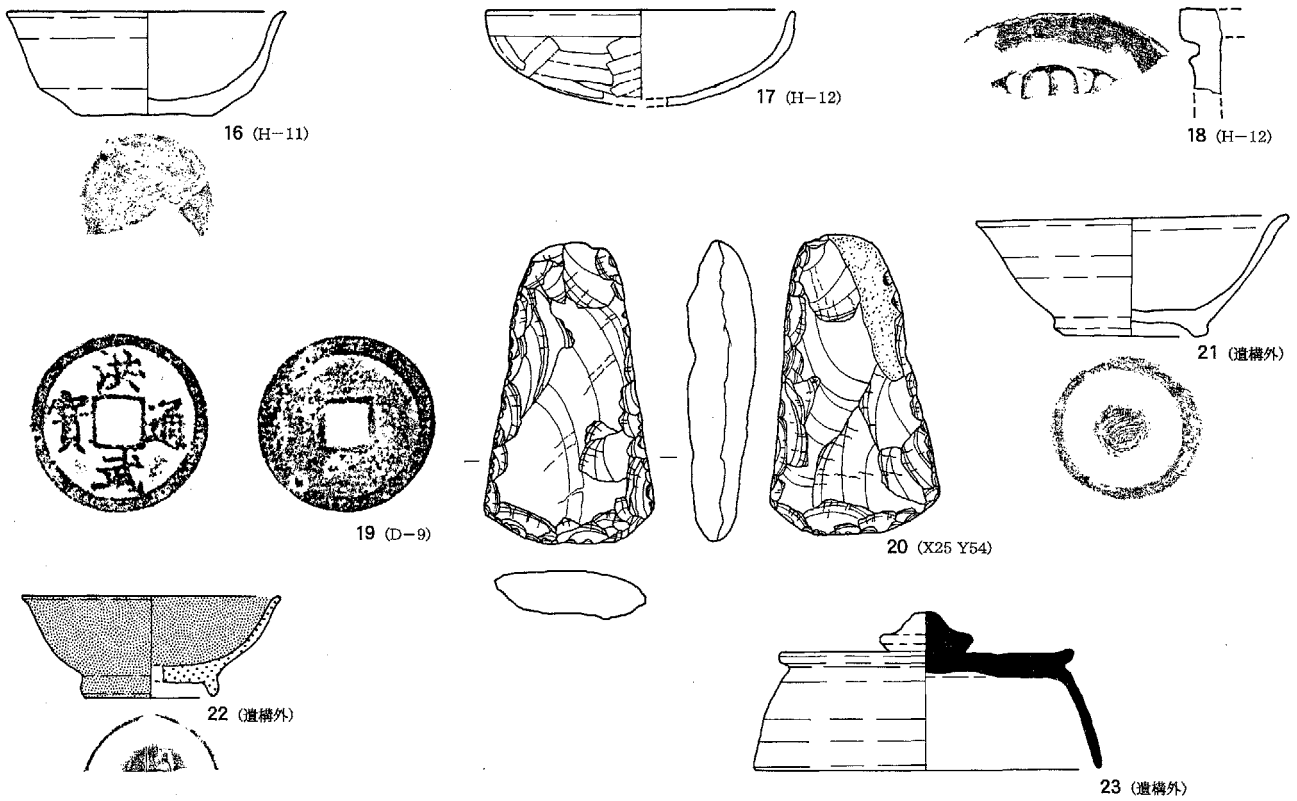



Fig.36　総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡A区H−2〜4・6〜9・11号住居跡出土土器・石器




総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡D区

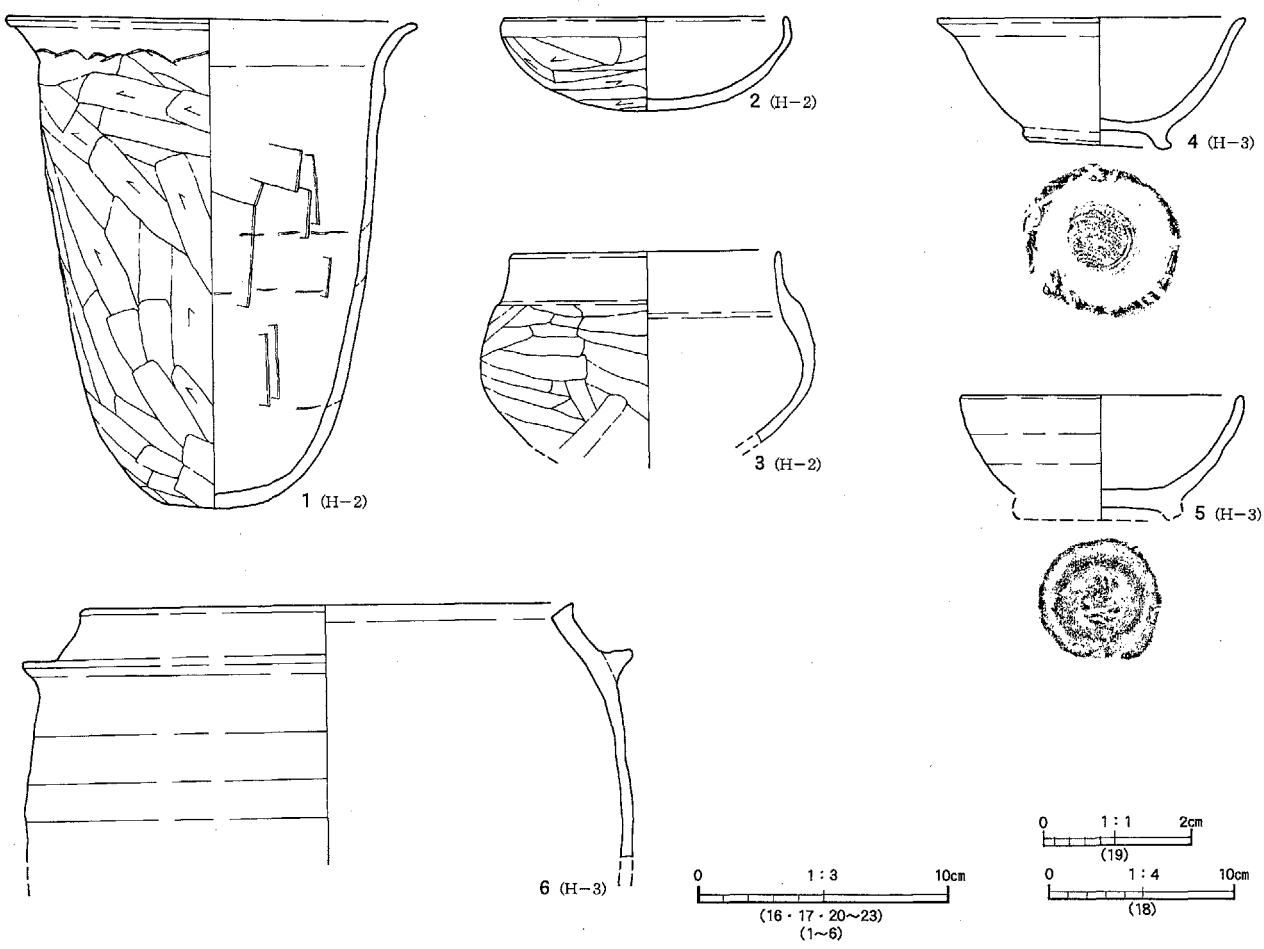
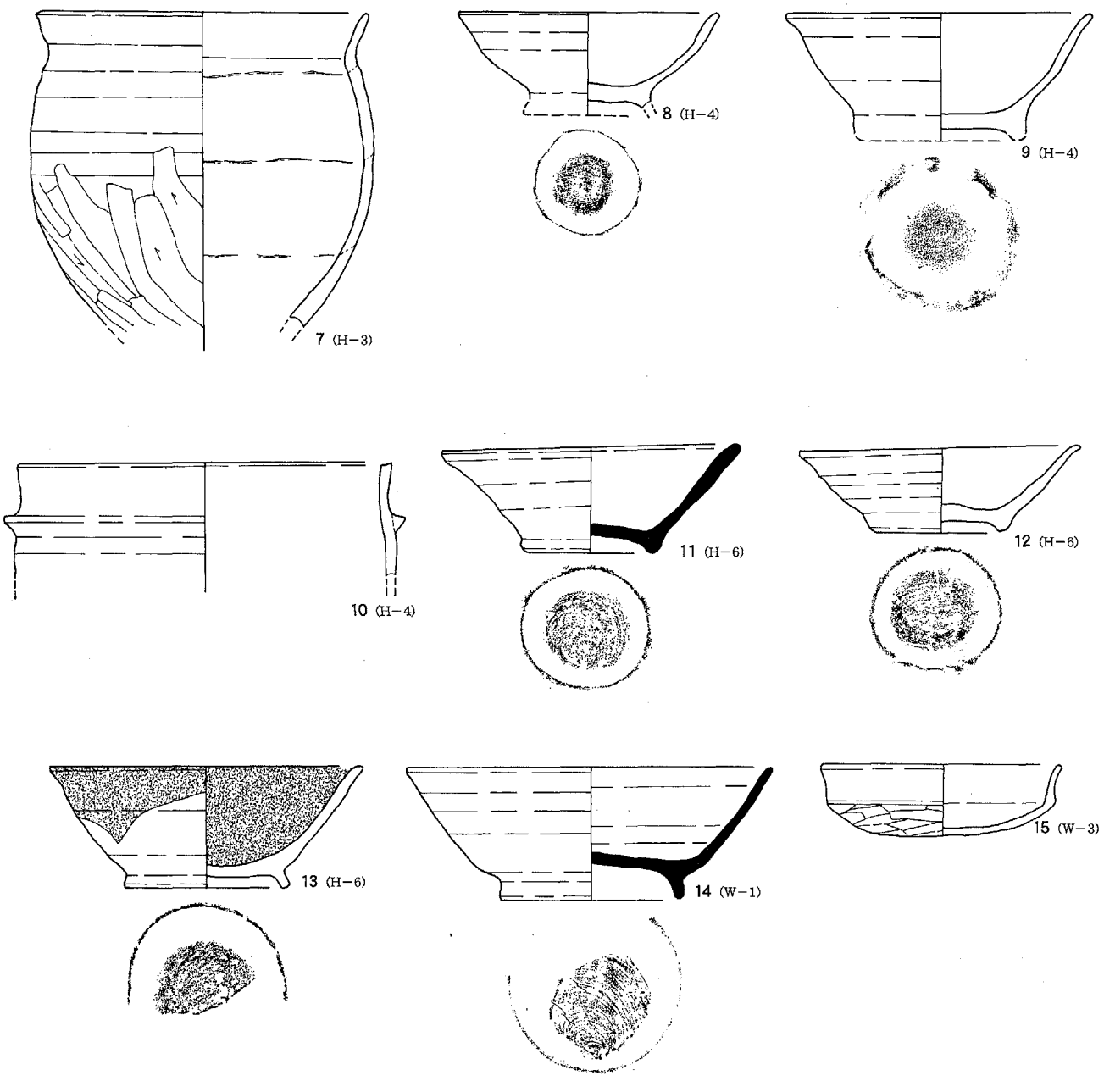



Fig.37　A区H−11・12号住居跡、D−9号土坑、グリッド、遺構外出土土器・瓦・銭貨・石器
総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡D区H−2・3号住居跡出土土器




**総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡E区**

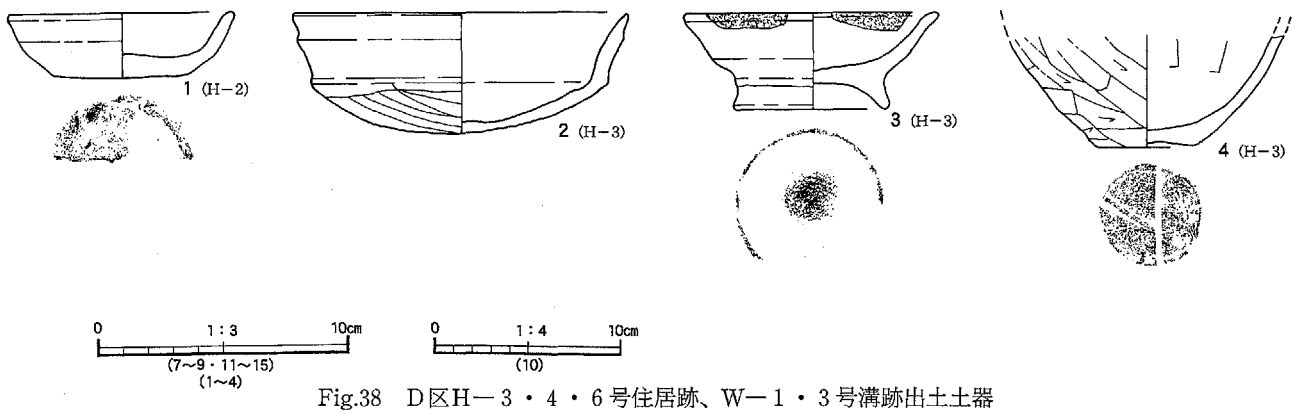



Fig.38　D区H－3・4・6号住居跡、W－1・3号溝跡出土土器
総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡E区H－2・3号住居跡出土土器

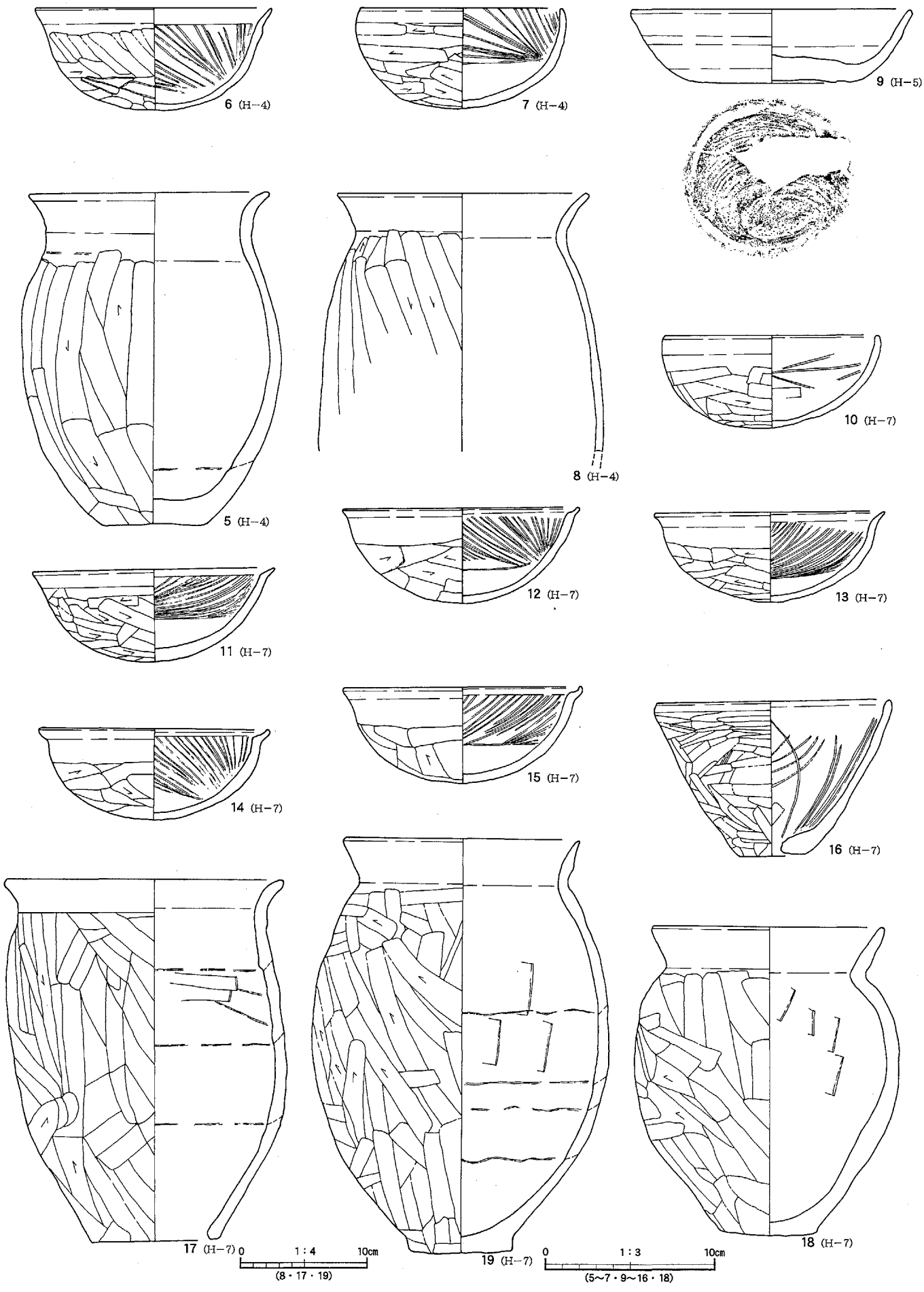



Fig.39　E区H−4・5・7号住居跡出土土器

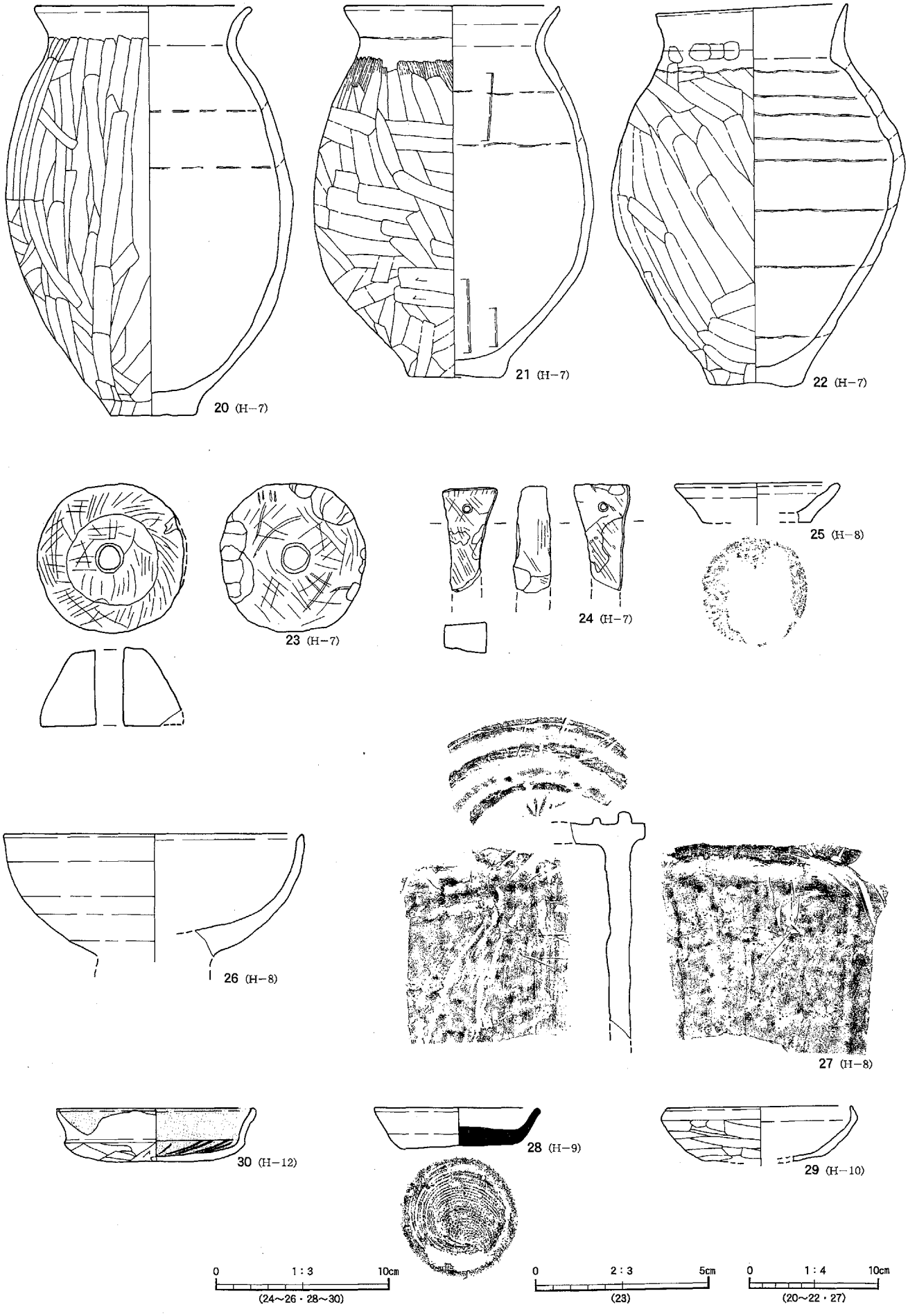



Fig.40　E区H−7〜10・12号住居跡出土土器・石器・瓦

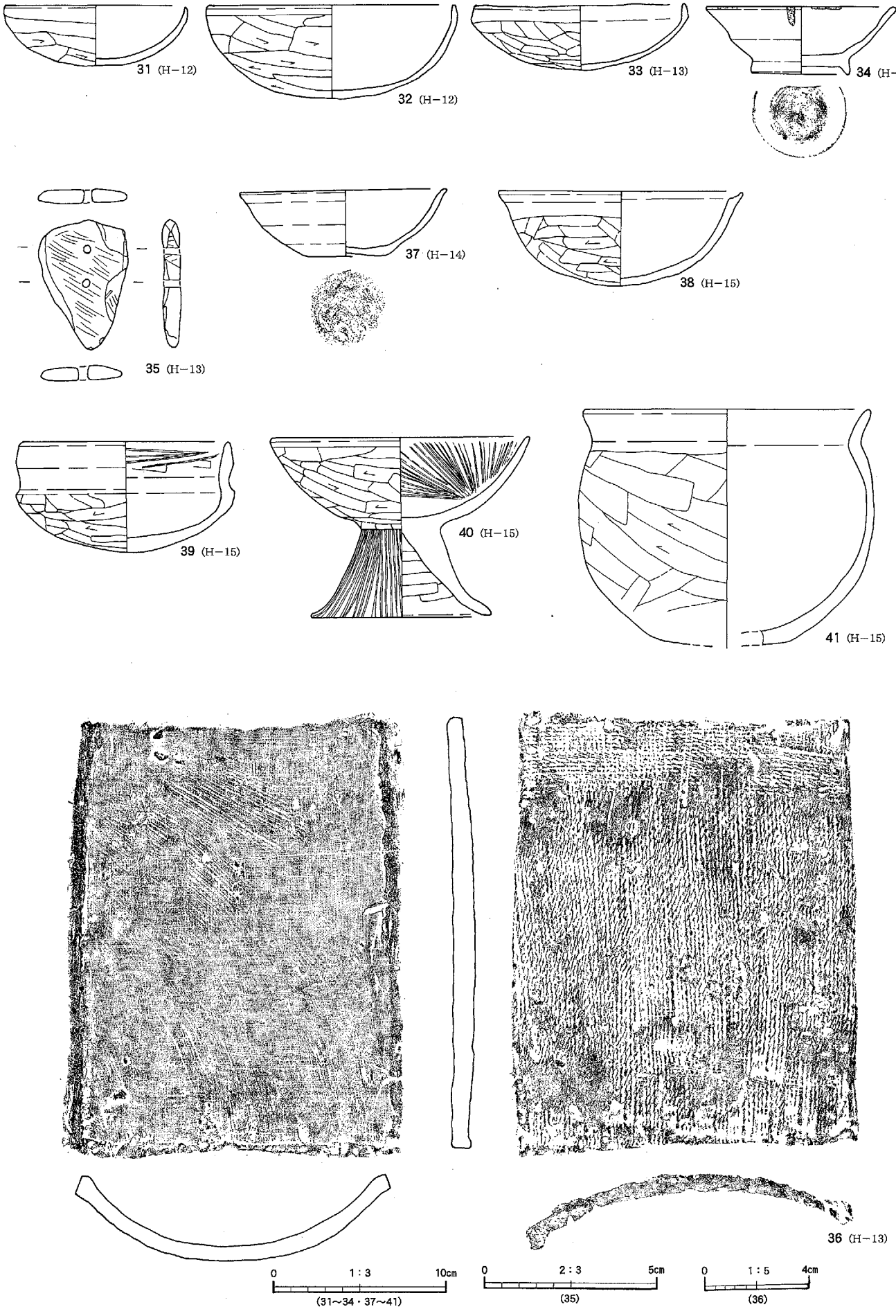



Fig.41　E区H−12～15号住居跡出土土器・石器・瓦

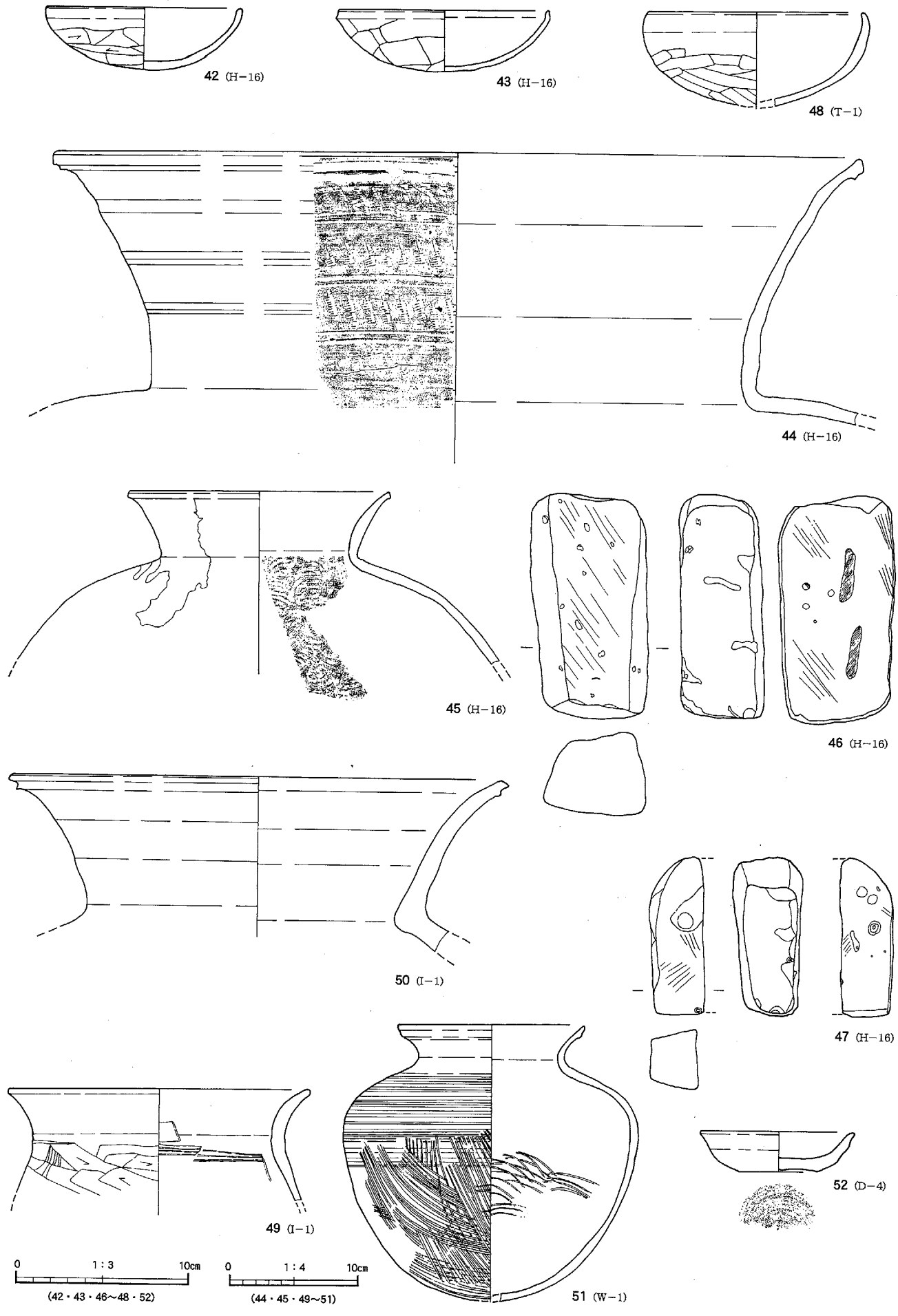



Fig.42　E区H−16号住居跡、W−1号溝跡、D−4号土坑、I−1号井戸跡出土土器・石器

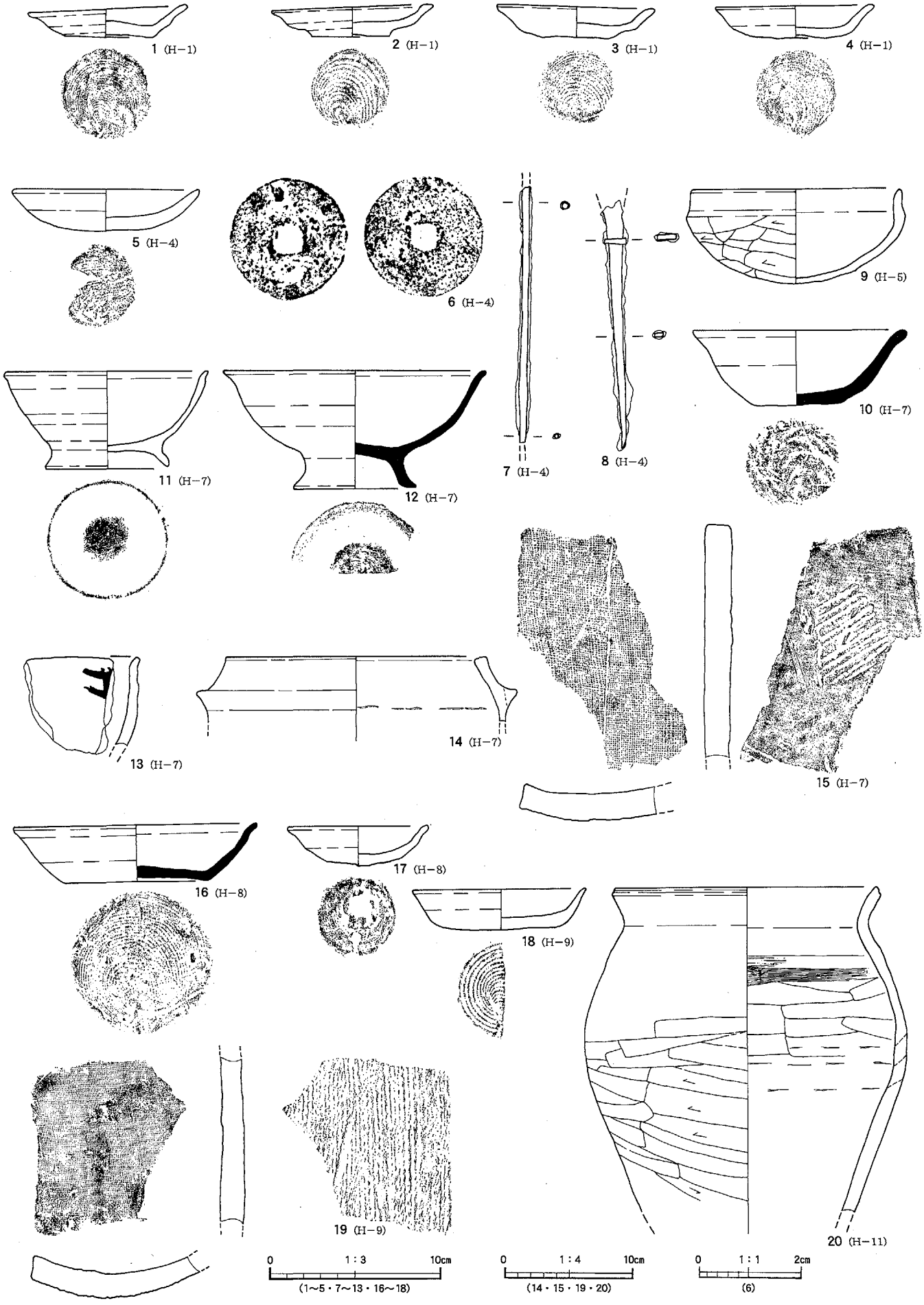



Fig.43　総社閑泉明神北Ⅲ遺跡H－1・4・5・7～9・11号住居跡出土土器・鉄器・瓦

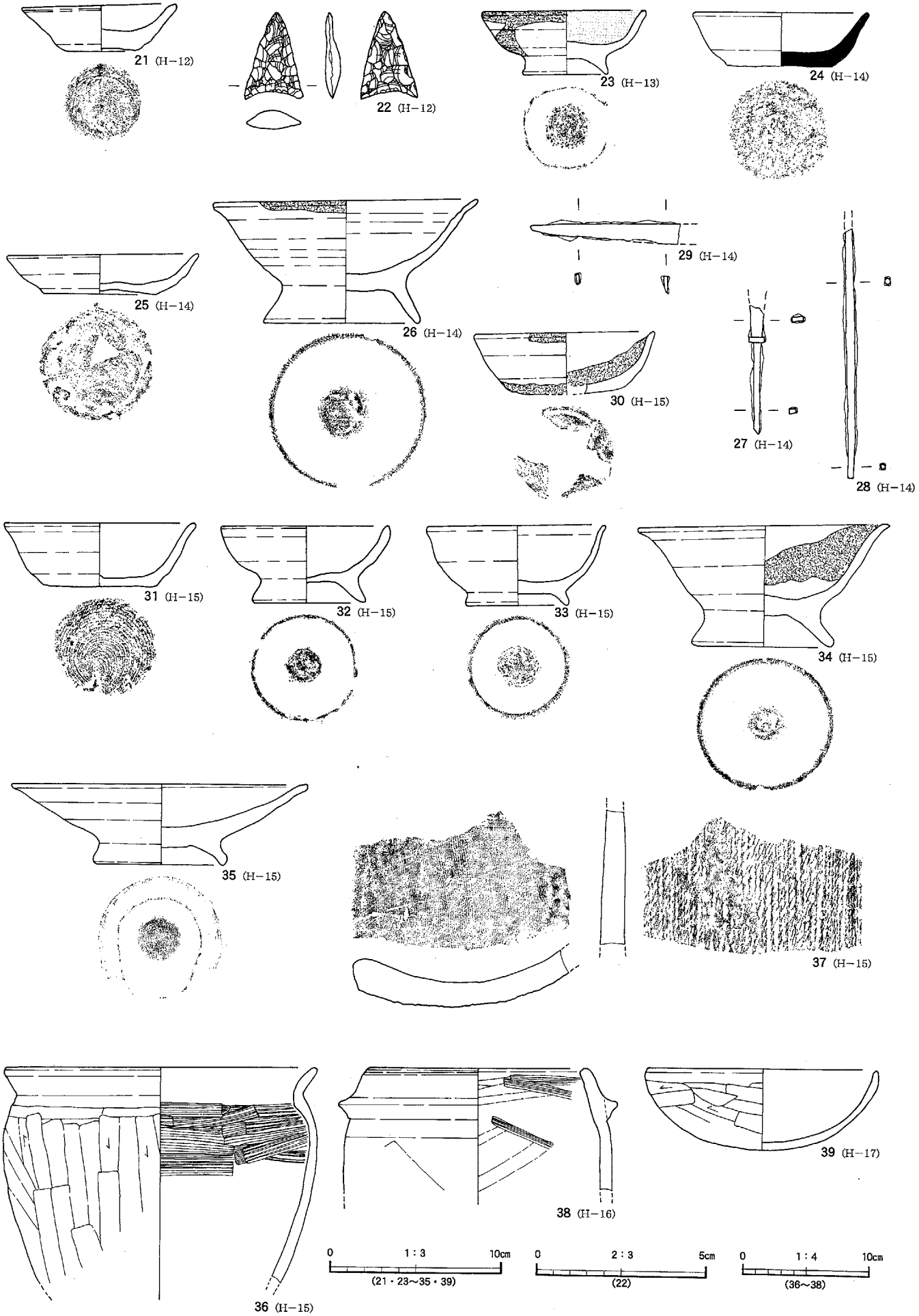
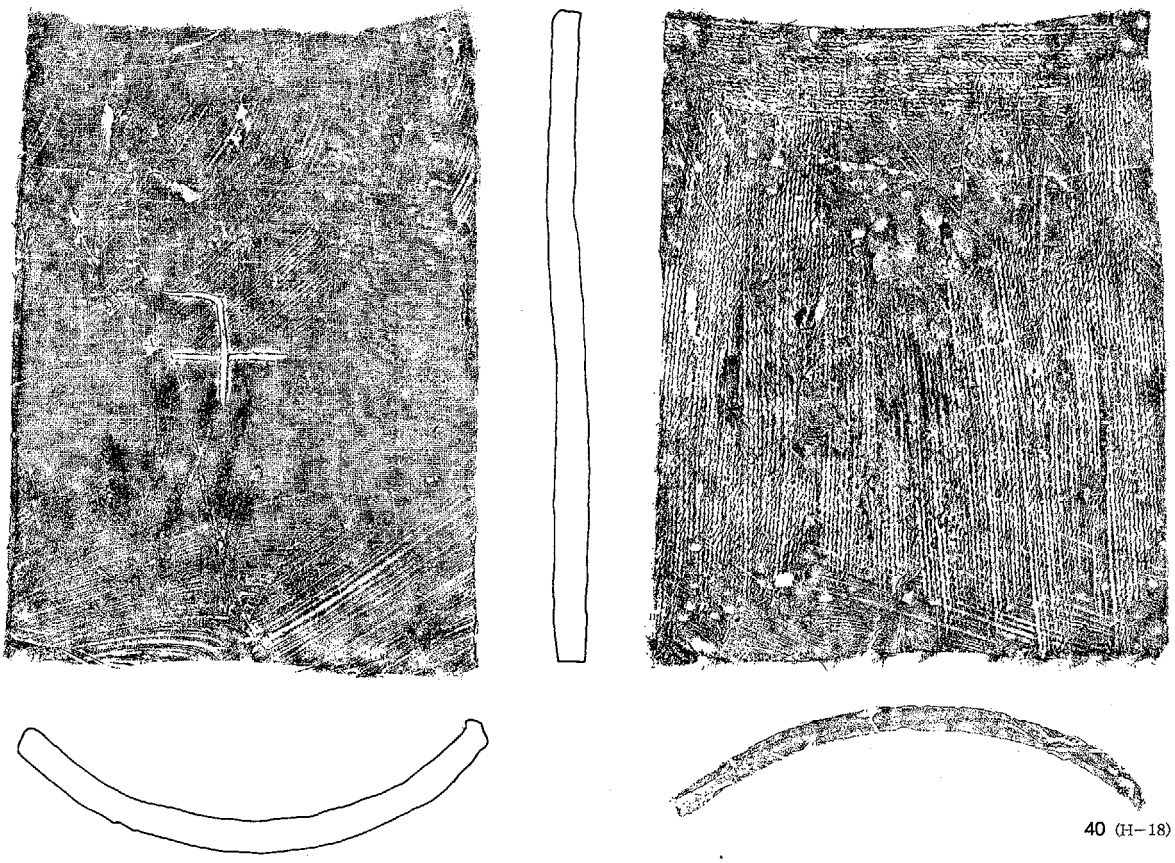
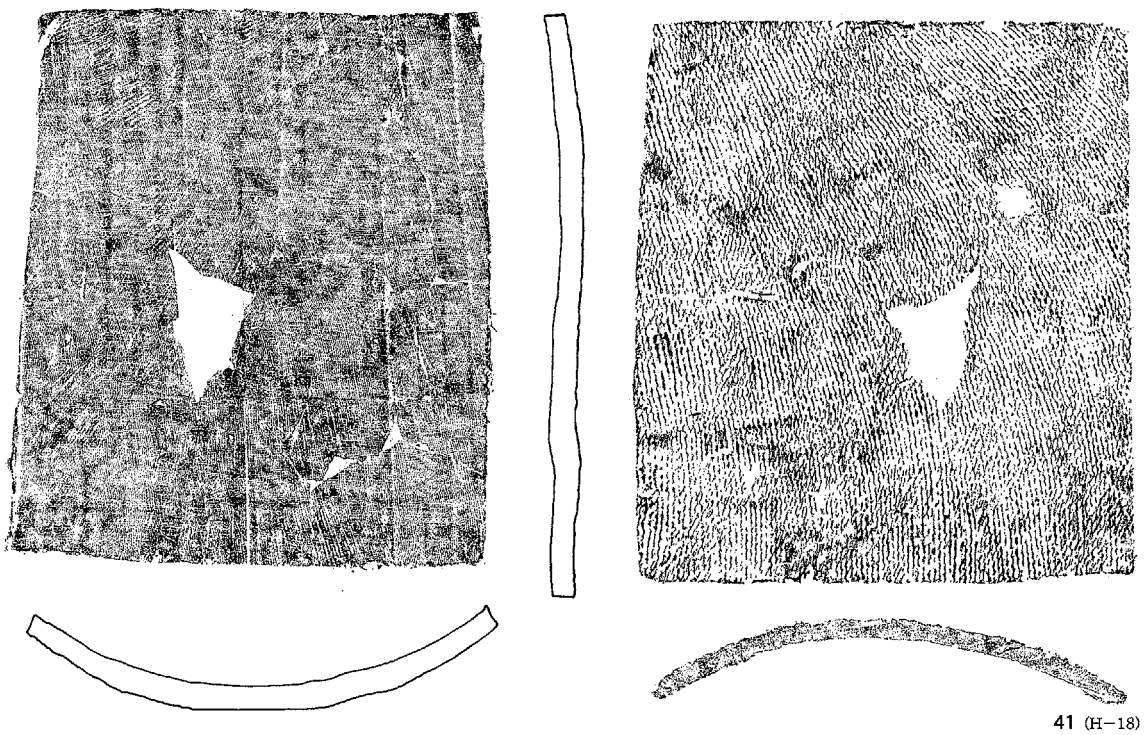



Fig.44　H−12〜17号住居跡出土土器・石器・鉄器・瓦



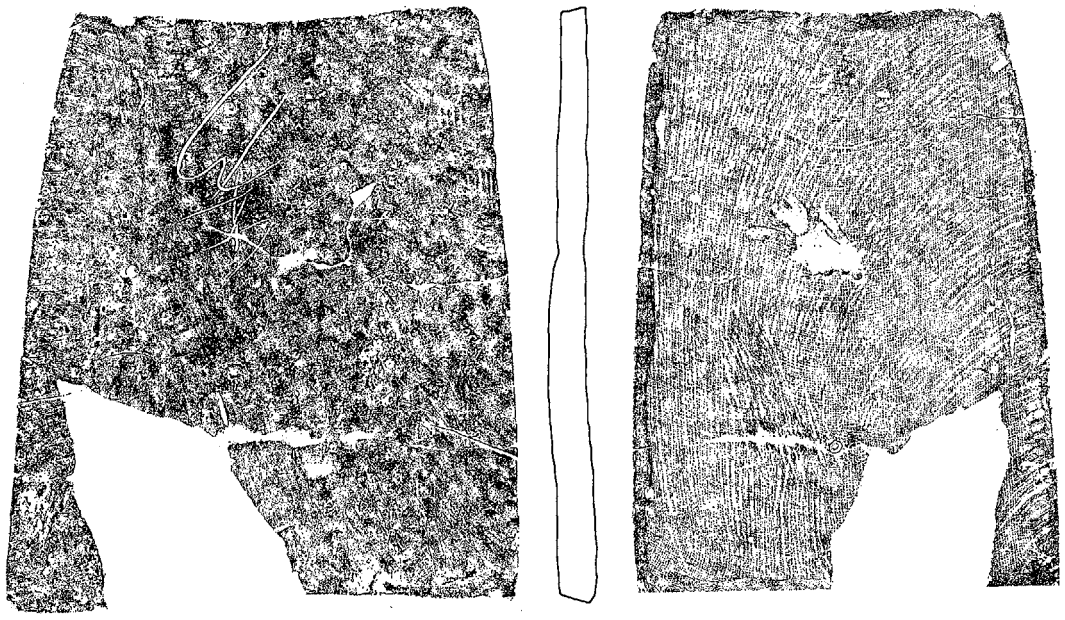
40 (H−18)



41 (H−18)

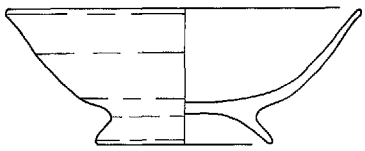
0 1:5 4cm
(40・41)

Fig.45　H−18号住居跡出土瓦

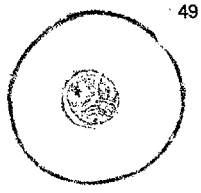


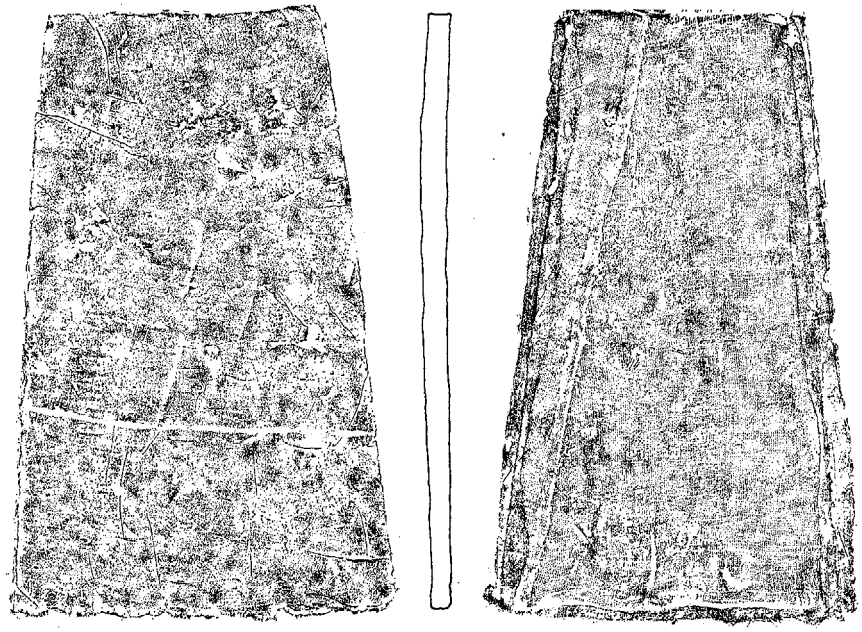
46 (H−18)

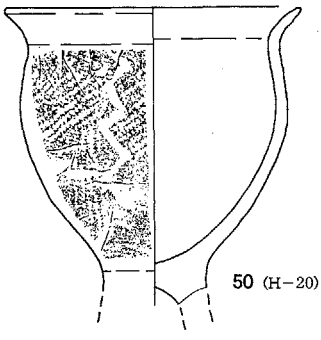
42 (H−18)



49 (H−19)







50 (H−20)

43 (H−18)

51 (H−21)

0 1:3 10cm
(46・49・50・51)

0 1:5 4cm
(42・43)

Fig.46　H−18～21号住居跡出土瓦・鉄器・土器

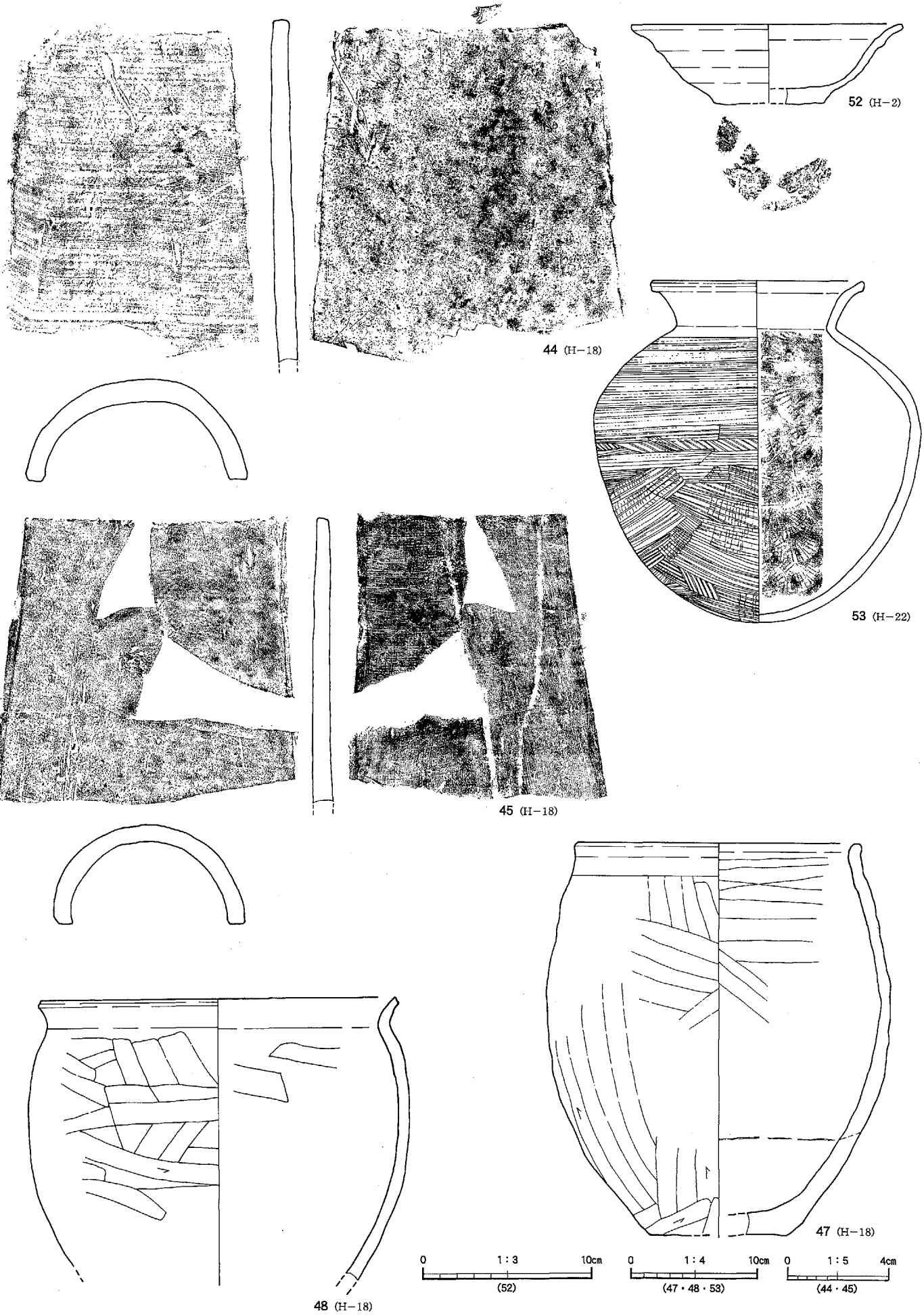



Fig.47　H—18・21・22号住居跡出土瓦・土器

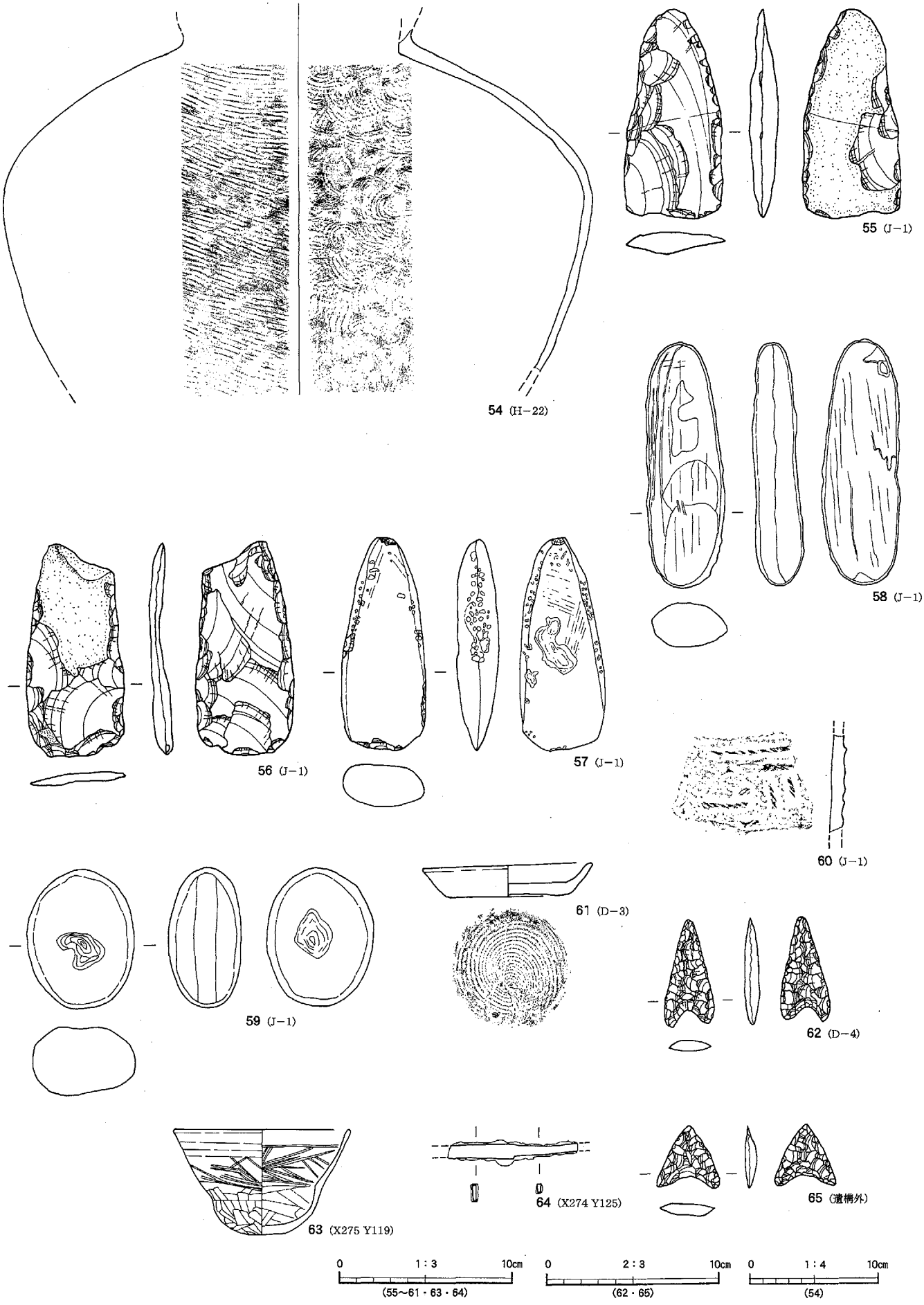
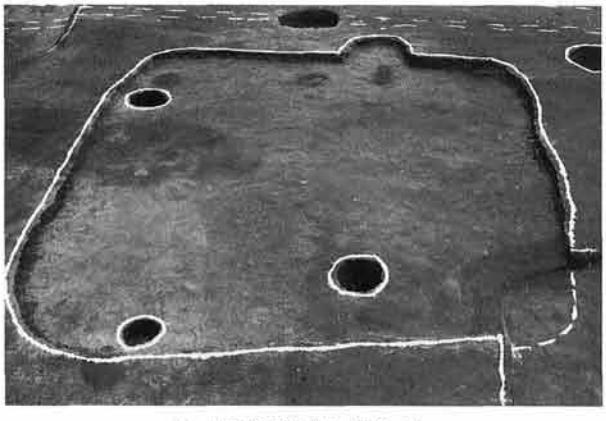
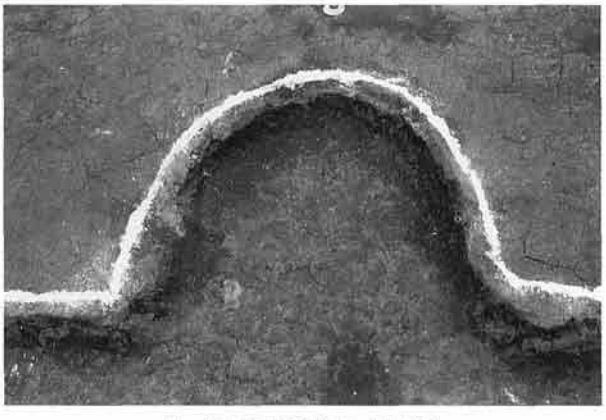



Fig.48　H−22号住居跡、J−1号住居跡、D−3・4号土坑、グリッド、遺構外出土土器・石器・鉄器

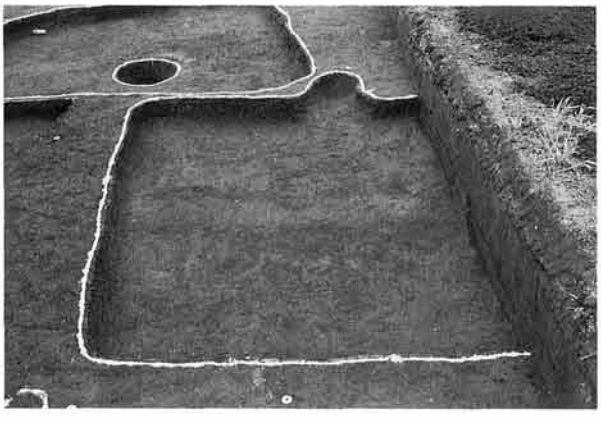
Ａ区全景（東から）



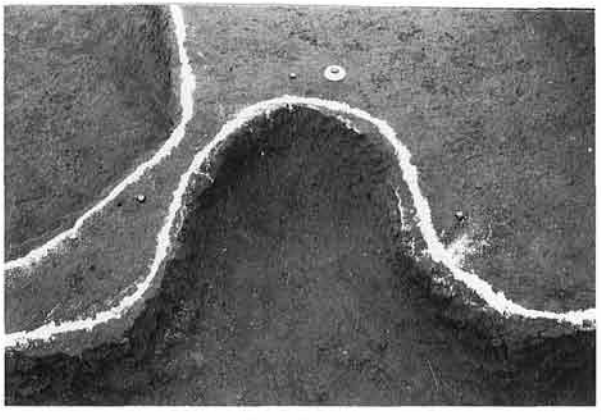
Ｈ－２号住居跡全景（西から）



Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

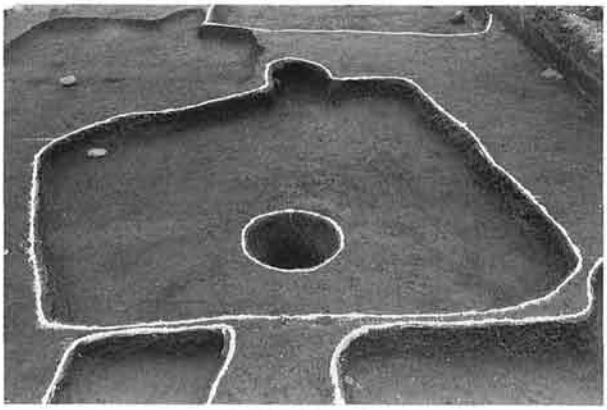


Ｈ－３号住居跡全景（西から）



Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

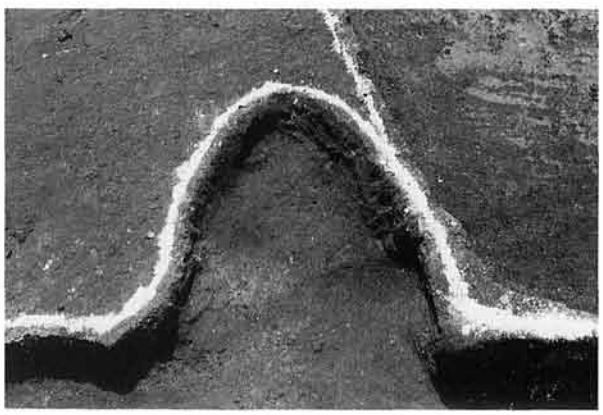
PL.2



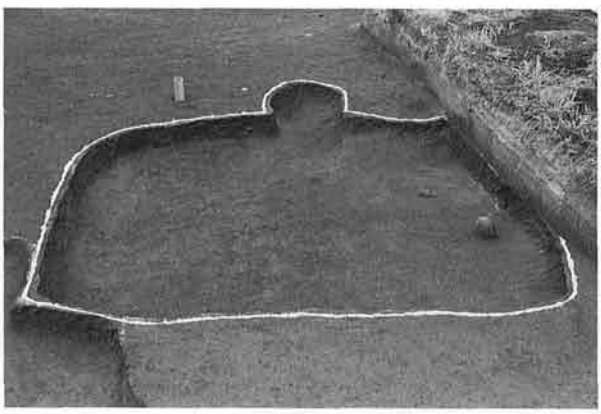
H－５号住居跡全景（西から）

H－５号住居跡竈全景（西から）

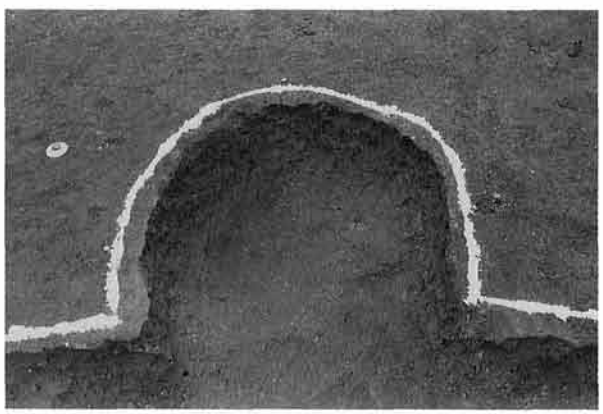
H－６号住居跡全景（西から）



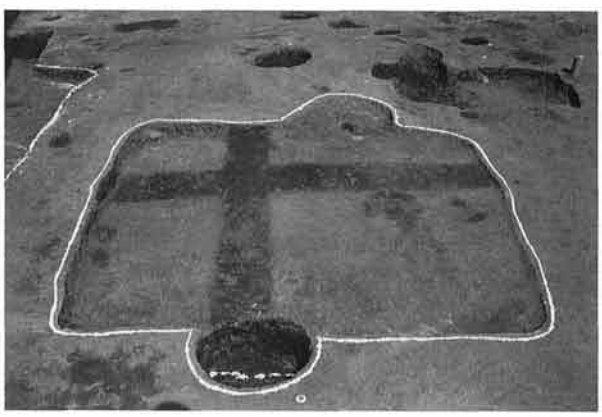
H－６号住居跡竈全景（西から）



H－７号住居跡全景（西から）

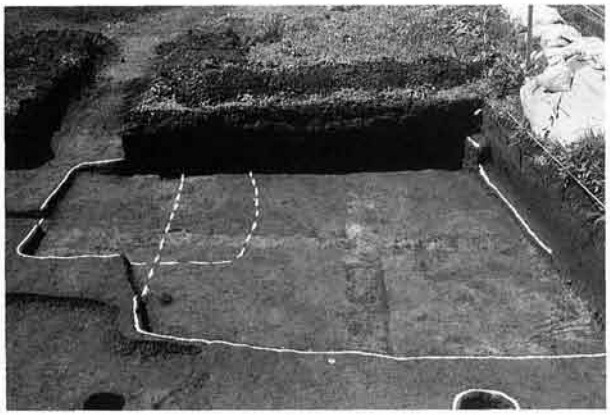


H－７号住居跡竈全景（西から）



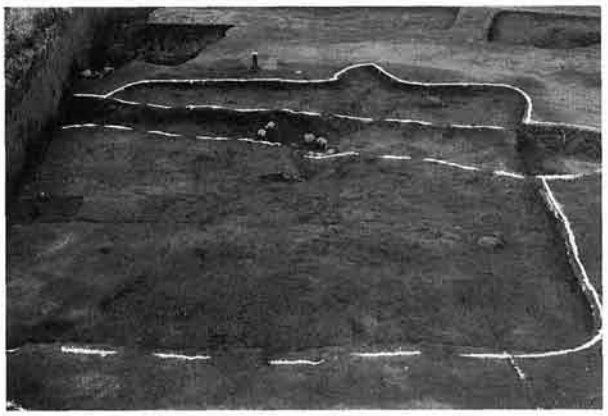
H－９号住居跡全景（西から）

H－９号住居跡竈全景（西から）



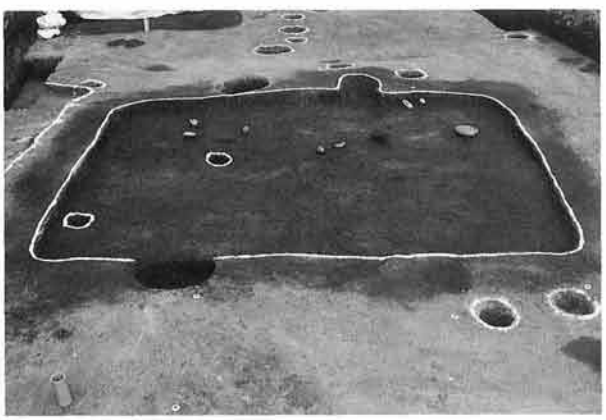
H－1・8号住居跡全景（北から）

H－11号住居跡遺物出土状態（北から）



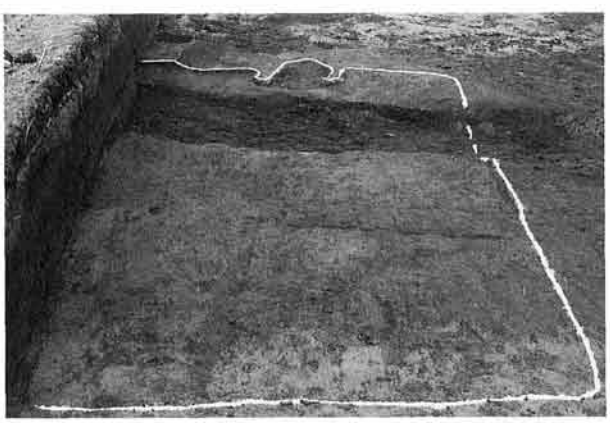
H－11号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡竈全景（西から）

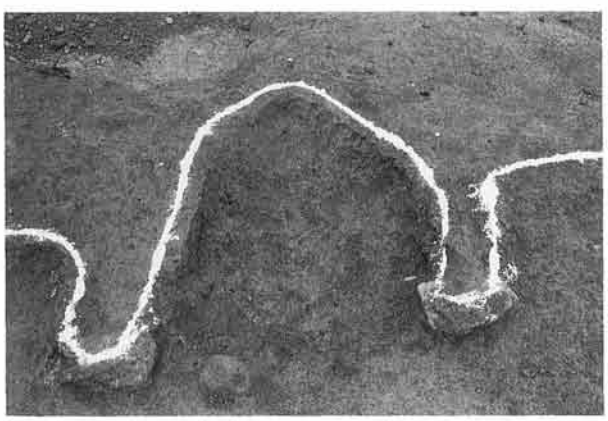


H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）



H－14号住居跡全景（西から）



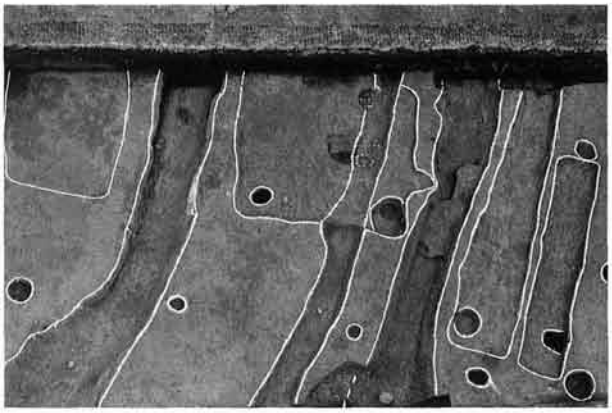
H－14号住居跡竈全景（西から）

PL.4

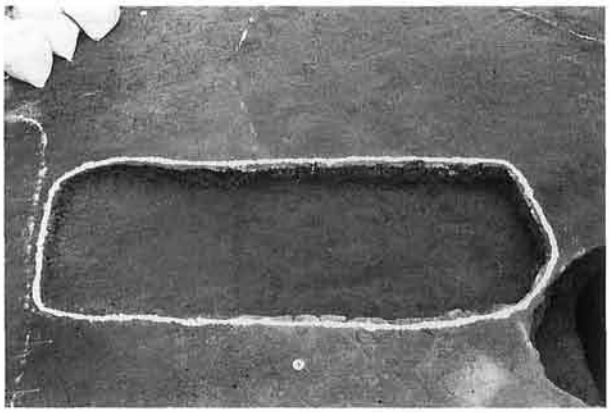
I－２号井戸跡全景（南から）

I－４号井戸跡全景（南から）

W－１号溝跡全景（南から）

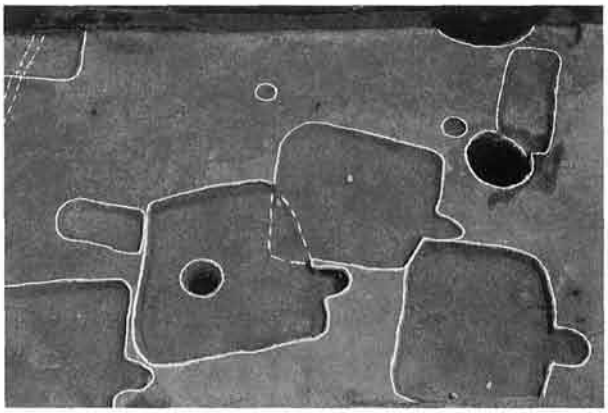


W－１・２・３・４号溝跡全景（南から）



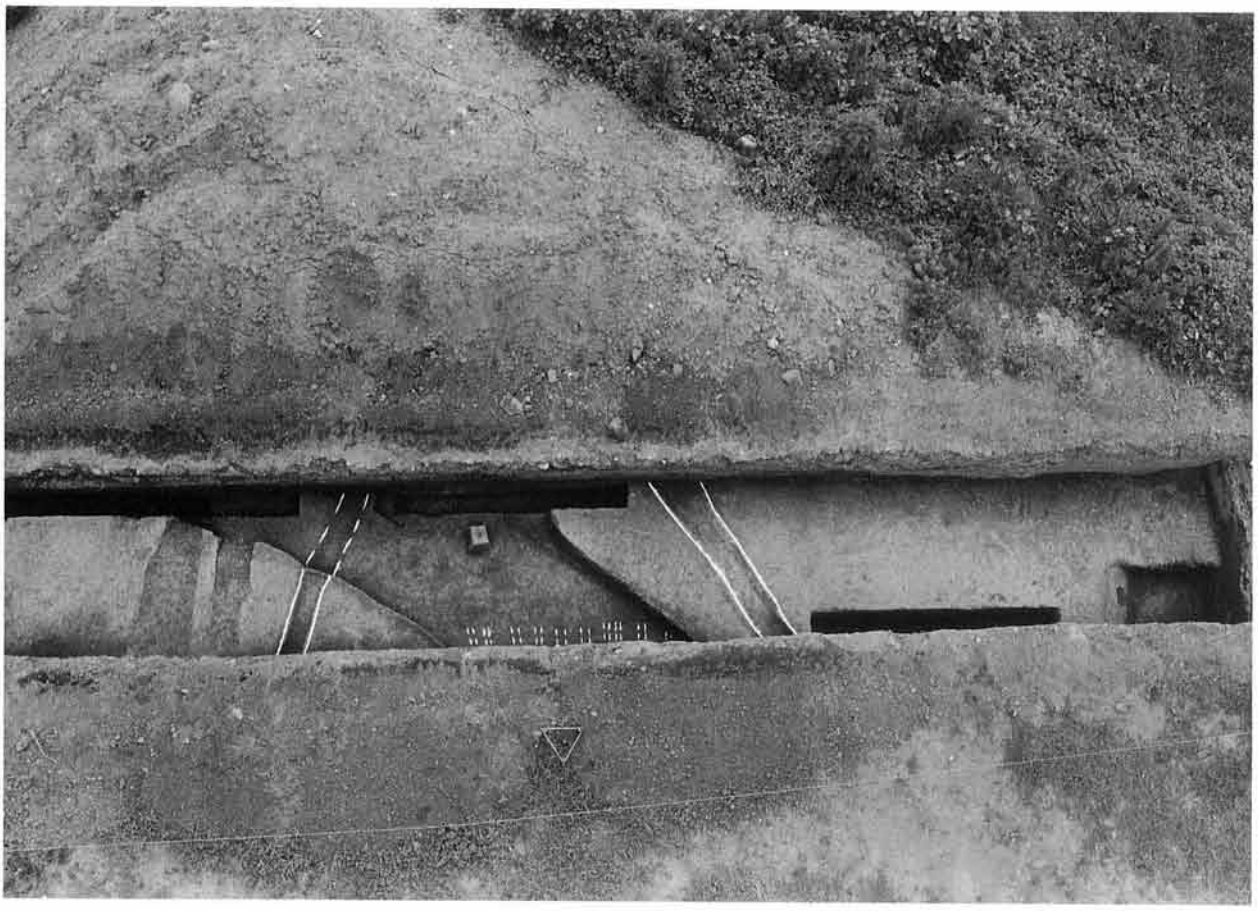
D－４号土坑全景（西から）

栗石出土状態（南から）

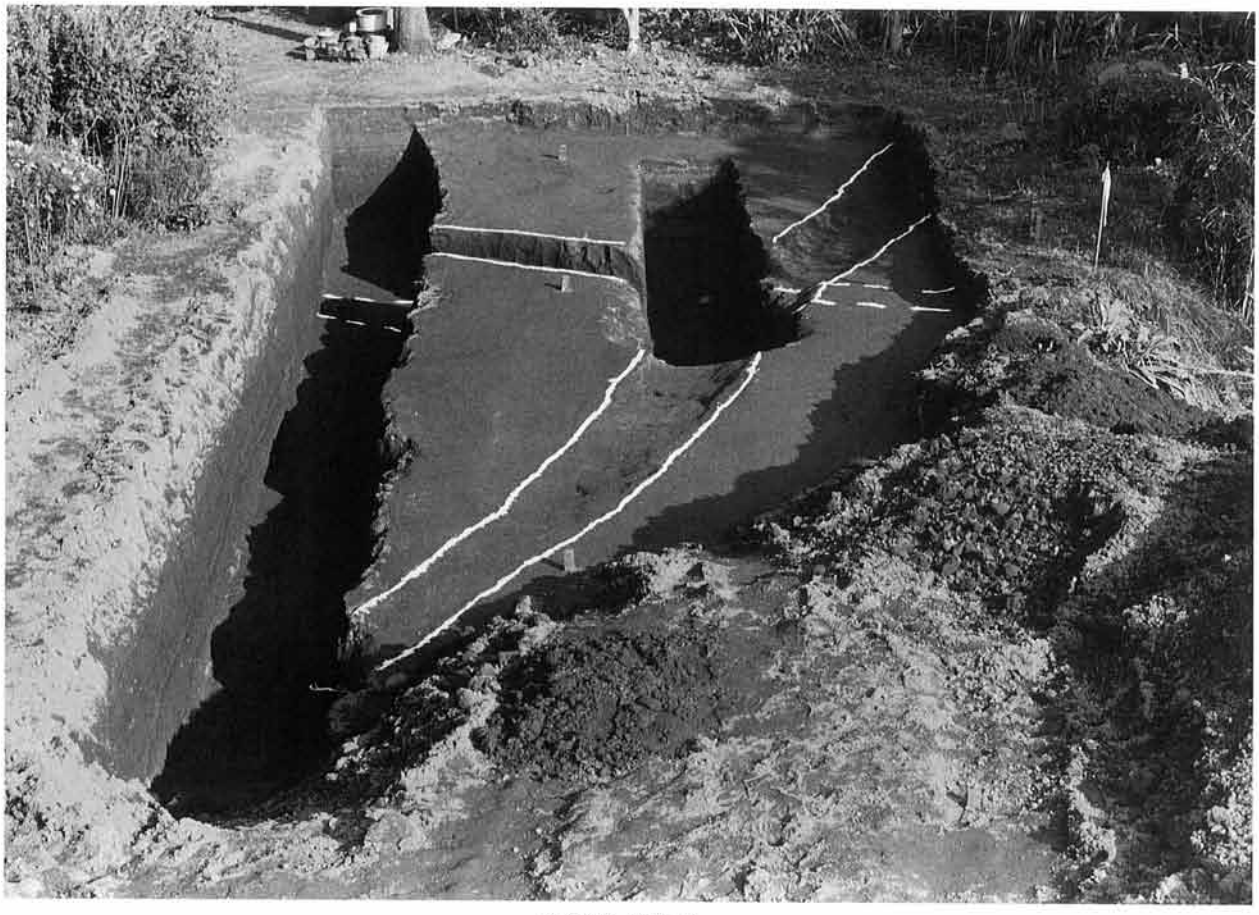


A区中央部全景（南から）

台風６号の影響により調査区冠水（南西から）



Ｂ区全景（西から）



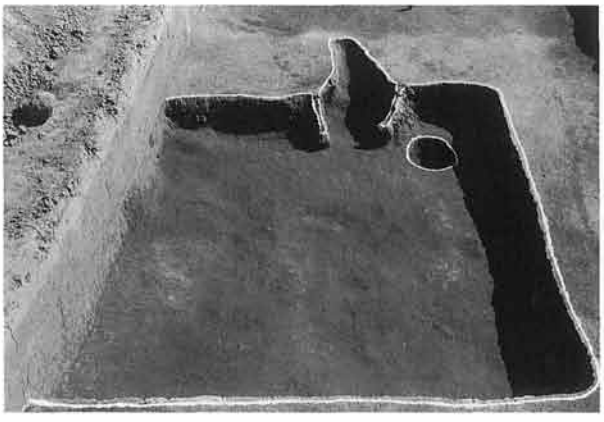
Ｃ区全景（西から）

# 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡D区

D区全景（北から）

H－1号住居跡全景（西から）

H－2号住居跡竈遺物出土状態（南から）

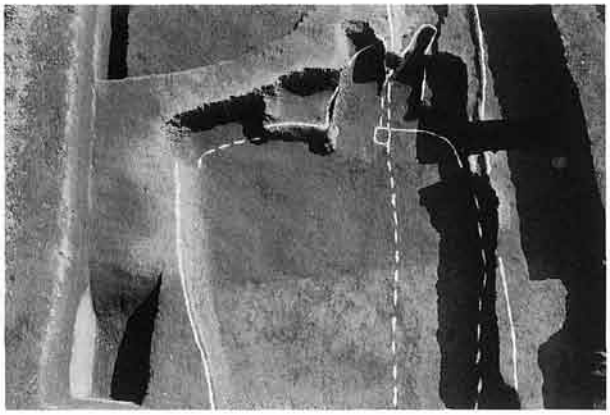


H－2号住居跡全景（西から）

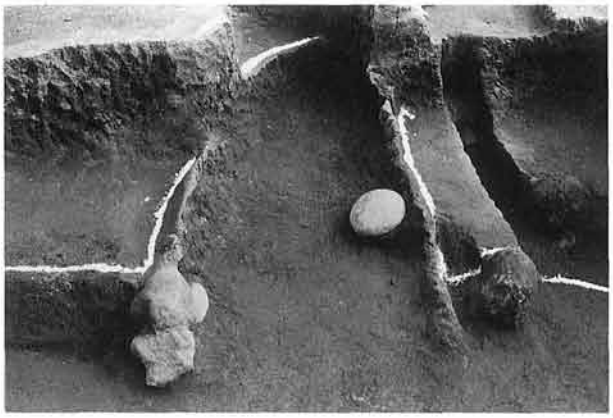
H－2号住居跡竈全景（西から）

H－2・3号住居跡全景（西から）

H－3号住居跡竈全景（西から）



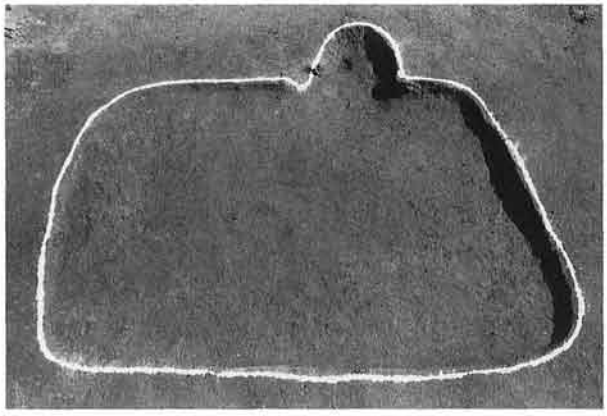
H－4・5号住居跡全景（西から）



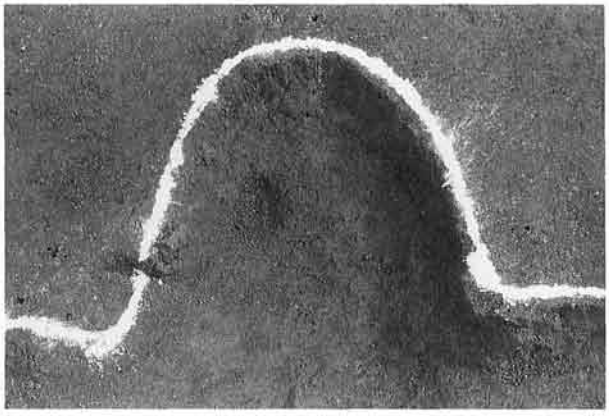
H－4号住居跡竈全景（西から）

H－5号住居跡竈全景（西から）

H－6号住居跡遺物出土状態（北から）

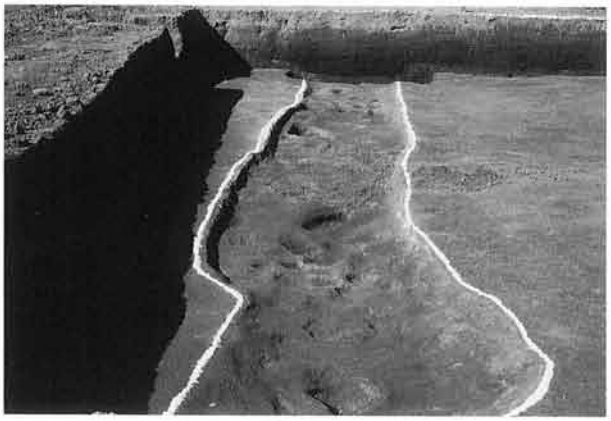


H－6号住居跡全景（西から）



H－6号住居跡竈全景（西から）

PL.8



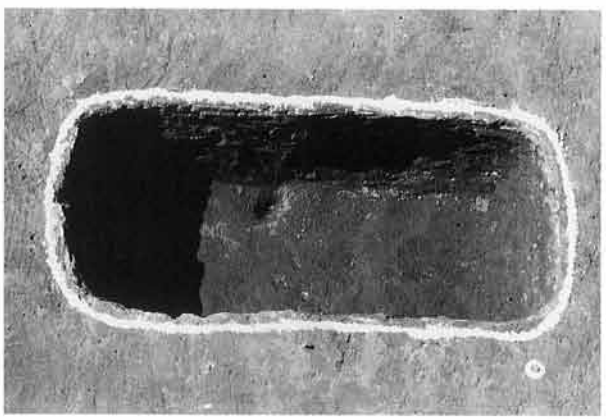
W－１号溝跡全景（東から）

W－２号溝跡全景（東から）

W－３号溝跡全景（南東から）

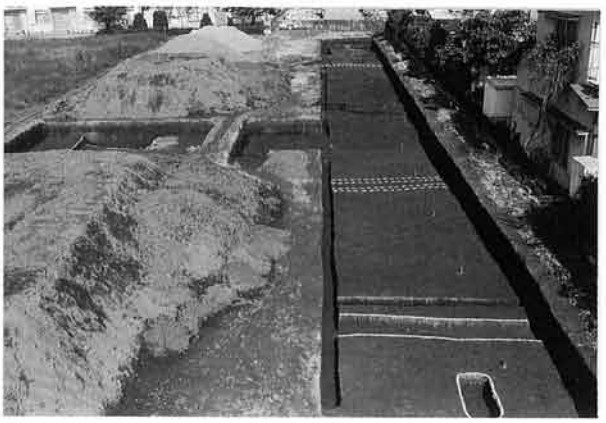
W－３号溝跡遺物出土状態（北から）

畠跡（南から）



D－１号土坑全景（東から）

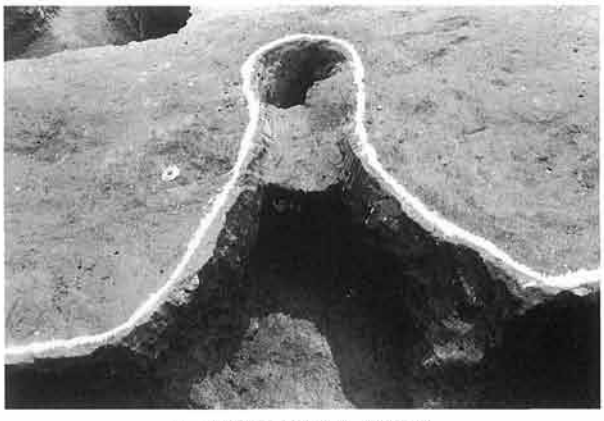
畠跡（北から）



D区全景（南から）

Ｅ区全景（西から）

Ｈ－２号住居跡全景（西から）



Ｈ－２号住居跡竈全景（西から）

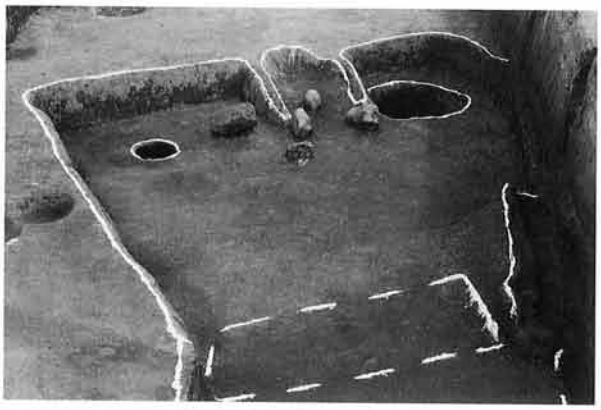
Ｈ－３号住居跡全景（西から）

Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

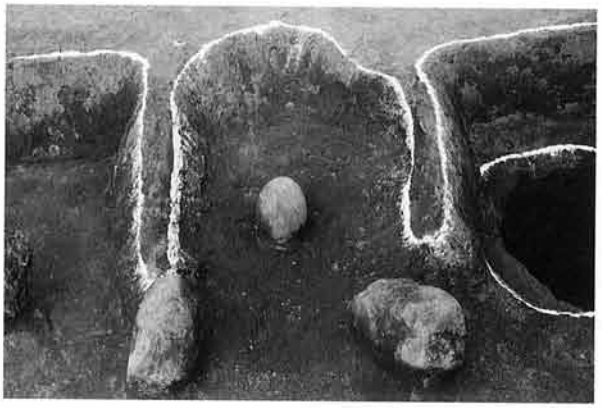
PL.10

H－３号住居跡遺物出土状態（東から）

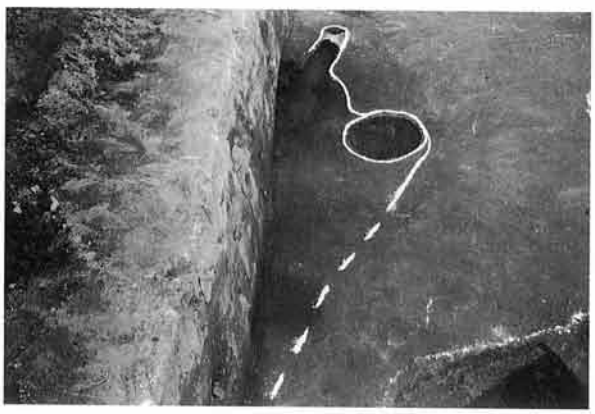
H－４号住居跡竈遺物出土状態（南西から）



H－４号住居跡全景（西から）

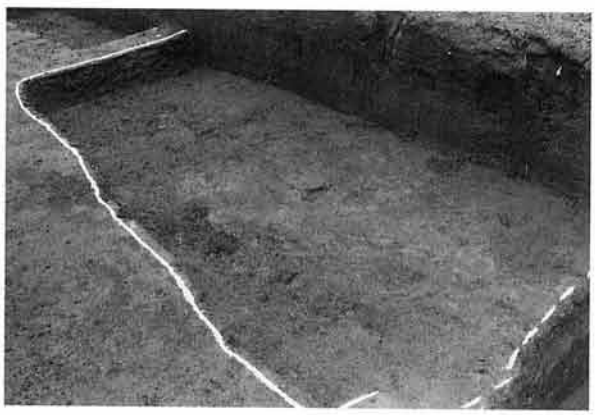


H－４号住居跡竈全景（西から）

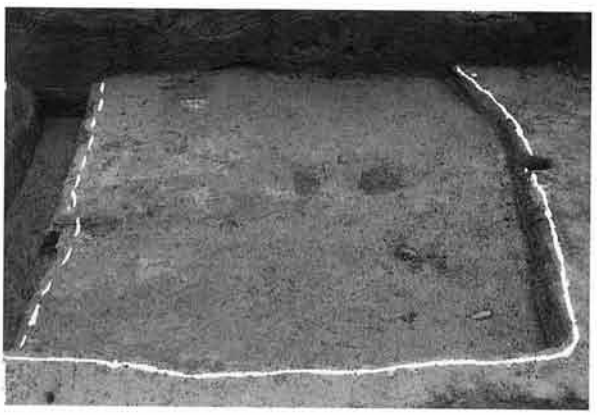


H－５号住居跡全景（西から）

H－５号住居跡竈全景（西から）



H－８号住居跡全景（南西から）



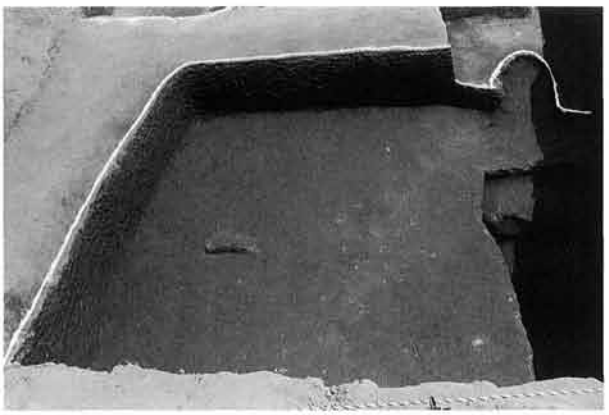
H－９号住居跡全景（西から）

H－７号住居跡全景（西から）

H－７号住居跡遺物出土状態（西から）

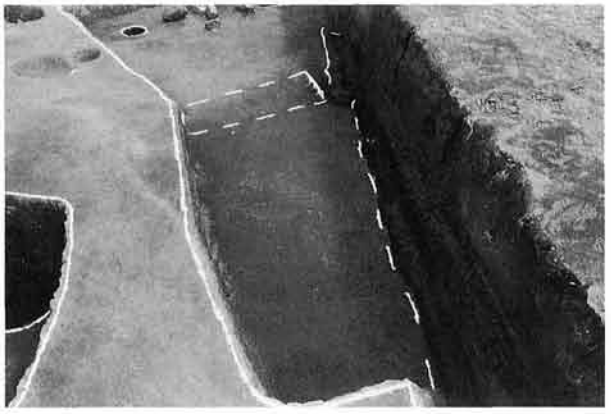
H－７号住居跡遺物出土状態（南東から）

H－７号住居跡遺物出土状態（北西から）



H－11号住居跡全景（西から）

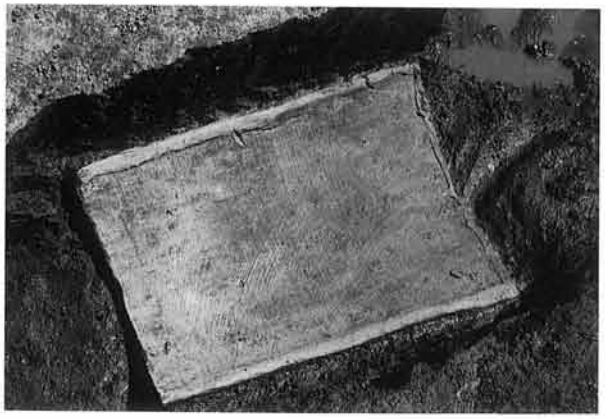
H－11号住居跡竈全景（西から）



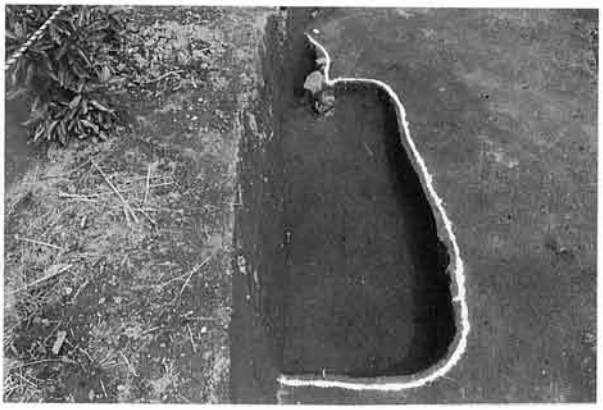
H－12号住居跡全景（西から）

H－12号住居跡竈全景（西から）

PL.12



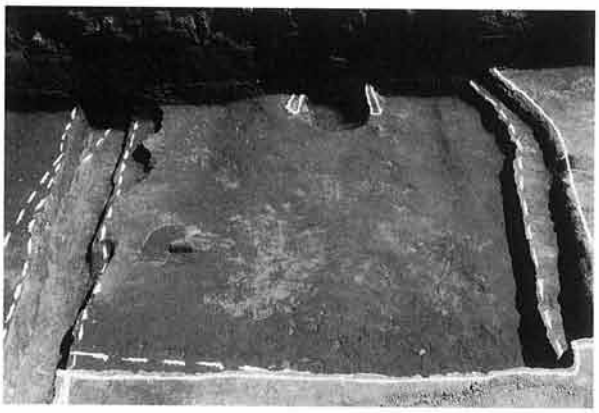
H－13号住居跡遺物出土状態（北西から）



H－14号住居跡全景（西から）

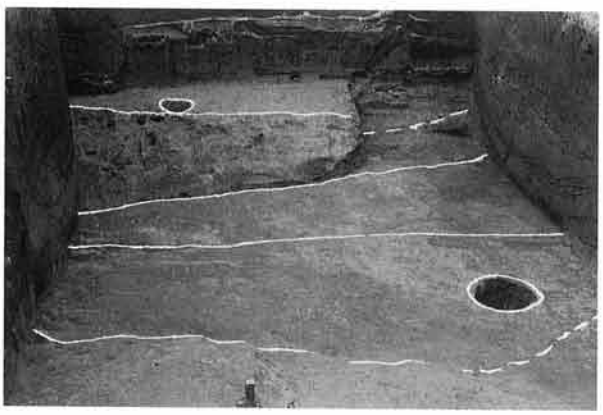
H－15号住居跡全景（南西から）

H－15号住居跡遺物出土状態（北から）



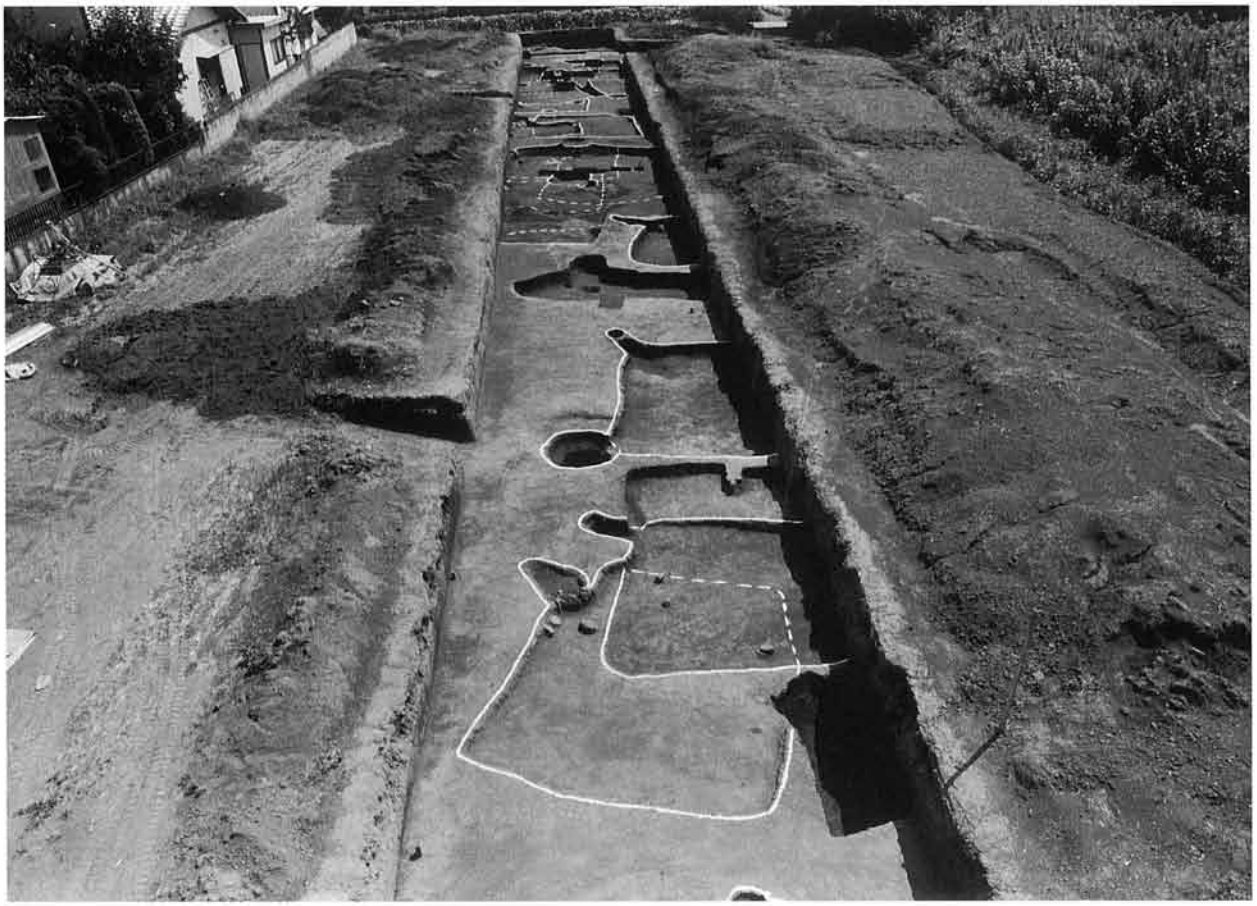
H－16号住居跡全景（西から）

H－17号住居跡全景（南から）

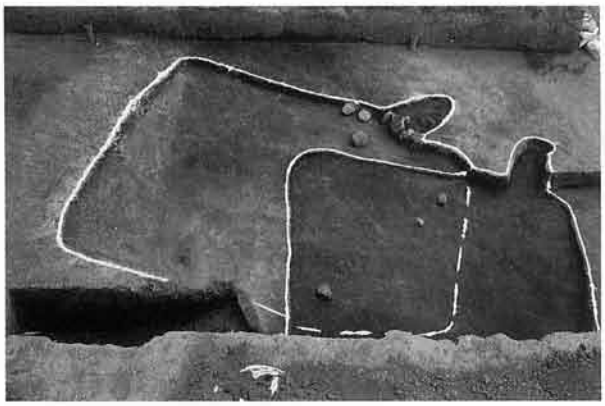


W－２号溝跡全景（東から）

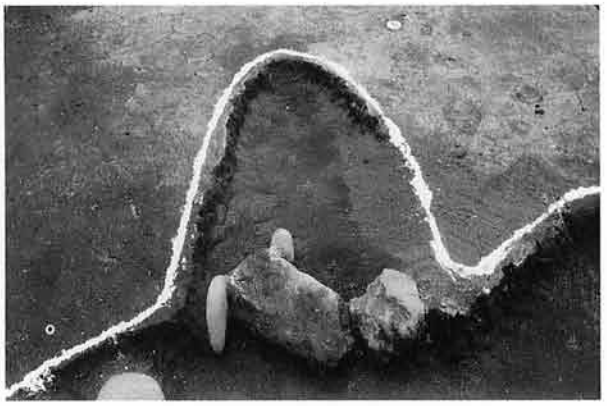
発掘を終えて



調査区全景（北から）



H－1・3号住居跡全景（西から）

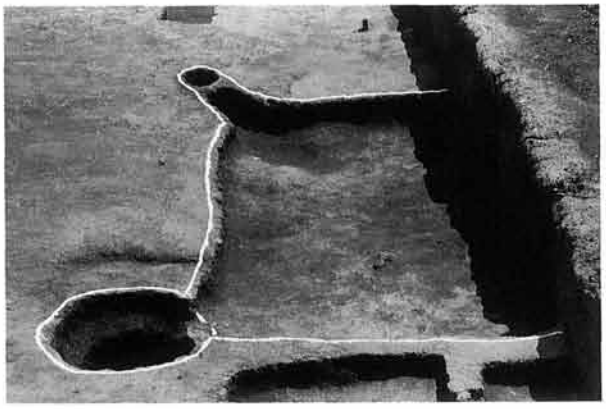


H－1号住居跡竈全景（西から）

H－3号住居跡竈全景（西から）

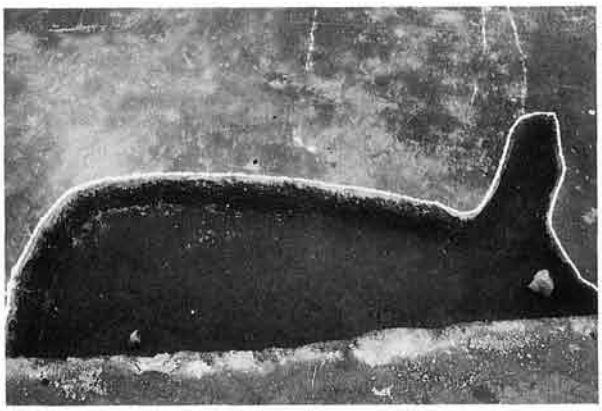
H－1号住居跡竈遺物出土状態（南から）

PL.14

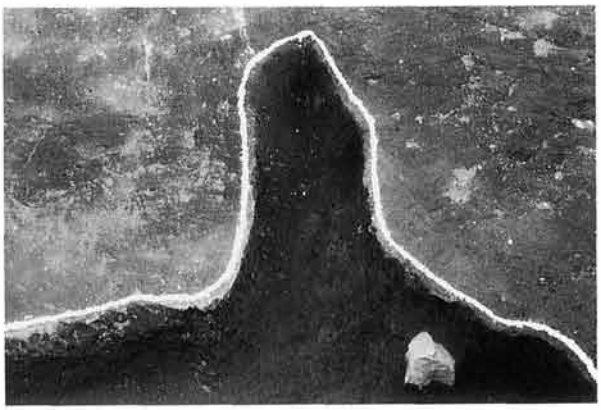


H－4号住居跡・I－1号井戸跡全景（北から）

H－4号住居跡竈全景（北西から）

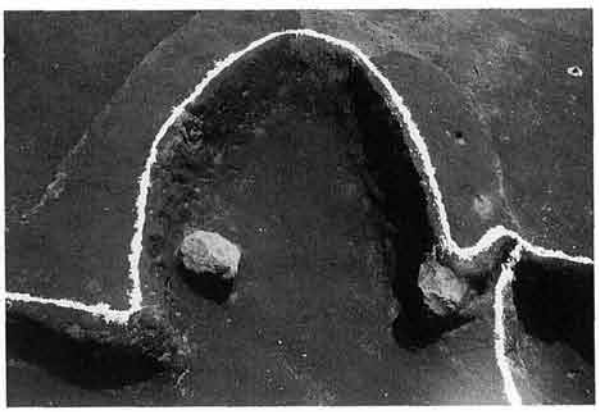


H－6号住居跡全景（西から）



H－6号住居跡竈全景（西から）

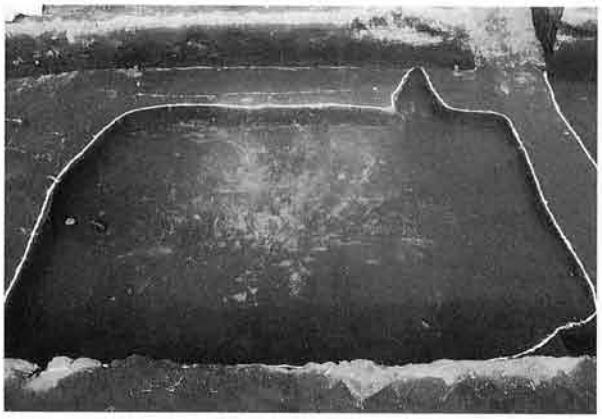
H－7・14号住居跡全景（西から）



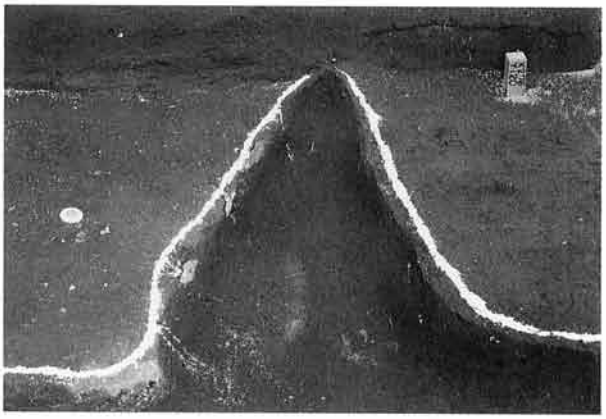
H－7号住居跡竈全景（西から）

H－14号住居跡竈全景（西から）

H－8号住居跡全景（西から）

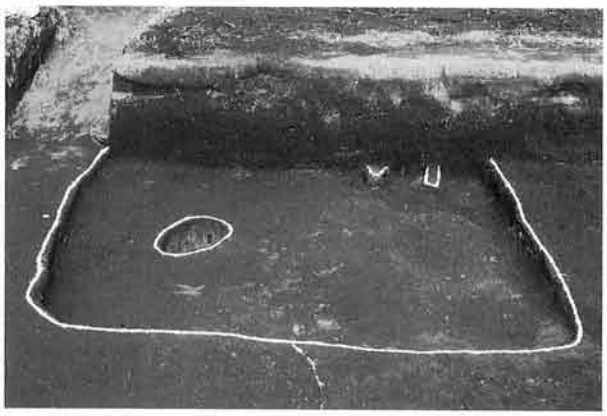


H－9号住居跡全景（西から）



H－9号住居跡竈全景（西から）

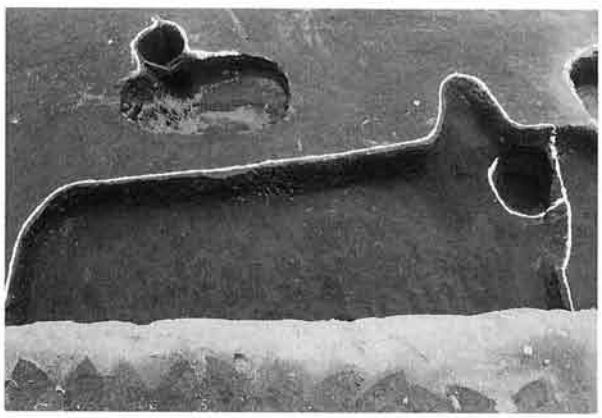
H－9号住居跡遺物出土状態（南から）



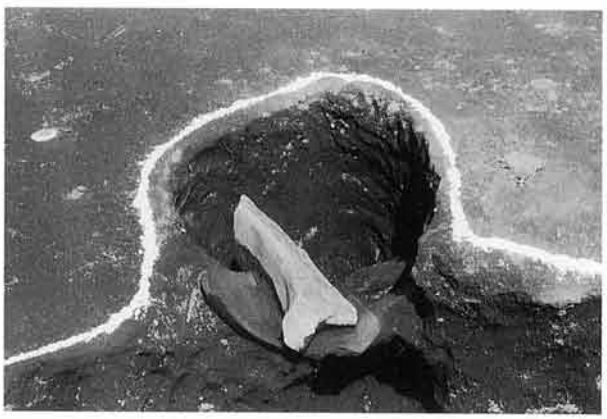
H－10号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡全景（西から）

H－11号住居跡竈全景（西から）



H－13号住居跡全景（西から）



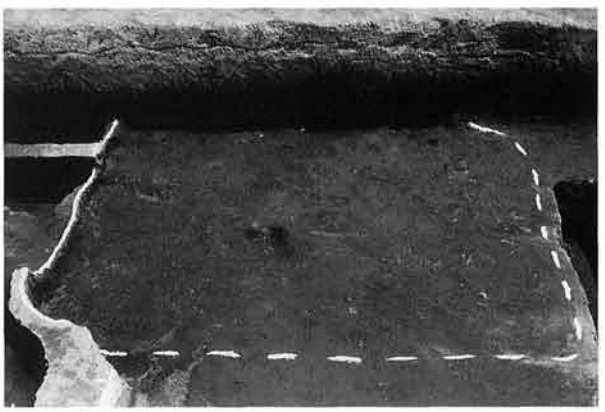
H－11号住居跡竈遺物出土状態（西から）

PL.16

H－15号住居跡全景（西から）

H－15号住居跡竈全景（西から）

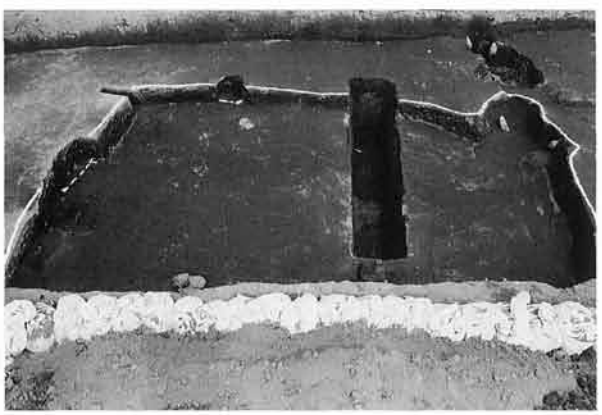
H－15号住居跡遺物出土状態（南西から）



H－19号住居跡全景（西から）

H－17号住居跡全景（西から）

H－17号住居跡竈全景（西から）

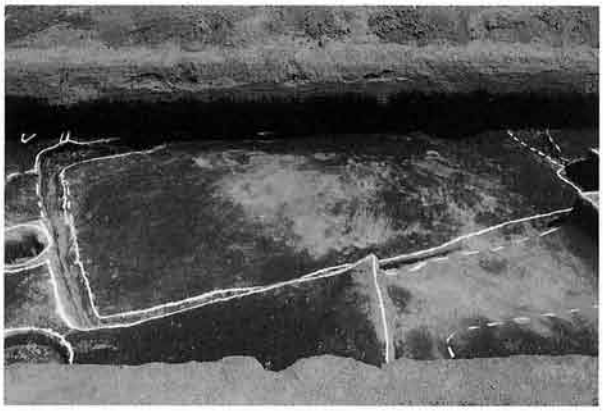


H－18号住居跡全景（西から）

H－18号住居跡竈全景（西から）

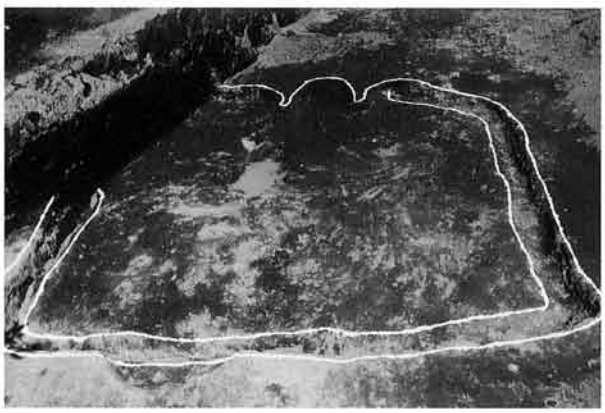
H－18号住居跡竈遺物出土状態（西から）

H－21号住居跡全景（西から）



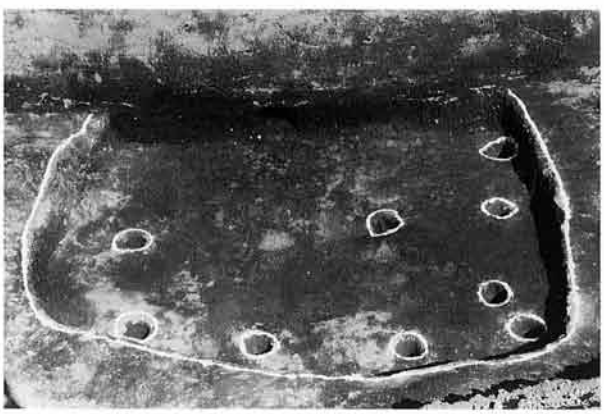
H－22号住居跡全景（西から）

H－22号住居跡遺物出土状態（南から）



H－23号住居跡全景（西から）

H－23号住居跡竈全景（西から）



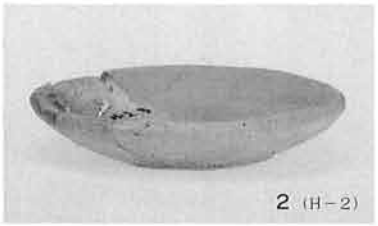
J－1号住居跡全景（西から）

J－1号住居跡遺物出土状態（東から）

PL.18

# 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡A区

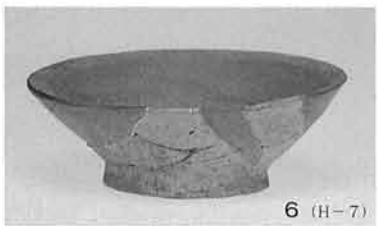
1 (H-2)


2 (H-2)

3 (H-3)

4 (H-4)

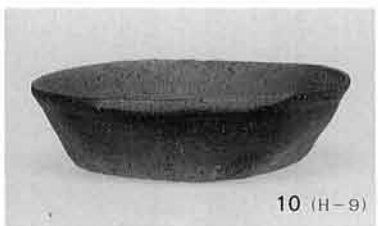
5 (H-6)

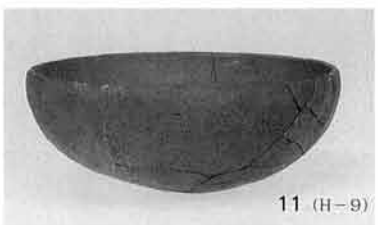

6 (H-7)

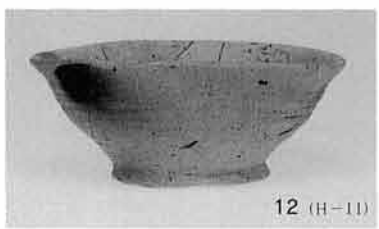
8 (H-7)

7 (H-7)

9 (H-8)


10 (H-9)

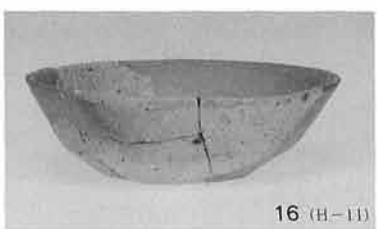

11 (H-9)

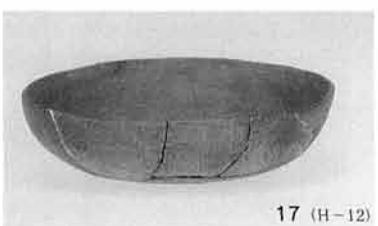

12 (H-11)

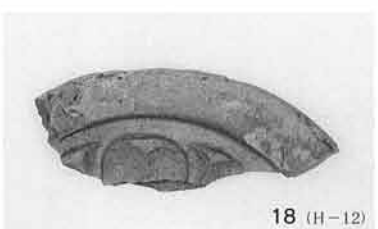
13 (H-11)

14 (H-11)

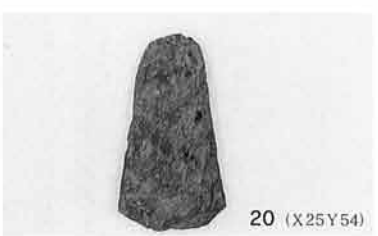
15 (H-11)


16 (H-11)


17 (H-12)


18 (H-12)

19 (D-9)

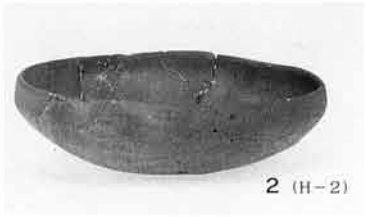

20 (X25Y54)

21 (遺構外)

22 (遺構外)

23 (遺構外)

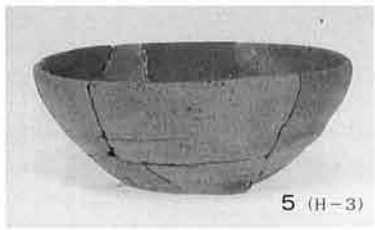
## 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡D区

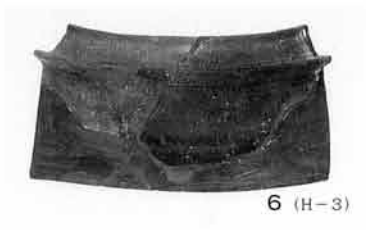

2 (H-2)

1 (H-2)

3 (H-2)

4 (H-3)

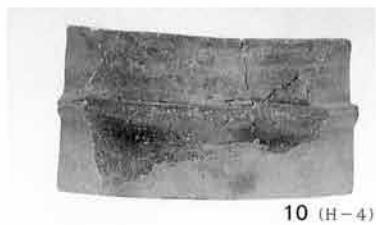

5 (H-3)


6 (H-3)

7 (H-3)

8 (H-4)

9 (H-4)


10 (H-4)

11 (H-6)

12 (H-6)

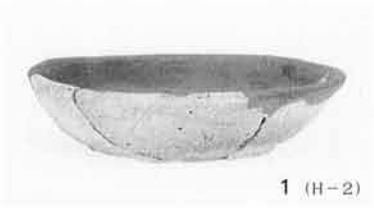
13 (H-6)

14 (W-1)

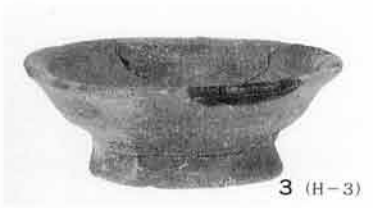
15 (W-3)

PL.20

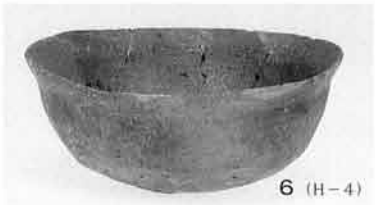
# 総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡E区


1 (H-2)

2 (H-3)

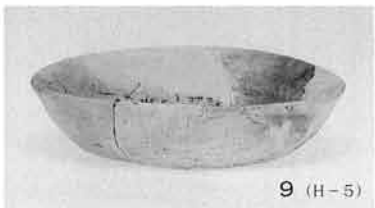

3 (H-3)

4 (H-3)


6 (H-4)

5 (H-4)

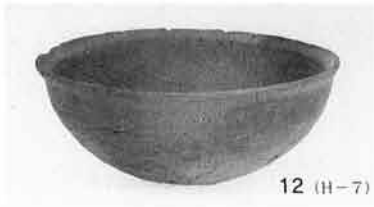
7 (H-4)

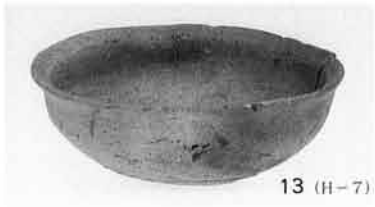

9 (H-5)

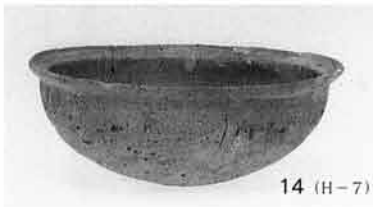
8 (H-4)

10 (H-7)

11 (H-7)


12 (H-7)


13 (H-7)


14 (H-7)

16 (H-7)

15 (H-7)

23 (H-7)

16 (H-7)

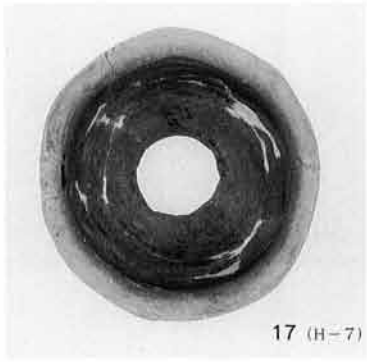
24 (H-7)

23 (H-7)

17 (H-7)

19 (H-7)

20 (H-7)

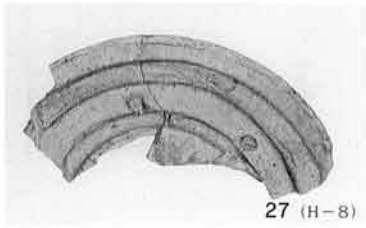

17 (H-7)

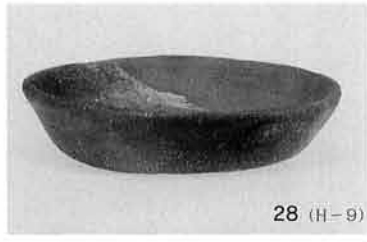
21 (H-7)

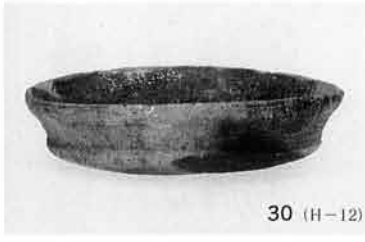
22 (H-7)

18 (H-7)

26 (H-8)


27 (H-8)

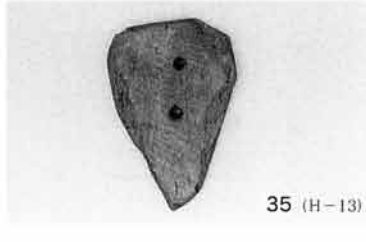

28 (H-9)


30 (H-12)

31 (H-12)

32 (H-12)

34 (H-13)

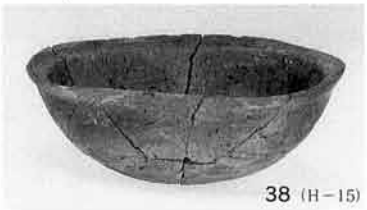

35 (H-13)

P L.22

36 (H－13)

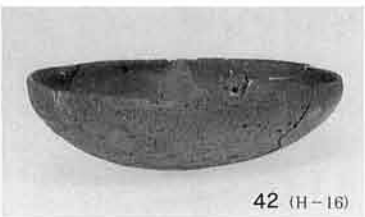
36 (H－13)

37 (H－14)



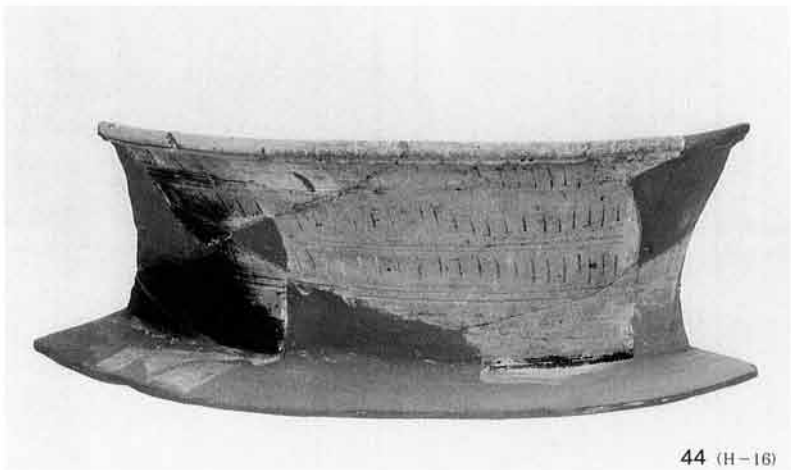
38 (H－15)

39 (H－15)



42 (H－16)

40 (H－15)



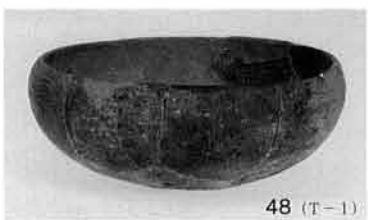
44 (H－16)

41 (H－15)

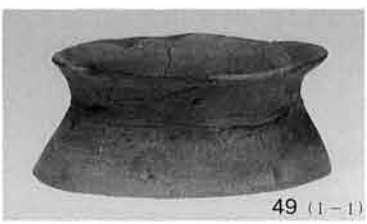
45 (H－16)

46 (H－16) 47 (H－16)

51 (W－1)

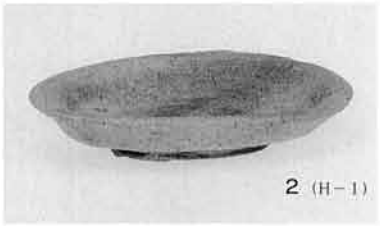


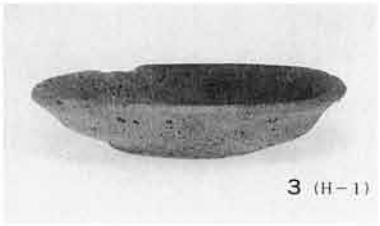
48 (T－1)

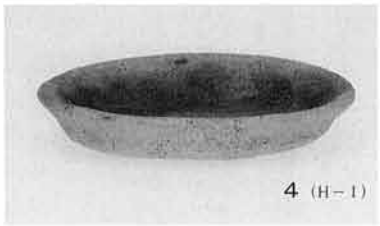


49 (I－1)

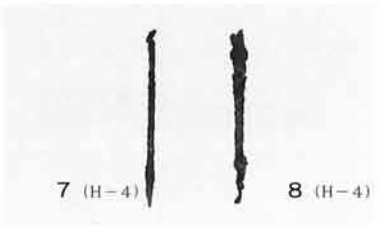
1 (H-1)

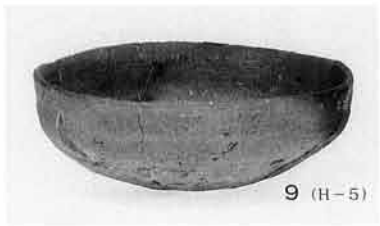

2 (H-1)

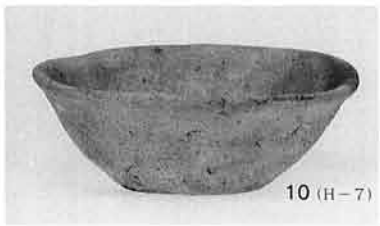

3 (H-1)


4 (H-1)

5 (H-4)

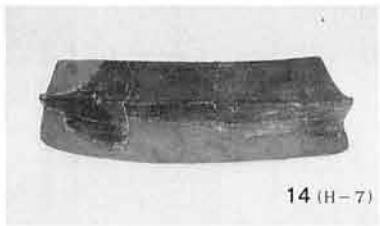

7 (H-4) 8 (H-4)


9 (H-5)


10 (H-7)

11 (H-7)

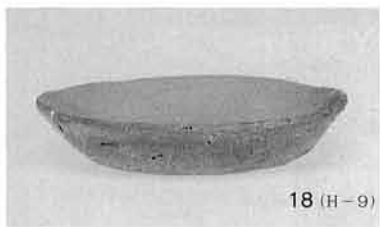
13 (H-7)


14 (H-7)

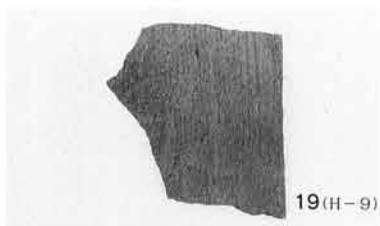
15 (H-7)

16 (H-8)

17 (H-8)


18 (H-9)

20 (H-11)

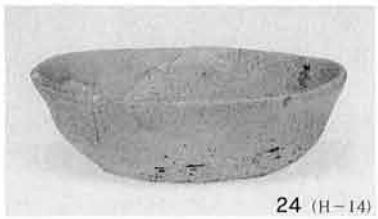

19 (H-9)

21 (H-12)

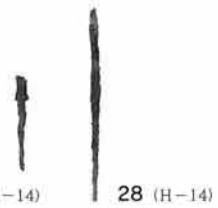
22 (H-12)

23 (H-13)

P L .24


24 (H－14)

26 (H－14)


27 (H－14) 28 (H－14)

29 (H－14)

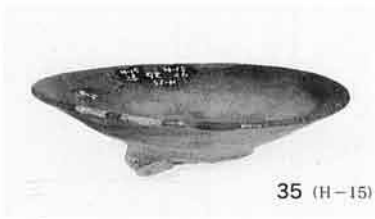
31 (H－15)

32 (H－15)

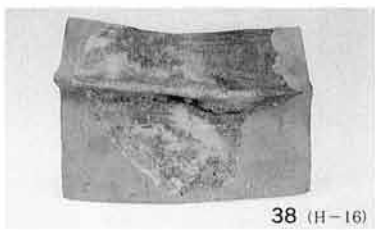
36 (H－15)

33 (H－15)

34 (H－15)


35 (H－15)

37 (H－15)

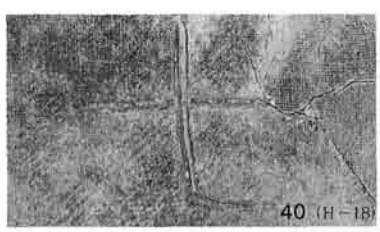

38 (H－16)

39 (H－17)

46 (H－18)

40 (H－18)

40 (H－18)


40 (H－18)

49 (H－19)

41 (H−18)

41 (H−18)

51 (H−21)

52 (H−21)

42 (H−18)

42 (H−18)

42 (H−18)

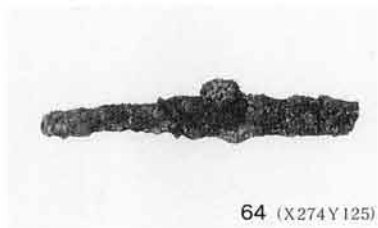
47 (H−18)

43 (H−18)

43 (H−18)

62 (D−4)

63 (X275Y119)


64 (X274Y125)

65 (遺構外)

P L .26

44 (H－18)

44 (H－18)

48 (H－18)

45 (H－18)

45 (H－18)

50 (H－20)

53 (H－22)

54 (H－22)

55 (J－1)

56 (J－1)

57 (J－1)

58 (J－1)

59 (J－1)

60 (J－1)

# 抄　　録

| | |
|---|---|
| フリガナ | モトソウジャオウミイセキグン　ソウジャコウトウカヅカオオミチニシサンイセキ・ソウジャカンセンミョウジンキタサンイセキ |
| 書名 | 元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡 |
| 副書名 | 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 高橋　一彦　・　近藤　薫 |
| 編集機関 | 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 |
| 編集機関所在地 | 〒371—0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10—2 |
| 発行年月日 | 西暦2003年3月25日 |

| フリガナ<br>所収遺跡名 | フリガナ<br>所在地 | コード | | 位置 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| ソウジャコウトウカヅカ<br>総社甲稲荷塚<br>オオミチニシサンイセキ<br>大道西III遺跡 | マエバシシソウジャマチ<br>前橋市総社町 | 10201 | 14A105 | 36°23'42" | 139°02'10" | 20020604<br>20021030 | 約1,416㎡ | 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業 |
| ソウジャカンセンミョウジン<br>総社閑泉明神<br>キタサンイセキ<br>北III遺跡 | マエバシシソウジャマチ<br>前橋市総社町 | 10201 | 14A106 | 36°23'34" | 139°02'14" | 20020628<br>20020826 | 約435㎡ | 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 総社甲稲荷塚<br>大道西III遺跡 | 集落跡 | 古墳～平安時代 | 竪穴住居跡37軒、竪穴状遺構1軒、井戸跡5基、溝13条、土坑17基、畠跡 他 | 土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、石器、鉄器他 | なし |
| 総社閑泉明神<br>北III遺跡 | 集落跡 | 縄文時代、古墳～平安時代 | 竪穴住居跡25軒、井戸跡1基、溝1条、土坑12基 他 | 縄文土器、土師器、須恵器、瓦、石器、鉄器　他 | なし |


元総社蒼海遺跡群

## 総社甲稲荷塚大道西III遺跡
## 総社閑泉明神北III遺跡

2003年3月18日　印　刷
2003年3月25日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10—2
TEL　027—231—9531
印刷所　朝日印刷工業株式会社